

# 大学博物館所蔵古写真の現代的意義に関する研究

大学博物館所蔵古写真の現代的意義に関する研究

研究代表者…加藤 克

日本学術振興会科学研究費補助金（2009-2011 年度）

基盤研究（C） 研究成果報告書

研究課題番号：21601001

研究代表者：加藤 克

2012.3.

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園

二〇一二年・三









## 目次

第1部 研究プロジェクトの概要と成果	…	1
「大学博物館所蔵古写真の現代的意義に関する研究」計画と活動	加藤 克	… 1
博物館所蔵古写真の整理作業について —データベースとデジタル化—	加藤 克	… 12
第2部 古写真を用いた新たな研究・教育活動の展開について	…	19
研究者の遺した写真を用いた標本情報の収集について —ヒグマ頭骨標本を一例に—	加藤 克 高谷 文仁 市川 秀雄	… 21
古写真の調査方法に関する覚え書き —千歳地域におけるアイヌ関係古写真調査から—	山崎 幸治	… 37
植物園所蔵写真資料が持つ可能性	北原 次郎太	… 41
博物館所蔵の考古資料関係写真について	大沼 忠春	… 45
大学博物館所蔵写真資料の活用に関する一例について—北海道根室市	猪熊 樹人	… 51
第3部 目 録		
解説	…	53
文献目録	…	53
ネガフォルダ目録	…	67
プリントフォルダ目録	…	95
主題分類目録	…	103
地域分類目録	…	145
図 版	…	177



## 「大学博物館所蔵古写真の現代的意義に関する研究」計画と活動

加藤 克

はじめに

本冊子は、「大学博物館所蔵古写真の現代的意義に関する研究」（日本学術振興会科学研究費補助金 基盤研究（C）2009－2011年度、研究代表者：加藤克）の成果報告書である。

研究プロジェクトの目的と背景

本研究プロジェクトは、北海道大学植物園・博物館に所蔵されているガラス乾板やフィルム、プリントなどのうち、撮影者や撮影時期、被写体が必ずしも明確ではない資料群の整理、調査を通じて、「大学博物館」という組織に残された写真の意味や写真そのものの価値を明らかにするとともに、「残されてきた」ことで新たに付け加えられた可能性のある「現代的意義」について検証することを目的としている。

以下、本稿では研究対象となる写真群とその背景、プロジェクトの詳細、成果と課題について報告することとし、写真資料のデジタル化やデータベース化作業については、別稿にて紹介する。

古写真所蔵機関と名称について

はじめに、本報告書で用いる機関名称について整理することにした。

北海道大学植物園・博物館は、正式名称を北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園という。この組織は、2001（平成13）年に北海道大学に北方生物圏フィールド科学センターが発足した際に、農学部附属植物園と農学部博物館が統合して成立したものである。農学部博物館は、1877（明治10）年に開拓使札幌仮博物場として設立され、1884年に札幌農学校の所属博物館として移管された博物館である。一方、農学部附属植物園は博物館とともに移管された附属地に1886（明治19）年に設立し、以降2001年の統合まで、同じ敷地にありながら「北大の博物館」、「北大の植物園」として親しまれる別々の機関として独自の発展、成長を遂げてきた。

北海道大学には1999年に総合博物館が成立し、「北大の博物館」という役割に大きな変化が生じた。しかしながら農学部博物館、つまり統合後の植物園内の博物館は、その所蔵資料や機能を変えることなく現在に至っており、総合博物館設立以前の報告等に記された「北大博物館所蔵」という記載がもつ意味について、混乱が生じている状況にある。この問題を多少なりとも軽減するため、植物園では旧農学部博物館の部門について通称として「北海道大学植物園・博物館」を用いている。本報告書では、通称としての「植物園・博物館」とともに、調査対象とする古写真群については、農学部博物館時代のスタッフによって撮影されたものであると考えられることから、本文中において「博物館」という表現を用いることとしている。これらの「博物館」はいずれも植物園内の博物館を指すものであることについて、あらかじめ承知いただきたい。

博物館の歴史

<開拓使の博物館時代>

1877（明治10）年、札幌偕楽園に北海道開拓使の札幌仮博物場が設立した。現在まで残る日本の博物館としては、東京国立博物館、国立科学博物館に次ぐ歴史を持つ博物館の誕生である。この博物館の目的は、開拓使による北海道開拓をサポートする学習の場として、また開拓の進捗状況を示す広告塔としての役割を担うことにあった。この一環として、札幌仮博物場と共に設立された東京仮博物場、函館仮博物場と連携して、博物館での展示だけではなく、万国博覧会や内国勸業博覧会に北海道の独自の文化であり、新たな産業として期待されていたアイヌ民族資料、農林・水産物資料、地質資料や、動物などの剥製資料を出品、展示していたことが知られる（関1975、関ら1990、三浦2001、加藤2004、2008、加藤ら2009）。

開拓使の博物館の設置にあたっては、開拓使顧問ホールズ・ケプロンの提言が大きな影響を与えたといわれている。ケプロンは、博物館が開拓促進のために北海道の産物を収集・展示するだけではなく、それらを諸外国と交換することによって、輸出業の促進や学習効果を高めることにつながるものと位置づけ、のちの日本国内で大きな勢力をもった物産館のような陳列場ではなく、学術的なコレクションを所蔵するミュージアムの設置を意図していたものと考えられる。札幌仮博物場には、クラークらお雇い外国人の教育を受けた卒業生が勤務し、西洋学問の知識を基盤としたスタッフによる資料収集、整理が行われていたことから、日本国内では数少ないといわれる、収集情報が付属する明治期のアイヌ民族資料や、動物学資料が多数博物館に残されることになった（加藤2004、2008、加藤ら2009、2010、佐々木ら2008）。

お雇い外国人を積極的に採用していた開拓使は、最新の技術を持った外国人を指導者として雇い入れ、北海道をイメージさせるための写真も多数撮影し、保存していた。これらの写真は開拓使の博物館である札幌仮博物場に保管されることになり、博物館と写真資料との関係はここに始まる。明治期の記録では、1,000枚を超える写真や図画が博物館に保管されていたことが判明している（加藤 2006）が、北海道史編纂に関わる調査に伴い、写真資料は博物館から北海道大学附属図書館に移管され、すでに整理・調査が行われている（北海道大学附属図書館 1992）<sup>\*</sup>。

### <札幌農学校、北海道大学の博物館時代>

1882年に開拓使が廃止され、札幌博物場（同年に新館が建設された時点で、名称が変更された）は、農商務省、北海道事業管理局の管理下に入ったのち、1884年に札幌農学校の所属となった。これにより、博物館では勸業を目的とする収集、展示活動から、農学校における研究、教育に関わる資料の収集・活用へと方針が変更されてゆく。明治期の収集資料記録からは、動物、民族、考古分野などが主なものであり、植物や昆虫標本などはキャンパスに所属する研究者（宮部金吾、松村松年ら）の下に管理されていたようである。

特殊なもの・珍奇なものを収集するのではなく、札幌農学校が主眼としたフィールドワークに根差した研究活動の成果を適切に保存し続けたり、散逸のおそれがあった標本群（ブラキストン標本など）を引き取るなどの活動を継続してきたことで、この博物館は、明治期の重要コレクションを保管する博物館として知られるようになった。また、後述するスタッフらによって精力的に収集されたヒグマやナキウサギを中心とする動物標本、アイヌ民族資料、考古資料など、日本人学者による近代的学問の基盤資料も豊富であり、小さな博物館でありながら、その存在意義は高く評価され続けている。

### 博物館所蔵古写真に関わった研究者

札幌農学校所属となった当初は、小寺甲子二を中心として調査・整理にあたっていたことがわかっている。しかしながら、今回の整理の結果から、調査対象とした写真群の撮影者は、大正から昭和初期、中期にかけて博物館で活躍した八田三郎、犬飼哲夫、名取武光の三名が中心となっているものと推測される。

八田三郎（1865-1935）は、1904年に札幌農学校に着任し、博物館主任となった。ヤツメウナギやシカ、クマなどの動物学全般の教育や研究に携わった人物であるが、1910年に博物館助教授の村田庄次郎と共に『札幌博物館案内』という博物館展示解説を刊行し、博物館の管理運営にも尽力していた。特に、博物館に展示されているアイヌ民族資料と当時のアイヌ民族の生活との間に大きな相違が生じており、記録保存の重要性を指摘（八田 1926）し、「白老コタンのアイヌの生活」という動画フィルムを制作したことで知られる。このフィルムは、日本人による動画資料としては草創期の資料として評価されており、八田は映像記録の重要性を早くに認識していたものと考えられる。博物館における写真・映像の収集・保存活動の重視は、八田の存在なくしては語るべきでないだろう。

犬飼哲夫（1897-1989）は、八田の下で学び、1922年北海道帝国大学を卒業後、農学部、理学部教授としての職務と共に、定年まで博物館の職にあり続けた。動物学だけでなく、民族学研究の面でも大きな足跡を残し、在職中および退官後には札幌市の教育委員会や北海道文化財の調査委員、北海道開拓記念館の館長など、文化財行政にも大きく貢献した人物である。八田と同様に、犬飼もアイヌ文化の記録保存のために旭川で熊送りを記録したり、千歳のクマ狩りの映像をアメリカで紹介するなど、映像の力を早くに認識していたものと考えられる。

名取武光（1905-1987）は、1931年に農学部生物学科を卒業し、翌年から博物館に勤務することになった。就職当初は、動物学関連の研究を行っていたが、1933年頃から考古学、民族学関連の調査にあたるようになり、北海道考古学の先駆者のひとりとして評価されるようになる。1949年に博物館を離れて理学部助教授となったため、異動後の資料は博物館に残されていないが、考古学関連の写真資料の大部分は、名取の調査によるものと位置付けられた。

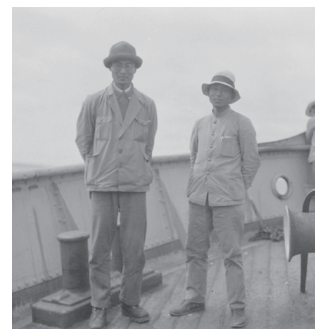
この他、名取就任直前に一時的に勤務していた武笠耕三や、名取異動後に勤務した芳賀良一、



八田 三郎



犬飼 哲夫とタロ



名取 武光（左）  
利尻・礼文調査、後藤寿一氏と

<sup>\*</sup>本プロジェクトの発展的課題として、附属図書館所蔵札幌博物場旧蔵写真の調査を計画していたが、図書館の改修工事およびプロジェクト本体の活動の進捗状況の関係から、着手することができなかった。しかし、附属図書館所蔵ガラス乾板写真を、プロジェクトで採用したデジタル化作業を用いてデータ化する別プロジェクトが開始するなど、連携体制の構築を進めている。旧蔵写真の調査については、今後の課題としておきたい。



阿部永の撮影による写真も含まれているものと考えられるが、大部分は八田・犬飼・名取によるものと評価された。

以上、博物館の歴史を概観してきたが、今回の調査対象である写真群は、この博物館の歴史を形作ってきた研究活動の成果と考えられる。

## 大学博物館とは

ここで、本プロジェクトの名称である「大学博物館」という存在がもつ特徴について、触れておきたい。

大学博物館とは、地域のための教育・文化資料を収集し、展示などを通じて教育・普及活動に供してゆくという目的をもつ自治体立の博物館とは異なり、大学という研究機関における活動の成果を保存し、次世代へと継承してゆくことを最優先の責務とする存在である。このため、保存される資料は「研究」という活動の証拠、基盤材料となり、蓄積されるとともに、批判的にも再利用されることになる。

また、大学における研究活動は、時代の変化や要請によって大きく変化する傾向がある。そのため、大学博物館の所蔵資料は博物館のカラーが反映されたり、一貫性のあるコレクションとなるよりは、雑然としたコレクションになる傾向が強い。雑然としたコレクションは、裏返せば多様なコレクションということにもつながる。特定の目的のために収集された資料は、ともしればその枠組みを超えた形での利用がしづらい場合もあるが、大学博物館では常に最新の研究活動に対応するため、所蔵する個々の資料には特定の収集目的が存在するとしても、その目的以外の利用を前提として管理にあたるのが期待されている。利用する側のスキルが問われる部分もあるが、大きな可能性を秘めた資料群といえるだろう。

上述したような、研究に用いられた証拠であり、多様かつ柔軟である資料が、研究者個人ではなく、博物館の管理下に置かれることで、恒久的に保存・管理され、世代を超えて利用に供されるという点が、大学博物館の特徴と考えている。

以上を前提に、研究計画段階で想定していた大学博物館所蔵古写真がもつ意義についてまとめてみたい。

- 1) 大学博物館に所蔵されている古写真群は、写真そのものが研究対象ではないが、研究活動の一環として生み出された資料であって、学術上の基礎資料となる。先行研究の確認作業や検討に再利用できるようにすることは、先端的な研究を行う上での基盤整備といえる。また、研究の進展や転回に基づいた再利用が、新たな発展を導くのではないか。
- 2) 大学における研究活動は、税金によって支えられているものであって、その成果は社会に還元されてしかるべきものである。撮影された写真すべてが研究活動に関わるものであるかは慎重に検討する必要があるものの、撮影した研究者が、これらの写真を博物館に残し、管理を任せていったということを考えるならば、社会の共有財としての価値を見出し、公開すべきではないか。
- 3) 写真を撮影した研究者は、国や地域の委員会などにも参画しており、関連情報が含まれている可能性がある。大学での研究活動だけでなく、地域における活動の記録としても利用できる可能性があるのではないか。
- 4) 個人ではなく、博物館という恒常的な機関に写真が収められ、世代を超えて利用されるように残された。長い歴史の中で失われたと考えられていた情報が、そこに残されているのではないか。また、当時は一般的、日常的なものを撮影したに過ぎなかったかもしれないが、世代を超えたことで、新たな価値を持つようになったのではないか。

この想定が妥当なものであったかどうかについては、整理結果で述べることにする。

## 整理対象の写真群について

次に、今回のプロジェクトにおいて調査対象とした写真資料群について紹介する。

博物館所蔵古写真には、異なる由来をもつ写真群が含まれている。一つは、博物館の事務所の棚に保管されていた写真群、もう一つは、北海道大学農学部動物学教室に保管されていた犬飼哲夫旧蔵資料を2000年前後に複数回に分けて受け入れた中に含まれていた写真群である。前者は、撮影者が定かではないものの、博物館に残されたという点から、博物館関係者が撮影したものと評価されてきた。しかし、これまで部分的に整理されたり、紙焼きされて、植物園の記録写真として利用（北海道大学1976）されたという実績はあるものの、その全体像についてはこれまで把握されてこなかった。一方、犬飼哲夫旧蔵写真群は、由来から明らかなように犬飼教授が研究活動の一環として撮影あるいは収集した写真資料群である。犬飼は北海道大学における勤務期間のほぼすべてにおいて博物館の責任者として活動していたものの、それにとどまらず理学部や水産学部にも関与しており、撮影内容は多岐にわたっているものと予想された。

由来の異なる資料群を整理するにあたっては、それぞれがもつ歴史的背景を失わないように整理することが重要である。この



博物館旧蔵写真



農学部旧蔵犬飼哲夫写真

ため、個別に整理することが好ましいという考え方もあるだろう。しかし、ある写真のプリントは博物館旧蔵写真に、ネガは犬飼写真に存在するといった事例があり、両者を照合することで写真情報が得られる場合や、師である八田から犬飼に引き継がれた写真資料のように、単純に個人の研究活動ではなく、研究室や博物館という組織での研究活動の成果が個人資料に含まれている場合もある。本研究プロジェクトが「大学博物館所蔵古写真」の意義を検討するものであることから、個々のコレクション単位ではなく、総合的に評価するべきであると考え、本報告書では両者を一括して取り扱うこととしている。ただし、整理作業内容の報告で述べるように、それぞれの由来を明確にするため、資料番号登録においてはつねに原形に復帰できるような処理を行うよう心掛けた。

整理の結果、博物館旧蔵写真群には、ネガ（ガラス乾板、シートフィルム、35mm ネガなど）3,000 コマ強、プリント 2,400 枚弱、犬飼旧蔵写真群には、ネガ 13,000 コマ弱、プリント 5,700 枚弱が確認され、総数として 24,000 を超えるカットが資料として登録された。もちろん、24,000 のカット数にはネガとプリントが対応する同じ写真が含まれているし、焼き増したプリントが多数含まれている場合もある。また、今回の整理では、ミスショットなどにも意義があるものと位置付け、写真として評価しづらいコマも資料として登録を行ったため、実際に利用できるカット数は減少する。この他、家族写真などの私的写真も含まれており、これらすべてを“研究資源”と位置付けることはできないものの、20,000 点を優に超える新たな研究資源（潜在的な資源を含む）が利用できるようになることは、大きな意味を持つものであろう。

内容としては、動物学・民族学・考古学など博物館関係者が関わった研究分野の写真や、大学関係の写真（卒業記念写真、建物関連の写真など）が多く含まれていることが確認された。内容の精査や利用するための基本的情報の整備が必要であることは言うまでもないが、上記した意義に応える能力を有する写真群であると考えられた。

## 期待される成果

ここでは、研究計画段階で想定していた大学博物館所蔵古写真がもつ意義が、実際の整理・調査結果から認められるかどうかについて整理しておきたい。ただし、ここに挙げる事例は、研究計画段階において筆者が想定していた意義であって、本報告書第 2 部にまとめたように、様々な利用者による様々な観点からの利用によって、多様な意義が認められることになる。今回整理を行った写真群は「博物館資料」であり、利用目的に制約を設けないことが最も重要なスタンスであると考えていることはここで述べておきたい。

### (1) 研究活動の証拠としての意義、研究活動の発展の材料としての意義

大学研究者によって撮影された写真であることから、写真群に含まれる写真の多くは研究活動の中で生み出されたものであると想定していたが、実際、八田・犬飼・名取らの研究報告に用いられた写真が多数確認された（図 1-18）。これらは、すでに発表されている写真ではあるものの、発表者が利用した写真原本はその発表内容の正当性を担保する材料の一部である。今回の調査により、報告の表現について検討を要する部分があることも確認された\*\*。また、これらが大学博物館という機関に保管されているということは、研究者個人の活動・責任という枠組みだけではなく、大学が研究活動の保存・記録とその正当性に恒久的に責任を負うということと位置付けられ、社会への説明責任を果たすための材料となるだろう。

保存された写真が、時代を超えて利用できるように管理されることで、その写真は新たな価値を有することにもなる。たとえば、図 17 は犬飼哲夫がアイヌによる樹皮舟の製作方法の紹介の一環として、完成した樹皮舟を示すために提示した写真（犬飼 1939）である。犬飼にとっては、製作技法と完成形を示すことが目的であった写真であるが、別の研究者が樹皮舟の先端に付与されたイナウ（木弊）の形状を知りたいと考えた場合にも有益な写真となるかもしれない。しかし、犬飼によって発表された写真は、樹皮舟全体を示す写真でしかなく、印刷技術の問題からも拡大利用が困難である。ところが、写真原版、特にガラス乾板やフィルムが保存されており、それを最新の機器を用いて再利用することで、図 18 のように精細な拡大画像を得ることができる。世代を超えて、“原資料”が保存されることの意義もここに認められるだろう（本報告書 2 部北原報告も参照されたい）。

さらに、発表原稿の一部としての写真ではなく、研究活動の中で生み出された写真群として残されたという点にも意義がある。犬飼は樹皮舟の報告において 9 枚の写真に掲載しているが、残されている関連写真は 50 カットほど確認できる（図 19-21）。微妙なアングル違いなどの写真もあるが、文章のみで表現されていた技法を映像を用いて確認できるということは、技術の復元の上で有意義である。また、これらの写真は製作にあたった人物や撮影場所についての調査にも利用することが可能であり、多様な利用方法に供することができるだろう。

---

\*\* 図 1 の写真解説には「北海道森林中の野生のシカ」とあるが、ネガを利用した照合から、この写真は植物園内で撮影された剥製のシカであることが確認された。また、図 14 として示されているアイヌのサケ漁に関する報告は、釧路で行われたように記述されているが、写真の撮影場所については「静内（現在の新ひだか町）」であることが連続するフィルムから確認された。



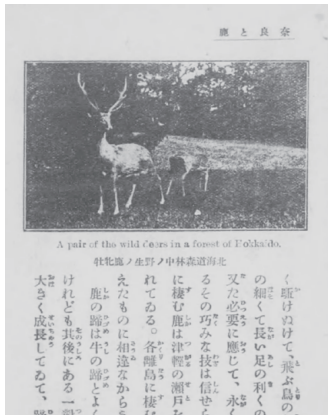


図1 八田 1920  
北海道森林中の野生の鹿牝雄



図2 ネガ 61388



図3 犬飼 1924



図4 ネガ 50916

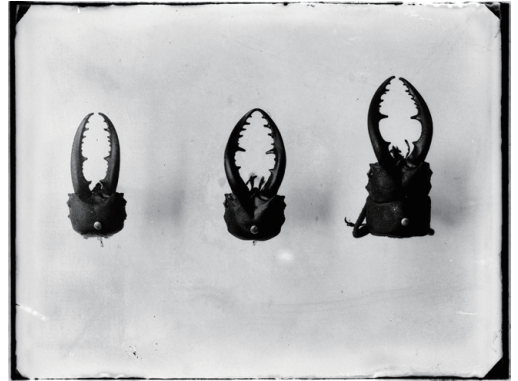


図5 ネガ 50920

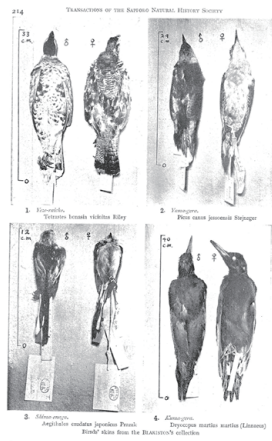


図6 山階ら 1932

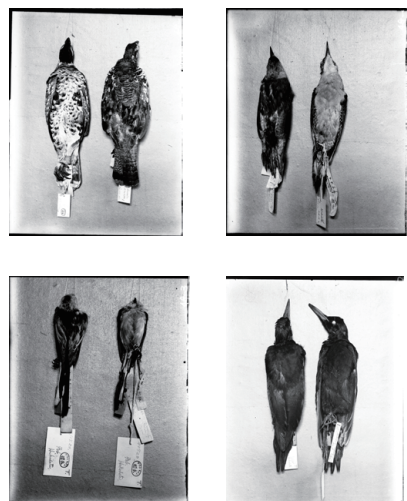
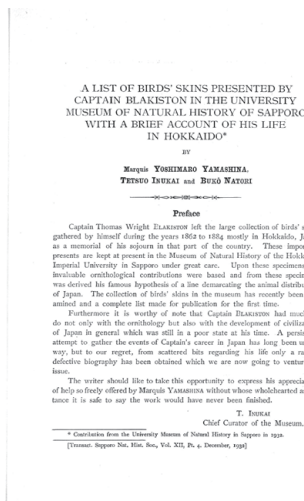


図7-10  
ネガ 60379, 60382, 60381, 60380



図 11 名取 1933



図 12 ネガ 70021



図 13 ネガ 70010

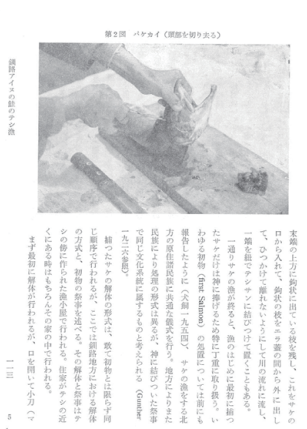


図 14 犬飼 1965



図 15 ネガ 05565

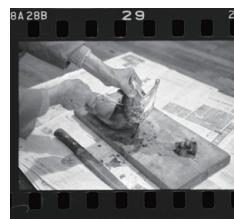


図 16 ネガ 05687

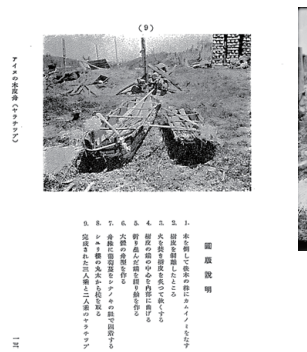


図 17 犬飼 1939



図 18 ネガ 50090 と部分拡大



図 19-21 文献に利用されていない写真



### (2) 博物館所蔵資料の情報復元の材料として

冒頭で述べたように、北海道大学植物園・博物館は、日本において有数の歴史を誇る博物館である。明治期からの貴重な標本・資料を多数所蔵しており、その学術的価値は高く評価されている。しかしながら、少人数で運営されてきたという歴史的背景から、標本情報の継承に支障を生じてきていることは否めない（加藤 2001, 2004, 2008, 加藤ら 2009, 2010 など）。収集年次や収集地などの収集情報が失われた資料は、その学術的価値が大きく損なわれることから、博物館ではその復元や再検討に力を入れている。今回整理された写真には、博物館の展示の様子を示す写真や文献に引用するために撮影された所蔵資料の写真が数多く含まれていた。精細な画像と文献を利用することで、資料情報を復元することも可能である。

図2のエゾシカ写真は、照合から博物館に所蔵されている2体の剥製（HUNHM13132 および 13020）であることが確認された。この2体の標本には、収集年次が記載されていないが、この写真を八田が1920年に利用していた（八田1920）ことから、少なくとも1920年時点には収集されていたことが確認される。これのみではわずかな情報に過ぎないが、古い時代の標本台帳との照合などを通じて、さらに情報を追加することができるかもしれない。収集年次の特定まではたどり着かないとしても、おおよその収集年次が把握できるだけで、DNA調査を用いたボトルネック効果や急激な増加以前のエゾシカの特徴を示す材料として利用することが可能になるという利点を得られるのではないだろうか。

この他にも、本報告書図版163に掲載されている考古資料写真や図22などは、現在学習院大学史料館に保存されている「明治44年東北帝国大学農科大学博物館写真帖」に含まれているものである。撮影年次の下限が明治44年であるということが確定することから、これらの写真に写されている標本・資料は明治時代の収集資料であることが確定する。図22奥に写っているノガン（HUNHM39011）も収集情報が欠落しているが、この写真によって明治期の剥製であることが把握できるのである。



図22 ネガ61686

文献からは照合することができなかった資料・標本が、古写真原版を用いて照合できるという利点も確認された（本報告書2部加藤ら報告参照）。

### (3) 地域文化資源として

博物館展示や植物園の様子を示す写真は、当然のことながら撮影当時のありのままの様子を示しているものである。しかし、撮影後に一定の時間を経過することで、これらの写真は植物園や博物館の歴史を示す史料となる。同様に、撮影当時は現状記録や研究目的という目的であった写真が、保存され続けたことで歴史史料としての価値を持つようになる。図版280・281は現在植物園内に存在する宮部金吾記念館がキャンパス内にあったところの写真であるし、写真279は現在の農学部前にあった水産学科講堂が取り壊される際の写真である。こういった写真は札幌農学校、北海道大学の歴史を示す材料として有益である。また、大学内だけでなく、学外での調査、地域の記念物調査委員としての業務の中で撮影された写真の中には、地域や文化財の歴史を示す材料が含まれている。

根室市和田村役場の事例については、本報告書2部猪熊報告に詳しいが、その他にも調査によって興味深い結果が得られている。いくつかの事例を紹介しよう。

図版218は、松前の法源寺山門の写真である。写真では屋根が瓦葺きであるが、現在は茅葺きに改修されている（図23）。図版228は厚岸町に存在していた上杉神社の様子である。この神社は現存しておらず、写真もそれほど多く残されていない。また、図版221は、知内町の海岸に建てられている海難者宝塔の様子である。この道路は、現在トンネル工事によって利用されなくなっており、この宝塔の存在（図24）は、地域の住民からも忘れ去られていた。この写真の存在によって、改めてその価値が再評価されるかもしれない。図版300・301は、現在室蘭市水族館のあるあたりの様子を示す写真である。現状は埋め立てが進み、様相が全く変わっており、地域の歴史資料として興味深いものである。

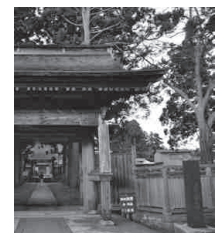


図23 法源寺(2009年)

この他にも、松前大島でのミズナギドリ・植生調査や、厚岸大黒島でのコシジロウミツバメの調査、厚岸岸沼でのヒバナ生息調査のように天然記念物の過去の様子を示す写真が増加することで、現状との比較検討がより精密になることが期待される。

また、上述したような北大の建築物の記録撮影や、文化財調査とは全く別目的で撮影された写真が文化的な価値を有するようになった事例もある。報告書図版308は、ごく短い期間ではあったが博物館館長を務めた小熊捍とその夫人を撮影した写真であり、おそらく小熊宅を訪問した際に犬飼によって撮影された写真と推測される。この写真は、人物写真として撮影されたものであり、当初はそれ以上の価値は有していなかっただろう。しかし、小熊邸は現在移築されているものの、札幌市の文化財建築として位置付けられており、図



図24 海難者宝塔(2009年)

版 308 写真を含む複数の写真を利用することで、さらに当時の様子を復元することも可能となりそうである。

これらの写真は、研究者の研究活動や業務、あるいは私的活動の中で撮影されたものであるが、これらが博物館に保存されつづけたことで新たな価値を有することになった。さらに、地域に還元されることによって、より大きな価値が得られることになるだろう。

## 研究成果報告について

博物館所蔵古写真の整理と調査の結果および成果報告にあたっては、研究組織構成員との協議を経て、以下のような方針に基づいて取りまとめることとした。

### (1) 報告対象から除外したもの

対象となった写真群には、撮影者が留学時や出張時に撮影した欧米、旧満州での写真が多く含まれていた。これらの写真についてもデジタル化やデータベース登録は行ったが、今回のプロジェクトでは海外調査を予定していないため、文献で利用されたものなどを除き、報告書には掲載しなかった。また、本州で撮影されたものも、現地調査を行い得なかったものについては除外した。

家族写真などのように明らかに私的写真であると判断されるもの、ヒグマや旧満州でのオオカミによる人的被害の写真については、文献に利用されたことがある写真を除き、閲覧に供するべきものではないと評価されたため、データベース上で「非公開」扱いとし、報告書においても除外することとした。ただし、家族写真と評価されるものであっても、北海道大学キャンパスの建築物が背景に写っている場合など、歴史的価値があると評価されたものについては、「非公開」扱いとはせずに報告書目録の中に含めたものもある。

写真の中には、現在であればコピー機によって処理されるような文献・論文の複写が多数含まれていた。当該文献が確認できたものもあるが、これらについては、一部を除き目録から除外した。ただし、照合できた文献・論文については参考文献目録の中に文献・論文名を掲載した。

本プロジェクトが取り扱う写真は 20,000 カットを超える膨大なものであることから、被写体となった人物全てに対して、研究期間中に肖像権の確認を取ることは不可能であった。このため、明らかに大学関係者であることが判明する場合や文献で引用されている写真を除き、人物写真を図版として掲載することはしなかった。目録中にこれらの写真は含まれており、今後閲覧は可能とする方向で準備をしているが、公開にあたっては適切な処理を行う必要がある。

### (2) 報告方法

整理・調査にあたっては、個々の写真がいつ、どこで、誰によって、どのような目的で撮影され、どのような文献に利用されているかについて、可能な限り詳細な調査を行い、データベースに登録した。しかしながら、20,000 カットを超える写真の個別データを報告書に掲載することは、分量的に膨大なものとなり現実的ではないと判断されたこと、また、整理した写真の中には、顕微鏡写真を中心として、被写体情報が全く不明の写真も多く存在するとともに、(1) で示した報告から除外すべき写真の存在もあった。これらの問題点を前提に、研究組織構成員による研究会での議論の結果、以下に示す方針により本報告書を編集することとした。

- ・本報告書は、個々の写真の詳細データは提示せず、所蔵古写真群全体の提示を目指すこととする
- ・写真群全体の原型を示すために、ネガ・プリントそれぞれが管理されてきた状態ごとの目録をまとめる
- ・写真利用の利便性を高めるため、調査結果に基づき写真を分類し、主題分類目録と地域分類目録をまとめる
- ・特徴的な写真を図版に掲載し、写真群の傾向を示す
- ・調査にあたって用いた文献目録をまとめる

主題分類目録と地域分類目録の2編成とした理由は、①小樽で発掘され、札幌の博物館で撮影された土器資料のように、無理に地域名を提示することで混乱を引き起こす可能性のある写真の存在や、顕微鏡写真のように撮影場所が特定できない写真の存在、②撮影場所は推定されるものの、風景写真や建築物写真といった撮影目的・主題が明確にならない写真の存在など、目録から除外される写真を極力減らすという意図とともに、研究目的としての利用と、地域文化資源としての利用という二つの利用の利便性を高めるという意図による。なお、目録の編集にあたっては、個々の写真を極力グループ化し、検索が容易になるよう心掛けたが、情報が欠落していた写真の情報復元や分散していた写真の集約などの細かな整理作業の内容、根拠などを示すことができないという問題点もあり、グループ化の結果を無批判に信頼することは避けていただきたい。

## プロジェクトの総括および今後の課題

本プロジェクトにおいて、24,000 カットにのぼる古写真全てをデジタル化、データベース化し、未整理の資料を博物館の研究資源として利活用できるようになったこと、また単なる古写真の羅列ではなく、研究組織構成員および関係機関各位の調査・協力に基づく、それぞれの写真がもつ情報や、その現状にかかわる情報をも付与した目録を取りまとめたことは一応の成果と考え

ている。また、得られた写真資料の活用の方向性に関するいくつかの事例についても報告することができた。これが唯一絶対の活用方法でないことを前提としつつも、「大学博物館所蔵古写真」の現代的意義の一面について、明確にすることができたものと評価している。

今後、この写真資料の利用にあたっては北大植物園・博物館が責任をもってあたることとなる。「博物館」という恒久的な存在として、単なる保存だけではなく活用によって得られた新たな成果を付与し続けてゆくことが、「大学博物館所蔵」という意義を確固たるものとしてゆくことになる。本報告書掲載写真だけではなく、掲載しなかった海外・本州の写真群についても積極的に閲覧に供し、資料情報を整備してゆくこととしている。

しかしながら、この成果には数多くの課題が残されていることも事実である。一つには、すでに述べたように肖像権の問題である。今回のプロジェクトにおいて被写体となった人物名の一部は確認できたものの、撮影時期の古さから物故者となっていた場合も多かった。この場合、遺族に利用許諾を得る必要があるが、現時点ではほとんどの写真についてその作業を行っていない。また、本人と直接面談する機会があった場合でも、写真のデータ化や整理がすべて終了していない時点での調査では、すべての写真についての利用許諾を得る準備が整っていなかったことから、あえて照会を行わなかった場合がほとんどである。このため現時点では、肖像権にかかわる写真の一般利用・公開ができない状況にある。また、家族写真などの私的な写真群は、本来個人に帰属するものであって、上述した人物写真を含めて、その返却や複製の提供という作業が必要となろう。その一方で、私的写真であっても長い時間を経たことで、その史料価値が高まったことも事実である。目録作成による利活用促進をより進めるためには、個々の写真を閲覧することができるデータベースの構築も必要であるが、膨大な肖像権の確認作業、写真の返還作業なしでは画像の公開にはつながらない。利用促進とともに被写体の権利を尊重する体制作りが今後の急務である。

また、利用促進や研究面での発展的活用のためには、本報告書の目録様式ではなく主題別に個々の写真の情報を取りまとめた目録作成も必要であるが、目録作成のためには、それぞれの分野の専門的な知識が必要となる。今回の目録を土台として、各分野の専門家の協力による詳細な目録の作成が期待される。さらに、今回の報告書では対象としなかった海外での写真群や被写体、撮影目的を特定できなかった写真群の継続調査も必要となろう。この点も今後の課題として挙げられる。

利用にあたってのルール作りも必要不可欠な整備である。本報告書2部山崎報告においても触れられているように、写真の利用に伴う無制限の複写や孤児化を避けるためには、デジタルデータ上でのウォーターマーク（透かし）の付与作業も必須であるし、博物館における情報管理の徹底も必要不可欠である。本プロジェクトにおいては、写真の内容や意義の把握のための調査を優先したため、すべての写真のトリミング、調整作業を終えていない。ウォーターマークの付与のあり方の検討や利用体制づくりも急務である。

## 文献一覧

- 犬飼 哲夫 1924 Statistical studies on the variation of stag beetles., Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc., 9, 77-91  
 犬飼 哲夫 1939 アイヌの木皮舟（ヤラチップ）, 北方文化研究報告, 1, 93-105  
 犬飼 哲夫 1965 釧路アイヌの鮭のテシ漁, 北方文化研究報告, 20, 109-118  
 加藤 克 2001 北海道大学農学部博物館所蔵考古学資料（1）, 北海道大学農学部博物館研究紀要, 1, 19-34  
 加藤 克 2004 札幌農学校所属博物館のアイヌ民族資料, 北大植物園研究紀要, 4, 1-54  
 加藤 克 2006 ブラキストン「標本」史, 北海道大学大学院文学研究科学学位申請論文  
 加藤 克 2008 北海道大学植物園所蔵アイヌ民族資料について：歴史的背景を中心に, 北大植物園研究紀要, 8, 35-91  
 加藤 克・市川 秀雄・高谷 文仁 2009 札幌農学校所属博物館における鳥類標本管理史（1）：東京仮博物館から札幌農学校所属博物館初期まで, 北大植物園研究紀要, 9, 29-94  
 加藤 克・市川 秀雄・高谷 文仁 2010 札幌農学校所属博物館における鳥類標本管理史（2）：明治期の札幌農学校所属博物館, 北大植物園研究紀要, 10, 9-96  
 佐々木 史郎・古原敏弘・小谷 凱宣 2008 北海道内の主要アイヌ資料の再検討, 科学研究費補助金研究成果報告書, 国立民族学博物館  
 関 秀志 1975 明治初期～中期における北海道の博物館 - 札幌を中心に -, 北海道開拓記念館研究年報, 4, 47-65  
 関 秀志, 中田 幹雄, 千代 肇 1990 明治期における北海道の博物館（1）, 北海道開拓記念館調査報告, 29, 113-139  
 名取 武光 1933 利尻, 礼文両島に於ける考古学的調査報告, 史前学雑誌, 5（3）, 1-30  
 八田 三郎 1920 奈良と鹿, 官幣大社春日神社春日神鹿保護會  
 八田 三郎 1926 アイヌの生活と博物館のアイヌ品陳列棚, 啓明会第十八回講演集 大正十五年, アイヌ史史料集（5）, 31-41  
 北海道大学 1976 北大百年：1876-1976：写真集, 北海道大学図書刊行会  
 北海道大学附属図書館 1992 J. 明治大正期の北海道：写真と目録, 北海道大学図書刊行会  
 三浦 泰之 2001 ウィーン万国博覧会と開拓使・北海道, 北海道開拓記念館研究紀要, 29：177-206  
 山階芳麿ほか 1932 A list of birds' skins presented by Captain Blakiston in the University Museum of Natural History of Sapporo with a brief account of his life in Hokkaido., Trans. Sapporo Nat.Hist.Soc., 12（4）, 213-255



## 研究組織の構成

### 研究代表者

加藤 克：北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園助教

### 研究分担者

北原 次郎太：北海道大学アイヌ・先住民研究センター准教授

山崎 幸治：北海道大学アイヌ・先住民研究センター准教授

### 連携研究者

三浦 泰之：北海道開拓記念館学芸員

### 研究協力者

市川 秀雄：北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園技術専門職員

猪熊 樹人：根室市歴史と自然の資料館学芸員

内田 祐一：帯広百年記念館学芸員

大沼 忠春：元北海道教育庁主幹

熊崎 農夫博：厚岸町海事記念館学芸員

古原 敏弘：北海道立アイヌ民族文化研究センター研究課長

佐藤 理夫：市立函館博物館主査・学芸員

鈴木 邦輝：名寄市北国博物館館長

角 達之助：北海道立北方民族博物館学芸員

高谷 文仁：北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園技術職員

坪岡 始：標茶町郷土館学芸員

福士 廣志：留萌市学校教育課長

藪中 剛司：新ひだか町教育委員会 新ひだか町静内郷土館学芸員

(五十音順、肩書は 2012 年 2 月末現在)

## 予算

総額 4290 千円

2009 年度：1820 千円 (直接経費：1400 千円, 間接経費：420 千円)

2010 年度：910 千円 (直接経費：700 千円, 間接経費：210 千円)

2011 年度：1560 千円 (直接経費：1200 千円, 間接経費：360 千円)

## 活動成果 (学会発表ほか)

猪熊 樹人 2012 和田屯田兵村大隊本部建物の変遷, 根室市歴史と自然の資料館紀要, 24

加藤 克 2010 アイヌ資料とそれを取り巻く情報の保存について, アイヌ文化財専門職員等研修会

加藤 克 2011 古い「資料」と古い「モノ」—資料情報の喪失と復元—, 国際シンポジウム「温故知新—アイヌ文化研究の可能性を求めて—」, 国立民族学博物館

加藤 克・高谷 文仁・市川 秀雄 2011 研究者の遺した写真を用いた標本情報の収集について: ヒグマ頭骨標本を一例に, 北大植物園研究紀要 11, 1-19 <本報告書掲載>

加藤 克・市川 秀雄・高谷 文仁 2010 大学博物館所蔵古写真の現代的意義と地域還元, 第 5 回博物科学会, ポスター発表 東北大学

高谷文仁・加藤 克・市川秀雄 2010 古写真を利用した標本情報の追加, 第 5 回博物科学会, ポスター発表 東北大学

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園 2010 古写真にみる北大植物園, 企画展示

根室市歴史と自然の資料館 2011 北海道指定有形文化財「和田屯田兵村の被服庫」内における説明パネル製作

## 謝辞

本研究プロジェクト遂行のために、北海道内外の関係機関及び多くの方々の協力を得た。被写体となった場所、対象、人物だけでなく、参考となる文献の紹介など、本報告書の完成にあたって必要不可欠な情報を提供していただいた。心より感謝申し上げます。

また、研究協力者としてプロジェクトに参画したメンバーも本務である博物館活動の合間を縫って様々な情報を収集していただいた。本報告書は、大学の研究者だけでは完成できないものであったことについても述べておきたい。

ただし、本報告書の記述における問題点、不適切な点に対する責任は、研究代表者であり編集責任者である加藤に帰する。

# 博物館所蔵古写真の整理作業について —データベースとデジタル化—

加藤 克

## はじめに

本稿では、「大学博物館所蔵古写真の現代的意義に関する研究」の基礎的作業として、膨大な未整理写真資料を研究資源とするために行ったデータベース化作業と写真のデジタル化作業の方法について紹介する。

写真資料のデータベース化や、デジタル化は整理目的・方針や、規模・予算などによってさまざまな方法が採用されるべきものであって、以下に紹介する方法が必ずしもすべての事例に適したものではない。しかし、本プロジェクトの結果を今後の写真資料の整理にあたっての一助とすることも、研究計画において意図したところであるので、まずプロジェクトが目指した方向性について述べ、その特徴について述べることにしたい。

特徴の一点目として、本プロジェクトでは、データベース化やデジタル化作業の効率を優先することよりも、写真群が残されてきた経緯・状態がもつ情報を適切に保存し、プロジェクト開始前の状態にいつでも復元できるようにすることを最優先の課題として整理を行った。これは、写真そのものがもつ情報だけではなく、写真「群」としての価値や、過去の整理、管理の経緯の実態など資料群が有する歴史情報源としての価値を重視することが、多面的な利用を可能とすることにつながると考えたからである。1枚1枚の写真の価値を引き出せなかった場合でも、「群」としての情報を保持することで、別の価値を引き出すことができる可能性がある。例えば、1枚の写真の撮影時期が判明しなかったとしても、連続する写真の存在から撮影時期を類推できることもあるだろう。しかし、整理を行うことによってその連続性が失われるならば、その整理は資料価値を損なうものでしかない。

経験的なことではあるが、資料群としての価値や、形や文字に現れない資料情報は、整理前や整理中に発見されるのではなく、整理が終了し、全体像をつかんだ段階で導き出されることが多い。しかし、資料群がもともと持っていた状態に復元できなければ、それを裏付けることができなくなる。資料群が置かれている状況が、一見して混乱した状態であるとしても、混乱以前の状態の断片や、混乱を引き起こした歴史的現象がそこに示されている可能性もあるということを念頭に置き、資料価値を損なわない可逆的な整理作業を行うことに留意する必要がある。この点は、どのような資料整理でも重視されるべき問題であるが、特定の目的や整理期間が限定されている整理の場合には、等閑にされることがある。しかし、博物館という社会全体の資源を管理する機関において、資料を整理する場合には、軽視されるべき点ではないだろう。

二点目の特徴として、特別な機材を利用することなく少人数による整理方法を採用した点が挙げられる。結果として、24,000カットを超える写真資料のデータベース化、デジタル化となったが、この整理作業自体は筆者のみで実施した。これは、筆者の所属する博物館自体が数名で運営されている組織であり、大掛かりな作業を行うスペースや体制が整っていないという理由もあったが、補助金を受けなければ実施できない作業方法は、他博物館、特に小規模館では採用することができず、プロジェクトの成果を広く還元するという意図にそぐわないものと考えたからである。博物館に予算や人員が不足しているために整理ができないのではなく、工夫しながら整理を行うことで、社会から期待される機関へと発展してゆき、社会に必要な機関であると認識され、社会からのバックアップを得られるという正のスパイラルに寄与できればと考えている。

利用した機材は、基本的に一定規模の博物館であれば所有していてもおかしくないものであり、個人でも入手できるようなものを用いた。以下の紹介では、細かな工夫なども紹介し、今後の参考に供したい。

## 資料の整理方法

### 1-1. クリーニングおよびデータ登録

資料群全体を確認しつつ、表面のクリーニングを行ったうえで、デジタル化に先立つ資料登録を以下のように行った。

#### 1-1-1. フォルダ単位の登録

個々の写真、フィルムに固有の管理番号を与える前に、それらが現在まとめられているフォルダ、アルバム、箱、封筒などの資料群を一つの単位として、登録を行った。個々の写真だけでなく群に対しても固有のIDを与えることで、資料が帰属していた群を特定し、デジタル化や整理・保存上の理由から分散することになった資料を原状復帰できるようにするためである。

また、アルバムや封筒に記載されている情報など、群として持つデータをMS-ACCESSのようなリレーショナルデータベースにあらかじめ収集しておくことで、群に属する個々の写真が共通に持つデータを個別に登録することなく、同一のデータを一括して与えることができるという利点もある。

#### 1-1-2. フォルダ単位の登録作業



・プリントが含まれているフォルダ・アルバムなどに PF-ID（プリントフォルダ ID）として 0001 から始まる管理番号を与え、資料に記載できるものは鉛筆で番号を記載した。記載できないもの場合は、紙片に番号を記載し、保存袋に同梱した。なお、農学部（犬飼哲夫）旧蔵資料は PF-ID0001 から、博物館旧蔵資料は PF-ID1001 から登録を行い、群としての情報を混乱しないようにしている。

・段ボール内にプリントが裸で投げ込まれていたような場合に対しても、農学部旧蔵単体（PF-ID0001）、博物館旧蔵単体（PF-ID1001）として固有の ID を与えた。

・ネガ（フィルム・ガラス乾板等）が含まれているフォルダ・箱などに NF-ID（ネガフォルダ ID）0001 から始まる管理番号を与え、プリントフォルダと同様の処理を行った。なお、農学部旧蔵資料（犬飼資料）は NF-ID0001 から開始し、博物館旧蔵資料は NF-ID2001 から登録している。

なお、同一の袋・箱にプリント・ネガ双方が保存されていた場合には、PF、NF 両者の番号を与えて、別々に登録することとした。

整理にあたって、採集したデータは以下の事項である。

【プリントフォルダ\_データテーブル】

PF-ID

記載情報（記述されている事項）

プリント枚数

備考（ネガが同梱されていた場合などは、NF 番号などを記載）

プリント番号（個々のプリント登録後、フォルダに含まれている資料番号を記載）

フォルダ写真：記載情報以外にも、フォルダに記述された現像所の名称や広告などから、撮影年代を判断することができる場合もあるが、文字情報としてデータ化できないことが多い。これを補うために写真を撮影し、利用に供することとした。

【ネガフォルダ\_データテーブル】

NF-ID

記載情報

コマ数（35 ミリスリーブ用）

ネガの種類（35 ミリスリーブ、シートフィルム、ガラス乾板など）

フィルムのメーカー、種類（会社名、フィルムの種類、パーフォレーションのコードなど）

備考（プリントが同梱されていたり、別種のフィルムが同梱されていた場合など）

ネガ番号（個々のネガ登録後、フォルダに含まれている資料番号を記載）

フォルダ写真

フォルダデータと含まれているプリント・ネガの内容が齟齬していたり、混乱している場合も確認されている（文末補論参照）。この場合であっても現状記録という目的から、データそのものは現状通り記録した。

### 1-2-1. プリントの登録

個々のプリントに固有の管理番号 P-ID を与えて登録した。アルバムに貼り付けられている場合は貼り付け順に登録したが、封筒などに収められていた場合は、現状の順に登録し、整理者の意図を含まないように留意した。

整理にあたって、採集したデータは以下の事項である。

【プリント\_テーブル】

P-ID

PF-ID：所属する群の ID：これによりフォルダのデータを得られる

記載事項：裏面や表面、貼り付けられた紙片などの記載

裏面数字：年代によって手書きであったり、印字されている場合があるが、同じ 35 ミリネガからプリントした写真に共通にみられる番号、記載（プリント年次など）である。整理時点で分散していたプリントを、群として復元する際に用いた。

鉛筆でプリント裏面に ID を記載したのち、アルバムに貼り付けられている写真を除くすべての写真を、複写作業のために登録番号順に配列した。この時点で、個々の写真はフォルダや封筒、箱から切り離された。

## 1-2-2. ネガの登録

### 1-2-2-1.35 ミリスリーブ

35 ミリネガは、(1) スリーブケースに収められているもの、(2) 封筒に収められているもの、(3) 1 コマごとに切断されているもの、(4) リールのまま保管されていたものなど多様な様式のものがあったが、整理・デジタル化の作業を効率的に行うために、すべてのフィルムを市販の 35 ミリフィルム保存用ファイルに整理し直すことにした。

群単位でファイルに収めるため、リール上のは 6 コマ単位で切断し、切断したことを上記 NF データの備考欄に記入した。

ファイル上部に NF-ID を記入したうえで、各コマに登録番号 (N-ID) を与え、ファイルに番号を貼り付けた。ID 登録にあたっては、フィルム送りを意図したと考えられる写真やミスショットなども区別せず、ID を与えることとした。

### 1-2-2-2. その他のフィルム

シートタイプのフィルムには、ベスト判、大名刺判など様々なサイズのものが含まれていたが、市販のプリント保存用ファイルを用いて、サイズごとに分類してファイルに ID を記載する形で N-ID を付与した。ブローニーサイズのフィルムが複数枚連続していた場合には、切断して整理することにして、原型に復元できるようデータ登録を行った。

ネガに ID を付与するにあたっては、群としてのフォルダ単位で ID が与えられることが原形を把握するためには望ましいが、同じフォルダ内に別サイズのフィルムが混在していた場合などは、サイズ分類を優先して登録することとした。これは後述するデジタル化作業の効率化を考慮に入れたためである。

### 1-2-2-3. ガラス乾板

ガラス乾板もシートタイプのフィルムと同様に、様々なサイズのものが含まれていた。乾板を 1 枚ずつビニールの袋に収め、袋に N-ID を印刷したシールを貼り付け、サイズ別に整理を行った。フィルムと同様、ID 配列はサイズを優先し、群としてはまとめてはいない。

なお、乾板整理に用いたビニール袋は、湿気によるカビを誘引する恐れがあることが、プロジェクトのメンバーからも指摘されている。本プロジェクトでは、保存処理を目的としていないということ、また所蔵されている数量を把握しないまま、保存に適した封筒などを購入することは好ましくないと考えられたため、あえて採用したものである。プロジェクトの成果によって、必要なサイズ、枚数が把握できたことから、今後博物館において保存方法を変更してゆくことになっている。

ネガの整理にあたって、採集したデータは以下の事項である。

#### 【ネガ\_テーブル】

N-ID

NF-ID：所属する群の ID：これによりフォルダのデータを得られる

記載事項：裏面や包紙などの記載

フィルムの種類：乾板、シートフィルム、35 ミリ、サイズ

備考：切断した場合の接続フィルム情報

なお、ネガの登録番号は、旧蔵場所、ネガの種類によって以下のように区分した

N-ID 00001- : 農学部旧蔵 35mmフィルム

N-ID 30001- : 農学部旧蔵シートタイプフィルム

N-ID 50001- : 農学部旧蔵ガラス乾板

N-ID 60001- : 博物館旧蔵ガラス乾板

N-ID 70001- : 博物館旧蔵シートタイプフィルムおよび若干の 35mmフィルム

## 2-1. 写真のデジタル化

デジタル化作業は、デジタル一眼レフカメラ (Nikon D90) を PC に接続し、ソフトウェア (Nikon Camera Control Pro2) を用いて作業を行った。プリント、ネガによって作業に若干の相違があるため、個別に紹介する。

## 2-2. プリントのデジタル化

プリントの複写は通常の資料複写と同様に、複写台を用いて行った。

デジタルカメラのライブビュー画像を PC モニタ上で確認しながら、複写を行うことで、効率的に作業を行うことができる。また、

ソフトウェアを介して撮影することで、P-IDを連番で自動登録できる。スキャナーやカメラ単体で複写した場合に必要な画像データの転送や画像番号の変更などの必要がなく、複写後の作業の負担も軽減できることが利点である。

複写にあたっては、18% グレーの背景紙を貼り付けた資料台に、小型の曲尺を貼り付け、プリントの設置場所を固定して、複写作業を効率化するとともに、ID 登録時に省略したプリントサイズの調査を、PC のモニタ上で実施できるように工夫した。なお、曲尺を貼り付けることによって、プリントのゆがみを抑えるための低反射ガラスの水平が取れなくなるため、曲尺を設置した対角線上にも曲尺を設置した。

プリントは、裏面に被写体情報や、プリント時の情報が記載・印字されている場合が多いため、表面を「P-ID\_A」、裏面を「P-ID\_B」というファイル名称で保存し、管理を行った。

撮影した画像をデータベース上で表示できるよう、データベースの構造を工夫した。

### 2-3. ネガのデジタル化

ネガの複写は、フィルムスキャナーが用いられる場合が多いが、本プロジェクトではデジタルカメラによって複写した画像を、画像処理ソフトウェア上で階調反転するという処理によってデジタル化した。この処理の利点は以下の点が挙げられる。

- ・作業速度の向上:フィルムスキャナーでは、1枚の処理に10-30秒程度必要である。さらに、ファイル名の登録など、スキャン後の処理にも時間を要する。デジタルカメラによる複写は、シャッター速度1秒以下で撮影できること、プリント同様にIDが連続している限り、連番でファイル名が作成されるため、事後処理が不要となる。大量に撮影された反転画像は、ソフトウェア上での階調反転処理を自動化することが可能であり、負担はほとんど発生しない。ただし、トリミングなどの処理は生じる。

- ・多様なサイズ、状態のネガに対応:普及機として用いられているスキャナーはあらかじめスリーブ位置を固定してスキャンされるため、フィルム送りでコマの半分しか撮影されていないようなネガをスキャンすることが難しい。また、フィルムを固定するフォルダも、現在利用されているサイズのもものが中心である。今回用いた手法は、フィルムの状態やサイズを問わず容易に複写を行うことが可能である。

- ・35ミリフィルムのパーフォレーションの複写が可能:フィルムスキャナーによる複写は、撮影画像しかデジタル化されない。本プロジェクトのように、もともとのフィルムの状態が維持されていない場合には、パーフォレーションに記載されているフィルムの種類やコマ番号、切断部分の形状などを用いて、情報を収集することになるため、パーフォレーションを含んでデジタル化できる手法が望ましい。(補論参照)

- ・その他:写真のデジタル化作業においては、超高画素での複写が行われている場合がある。本プロジェクトについて学会などで報告した際にも、画素数に関する質問を多数受けた。プロジェクトが前提とした、普及機を用いた作業であれば、1500万画素レベルの複写であり、トリミングを行えばさらに画素数は低下する。しかし、A4～A3用紙程度に印刷する分には全く支障は生じない。逆に、複写する写真の点数が多く、かつ撮影されている写真がどのようなものであるのか把握できていないような場合に、1枚あたり数百MBに登るような画像ファイルを作成・管理することは、求められるPCのスペックも大きなものになってしまう。整理・管理・基本的調査のためには、今回採用した方式がリーズナブルであると考えている。写真原本が適切に保存されていれば、必要な写真のみを超高画素でスキャンすることが可能である。

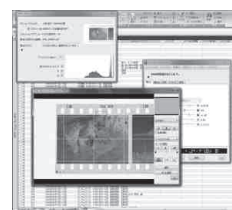
#### 2-3-1. ネガのデジタル化作業

ネガフィルムのデジタル化は、複写台の上にライトボックスを設置し、35ミリスリーブ、シートタイプの場合は、低反射ガラスで押さえたのち、カメラのライブビュー画像をPCモニタで水平や画像の切れなど確認して、ライトボックスを移動しながら撮影した。ガラス乾板の場合は、ライトボックス上に当該サイズの穴をあけた用紙を設置し、その枠中に乾板を配置して撮影した(ライブビューを継続利用することはカメラの負担が大きいため、配慮が必要である)。

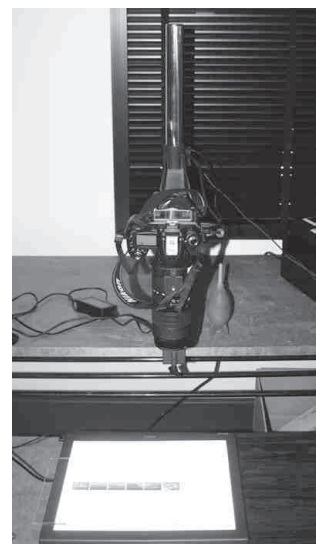
露出は階調反転を考慮に入れる必要がある。テストの結果、撮影内容にもよるが、中央部重点測光、絞り優先でF値を9に、露出補正を+1.0に設定して撮影することで、大きな破綻が生じることはなかった。

撮影は、階調反転やトリミング作業による画像の劣化を考慮に入れ、Raw(Nikon NEF形式)で撮影した。撮影したデータをNikon CaptureNX2で階調を反転させ、さらにJpeg形式に変換したのち、トリミング作業などを行った。

プリントと同様に、撮影した画像をデータベース上で表示できるようにした。



複写の様子と  
PC画面



### 3. 文献写真のデータベース化

調査対象である写真群は、博物館のスタッフの撮影によるものと考えられたため、彼らの執筆した論文、雑誌記事などを収集し、PDF化したのち、各写真を画像データとして保存した。あわせて、文献情報と各写真の記載情報をデータベース化した。

### 4. プリント・ネガ・論文写真のすりあわせ —照合データテーブルの作成—

ネガは、35mmスリーブでは撮影順が把握できること、ガラス乾板なども保管状態が良好であれば、同時期に撮影された一群の写真であることが推測されるなど、全体像を把握することができるという利点がある。一方で、撮影内容などの記載が困難であることから、写真に関する情報が不足している場合がある。

プリントは、異なる時期に撮影されたものや、連続していない写真を抜き出して特定目的で整理を行うなど、原形が損なわれやすい反面、写真裏面に被写体情報が記載されている場合がある。

論文写真は、多数の写真が利用されていないという問題はあるものの、写真の意図が適切に把握できること、出版年次が明確になることから、撮影年次の下限が特定できるという利点がある。

個々に複写・データベース化された写真情報をすりあわせることで、三者の利点、問題点を補い、写真情報を追加することができる。作成した三種類のデータベースをすりあわせる照合用のデータテーブルを作成し、媒体が異なる同一の写真を同一の画面で確認できるフォームを作成した。この処理によって、最終的な写真データの一覧を作成する体制を整えた。

すりあわせのために、ネガ・プリントのデータベースに、キーワードや撮影年代等の項目を随時追加し、照合作業を簡便化する工夫を行った。



照合用データベース：左上にプリント・ネガ・文献画像を配置し、右側に個々の写真に付属する記載情報を表示している。左下は、すべてのデータを統合した情報を記入する欄。

### 5. 画像、データの共有、調査によるデータの追加

収集した写真情報、複写した写真画像などを DVD-R やメモリ、ネットワークサーバーなどを利用して、北海道内各地の研究協力者に配付し、データを共有した。

情報の誤記、誤登録や、データ整理の方法の問題点を指摘し合うとともに、各地域で活動する学芸員ならではの現地調査や聞き取り、各自が専門とする分野の文献調査や、博物館での標本調査などを実施し、写真のみからでは得られない情報を収集し、照合データベースに随時追加した。

### 6. その他 課題など

データベースでの整理・調査を容易にする目的で、データフォームに写真画像が表示できるようにした。データベースのファイルサイズを低減するために、画像をデータベースの中に組み込むのではなく、読み込むスタイルにしたものの、論文掲載画像を含め、25,000 を超える画像を処理するためには、ある程度の PC のスペックが必要とされた。また、データベースの一般向け解説書には、画像を表示する方法の解説がなされていないため、ある程度の知識とトレーニングが求められる。

現地調査のために、画像を含むデータを用紙に印刷する必要がある場合は、今回利用したデータベースからそのまま印刷することができない。テキストデータのみをテキスト形式で保存し、Adobe InDesign を用いて調査シートを作成したが、コスト、手間などがかかるため、今後より簡便な方法を検討してゆかなければならない。

冒頭に述べたように、今回の整理作業がすべての事例や機関で適したものとは考えていない。また、今回の調査期間で得られた情報が、入手できる情報のすべてではなく、さらにデータを追加、更新してゆく作業が必要となる。しかし、特殊な機材やコストを必要とせず、処理することができた一例として取り扱っていただければ幸いである。



## 補論. フォルダデータと内容の齟齬について - スリーブ情報を含めたデジタル化の必要性 -

古写真に限らず、博物館資料の整理にあたっては、資料がもともと保持している情報の収集が基本である。しかしながら、当該資料が袋や箱に収められている場合、その袋や箱がもともとその資料に付属していたものであるのかどうかについては慎重に検討する必要がある。また、付箋などで書き込みがあるとしても、その書き込みが資料の製作者・利用者によって行われたものであるのか、後世の人物によって行われたものであるのかによっても、情報をもつ価値は異なる。情報だけではなく、複数の資料がまとめられている場合でも、その括りが原型を示しているのか、後世に何らかの変更を受けているのかについても慎重に取り扱う必要があるだろう。

ここでは、補論として博物館所蔵古写真において、ネガのフォルダとフォルダに含まれていたネガの間に生じている混乱の実態を紹介するとともに、原型に復元するために、本プロジェクトで採用したデジタル化作業の利点について述べたい。

### 対象とするネガフォルダ

ここで対象とするネガフォルダは、NF-ID0162、0163、0164、0165、0167の5点である。フォルダに記載されている情報は、0162が「ヌプリトラウシ (ママ)」、0163 および 0164 が「ヌプリトムラウシ」、0165 が「ヌプリトムラウシ 1964.7.3」、0167 が「ユートムラウシ 1964.7.1」となっており、NF-ID0166を含めた一連のフィルムのフォルダであると評価される。しかし、フォルダに記載されている撮影場所や撮影日付が異なることから、個々の写真については異なるデータが付与されるべきである。「現状」について紹介してゆこう。

NF-ID0162 は N-ID04254 から 04269 までを含むが、スリーブの構成は以下のようにになっている

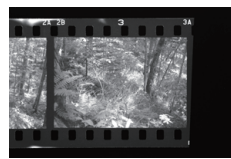
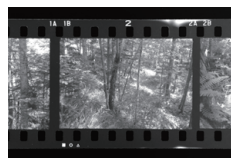
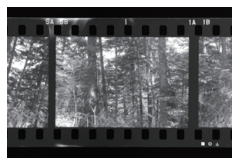
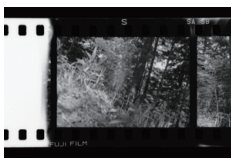
0162-1 : N04254-04257

0162-2 : N04258-04263

0162-3 : N04264-04269

画像に示すように、このフォルダに含まれているネガスリーブのパーフォレーションの番号は連続しておらず、このスリーブはもともと一つのフィルムから生み出されたものではない。

#### 162-1



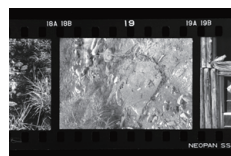
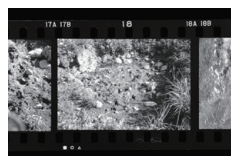
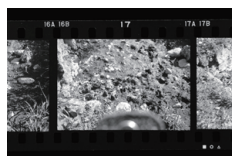
パーフォレーション  
番号は S ~ 3A

#### 162-2



パーフォレーション  
番号は 3 ~ 8B

#### 162-3



パーフォレーション  
番号は 15B ~ E

同様に NF-ID163 以降についても構成を示す。

0163-1 : N04270-04272	0163-2 : N04273-04278	0163-3 : N04279-04282	
0164-1 : N04283-04286	0164-2 : N04287-04292	0164-3 : N04293-04298	0164-4 : N04299-04304
0165-1 : N04305-04310	0165-2 : N04311-04316	0165-3 : N04317-04322	0165-4 : N04323-04328
0165-5 : N04329-04332	0165-6 : N04333-04338		
0167-1 : N04361-04366	0167-2 : N04367-04372	0167-3 : N04373-04378	0167-4 : N04379-04384
0167-5 : N04385-04390	0167-6 : N04391-04396		

これらのネガについて、パーフォレーションの番号およびフィルムの切断跡の照合を行った結果、本来は以下のようなフィルムの組み合わせであることが明らかとなった。

ネガ A

0165-3 > 0164-3 > 0165-1 > 0165-2 > 0167-4 > 0167-5

ネガ B

0163-1 > 0162-2 > 0163-2 > 0163-3

ネガ C

0164-1 > 0167-2 > 0167-3 > 0165-4

ネガ D

0162-1 > 0164-2 > 0167-6 > 0162-3

ネガ E

0165-5 > 0165-6 > 0167-1 > 0164-4

このネガに含まれる写真は、犬飼「秘境・大雪山をさぐる」（1964年）で用いられているものであり、利用にあたってネガの配列が大きく混乱したのではないかと推測される。

このように、フォルダと中に含まれるネガ・プリントとの間には常に正しい関係が構築されているとは限らず、プリントであれば裏面の印字、ネガであればパーフォレーションやフィルムの切断形状など総合的に検討したうえで、利用する必要がある。35mm フィルムの調査の上では、フィルムスキャナーによる撮影面だけのスキャンよりも本プロジェクトで採用したデジタル化が効果的である。

## 第2部 古写真を用いた新たな研究・教育活動の展開について

第2部として、今回の整理によって得られた100年から40年ほど前の写真が、撮影者の意図した撮影目的と離れて、どのような活用が可能であるのか、プロジェクト構成員の関心に沿っていくつかのレポートをまとめた。これらは、プロジェクト全体で議論したものではなく、それぞれの専門分野や職務に応じて執筆したものである。

本プロジェクト自体は、写真の利用方法を定めることを目的とせず、多様な利用に対応できるような整理を目的としており、ここに挙げた報告は事例の一つと考えている。地域の失われた文化財を紹介する活用や、博物館所蔵標本の情報の復元など、社会還元としての役割や、今後の研究の発展につながる契機となったように、古写真群がもつ潜在能力は、非常に高いものである。新たな利用方法や価値の創出のための参考となることを期待している。(加藤)





# 研究者の遺した写真を用いた標本情報の収集について

—ヒグマ頭骨標本を一例に—

加藤 克<sup>1</sup>・高谷 文仁<sup>1</sup>・市川 秀雄<sup>1</sup>

## はじめに

筆者らは、北海道大学植物園・博物館（以下博物館と表記）所蔵標本について、過去に運用されていた標本台帳や標本ラベルを用いて標本情報の追加、修正などの検討を続けている（加藤 2004,2008、加藤ら 2009,2010）。この検討手法は、一定の成果は挙げているものの、必ずしもすべての場合において適用できるわけではない。この手法を採用することができる標本は、過去に博物館の標本として登録されたもののみであって、新規に受け入れられた標本などに対しては、採用することができないという課題がある。

大学博物館に収蔵される標本の多くは、学内において実施された研究活動の成果であり、必ずしも博物館スタッフによって収集・研究されたものとは限らない。しかも、研究活動が終了してすぐに博物館に収められ、収集者からの情報提供が行われることは今のところごくまれであり、研究室や部局に保管されていた過去の研究者の標本が移管される場合が多い。そのため、移管された標本がどのような研究に利用され、いつ、どこで、誰によって収集されたものであるか判明しない標本が多く含まれることになる。これらの標本に対して標本情報の整理・追加を行うにあたっては、これまで筆者らが取り組んできた検討手法を用いることはできず、研究者本人の管理簿や研究ノートなどを利用する必要がある。しかし、これらのノート類が残されていることも少なく、仮に残っていたとしても標本群との関係が明確になっていない場合が多い。そもそもこれらの標本やノート類はもともと博物館に収めるために収集・記載されたものではなく、研究者が自身の研究のために作成したものであるために、標本に記載されている情報や管理簿・研究ノートの記載は本人以外にその意味が把握できないという事例も多いからである。このような状況で、残された標本を次世代の研究資源として保存し、活用に供するためには、単純な記載の転写ではなく適切な調査に基づいた情報の収集・検討が必要であることは明らかである。

本稿は、大学の研究者が研究活動の中で撮影し、保管していた古写真の調査を通じて、その写真そのものの資料価値を把握するとともに、これを用いて現存する標本の情報の整理・追加を試みるものである。

## 検討対象の古写真群について

本稿で用いる古写真は、現在北海道大学植物園・博物館に所蔵されているものである。これらは、大きく分けて二つのグループに分類される。

一つのグループは、博物館に保管されていたガラス乾板、フィルムとプリント群であり、もう一つのグループは、2003年に北海道大学農学部動物学教室から移管された資料に含まれていたガラス乾板、フィルムとプリント群である。グループごとに、概要について紹介することとしたい。

### （博物館旧蔵写真）

博物館旧蔵写真は、ガラス乾板約 2,100 点、フィルム約 1,200 点（35 ミリスリーブの場合、各コマを 1 点とする）、プリント約 2,300 点からなる。被写体は、動物（発生、生態、クマ被害ほか）、考古、民族、海外での生活などが含まれている。撮影者は、これらの写真が博物館に保存されていたことから博物館関係者と位置付けられ、被写体から八田三郎、犬飼哲夫、名取武光、芳賀良一、阿部永ら歴代の教員を中心としたスタッフによるものと考えられる。

### （農学部旧蔵写真）

農学部動物学教室旧蔵写真は、犬飼哲夫教授旧蔵資料として保管されていた文献、資料、標本群に含まれていた写真群である。内訳は、ガラス乾板約 2,200 点、フィルム約 11,000 点（同前）、プリント約 5,700 点である。被写体は、犬飼の保管していた写真であることから、その研究分野である動物（発生、生態、クマ被害ほか）、民族、海外での生活などが大部分を占めている。

なお、同じ写真のプリントとネガが博物館旧蔵写真・農学部旧蔵写真それぞれに含まれていることから、犬飼の撮影した写真も博物館旧蔵写真に多数含まれていることは間違いない。

## クマ頭骨写真について

本稿で取り扱う写真は、博物館旧蔵ガラス乾板に含まれるヒグマ頭骨の写真群と、農学部旧蔵ガラス乾板に含まれる 2 枚のヒグマ頭骨写真である。ガラス乾板をデジタルカメラで複写し、階調反転と露出調整をほどこしたものを図 1 から図 38 に示し、

<sup>1</sup>北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園

本稿は、『北大植物園研究紀要』11 号（2011 年）に掲載した報告を、許可を得て再掲したものである。

各写真に付属する情報を表1に示した。

表1に示したように、一部の乾板は元箱に保管され、「ヒグマ頭骨」という記載はあるものの、いつ、だれが、どのような目的で撮影したものであるかは明記されていない。また、一部の写真では必ずしも箱の記載と中の写真とが対応していない場合があることに留意しなければならない。今回検討する写真資料においても、元箱3053には「ヒグマ頭骨」という記載とともに、抹消してあるものの「アンゴラ♀×カスタ♂ 1932.VI.28」という記載があり、この箱の中には過去に別の乾板が保管されていたことを示唆する。ガラス乾板そのものに情報が記載されている場合や、プリントの裏面に記載がある場合を除き、ガラス乾板の箱や包紙、フィルムのスリーブケース、写真が収められている封筒などの記載を鵜呑みにすることは危険であり、慎重に取り扱う必要がある。

ここでは、Aグループ(図1~27)、Bグループ(図28~33)、Cグループ(図34~36)、Dグループ(図37・38)の4グループに分けて検討を進める。

### クマ頭骨写真の撮影目的

Aグループの写真の撮影目的を把握するために、まずは写真の観察を行った。ヒグマの上顎・下顎の歯列を撮影しているこれらの乾板には、表1に見るように、裏面に番号の記載がある(図39)。これらは、連番ではなく、また保存箱ごとで意図をもって保管していたようにも思われぬが、共通の記載であること、また被写体からみても撮影者が被写体を示す標本番号を記載したものと考えられる。この番号を参考にしながら、検討を進めたい。

撮影者・撮影目的を明らかにする材料は、古写真群の概要で触れた可能性のある撮影者の情報のみである。これらのクマ頭骨写真は、アイヌ民族のクマ送りに用いられた資料を示すものではなく、純粋な動物学のためのものであることから、撮影者の可能性として、動物学者でありヒグマを研究対象としていた八田三郎か犬飼哲夫に絞り込むことは許されるだろう。そこで、彼らが発表した論文、著書、雑誌記事などを博搜した結果、犬飼哲夫と武笠耕三による論文(Inukai & Mukasa 1934)にこれらの写真の一部が掲載されていることが確認された。

表2の「Inukai\_Fig. 照合」欄に見るように、犬飼論文の8枚のヒグマ頭骨写真は、ここで検討している27枚の乾板に含まれている。また、犬飼論文ではそれぞれの写真の説明として、標本番号の記載があり、これらの番号は、対応する乾板の記載番号と合致する(表2「Inukai\_Fig. 標本番号」欄)。犬飼論文の図版の撮影者として、犬飼と武笠の名前が記述されていることから、これらのガラス乾板は犬飼と武笠によって1934年あるいはそれ以前に撮影されたものであり、記載番号も彼らが利用したものであることが確認される。

些細な照合作業であるが、これにより情報の付属していなかったガラス乾板に対して、博物館資料としての資料情報(撮影時期・撮影者・撮影目的・記載番号の意味)が付与できることとなった。さらに、これらの点が判明したことで、犬飼論文の図版に掲載されていない写真も、記載番号や共通の撮影方法から、同時に撮影されたものであることが推定され、これらの乾板は別の資料的価値を持つこととなる。

Inukai & Mukasa (1934)では、図版として掲載した標本とは別に、標本番号のみでヒグマ幼体の歯列に関するデータを提示している標本があり、引用している標本数は合計27点となる。この標本番号と乾板に記載のある番号とを照合した結果、すべてが合致することが分かった(表2「引用のみ照合」欄)。この結果から、論文では記載のみであった標本の状態を映像として把握することができるのである。資料群としてのガラス乾板の整理・検討により、犬飼らの報告内容を保証し、研究の再検討に利用しうる材料が整備されたといえる。逆に、この照合から、文献に記載されている標本に関する情報(月齢など)を利用することが可能となり、各乾板がもつ資料情報を追加することにもつながる(表2「文献情報」欄に追加できる情報を記載した)。

さらに、これらのガラス乾板によって得られる利点がある。図40は、図8の一部を拡大したものである。ガラス乾板は多様なサイズのものがあるが、基本的に35ミリフィルムよりもサイズが大きく、情報量が多い。写真原版を高精細のデジタルカメラを用いて複写することで、印刷状態の悪い文献では判別しがたい被写体の詳細を把握することができることになる。

### ヒグマ写真と標本

前節で検討した写真に撮影されているヒグマ頭骨標本は、写真の撮影時期が1934年以前であることから、撮影以前に収集された標本であると位置付けられる。Inukai & Mukasa (1934)はこれらの標本がどこに所蔵されているかを明示してはいるが、研究成果の保存および再検証には、これらの標本の現状を把握しておく必要がある。そこで、今回検討対象とした写真資料を利用しつつ、被写体となった標本について調査を行った。

犬飼が利用した標本は、博物館もしくは農学部動物学教室に所蔵されていたものか、独自に収集したものと推測されるが、独自に収集したのも後にはどちらの機関に保管されたものと考えられる。高谷ら(2010)が整理したように、農学部動物学教室に保管されていたクマ類の骨格標本は現在博物館に移管されており、当面の検討には博物館所蔵標本を対象とすることが第一歩となる。高谷らの整理した情報に基づき、検討を進めることとしたい。

2011年4月段階で、博物館に所蔵されているクマ類の頭骨標本数は281点である。これらには、博物館の標本番号を示す記載やラベルのほかに、収集者や後の研究者によって付与された情報が多数付属している。これまでの調査(加藤・市川2002、加藤2004、加藤ら2010,2011)によって、ラベルごとに情報を整理することで、コレクションの原型を把握することができることが確

認されているため、2008年に行われた標本整理においても同様の作業を行ったところ、以下に示す結果が得られた。

図41はヒグマ頭骨【48841】(以下、【 】で括った数字は、博物館における標本番号である)の現状を示している。この標本には図42にみるラベルおよび図43にみる金属製のタグに「27」という番号が記載されている。標本は骨に含まれるサンプルを採集するために上顎の一部が切り取られており、形状が一部変更されているが、「27」の番号を持つ写真(図8)に写っている標本と同一のものである。この合致は、他にも確認され、ヒグマ頭骨【48840】(図44)は図12に、【48821】(図45)は図20に合致し、ラベル番号が確認される標本についてはすべて合致している(表3-1)。

これにより、ヒグマ頭骨に付属する多数のラベルのうち、図42および図43に示したものは1934年時点で犬飼らが利用したものであることが推定され、標本番号によって論文と合致する10点の標本については、研究に用いられた標本であることが確認された。これにより、採集年次が記載されていないいくつかの標本については、1934年以前に収集されたヒグマであることが確定する。また、頭骨の形状からヒグマであることは推定されるものの、採集地情報が付属していないために、「クマ頭骨」として管理されてきた博物館標本(高谷ら2010)も、犬飼論文がヒグマを対象として検討を行っていることから、標本名を「ヒグマ」へと修正することも可能となる。

さらに、犬飼が論文中に引用しなかったものの、これらのラベルのいずれかが付属する標本は、現在100点以上確認されている。犬飼が1934年に撮影し、記載した標本番号の最大のものが「103」であることから、ラベルに記載されている番号が103以前の標本は、採集年次が不明のものであっても、1934年以前に収集された標本であると位置づけることができるだろう。ラベル番号104以降のものについては、記載されている採集情報から、1935年以降に収集された標本が多数含まれており、採集年次不明の標本の年代特定は難しいが、犬飼の手元に入ったのが1935年以降であること、またこのラベルが付属することで、犬飼が研究に利用するために収集していたコレクションであるという情報は付け加えることができるだろう。

表3-1にみるように、写真に撮影された標本27点のうち、ラベルによって確認できたものは10点のみである。照合できなかった標本は、現在どのような状況にあるのだろうか。一つの可能性としては、犬飼らが別機関の標本を利用したというもの、もう一つの可能性は、犬飼らが利用した標本ラベルが欠落しているというものである。そこで、高精細画像を利用し、博物館に所蔵されている全標本との確認作業を行うこととした。その結果を次に示す。

図46は博物館に保管されていたヒグマ幼体の全身骨格【32876】(北海道産、採集年次不明)の頭部写真である。これには上述したラベルは付属していないが、図1(記載番号2、犬飼論文のFig.5)の標本であることがわかる。ここから、犬飼がこの標本を「2」番標本として取り扱っていたことが判明し、この標本が1934年以前の収集標本であること、10か月のヒグマであることが確定される。ラベルが付属していた頭骨標本は、動物学教室に保管されていたものであるのに対し、これは古くから博物館に保管されていたものであること、また頭骨のみの標本ではなく全身骨格であることから、ラベルが付与されなかったものと考えられる。

また、図47はクマ頭骨【48978】の写真である。破損が著しく、照合は難しいが、図11(犬飼論文のFig.4)と合致するものである。この標本には、ラベルは付属するものの脂によって番号の記載がほとんど判読できない状態にあり、下一桁の残画が「3」あるいは「8」と判断されるのみである。しかし、写真を利用した照合によって、このラベルには「48」の記載があったこと、北海道産のヒグマであり、8か月の幼獣であるという標本情報を追加することができる。

図48はクマ左下顎骨【47723】の写真である。これにはラベルが付属せず、また骨自体にも番号の記載がない。2008年に実施した標本整理において、上顎と下顎が分散しているものについてはラベル、骨格の記載番号や歯の噛み合わせなどにより、可能な限り同一個体の標本の組み合わせるようにしている(高谷ら2010)が、この標本は情報不足により合致させられなかったものである。しかし、これは図5に写っている標本の左下顎骨である。図5は犬飼の標本番号「13」を持つ標本の写真であるが、このラベルを持つ標本【48886】は左下顎骨が欠落している(図49)。二つの標本を組み合わせたとところ、これらが同一個体の骨格であることは間違いなく、まったく情報の無かったクマ左下顎骨【47723】が採集地情報を持つヒグマ頭骨標本となる。

標本と写真との照合は必ずしも容易なものではなく、合致するものが残されている可能性はゼロではないが、現時点で写真のみによる照合結果が正しいと評価できたものは表3-2にみる3点であり、写真と照合された標本は27点中12点となる。写真によって照合した2点を除き、犬飼論文の図版に掲載された標本がすべて確認できないという事実は、博物館所蔵標本と劣化の著しい個体を除いて、犬飼が重要資料として別置していたのではないかと考えられる。今後、関連機関において調査を進めることとしたい。

#### 情報のないヒグマ頭骨写真

Bグループ(図28-33)の乾板写真には、Aグループで見たような標本番号の記載がない。また、八田・犬飼の著作物にも引用されておらず、基本的な情報を得ることもできないため、博物館所蔵標本との照合を行った。

図28-30(B-1)および図31-33(B-2)はそれぞれ2個体の頭骨標本を上面、下面、側面から撮影したものであり、1から4の番号が写し込まれている。B-1の大型の標本はヒグマ頭骨【48829】(日高鶴川、採集年次なし、犬飼ラベル標本番号20)、小型の標本は、ヒグマ頭骨【48821】(石狩、1932年採集、犬飼ラベル標本番号86、図20掲載の個体)、B-2の大型の標本はヒグマ頭骨【47738】(樺太、犬飼ラベル標本番号105)(図50)の形状と合致したが、小型の標本は、合致するものを見いだせなかった。

1932年採集の個体や犬飼の標本番号105の個体が写されていること、また撮影スタイルが類似していることから、これらの写真は前節の犬飼の写真とほぼ同じ時期に撮影されたものであり、八田三郎の時代に撮影されたものではないと評価できる。



ここでは、写真から標本への情報の追加はできなかったものの、資料としての写真に標本情報を付与することができたことを一応の成果としておく。

#### 八田三郎のヒグマ標本

Cグループ(図34-36)は犬飼の撮影した写真とは様子の異なるものである。写真には情報が付属していないため、文献写真との照合を試みた。この結果、図34および35は八田三郎の著書『熊』(八田1911)に利用されている写真の原版であることが確認され、この写真が1911年以前に撮影されたものであることが把握できる。

図34に対応する八田(1911)の図には、「ひぐまの上顎および下顎の歯列を示す」とあるのみであるが、図35に対応する図には「ひぐまの頭骨 鼻の上に銃丸の射入孔あり、眼窩は銃丸にて破られ、下顎の左股は折らる、42年鎌田射殺(5歳グマ)」という記述がある。これにより、図35は1909年から11年までの間に撮影された写真であることが確定し、情報のない写真に上述の記載を追加することができる。

八田の記述にもあるように、図35に写されている頭骨は射殺時に破損しており、完全な状態である図34に写されているものとは別の個体である。それぞれについて、現存する標本との照合を試みたところ、図34に対応する標本は、ヒグマ頭骨【09910】(天塩中川村トートムオマナイ、1909年12月)(図51)と合致し、年代的にも矛盾しない。また、図35に対応する標本は、ヒグマ頭骨【11422】(石狩平岸村、1909年10月4日、鎌田氏)(図52)であり、文献の記載とも合致する。なお、図36はヒグマ頭骨【11422】の歯列を示したものであることも確認できた(図53)。この写真は、図34と背景は同じものであり、同時に撮影されたものと考えられるため、この3枚の写真は八田によって著書に掲載するために撮影されたものと評価できる。

以上の照合により、写真に対しては撮影時期、撮影目的、撮影者と被写体の情報が、標本に対しては文献引用の実績記録が付加されることとなった。

#### おわりに

図37・38にあげた写真には表1にみるように、「天理教師ヲ襲ヒシ熊ノ頭骨」という記述があり、高谷らの整理から、該当するヒグマ頭骨【48888】(土別、1931年11月9日、犬飼ラベル標本番号36、天理教師殺害)が確認された。この乾板は犬飼旧蔵資料に含まれているものであるが、その撮影目的は明確にならない。1935年以降、犬飼はヒグマによる被害に関する報告を数編発表しているため、人的被害をもたらしたヒグマ資料として利用する予定だったのであろうか。この場合、写真自体に標本情報が記載されているため、「土別」という採集情報と対応する標本の現存を確認するにとどまったが、少なくともこの写真は1931年11月以降に犬飼によって撮影されたものであることは確実である。

近年、古写真を利用した研究や展示活動などが開催されているが(北海道大学大学院文学研究科芸術学研究室・北海道大学総合博物館2009など)、それらの多くは、撮影者が保存することを意図し、情報を適切に記載した写真、いわば成功写真のみが利用されていることが多い。これは、利用にあたって信頼できる情報が付いているという利点があるためである。一方、今回の検討対象とした写真群は、ミスショットや私的な写真を含む撮影写真総体であり、これらにはのちに別の存在が利用することを想定せず偶然残された資料である。情報が適切に付属しない、ミスショットを含めた写真が膨大に残されていることは利用しづらい反面、画一的な記録写真ではないものが多く含まれていることにもなり、これらを利用することで思わぬ情報を得ることにもつながる。例えば、有名な建築物の写真は多数残されているが、その建物を適切に撮影するためのアングルは限られており、その全周や詳細な部分の写真が残されている場合は多くはない。個人的な記録写真や周囲の植物を撮影した写真に偶然それらの情報が残されている場合もあるだろう。その写真が当該建築物の一部であることを証明することは難しいかもしれないし、部分的な情報しか得られないかもしれない。しかし、皆無の状態とは情報量は比較にならないはずである。また、研究者の残したミスショットは、論文として公表された研究内容のみならず、その下支えとなった様々な活動を示すものでもあることから、研究内容の再検討の上でも有益な情報を与えてくれる可能性が高い。公表されなかった写真は、利用された写真以上に新しい情報を与えてくれるものと考えている。

また、本稿では写真や標本の情報を劇的に追加することができたケースはほとんどなかったが、文献や被写体となった標本情報から、写真の撮影年代の上限・下限を推測することはできた。写真の撮影年代の上限や下限を確定することは、個々の標本情報の追加には直接つながることは少ないが、撮影者がガラス乾板を利用していた時代、シートフィルムを利用していた時代、35ミリフィルムを利用し始めた時期という年代区分を確定できたとすれば、それぞれの支持体に写されている標本の収集年代の範囲を見極めることができるかもしれない。2万カットを超える写真の整理には様々な可能性があることを念頭に置きつつ、整理を進めてゆきたい。

#### 引用・参考文献

八田三郎. 1911: 熊, 富山房, 89p

北海道大学大学院文学研究科芸術学研究室・北海道大学総合博物館(編). 2009: 正田豊治ガラス乾板写真展: 知られざる北海道写真: ある魚類学者のまなざし, 79p

Tetsuo Inukai & Kozo Mukasa. 1934: Über den Zahnwechsel des Yezo Braunbären, *Ursus arctos yesoensis* Lyd., *Folia Anat. Japn*, 12 (4):

291-301

- 加藤克 . 2004 : 札幌農学校所属博物館のアイヌ民族資料 , 北大植物園研究紀要 , 4 : 1-54
- 加藤克 . 2008 : 北海道大学植物園所蔵アイヌ民族資料について - 歴史的背景を中心に -, 北大植物園研究紀要 , 8 : 35-91
- 加藤克 , 市川秀雄 , 高谷文仁 . 2009 : 札幌農学校所属博物館における鳥類標本管理史 (1) - 東京仮博物場から札幌農学校所属博物館初期まで -, 北大植物園研究紀要 , 9 : 29-94
- 加藤克 , 市川秀雄 , 高谷文仁 . 2010 : 札幌農学校所属博物館における鳥類標本管理史 (2) - 明治期の札幌農学校所属博物館 -, 北大植物園研究紀要 , 10 : 9-96
- Ryuichi Masuda • Takehiro Sato • Olavi Grönwall • Masaru Kato . 2008 : Bird and mammal specimens in the Swedish Museum of Natural History originating from Hokkaido University , 北大植物園研究紀要 , 8 : 1-13
- 高谷文仁 • 市川秀雄 • 加藤克 . 2010 : クマ頭骨標本の受け入れについて , 北大植物園 • 技術報告 • 年次報告 , 8 : 2-10

表 1 北大植物園・博物館所蔵 ヒグマ頭骨写真乾板リスト

図	写真番号	Box 番号	Box 記載	写真記載	写真備考 (重複)	グループ
1	<60802>	3044	熊の Schädel	2		
2	<60904>	3053	ヒグマ頭骨	3		
3	<60896>	3053	ヒグマ頭骨	11		
4	<60798>	3044	熊の Schädel	12		
5	<60795>	3044	熊の Schädel	13		
6	<60901>	3053	ヒグマ頭骨	14		
7	<60892>	3053	ヒグマ頭骨	22		
8	<60792>	3044	熊の Schädel	27		
9	<60902>	3053	ヒグマ頭骨	34		
10	<60905>	3053	ヒグマ頭骨	44		
11	<60790>	3044	熊の Schädel	48		
12	<60895>	3053	ヒグマ頭骨	49		
13	<60799>	3044	熊の Schädel	60		
14	<60903>	3053	ヒグマ頭骨	61		A グループ
15	<60800>	3044	熊の Schädel	65		
16	<60796>	3044	熊の Schädel	72		
17	<60900>	3053	ヒグマ頭骨	74		
18	<60898>	3053	ヒグマ頭骨	75		
19	<60801>	3044	熊の Schädel	80		
20	<60893>	3053	ヒグマ頭骨	86		
21	<60897>	3053	ヒグマ頭骨	90		
22	<60794>	3044	熊の Schädel	97		
23	<60899>	3053	ヒグマ頭骨	98		
24	<60791>	3044	熊の Schädel	99		
25	<60797>	3044	熊の Schädel	101		
26	<60793>	3044	熊の Schädel	102		
27	<60894>	3053	ヒグマ頭骨	103		
28	<61753>	3085	熊の Schädel	1/2		
29	<61747>	3085	熊の Schädel	1/2	<61750>	
30	<61754>	3085	熊の Schädel	1/2		B グループ
31	<61752>	3085	熊の Schädel	3/4		
32	<61751>	3085	熊の Schädel	3/4		
33	<61748>	3085	熊の Schädel	3/4	<61755>	
34	<61107>	-	-	-	<50140><61607>	
35	<61604>	-	-	-	<50139>	C グループ
36	<61608>	-	-	-		
37	<50137>	-	-	「天理教師ヲ襲ヒシ熊ノ頭骨」		D グループ
38	<50138>	-	-	「天理教師ヲ襲ヒシ熊ノ頭骨」		

写真番号は、筆者らの整理に際して付与したものである。60000 台の番号は博物館旧蔵のガラス乾板、50000 台の番号は農学部旧蔵のガラス乾板であることを示す。Box 番号も写真資料整理に資して付与したものである。同じ番号をもつ写真は同じ箱、袋、ファイルに収められていたことを示す。番号のないものは単体で保存されていたものである。

写真記載欄は、乾板に書き込まれている情報である。「」で括った情報は乾板そのものではなく、包紙の記載である。

表2 Inukai 論文とガラス乾板の照合

図番号	写真番号	写真記載	Inukai_Fig. 照合	Inukai_Fig. 標本番号	引用のみ照合	文献情報
1	<60802>	2	Fig.5	2	-	10か月のクマ
2	<60904>	3	-	-	3	11か月のクマ
3	<60896>	11	-	-	11	12か月のクマ
4	<60798>	12	-	-	12	12か月のクマ
5	<60795>	13	-	-	13	13-17か月のクマ
6	<60901>	14	-	-	14	13-17か月のクマ
7	<60892>	22	-	-	22	13-17か月のクマ
8	<60792>	27	-	-	27	13-17か月のクマ
9	<60902>	34	-	-	34	13-17か月のクマ
10	<60905>	44	-	-	44	11か月のクマ
11	<60790>	48	Fig.4	48	-	8か月のクマ
12	<60895>	49	-	-	49	12か月のクマ
13	<60799>	60	Fig.1	60	-	5か月のクマ
14	<60903>	61	-	-	61	12か月のクマ
15	<60800>	65	Fig.8	65	-	15か月のクマ
16	<60796>	72	-	-	72	13-17か月のクマ
17	<60900>	74	Fig.2	74	-	6か月のクマ
18	<60898>	75	-	-	75	8か月のクマ
19	<60801>	80	Fig.3	80	-	7か月のクマ
20	<60893>	86	-	-	86	13-17か月のクマ
21	<60897>	90	-	-	90	11か月のクマ
22	<60794>	97	-	-	97	10か月のクマ
23	<60899>	98	Fig.6	98	-	11か月のクマ
24	<60791>	99	Fig.7	99	-	12か月のクマ
25	<60797>	101	-	-	101	12か月のクマ
26	<60793>	102	-	-	102	13-17か月のクマ
27	<60894>	103	-	-	103	13-17か月のクマ

「Inukai\_Fig. 照合」欄は、Inukai & Mukasa (1934) の Fig. に対応する写真について、当該 Fig. の名称を記載している  
「Inukai\_Fig. 標本番号」欄は、Inukai & Mukasa (1934) の Fig. に示されている標本番号を示す  
「引用のみ照合」欄は、Inukai & Mukasa (1934) で図として示されなかったものの引用されている標本の番号を示す  
「文献情報」欄は、各標本について Inukai & Mukasa (1934) が示した情報

表3-1. ラベルにより合致する標本が確認されたもの

図	写真番号	写真記載	博物館所蔵標本情報					追加される標本情報						
			標本番号	標本ラベル	標本金属タグ	標本名	備考	採集地	採集日	文献との対照	年次	名称	採集地	
3	<60896>	11	【48936】	11	11	クマ			-	-	12か月のクマ	1934年以前	ヒグマ	
4	<60798>	12	【48945】	12	-	クマ			-	-	12か月のクマ	1934年以前	ヒグマ	
5	<60795>	13	【48886】	13	13	ヒグマ			層雲峡	-	13-17か月のクマ	1934年以前	ヒグマ	
6	<60901>	14	【48952】	14	14	クマ			-	-	13-17か月のクマ	1934年以前	ヒグマ	
8	<60792>	27	【48846】	27	27	ヒグマ			十勝国池田町	1931.11.	13-17か月のクマ			
9	<60902>	34	【48981】	34	34	クマ			-	-	13-17か月のクマ	1934年以前	ヒグマ	
12	<60895>	49	【48840】	49	49	ヒグマ			十勝国池田町	-	12か月のクマ	1934年以前	ヒグマ	
14	<60903>	61	【47724】	61	-	クマ	左下顎のみ		-	-	12か月のクマ	1934年以前	ヒグマ	
16	<60796>	72	【48841】	72	72	ヒグマ			十勝国池田町	1932.01.12	13-17か月のクマ			
20	<60893>	86	【48821】	86	86	ヒグマ			石狩国	1932.02.26	13-17か月のクマ			

表3-2. 写真照合により合致する標本が確認されたもの

図	写真番号	写真記載	博物館所蔵標本情報					追加される標本情報						
			標本番号	標本ラベル	標本金属タグ	標本名	備考	採集地	採集日	文献との対照	年次	名称	採集地	
1	<60802>	2	【32876】	-	-	ヒグマ			北海道	-	10か月のクマ	1934年以前		
5	<60795>	13	左下顎 【47723】	-	-	クマ			-	-	13-17か月のクマ	1934年以前	ヒグマ	層雲峡
11	<60790>	48	【48978】	ヨメズ	-	クマ			-	-	8か月のクマ	1934年以前	ヒグマ	

表3-3. 合致する標本が確認できなかったもの

図	写真番号	写真記載	博物館所蔵標本情報					追加される標本情報						
			標本番号	標本ラベル	標本金属タグ	標本名	備考	採集地	採集日	文献との対照	年次	名称	採集地	
2	<60904>	3	-	-	-	-			-	-	11か月のクマ	1934年以前		
7	<60892>	22	-	-	-	-			-	-	13-17か月のクマ	1934年以前		
10	<60905>	44	-	-	-	-			-	-	11か月のクマ	1934年以前		
13	<60799>	60	-	-	-	-			-	-	5か月のクマ	1934年以前		
15	<60800>	65	-	-	-	-			-	-	15か月のクマ	1934年以前		
17	<60900>	74	-	-	-	-			-	-	6か月のクマ	1934年以前		
18	<60898>	75	-	-	-	-			-	-	8か月のクマ	1934年以前		
19	<60801>	80	-	-	-	-			-	-	7か月のクマ	1934年以前		
21	<60897>	90	-	-	-	-			-	-	11か月のクマ	1934年以前		
22	<60794>	97	-	-	-	-			-	-	10か月のクマ	1934年以前		
23	<60899>	98	-	-	-	-			-	-	11か月のクマ	1934年以前		
24	<60791>	99	-	-	-	-			-	-	12か月のクマ	1934年以前		
25	<60797>	101	-	-	-	-			-	-	12か月のクマ	1934年以前		
26	<60793>	102	-	-	-	-			-	-	13-17か月のクマ	1934年以前		
27	<60894>	103	-	-	-	-			-	-	13-17か月のクマ	1934年以前		

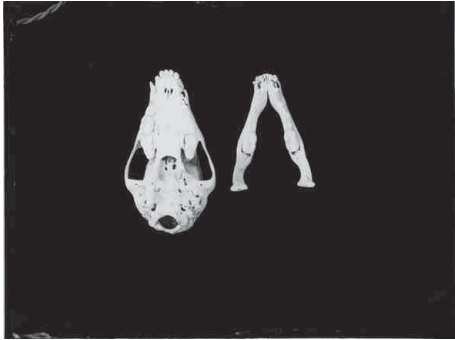


图 1. 「2」 写真番号 <60802>



图 2. 「3」 写真番号 <60904>



图 3. 「11」 写真番号 <60896>

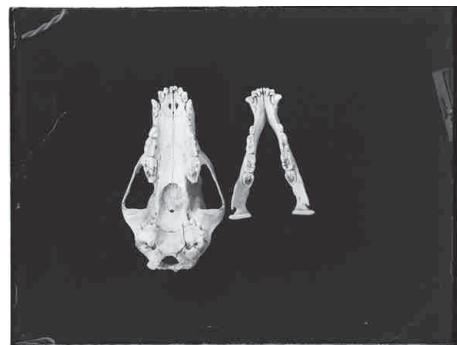


图 4. 「12」 写真番号 <60798>



图 5. 「13」 写真番号 <60795>



图 6. 「14」 写真番号 <60901>

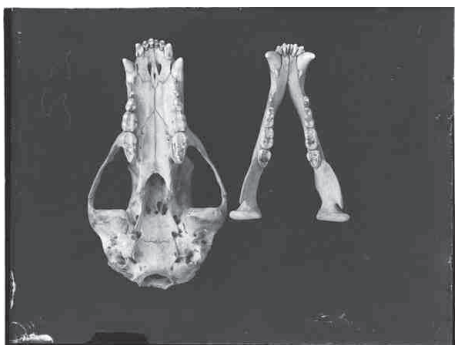


图 7. 「22」 写真番号 <60892>

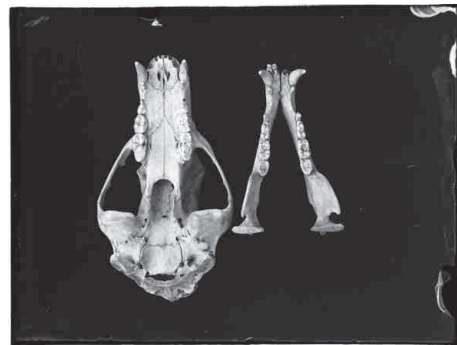


图 8. 「27」 写真番号 <60792>

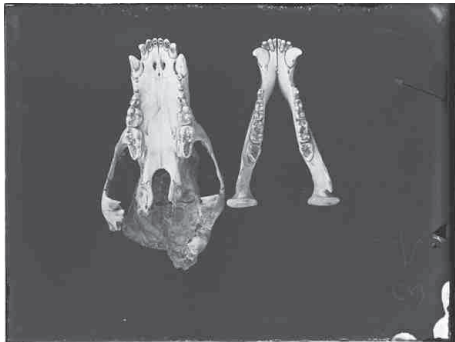


图 9. 「34」 写真番号 <60902>

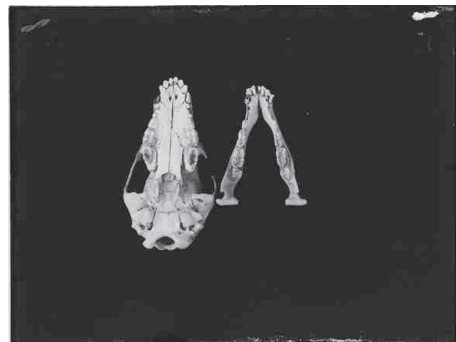


图 10. 「44」 写真番号 <60905>

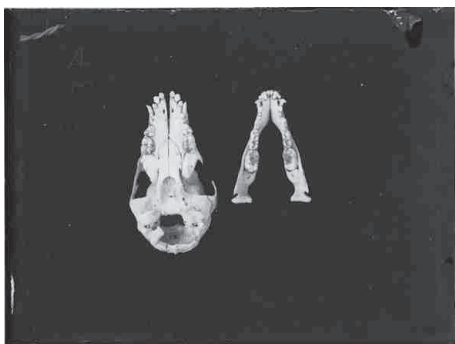


图 11. 「48」 写真番号 <60790>

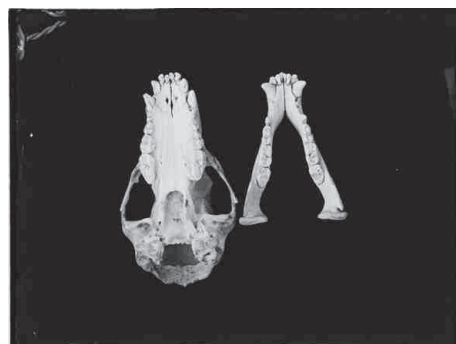


图 12. 「49」 写真番号 <60895>

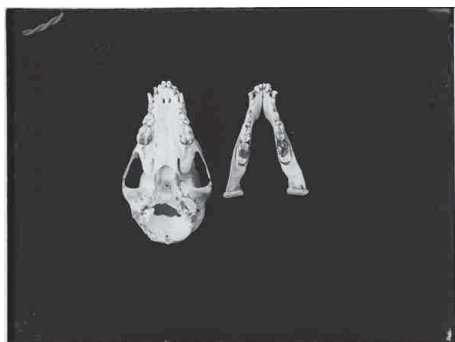


图 13. 「60」 写真番号 <60799>

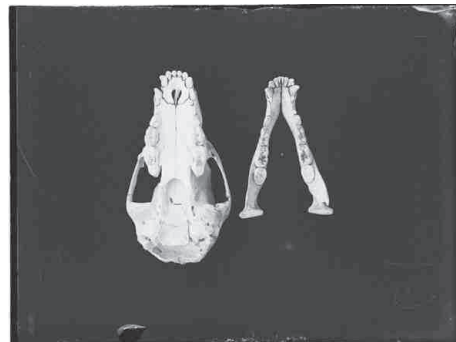


图 14. 「61」 写真番号 <60903>

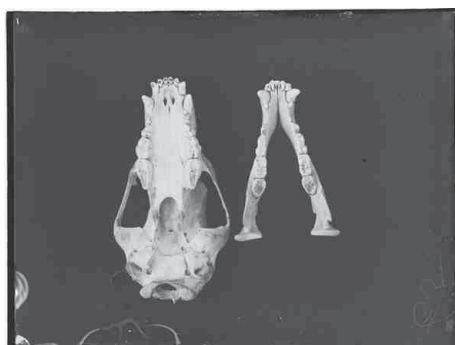


图 15. 「65」 写真番号 <60800>



图 16. 「72」 写真番号 <60796>



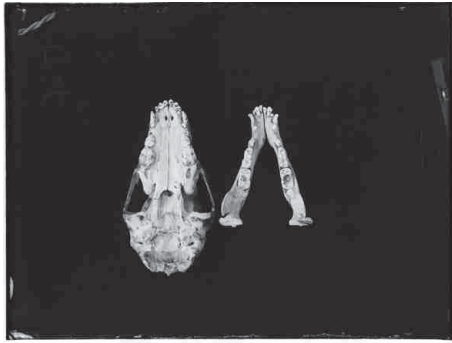


图 17. 「74」 写真番号 <60900>



图 18. 「75」 写真番号 <60898>

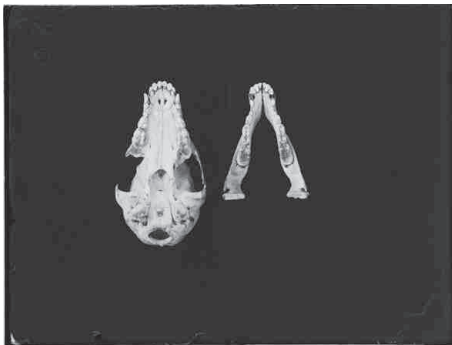


图 19. 「80」 写真番号 <60801>

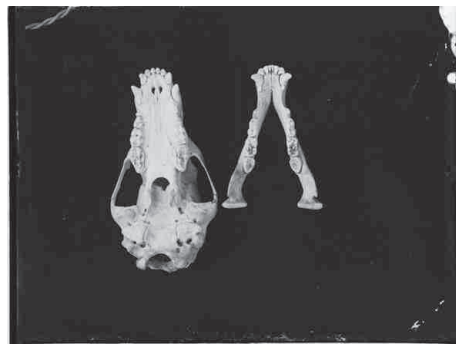


图 20. 「86」 写真番号 <60893>

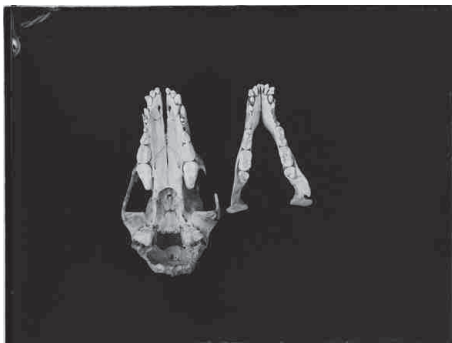


图 21. 「90」 写真番号 <60897>



图 22. 「97」 写真番号 <60794>

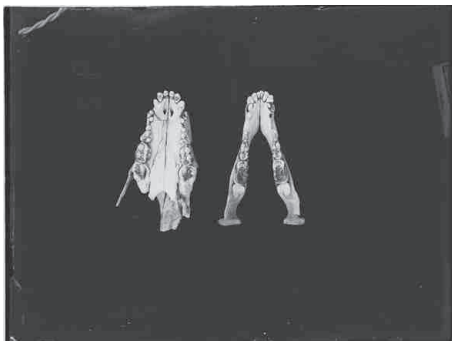


图 23. 「98」 写真番号 <60899>

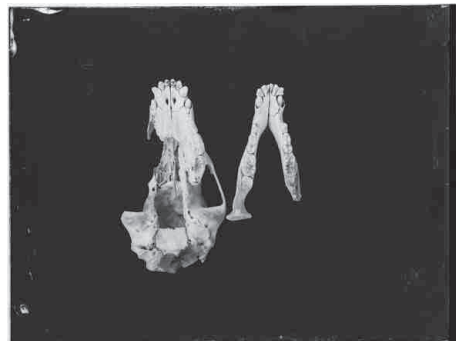


图 24. 「99」 写真番号 <60791>

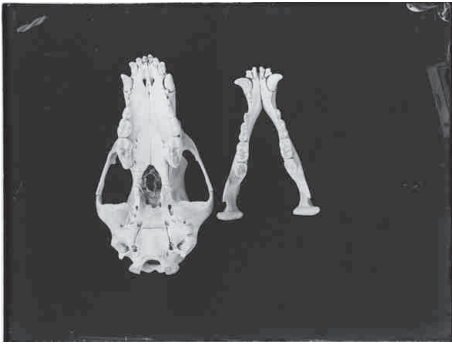


图 25. 「101」 写真番号 <60797>



图 26. 「102」 写真番号 <60793>

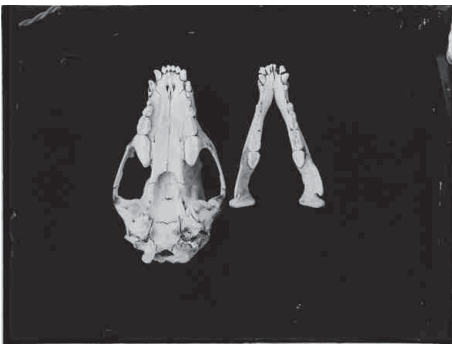


图 27. 「103」 写真番号 <60894>



图 28. 写真番号 <61753>

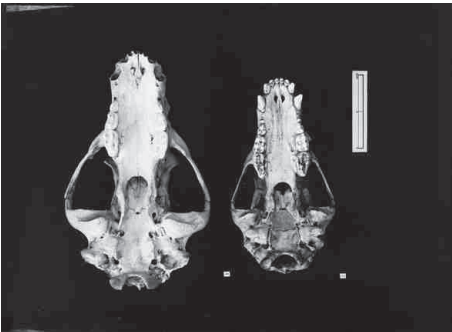


图 29. 写真番号 <61747>



图 30. 写真番号 <61754>



图 31. 写真番号 <61752>

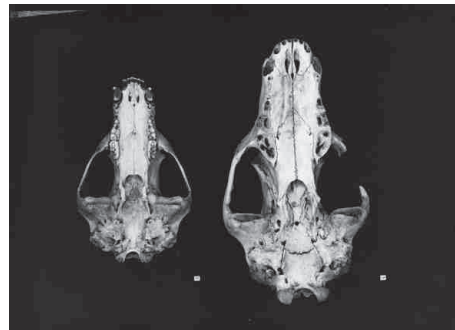


图 32. 写真番号 <61751>

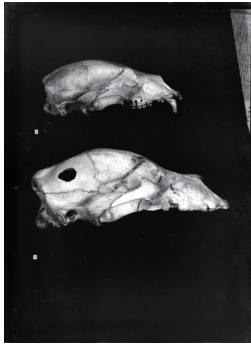


图 33. 写真番号 <61748>

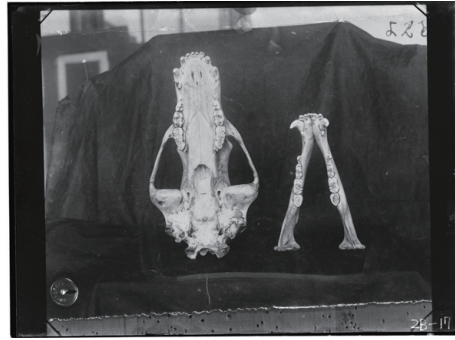


图 34. 写真番号 <61107>



图 35. 写真番号 <61604>

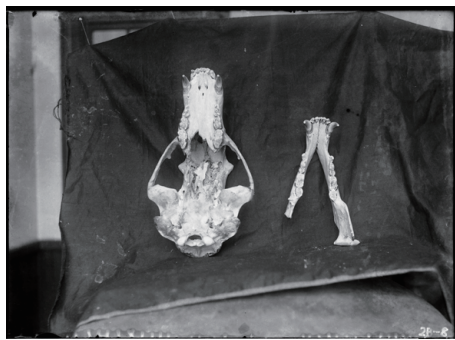


图 36. 写真番号 <61608>



图 37. 写真番号 <50137>

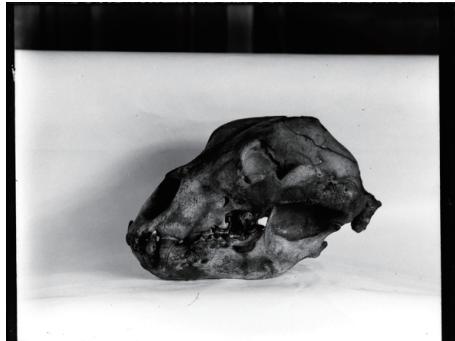


图 38. 写真番号 <50138>

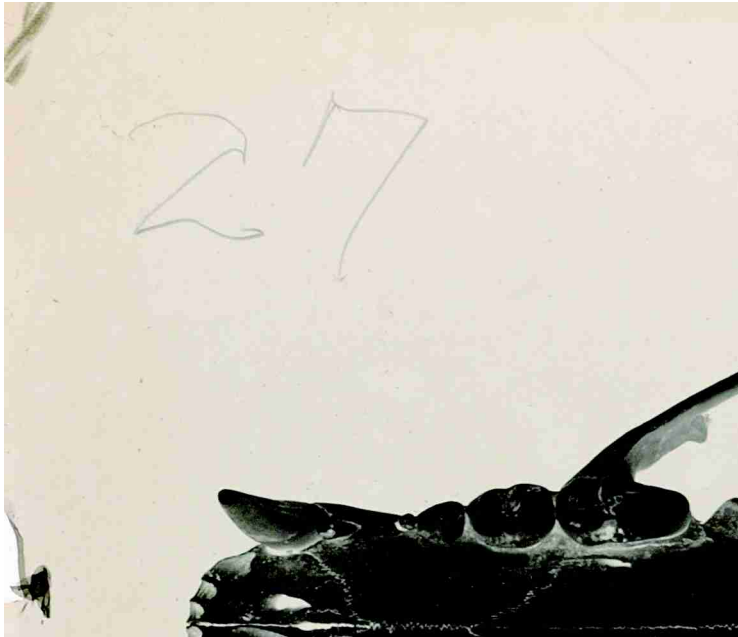


図 39. 図 8 の写真を階調反転させることなく撮影したものの部分拡大：「27」

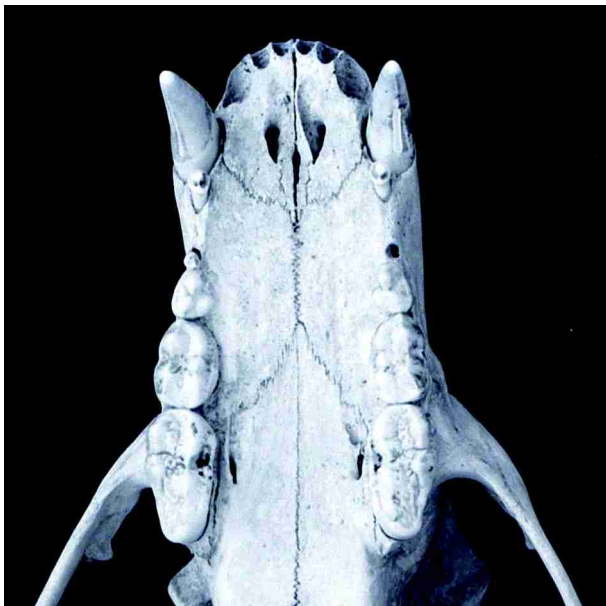


図 40. 図 8 上顎部分拡大



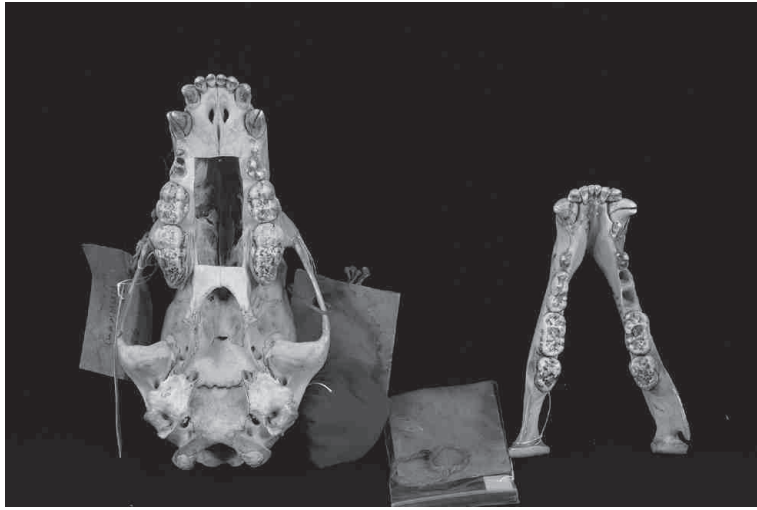


図 41. 【48841】 現状

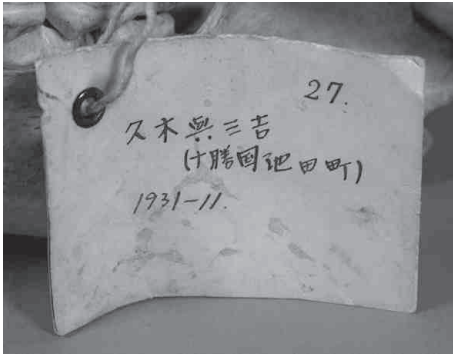


図 42. 【48841】 付属のラベル「27」

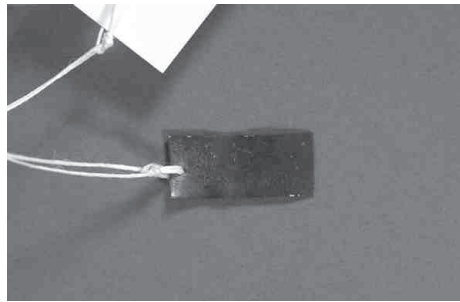


図 43. 【48841】 付属の金属タグ「27」

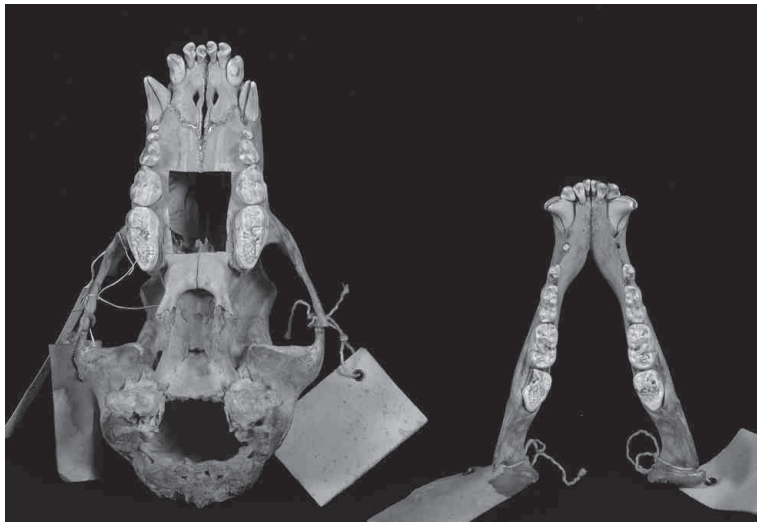


図 44. 【48840】 現状

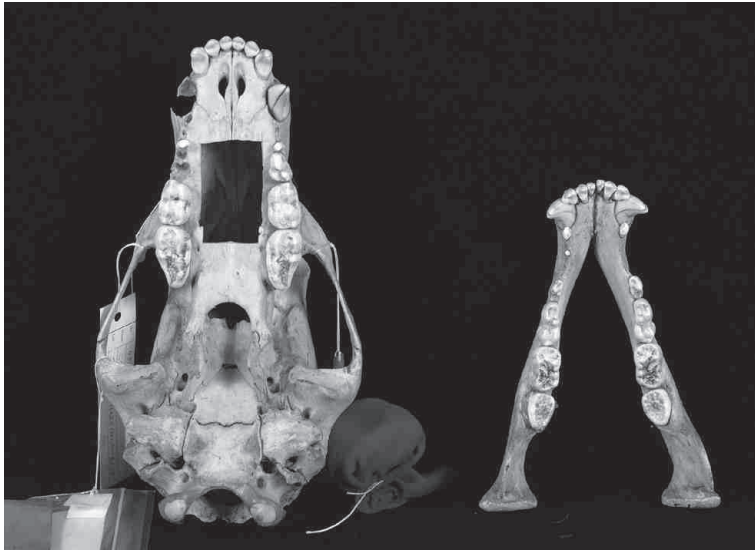


图 45. 【48821】 现状

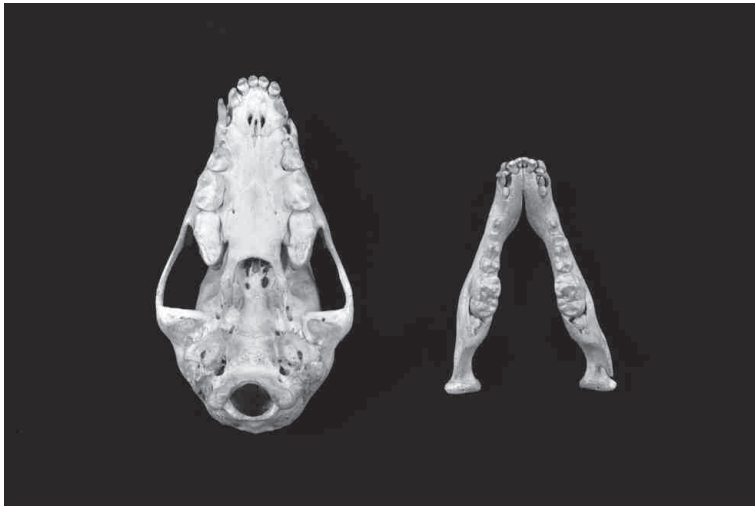


图 46. 【32876】 现状

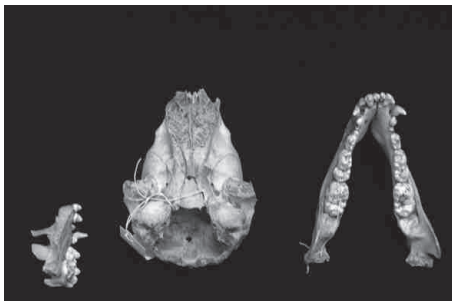


图 47. 【48978】 现状

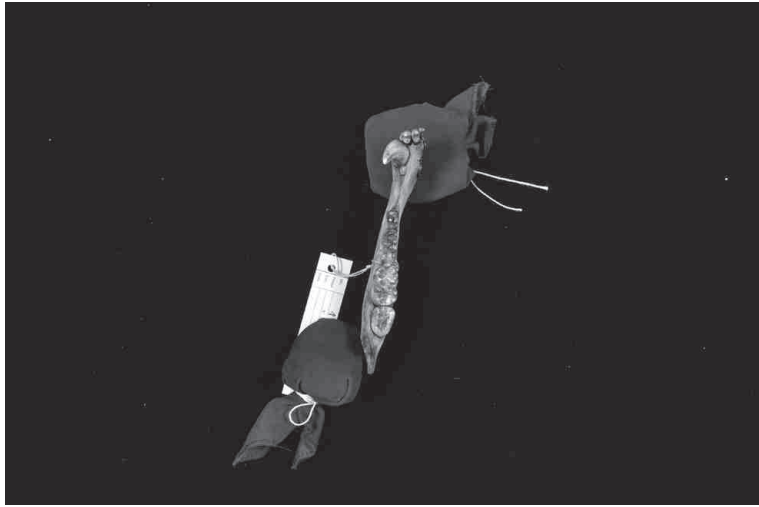


图 48. 【47723】 现状

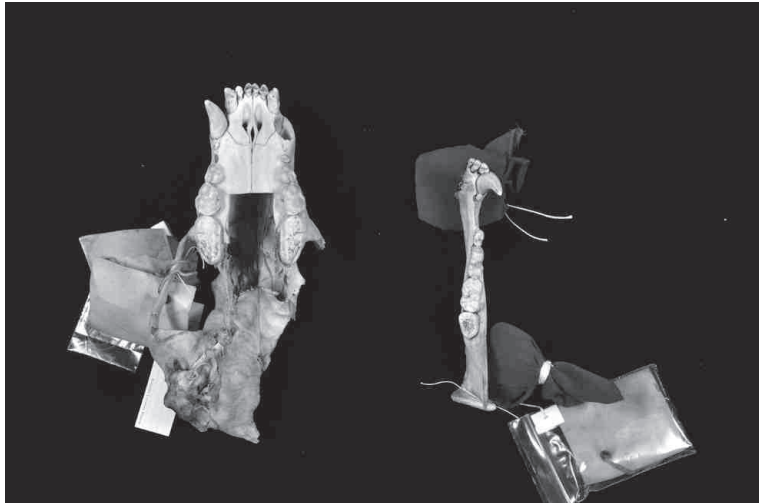


图 49. 【48886】 现状



图 50. 【47738】 现状

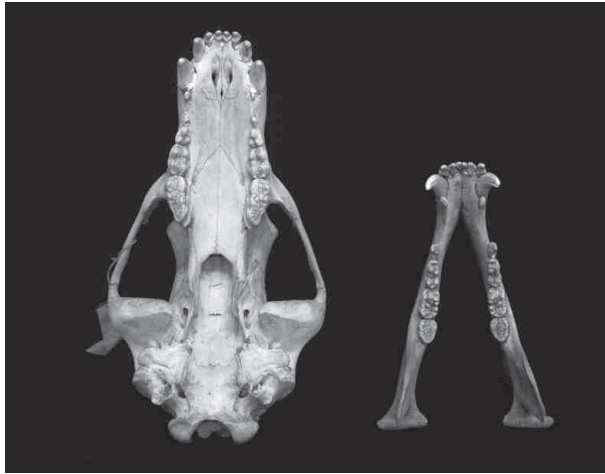


图 51. 【9910】 现状



图 52. 【11422】 现状

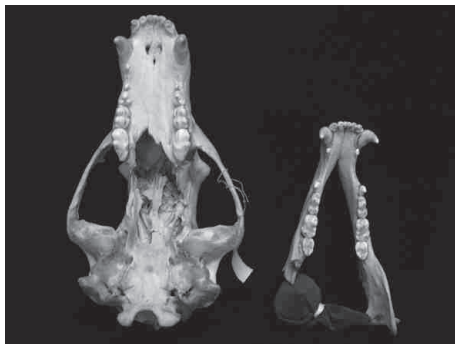


图 53. 【11422】 现状



# 古写真の調査方法に関する覚え書き

## —千歳地域におけるアイヌ関係古写真調査から—

山崎 幸治<sup>1</sup>

### はじめに

博物館等に保管される古写真は、学術研究において重要な情報源であると同時に、地域の文化資源となる可能性を内包している。本プロジェクトで実施した古写真の整理およびデータベース化は、その最初の作業であり、今後もデータベース情報の追記・更新を継続する必要がある。そこでは古写真が撮影された場所において、地域の人々への聞き取り調査もおこなわれるが、その調査方法は十分に確立しているとは言い難いように思われる。よって、本レポートでは、今後も継続される古写真に関する調査をより効果的に実施するために、調査の基礎的な準備作業も含めて筆者が調査のなかで得た調査方法に関する知見を記しておきたい。

### 1. 千歳で撮影されたアイヌ関係古写真の概要

北海道大学植物園・博物館に所蔵されている古写真群には、アイヌ文化に関する写真が多く含まれている。筆者は、白老、釧路、登別、旭川、稚内、千歳、の6地域においてアイヌ関係古写真に関する現地調査を実施した。本レポートでは、上記のなかで千歳地域において実施した調査を事例としてとりあげる。

千歳地域におけるアイヌに関する主な古写真群としては、(1) 1936 (昭和 11) 年のウサクマイでのクマ送り儀礼、(2) 1935 (昭和 10 年) 年の北海道犬を使ったクマ猟 (再現)、(3) 北海道大学植物園内でおこなわれた千歳ウサクマイのヌササン (祭壇) の再現、および、クマの解体、がある。また、(4) 千歳市蘭越の千歳中央孵化場 (現、水産総合研究センター北海道区水産研究所千歳さけます事業所) や、(5) 1932 (昭和 7) 年に撮影した美々の缶詰所の跡地などの古写真群もある<sup>(1)</sup>。

### 2. 現地調査の経緯

上記の古写真群のなかの (1) 1936 (昭和 11) 年のクマ送り儀礼、についての撮影場所を特定するための現地調査を 2010 年と 2011 年におこなった。また、2010 年 11 月 22 日には、地元の人々に古写真を見てもらう機会を得た。これは、筆者が千歳市教育委員会埋蔵文化財センターより依頼された講演の終了後、関心のある参加者に残っていただき実施した<sup>(2)</sup>。そこでは、アイヌ文化に関する情報にとどまらない、多様なコメントをいただき大きな成果があった。現在、いただいたコメントを踏まえ、写真に写る内容について検討を進めている。しかし、筆者は、そこで発せられたコメント全て記録することが残念ながらできなかった。いただいたコメントのなかには再調査・再確認が必要なものも多い。ここでの経験が、本レポートを執筆した動機のひとつとなっている。

### 3. 調査方法に関する知見

以下、千歳地域での調査経験のなかで得た調査方法に関する知見を列記しておきたい。

#### 1) フィルムとプリント

フィルムカメラによって撮影された画像は、フィルムとプリントの両者もしくは、いずれかによって保存される。言うまでもないが、フィルム本体の方が重要である。プリントは経年劣化による色あせ、破れ、湿気によるカビの発生や印画紙どうしが張り付き修復不可能となる場合がある。一方、フィルムは上記のような問題が発生しにくい。また、ガラス乾板などを除けば、フィルムはコマが連なる帯状のスリーブとして保存される場合が多い。これは写真が撮影された時間的な前後関係が特定できる点で、学術的にも大きな意味を持つ。

フィルムは、鑑賞のために引きのばされたプリントより、サイズが小さく、色が反転しており画像が見えにくいいため、調査が後回しにされることがあるが、上記のようなメリットを意識しておく必要がある。

本調査においても、クマ送り儀礼を撮影したフィルムが、スリーブとして残っていたことにより、儀礼の一連の流れを追うことが可能となった。また、故中本ムツ子氏が同じクマ送り儀礼を撮影した古写真をお持ちであったが、プリントのみであり、その半分が欠損していた。しかし、北大植物園・博物館に同アングルの古写真 (フィルム) があったため、欠損部分に写る画像を補完することができた<sup>(3)</sup>。

#### 2) 印刷媒体とフィルム

北大植物園・博物館所蔵の古写真には、論文等の出版物に掲載されているものも多い。しかし、当時の印刷技術による出版物からでは、被写体の細部まで観察することは困難を伴う。また、使用される写真は、多くの場合、複数コマ撮影したなかの一枚

<sup>1</sup>北海道大学アイヌ・先住民研究センター

のみである。しかし、論文に掲載された写真のフィルムが現存している場合、もしくは、プリントのみであっても良好な状態のプリントが現存している場合には、高精細なスキャンとプリントを再度おこなうことが可能となる。また、スリーブで保管されている場合は、一連のコマの流れのなかで当該の写真を捉えることが可能となる。さらに、論文等の出版物には、その被写体に関する説明が付される場合が多いため、それらの情報を古写真へ追加することが可能となる。よって、調査においては撮影者が執筆した論文等を集成し、現存する古写真と論文などの情報を相互に補完することが望まれる。

本調査においても、フィルムや状態の良いプリントが現存していたことにより、それらをスキャンし、パソコンモニタ上で拡大することで、出版物からは判別が困難な写真に小さく写る物質文化や人物の特定作業が可能となった。

### 3) 地域における有識者の協力

古写真調査では、撮影された地域を良く知る有識者の協力が不可欠である。とりわけ、撮影場所を特定する場合には、地域の景観に詳しく、古写真から撮影場所を推定できる人物からの助言なしには困難である。

現地調査の前に、検討すべき古写真を PDF 等に変換し、地域の博物館学芸員などに電子メール等で送付しておくことで、現地調査が円滑に進むことが多い。博物館学芸員の多くは、地域の歴史に詳しい郷土史家や故老ともネットワークを持っており、それらの人物とコンタクトするための協力を仰ぐことが可能となる場合もある。

本調査においても、撮影場所の確認を目的とする現地調査の前に、高橋理氏（千歳市教育委員会埋蔵文化財センター）に古写真を見ていただく機会を得た。また、田村俊之氏（元千歳市教育委員会埋蔵文化財センター）からは、古写真に写る山に付けられた道路から、撮影場所を推定いただいた。そして、これらの情報をもとに、2011年11月に現地調査を実施し、古写真に写るクマ送り儀礼がおこなわれた場所が、千歳市蘭越にある、現在「名水ふれあい公園」となっている場所であることを特定することができた。また、高橋理氏から現在「名水ふれあい公園」となっている場所は、かつて中本ムツ子氏の実家があった場所であるとの情報もいただいた。

### 4) デジタル化による情報共有

本プロジェクトには、北海道内の博物館学芸員が多く参加している。古写真情報は、研究代表の加藤克氏により整理、デジタル化された。デジタル化のメリットの一つは、複製コストを大幅に軽減できることである。本プロジェクトでは、メンバー全員が1万枚を超す古写真を調査のためにデジタル画像として共有し、それによって自らの担当分野以外においても情報交換が可能となった。

本調査においても、1936（昭和11）年のクマ送り儀礼に関する新聞記事の存在を、猪熊樹人氏（根室市歴史と自然の資料館学芸員）よりご教示いただいた。また、昭和10年代において千歳地域におけるアイヌ物質文化は急激な文化変化を経た後であり、儀礼参加者が着用している伝統的な晴れ着は白老から借用したものであるとの情報を、内田祐一氏（帯広百年記念館学芸員）よりご教示いただいた。

### 5) 聞き取り調査における記録

古写真調査に限らないが、聞き取り調査は、原則的にインフォーマント一人に対しておこなわれる。もちろん実際の現場では、その場に同席者がいることも多いが、その発言者が特定困難なほどの人数にはならない。しかし、本調査において筆者が地域の人々に情報を求めたのは、講演会終了後ということもあり数十人を対象とした。そこではプロジェクターを用いて古写真をスクリーンに映すとともに、プリントアウトした古写真を見ていただいた（以下、これを現地上映会と記す）。そこでは多くの貴重なコメントをいただいたが、前述したように、そこでのコメントを完全には記録できなかった。

大人数を対象とする現地上映会では、どのような調査方法が可能であろうか。筆者の経験をもとにすれば、ビデオカメラを使用することが有効と思われる。可能であれば、2台のビデオカメラを準備し、一台のカメラでスクリーンに映し出される古写真（スクリーン画面）を、もう一台のカメラで古写真を見てコメントを発する人を撮影することが理想である。また、光線の色が異なるレーザーポインタを2本用意し、ひとつを調査者、もうひとつをコメントいただく人々に使ってもらっても有効と思われる。これによりポインタで指される古写真の部分や人物を特定できるとともに、その情報提供者（発言者）が誰であり、後日再確認をする必要が出てきた場合にその人物を特定することが容易となるからである。

### 6) 地域への還元

本プロジェクトの目的は、北大植物園・博物館に所蔵される古写真を、過去の研究の再検討や最新の研究に利用できるように研究資源化するとともに、地域に還元し、教育・展示活動といった多様なニーズに応えるように文化資源化することである。アイヌ関係古写真についても、今後のアイヌ文化の発展に寄与するように文化資源化することを目指している。ある意味で、これはデジタル技術を用いた資料返還とも言える。

千歳地域におけるアイヌ文化関係古写真は多くないため、地域からの要望も強く、本調査の場においても可能な限り古写真（デジタルファイル・新プリント）を地域に返還してきた。本調査では、デジタルデータを埋蔵文化財センターの学芸員へ、パソコンでプリントアウトした写真を地域の生活館に置いてもらうという方法をとった。プリントした写真の裏面には、整理ナンバー

と北大植物園・博物館所蔵であることを明記したシールを貼付した。これはパソコンを使用しない人を考慮するとともに、地域から写真（新プリント）が散逸した際に、その所蔵先が不明となることを防ぐためでもあった。劣化なくコピーを無制限に作成できる古写真のデジタル化は多くのメリットがあるが、同時に不適切な使用や拡散、所蔵先情報の欠落といったデメリットも多い。現地調査での還元・返還活動では、この点にも留意しておく必要がある。

## おわりに

本レポートでは、千歳における調査のなかで得た知見について報告した。その多くはアイヌ関係古写真にのみ限定されるものではなく、他の古写真調査にも応用可能なものと考えている。今後の調査研究に少しでも参考になれば幸いである。

本プロジェクトの現地調査は、筆者にとって宝探しゲームのようであった。北大植物園・博物館に何十年も眠っていた古写真のコピーを片手に、地域の人たちと共に、山並みや樹木の枝振りを眺め、当時の様子を思い描き、議論しながら撮影場所を探し歩いた。撮影場所が疑いの余地なく特定出来た時、その場にいた全員で喜び合った。この感情の共鳴を引き起こしたのは、紛れもなく古写真である。筆者は、ここにも古写真の現代的意義を感じるのである。

## 謝辞

千歳市における現地調査では、高橋理氏（千歳市教育委員会埋蔵文化財センター）に全面的な協力をいただいた。また、故中本ムツ子氏からは2010年11月21日に実施した現地上映会のみならず、これまで多くのことを学ばせていただいた。また、加藤克氏（研究代表者；北海道大学）、猪熊樹人氏（根室市歴史と自然の資料館）、内田祐一氏（帯広百年記念館）はじめ、本プロジェクトのメンバーからも多くの教示をいただいた。記して、深く感謝申し上げます。

## 註

(1) 千歳地域で撮影された写真の枚数は、情報が付されていない古写真の中に千歳地域で撮影されたものが含まれている可能性や、撮影ミス等で画像が写っていない写真（コマ）などもあるため正確な数は未確定であるが、フィルムで約130コマ、プリントで約60枚（ネズミ害・ウサギ害を含む）である。また、北大植物園・博物館にクマ猟の名手であった小山田菊次郎氏を招き、ヌササン（祭壇）やクマの解体をおこなった際に撮影された写真もある。これらの古写真群に関連する主な文献としては、[犬飼 1935; 岡田 1938; 島倉 1990; 名取 1941; 北海タイムス 1936 など] がある。

(2) 山崎幸治「アイヌ文化の発展に向けて―博物館資料の活用と現代的意義―」、千歳市教育委員会埋蔵文化財センター主催、平成22年度企画展示『展望 千歳アイヌ文化』関連講演会。2010年11月21日、於：千歳市埋蔵文化財センターレクチャールーム。

(3) 故中本ムツ子氏が所蔵していた古写真は、中本氏によれば当時写真を趣味にしていた人がおり、その人からもらったのではないかとのことであった。その人物は不明であるが、旭川・札幌・千歳のクマ送り儀礼を撮影し、その記録 [岡田 1938] を発表した岡田正夫の可能性もある。なお、これに同シーンが写る北大植物園・博物館所蔵古写真の撮影者には、北大関係者が推測されるが不明となっている。1936年1月12日に行われたクマ送り儀礼は、札幌からバスやハイヤーで3、40名の団体が詰めかけるほどであり [北海タイムス 1936]、北大植物園・博物館所蔵古写真のなかにもカメラマンが写った写真を認めることができる。つまり、このクマ送り儀礼は複数台のカメラにより記録されており、同じシーンの古写真であっても撮影者の特定には必ずしも結びつかない。

## 文献

犬飼哲夫 1935 「アイヌの行ふ熊の解剖」『民族学研究』1 (3) : 482-491.

岡田正夫 1938 「イオマンデ アイヌの熊祭」『月刊小型カメラ』9 (1) : 36-39.

島倉亨次郎 1990 「狩りの場で行われる熊送り」『犬飼哲夫先生を偲んで』登別：加森勝雄、15-18.

名取武光 1941 「沙流アイヌの熊送りに於ける神々の由来とヌサ」『北方文化研究報告』4: 35-112.

北海タイムス 1936 「古典床しき／アイヌの熊祭り／千歳村ウサクマイコタンで」、1936年1月14日.





## 植物園所蔵写真資料が持つ可能性

北原 次郎太<sup>1</sup>

北大植物園博物館に収蔵される膨大な写真資料は、アイヌ民族に関わるものだけでも多岐にわたる内容を持っている。したがってこれらの活用の方途もいくらかでも広がりを持ちうるが、ここでは博物館資料を通じた文化復興、特に宗教儀礼との関連から一つの可能性を述べてみたい。

近年のアイヌ文化復興は、工芸や食文化、歌謡・舞踊などの芸能、物語文学を含むアイヌ語などの分野で進められている。このうち工芸は更に2つに大別して、主として女性が担ってきた縫い、編み、織りの技術と、男性が担ってきた木工技術とがある。工芸品製作にあたってはしばしば古い時代に作られた作品を参照することが行われる。特に木工技術においては、古きに学ぶことが重要だ。女性が担う技術が世代間に伝承されてきたのに対し、男性の技術は製作そのものが途絶えていた物が多いこと、機械化により手作業の技術がすたれてきたこともあり、古い時代の物づくりがどのようになされていたのかわからないことも少なくない。そこで、物に残された痕跡から多くのことを学ばなければならない。その際に博物館が利用され、入念な資料調査を経て復原が行われるケースも増えて来た。

2009年に行われた北大アイヌ先住民研究センターおよび北大総合博物館による企画展示「テエタシンリッ テクルコチ 先人の手あと 北大所蔵のアイヌ資料—うけつぐ技—」展も、こうした試みの一つであった。現代の工芸家と文化復興に参画する人々総勢13名が集い、植物園へ足を運んでの資料調査・複製を実施した。筆者もこの展示の企画に参加し、ヌサ「祭壇」を複製した。この展示では鶴居村在住の八重清敏氏とともに祭壇の複製にあたり、八重氏が美幌地方の、私が余市地方のクマ送りのヌサを複製した。ヌサはイナウ「木幣」を複数立て並べて構成され、イナウの配列はそこに祀られる神の序列といった、作り手の宗教的観念をも反映している。ところが、ヌサは保管に大きなスペースを要することから、解体して管理されていることが多い。一つのヌサに同形のイナウが複数含まれることも多いので、解体してしまうと配列を再現するのは大変困難である。元は一つのヌサだったものが、別々な資料番号を付されて、まったく別の場所に収蔵されているケースでさえ決して珍しくない。このように、ヌサは完成してから時を経るほど、多くの情報が失われていくが、ここで重要な役割を果たしたのが、原資料の収集者が残した写真であった。たとえ1枚の写真でも、そこには完成時の形状、配列や向きといった圧倒的に多くの情報を引き出すことが可能となる。これにより、用途不明のイナウでしかなかった資料をヌサの一部として再構成することが可能となり、イナウに込められた作り手の意図を考えることができる。

植物園に収蔵されている宗教儀礼に関する資料としてはほかに、イクパスイ「捧酒籠」とチロシ「花矢」がある。これらについては製作地や製作者といったバックデータが比較的に残されていることが多いのに対し、イナウの場合には一切が不明であることが少なくない。そして、他に類例のないような珍しい資料が多いだけに、いったいどこの地域のどんな場で使われるイナウなのか想像することも困難である。

例えば、No. 10853～10854はそのような例の一つである（第1・2図）。筆者が知る限り、このような形のイナウは他に残されていない。本体には、ただ「カバ」という注記がある。これだけを見れば「本来は樺の木を使用した」という意味、あるいは収集地が「樺太（カバフトと読むことがある。一般にはカラフト）」であるという意味にも解釈できる。

ここで、新十津川での樹皮舟製作を撮影したN 50090の写真（第3図）を見ると、完成した舟のへさきにNo. 10853～10854のいずれかと見られるイナウが立てかけられている。これによって、同資料が空知地方の様式を伝えるイナウであり「カバ」とは、樹皮舟の製作者樺勘太郎氏を意味する記載であったことがわかる。

第4図は、写真N50122である。クマの頭骨を叉木にのせ、叉木の先端に1本ずつイナウを結びつけた物で、クマ送りの終盤に頭骨を祀った物であることがわかる。現存する資料との照合により、No. 10186の樺太南部大泊出身者が製作したヌサを写したものであることが分る（第5図）。同資料の現状と異なるのは、頭骨の横にイナウを編んで作った耳飾りが下げられていることと、頭骨の上面を覆うように別のイナウが載せられていることである。10186のヌサを配列してみると、1点だけ配列が不明なイナウが混ざっているが、写真を確認したことによってこれが本来は頭骨に被せてあったものであることが判明した。北海道の東部から北部にかけては、頭骨を祀る際に鼻腔にイナウを挿しこんで飾り付ける習慣があり、樺太にも同様の例が若干ある。写真N50122によって、大泊にも同様にイナウを鼻腔に挿す習慣があり、更に削りかけ部分で頭骨の上面を包んでいたことを明らかにする事ができたのである。植物園の収蔵資料を改めて精査することで、現在は失われている耳飾りも確認できるだろうと考えられる。

上記の例と同様に、ヌサの完成時に撮影された写真からは多くのことが読み取れると期待されるが、これに加えてヌサの完成までの過程を撮影した写真が存在することは重要である。こうした写真を時系列順に配置して検討することで、儀礼の式次第をも復元することができる。旭川のクマ送りを写した一連の写真は、犬飼哲夫が1935年に制作した記録映像と同時に撮影されたものと見られるが、映像では屋内の様子があまり鮮明ではなかった。囲炉裏の火神に捧げるイナウは地域による差異があるが、写

<sup>1</sup>北海道大学アイヌ・先住民研究センター

真 N07905 (第6図) には、囲炉裏の中に立てたイナウが写っている。この写真によって屋内部分の情報が補完されることで、このクマ送りの全貌にまた一つ近づくことが可能となったのである。

このように、写真と映像によって儀礼の進行やヌサの構成を知り、実物資料の観察から得た知見と統合することで、儀礼をより高い精度で再現することが可能になる。宗教儀礼の復興は各地で取り組まれているが、植物園所蔵のアイヌ関連写真はこの活動における非常に有益な資料となる可能性を持つことを本稿で述べてきた。今後の整理・研究によって更に多くの情報が写真に付加されていくと思われるが、この資料の存在と価値が多くの人々に知られ、活用されることを願ってやまない。

#### 参考文献

北原次郎太 2009 「クマ送りの祭壇を複製して」『teetasinrit tekrukoci 先人の手あと 北大所蔵アイヌ資料—受けつぐ技—』北大アイヌ先住民研究センター / 北大総合博物館

佐々木史郎・古原敏弘・小谷凱宣 (編) 2008 『北海道内の主要アイヌ資料の再検討』大阪：国立民族博物館 (日本学術振興会科学研究費補助金報告書)

名取武光 1987 (1940) 「沙流アイヌの熊送りにおける神々の由来とヌサ」『北方文化研究報告』第2冊、思文閣出版

沖野慎二 1999 「北海道大学農学部博物館のアイヌ民族資料 (上)」『北海道立アイヌ民族文化研究センター研究紀要』5: 1-19

沖野慎二 2000 「北海道大学農学部博物館のアイヌ民族資料 (中)」『北海道立アイヌ民族文化研究センター研究紀要』6: 1-17

沖野慎二 2001 「北海道大学農学部博物館のアイヌ民族資料 (下)」『北海道立アイヌ民族文化研究センター研究紀要』7: 1-19

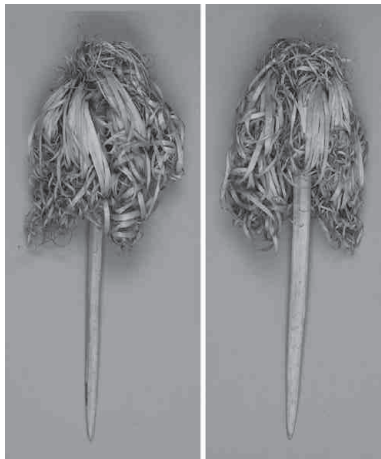


図1. イナウ (10853)

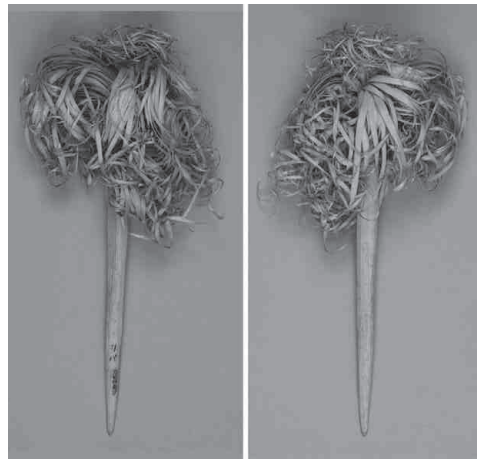


図2. イナウ (10854)



図3. N50090 と部分拡大





図 4. N50122



図 5. ヌサ (10186) の一部



図 6. N07905 囲炉裏のイナウ



# 博物館所蔵の考古資料関係写真について

大沼 忠春<sup>1</sup>

## 1 はじめに

考古資料関係写真には、この博物館の草創期からの各種資料の記録が含まれていて、今回はその幾分かの概要を知りえた状況であるが、今後の精査によって、さまざまな情報が得られることと思われる。主要なものは付図に示されているが、遺跡については伊藤一隆氏の手になる1880年調査の小樽市手宮洞窟壁面彫刻図の写真(図版119)から、昭和初期の犬飼・名取両氏らによる江別市町村農場等の遺跡調査(図版121-125)、北海道北端の利尻・礼文両島の遺跡調査(図版126-128)、さらに南千島の調査にいたる博物館による調査事業関係写真(図版129-133)、さらに網走市モヨロ遺跡(図版134-136)や枝幸町(図版137,138)、恵庭市(図版139-141)などの遺跡の調査写真が残されている。これらの発掘調査関係写真のほか、赤井川村、泊村、札幌市(植物園内)、釧路市、豊頃町、ニセコ町の遺跡の写真(図版142-149)がある。戦後の昭和30年代から40年代にかけての主に犬飼氏による道内文化財調査に伴う斜里町、浜頓別町、羅臼町、白老町、苫小牧市などの遺跡写真(図版150-160)も存在する。

遺物の写真については、バッチェラー氏の使用した幻燈機用スライドとみなされるものがあり、その内には著書に使用の写真と共通するもの(Batchelor 1892, 296頁)もある(図版161)。明治初期にバッチェラー氏の親しい友人であった伊藤一隆が、モースにならい遺跡の発掘をして知りえた小人・コロボックルのことをバッチェラーに伝え、それがミルン氏や渡瀬氏を通じて後の東大教授坪井正五郎のコロボックル論として世間に広がったという、この博物館発かもしれない学説の誕生秘話(?)を連想させるものがある。

1910年の『札幌博物館案内』に展示の解説がなされたが、その当時の北千島のものなど展示資料の状況を示す写真(図版163)がある。資料の出土の表示に既に混乱を生じている時期であり、精査により解説の番号に対応する所蔵遺物を調べ照合することが出来そうである。

なお、個々の遺物写真は主に戦前期に撮影されたものであるが、旧石器時代の石器(当時は新石器時代のものとみなされていた)から、縄文時代早期、前期、中期、後期、晩期、続縄文時代前期、後期、擦文・オホーツク時代、中世アイヌ時代からそれ以降とみなされる各時代のものがあり、地域は主に道央・道東・道北・樺太・千島で、館収蔵資料の傾向と一致している。道南のものは主として函館の博物館に収蔵されていたらしく、写真も少ない。

ここでは、なお今後の調査を要する部分が多いのであるが、千島の調査資料の意義について考えてみたい。

## 2 南千島の調査関係写真などについて

遺跡関係の写真は、1931年の博物館派遣武笠氏がエトロフ島などで調査した写真(図版129)がある(武笠1934)。ピール氏、エッター氏らの調査に同行したもので、それ以前にグブラー氏がエトロフ島でスエーデンから1929・1930年に調査に来ていたベルグマン氏に会い、石器などの遺物を採集し、博物館に寄贈したことがあり、1931年に博物館を会場として開催された「北海道先史時代遺物展覧会」に出品された(博物館・犀川会1932)。このような展覧会が、当時の政府の時勢に対応した郷土教育運動の施策に沿う事業として、1933年の今井百貨店を会場とする「北海道原始時代展覧会」へと展開する。

名取氏が南千島に調査のため札幌を発ったのは、この1933年の展覧会の最終日であった。名取氏の千島調査の全般についてこれまで公表された記録には2種(名取1939a・1974)あり、それとの細かい照合が必要であるが、今大まかな対比を試みた段階では、概略縄文時代から中世頃までの遺跡・遺物の写真が認められる。

遺跡には、石囲いのある竪穴住居の跡、墓地、貝塚などが記録されている。遺物には縄文晩期、続縄文前期・後期、擦文(オホーツク)時代の前期から中期、さらに後期の融合型式からその後の中世アイヌ文化時代に相当する内耳土鍋にいたる時期の写真があり、これまで各種の論文などに使用されたものも含まれている。

## 3 千島を含む北太平洋沿岸の古代文化

これらの資料の意義を考える上で、北太平洋沿岸の古代文化調査の進展と文化変遷の概略を述べておきたい。近年においても日本側やロシアその他諸外国の調査がなされているけれども、まとまった報告書はあまり多くはなさそうである。

この地域の考古資料が最初に紹介されたのは、1800年に村上島之丞により『蝦夷島奇観』に図示されたものであろうと思われるが(佐々木1883)、これは、ヨーロッパ(デンマーク)で1836年にトムセンが『北歐古代学入門』(Thomsen1836)を出版して石器、青銅器、鉄器の三時期に区分し先基督教時代の説明を行う以前、いわば先史考古学による人類史研究の発足以前であった。この後まもなく、シーボルトの『日本』で、北海道のものらしい石器などがトムセンの区分による石器時代の遺物として紹介され、またカムチャツカの石器とオホーツク市の海岸で採集された元禄時代の鏡が1844年にエルマンによって報告されている(Erman1844)。さらに1860年代までにニルソンがロシア人から得た千島の釣り針を紹介している(Nilsson1866)。

1878年に開拓使から、現在の小樽市手宮砂丘遺跡の発掘遺物について、農学校生徒伊藤一隆の「二千年以上ヲ過タル(ヲ)知

<sup>1</sup>元北海道教育庁主幹



リ且信ズ」という発掘現場でのモース直伝と思われる見解を博物館へ報告すると、ほぼ同時に博物館からはパリ万国博へ出品し、「獨北海道ニ於テハ今尚石斧石鏃ヲ用キル」と印刷した『工藝志料』（黒川 1878 石工 3 頁）が渡された。坪井正五郎氏は 1888 年に北海道へ来て人類学的調査をした結果、北海道本島では石斧や石鏃は使用していないと報告した（坪井 1888）。その後 1899 年に鳥居竜蔵氏（1903、1919）、1900 年には河野常吉氏が北千島の調査をする（高岡 1901）。1910 年にはヨヘルソンがカムチャツカの調査を行い（Jochelson 1928）、その後ベルグマンのカムチャツカと南千島の調査となる（Schnell 1932）。1932 年には中山氏がカムチャツカで発掘調査を実施し、名取氏が南千島を調査した 1933 年には、北千島では馬場氏が調査を開始し、カムチャツカでは中山氏が再度調査を行っている。アメリカ側からのエスキモー関係等の調査で、擦文土器に似たものがユーコン川流域に出土し、北海道からカムチャツカまで含めた広範囲の資料を比較検討したラグナの調査報告は戦後に出版されている（Laguna 1947）。

1977 年にはディコフがそれまでのカムチャツカ地方の調査を総括している。また 1983 年にはディーコフの報告も出版されている。近年の調査については杉浦重信氏（1998）、菊池俊彦氏（2004）、高瀬克範氏（2010）らのまとめたものもある。カムチャツカではいまなお石器を使用しているという報告もある（高瀬 2004）。

これ等の調査を通じて、この地方には石囲いの炉を持つ竪穴住居が旧石器時代から、ゴロウニンの報告では 1800 年代（19 世紀）まで営まれていたようであり（ゴロウニン 1994）、古い土器には縄文のあるものも認められ（この種の縄文土器は通常の日本の弥生時代以前の縄文土器とは区別して北洋縄文土器と称しておきたい）、新しい時期にはオホーツク式や擦文土器、内耳の土鍋などが使用されている。名取氏の採集したエトロフ島の土鍋（所蔵品番号 33519）には、環状の耳自体は遺っていないが、耳の痕跡が一箇所にあり、それに対するところは欠けているのだが、二耳であることは判明する。名取氏による復元はほぼ正しいものとみなされる。写真は名取氏（1939b 38 頁）、馬場氏（1940 29 頁）によって使用されている（写真 1）。口縁部がくびれて立ち上がるもので、その前の時代の擦文土器の形態をとどめているように思われ、この土鍋製作者がこの地方で土器の製作をしていた人々の技術を継承していることが知られる。馬場氏はカムチャツカから千島にかけて内耳土器の時代のあることを認めていた。この時代の人々とアイヌの人々とはどのような関係にあったか、日露関係の初期の記録の検討から新たな見解も提起されている。これまでの北海道側での歴史研究の成果とあわせて再検討しておきたい。



写真1 土鍋（ネガ 60185）  
エトロフ島留別採集

#### 4 日露関係初期の記録と千島・カムチャツカの住民

1942 年刊行の小場有米氏訳『カムチャツカ発見とベーリング探検』（龍吟社）79 頁に「アトラソフの説明によれば、カムチャダールは木製の器具や粘土の壺は自らこれを製作し」と記されているが、訳本の原本はベルグの 1935 年改訂版で、この「粘土の壺」のところは「土鍋」と解しうる言葉（горшки）（84 頁）であった。また訳本にはない挿図 23 が付されていて、ヨヘルソンの発掘報告した、ナラチェヴァ岬 2 号住居跡出土の径 45 センチ程（1 foot 6.25 inches）の内耳土鍋の写真が添えられていた（このナラチェヴァ岬は原本の挿図に岬ではなく湖畔と記されているが、ヨヘルソンが報告で図版説明を誤ったのをそのまま記載したことによる）。日本語訳が「壺」となっていて、挿図の写真が省かれている理由は、訳と図とが合わないと思われたためか明らかではないが、ここではこの「土鍋」について検討する。

日本側でこの種の土鍋を研究したのは馬場脩氏で、1940 年に「内耳土鍋」に就てを発表されている。この論文の 47 頁にナラチェヴァ岬出土の土鍋の写真が掲載されている。カムチャツカの資料についてはヨヘルソンの報告を訳しているが、北千島の資料と比較して「北千島に於いてはノッカキと言う草を細くして入れたのに反して、カムチャツカに於いては黒貂の尾の毛を入れた」ということを記載している。その出典について、ヨヘルソンの「コザックの atlasov がカムチャツカ土人の黒貂の貢を政府に差し出した時、尾のない多数の毛皮を送付したのでカムチャツカ土人は黒貂の尾は襟巻に、毛は土器の土をこね合わせるに使う」と言った記事を挙げている。

アトラソフはどのように報告していたのであろうか。カムチャツカを最初に征服してその状況をロシア政府に報告したアトラソフの報告は 2 種あり、これらについて村山七郎氏（1965）が研究していて、1891 年にオグロプリンが「アトラソフのカムチャツカ発見に関する二つの『物語』」（『モスクワ大学附属ロシア歴史・古代協会の雑誌』第 3 号）として発表していた。第 1 報告は 1700 年 6 月 3 日にヤクーツクで報告されたものでその 10 頁、第 2 報告は 1701 年 2 月 10 日モスクワで報告されその 14 頁に「土器」即ち「土鍋」（горшки）をつくるのが記されていた。ベルグは 1924 年の初版を 1928 年のヨヘルソンの報告などで改訂して 1935 年に改訂版を刊行したものとみなされ、そこに土鍋の写真を挿入したのは相応しいことであった。

日本の考古学史で、石鏃が人間によって製作された例としてここに示す文書を取り上げることはあったのだが（中谷 1935・斎藤 1974）、これまで深く考えられてこなかったこの頃の漂流記を木内石亭が「鏃石傳記」（寛政 6 年）に集録していた。

「元禄年中日本船漂流シテ、遥東ノ国ニ漂着ス。何タル国ト云フ事ヲ知ラズ。詞モ文字モ通ゼザレハ方角モ知レズ三年此国ニ逗留ス。折々ハ役所トオボシキ所ヘツレ行キ、穿鑿スル様子アリテ勞リケレ、或時他国ノ船商（後ニ知カラフト）来リ、日本人ノ持居タル「キセル」ヲ見テ方角ヲ悟タル体アリテ、是ヨリ役所ヘ件ノ異国人ト一緒ニ出、吟味度々アリテ後、彼異国人ヘ渡サル。夫ヨリ異国人ノ船ニノリ此所ヲ出帆ス。船中ニ居ルコト十日斗リニテ「カラフト」ト云国ヘ着。ココニ百日余逗留後蝦夷ヘ送り出サレ程ナク松前ヘ送ラレ出ト。」と記し、この後に「其者トモ公儀ヘサシ上タル口書ノ内ニカノ国ノ夷トモ昼ハ山中ニ伴ヒ狩ヲシテ饗応ス。弓至テ名人也。弓ノ長サ六尺斗リ矢ノ根ハ石ナリ。夜ハ打寄石ヲ欠テ鏃ヲ拵ルトアリ。然レハ今蝦夷ヨリ遥東ナル国ニモ石鏃ヲ用フルトミエタリ。」（『石之長者木内石亭全集巻二』86頁）と記す。石亭はこの後段を記す序に前段を付けたものと思われるが、ここにこの漂流者の特徴を示すいくつかの要点が記されている。年代が元禄年中（1688～1704）であること。漂着地が蝦夷の東で、カラフトから船で十日を要する東方の土地であって、カムチャツカらしいこと。文字が通じないこと。三年逗留したこと。石亭の知りうる漂流帰還者は大阪あたりの者ともみなされること。

これらの諸点を考え合わせると、ロシア側にこの帰還者に対応する記録のあることが知られる。アトラソフが1696年に、カムチャツカへ派遣した部下のモロズコが文字の書かれた紙を持ち帰った。1698年にデンベイ（伝兵衛）という漂着者の存在することを知り保護し、1699年にアナドイルへ連れ帰ったものらしい。伝兵衛は1701年にはモスクワに行き、1702年1月の伝兵衛本人による陳述書がこのように記されている（村山1965）。

アトラソフの報告などと合わせると次のようになる。伝兵衛は1695年の冬に大阪（大坂）から15名で江戸へむかって出航したが、乗り組んだ船は28週間漂流し、カムチャツカ南部のオバラ川河口に13名の生存者ととともに漂着した。現地人（クリル人）が来たので、筆談をしようと、紙に文字を書いて渡したが、その人はそれをふところに入れて立ち去った。その後クリル人が多数で押しかけ矢を射かけ石斧や骨斧で船を壊しはじめたので、積荷を与えてそこで暮らすことになったが、2人死亡した。1月ほど後に他の10名と別れ、伝兵衛はカムチャツカ川流域に連れ出され、そこで2年ほど過ごしたとき、アトラソフが来た。その頃クリル人のところに船が来て仲間の10名を連行したとカムチャダール人から聞いた。漂着して3年になっていたのであろう。アトラソフとは2年ほど暮らした。

木内の得た記録は日本に帰還した伝兵衛の仲間のものであって、カムチャツカのクリルの所へ来た船商はカラフトのクイなどと呼ばれる人々で、カムチャツカのクリル人とは話が通じる間柄であったようだ。また、漂着した日本人の持っているキセルを見て、日本人であることを知り連れ出したもののように、当時のカラフト国の船商人の活動範囲が広範囲に及んでいたことが出来る。

またカムチャツカについて知られることは、土器・石器を使用し竪穴住居に住み、狩などで生活している当時のカムチャツカに居住する人々の姿である。

## 5 カムチャツカ南部の住民はアイヌであったろうか

ベルグ氏の1935年の書で、1700年ころカムチャツカで土鍋（горшки）が製作使用されていたことを知ることができ、また馬場脩氏はカムチャツカ、千島、樺太の内耳土鍋を研究して、北千島の土鍋の使用者たちを「内耳土器人」と仮称し、結論として、「北海道から南千島を北上してきたアイヌ人であって、所謂北千島アイヌで、今日の色丹アイヌの祖先である」と述べている（馬場1939）。村山七郎氏は、ロシアの学者は長い間カムチャツカ南部にアイヌが居住していたことを否定していたが、1960年にドルギフ氏が『17世紀のシベリヤ民族の部族・種族構成』において、カムチャツカ南部のロパトカ地域などに、クリルの住んでいたことを、アイヌがいたことと解していると例示し、カムチャツカ地方南部の地名を検討してアイヌ語と認められることから、アイヌがロシア人到来以前にカムチャツカ南部に住んでいたことを証明するものと論じている（1971「日露接触初期の文献学的研究の序説」）。またディーコワもアイヌの遺跡を確認しているという（村山1987）。

クリルという言葉の出典を調査した村山氏はアトラソフの1700年と1701年の二つの報告に最初の記載が認められ、「それはカムチャツカ南西部にいた部族をさしたのである」という（村山1987 27頁）。ベルグは「クリーリの言語即ちアイヌ語におけるクル（Kur）或はクールー（Kuru）は人間を意味し、クリーリスキー諸島はその名称をクリーリ民族から取り入れているという。また「1720年の或日本人著者は、アイヌ（即ちクリーリ）は千島をクルミシ（Kuru-misi）即ち人間の土地と呼んでいる」（訳本157頁）と新井白石の蝦夷志の内容を、1814年のフランス語訳（Titsingh 192頁）で紹介している。おそらくシュレンクの記載 Menschen-Land を引き写したものである（Schrenck 128頁）。ゴロウニンは、「日本人はカムチャダールのことを、彼らの自称するのと同じくクルムシと呼ぶ」（ゴロウニン1943中109頁）と松前でクルムセというのを聞いて（セとシの聞き分けが出来ないことから聞いたとおりに）表記している。ゴロウニンはこの日本人の人が300年以前にカムチャツカへ行っていたというのは本当だろうと思った。1720年の書には「クルミセ」と書かれていたが、それを読む日本人の発音を「クルミシ」と聞き取って訳していたのであろう。日本では「クルミセ」「クルムセ」、ロシア側（外国）では「クルミシ」「クルムシ」としてこの民族の名が伝えられていた。ロシア側では1700年前後にカムチャツカから千島列島にかけての住民をクリルと呼んだのであるが、そのもの名として松前家では17世紀中ごろの地図に「クルミセ」と記していた（「正保日本総図」）。このクルミセはまたアイヌ以前に住んでいた人としてアイヌの人々に伝承され、またくぼみのある竪穴住居の跡が存在することなどから理解もされていたらしい（上原1804）。

日本側では、1643年に、アイヌモシリを蝦夷島と表記し、これを松前とは分離して日本国の属領とする方針が打ち出された

みなされる（大沼 2011）。これに先立って松前の地は 1630 年代に奥州松前として日本国の本國に編入されていたことが、オランダ商館長カロンの引継ぎ文書中で、エゾが島であるかそうでないかをめぐり認識に混乱を生じている事から推測される（カロン 1948）。このようにして、それまで中世から松前を含めて夷島（えぞがしま）と称していたのが、松前を含まない蝦夷島（蝦夷地）という近世的なアイヌモシリを示す名称表記への転換が進行したと思われる。

村山氏のように、カムチャツカ南部にアイヌが居住していたという説は古くから存在するのであるが、夷一島に限っていた松前領のアイヌモシリをクルミセの国やカラフトの国に拡大するのは松前家にとって容易なことではなかったようで、17 世紀中はさほど進まなかったかのようである（注）。千島北端の住民がアイヌを称した最古の記録は、村山氏の調査で、1738 年にクラシェニンニコフがシュムシュ島とパラムシル島の住民からの聴き取りをした調査記録であり、1755 年の『カムチャツカ誌』に掲載された（村山 1971）。それ以前には 1710 年の漂着者、紀の国のサニマがクリルをエゾジン、カムチャツカもエゾというと伝えた外に、くるみせを示すクリルというような名称しか知られていなかったのではなからうか。クリル人（クルミセ）の範囲はカムチャツカ南部に及んでいたけれども、そのうちアイヌを称したのは北千島の島民までであって、カムチャツカ本土の住民には及ばなかったことが知られるのではなからうか。クルミセの人々をめぐって日本側とロシア側からの働きかけがなされ、一旦は、択捉とウルップとの間に境界を設けた。

このように見てくると、村山氏らの考えとは異なり、カムチャツカ南部はアイヌの居住地ではなく、クルミセの人々の居住地であって、ロシア側ではカムチャダール人として処遇していたことになるのである。北千島のアイヌ人はロシア側ではクリル人として処遇されていたが、後に日本に帰属することとなった。

## 6 おわりに

南千島の考古資料関係を含む博物館写真には、この地方の遺跡・遺物の特色が認められ、多様な資料を含んでいて、この紹介を機に、今後とも参照研究されることが望まれる。

これまで明らかになっている千島・カムチャツカ方面の北太平洋沿岸地域の古代文化は、旧石器時代の後、一種の縄文土器（北洋縄文土器）などを含む文化がある。（函館博物館所蔵のポロモシリ島墨山遺跡の続縄文土器は下田ノ沢Ⅱ式であった。）その後北海道で擦文・オホーツク文化という縄文のない土器を使用する文化とも共通するものとなり、さらに内耳土鍋を特徴とする文化へと変遷していることが知られる。旧石器時代以来の石器使用と竪穴住居の構築は各時代を通じて行われ、かなり後までも続くようである。

18・19 世紀に、日本側とロシア側からの政治的、文化的影響等によって、この地域の人々は、一方ではアイヌ人・日本人、他方ではカムチャダール人・ロシア人へと分離していくとともに、両国人やアリュート人などを含む多様な人々の交錯する近代社会へと転換をとげていった。

これらの写真資料を今後種々の角度から、また多方面の資料と関係付けて調査することにより、このような北方社会の変遷する実像の一端が把握されることもあるのではなからうか。

## 注

松前氏所管の「蝦夷」の名称が幕府から松前氏宛に示されるのは、寛文四年（1664 年）の將軍家綱の朱印状である。この頃にはくるみせの国は異国の扱であった。寛文元年（1661 年）にエトロフに漂着し、クナシリを経て、ノッサブに着いたことを記す「勢州船北海漂着記」の文章は断片的に遺存するが、「異国へ吹き流され、夫よりえぞえ渡る」（石井 1927 32 頁）とされるもので、これを『三国通覧図説』『蝦夷志』に引く記事（寛文壬子と誤っている—高倉 1969 3 頁）でみると、「其ノ国ヲ、エトロフト云」「又一国アリ、其ノ国ヲクナシリト云」と記し、「渡レハ乃チ蝦夷ノ、ノッサブ也、ソレヨリ同国、トガチヲ経テ松前ニ至ル」（山岸・佐野 1979 39 頁）とエトロフとクナシリをそれぞれ一国と認め、それらを異国と称していることが知られる。この漂着年代については、『福山秘府他国漂人部（卷三十二）』にも「寛文元年二」と記されていて（北海道庁編 1937 298 頁）明らかである。これが、正徳二年（1712 年）の『エトロフ島漂着記』となると、松前志摩守内高橋浅右衛門の出した文書が付載されていて、その内に「当四月六日当領蝦夷地の内えとろふと申す島へ漂着」（高倉編 1969 11 頁）とエトロフが当領蝦夷地の内に明確に加えられている。1715 年の『正徳五年松前志摩守差出候書付』では、「くるみせ島の方、地はなれの所、蝦夷地の内にて御座候」（高倉 1982 131 頁）という。1661 年にはエゾ（夷）の国に属さない異国であったところを、1712 年には蝦夷地の内に取り込んでいることが知られるのである。なお現存の文書に「蝦夷」の文字が認められるけれども、三国通覧図説の書かれた頃には、古く「エゾ」と記されていた文字を通常「蝦夷」に改められていて、それらは当初の文字ではないと判断される。なお、アトラソフの第 2 報告 14 頁には「一島をもって一国を形成している」島（ベルグ訳本 99 頁）の記述があるので、17 世紀末頃にもクナシリ、エトロフが異国のような状態であったかのようである。

## 文献

石井研堂編 1927 『異国漂流奇譚集』 福永書店

上原熊次郎 1804 『蝦夷方言藻塩草』

A..Erman 1844 Uber zwei auf Kamtschka und Ochotsk gefundene antiquitaten. Archiv fur wissenschaftliche Kunde von Russland, Bd IV



- 大沼忠春 2011 「林羅山と蝦夷島」『会報』第 89 号 北海道史研究協議会
- F. カロン原著 幸田成友訳著 1948 『日本大王国史』東洋堂
- 木内石亭 1795 『鏃石傳記』(中川泉三編 1936 『石之長者木内石亭全集』巻二 下郷共済会)
- 菊池俊彦 2004 『環オホーツク海古代文化の研究』北海道大学大学院文学研究科
- M. J. Klaproth 1832 San Kokf Tsou Ran To Sets (山岸徳平・佐野正巳編 1979 『林子平全集』第 2 巻所収 第一書房 三国通覧図説の仏訳であるが、Titsingh1814 などで補っている。)
- 黒川真頼 1878 『工藝志料』上 博物局
- 河野広道・名取武光 1938 「北海道の先史時代」『人類学・先史学講座』第 6 巻 雄山閣
- ゴロヴニン著・井上満訳 1943 『日本幽囚記』岩波書店
- ゴロウニン著・徳力真太郎訳 1994 『南千島探検始末』同時代社
- 斎藤忠 1974 『日本考古学史』吉川弘文館
- I. Schnell 1932 Prehistoric finds from the island world of the far east, now preserved in the Museum of Far Eastern Antiquities, Stockholm, Bulletin No 4
- V. Schrenck 1881 Reisen und forschungen amur-lande, Bd. 3, die Völker des amur-landes
- 杉浦重信 1998 「考古学より見たる北海道・千島・カムチャッカ」『野村崇先生還暦記念論集 北方の考古学』同刊行会
- 高岡直吉 1901 『北千島調査報文』北海道庁
- 高倉新一郎編 1969 『日本庶民生活史料集成』第 4 巻 三一書房
- 高倉新一郎編 1982 『犀川会資料 全』北海道出版企画センター
- 高瀬克範 2010 「「クリルの地」の考古学」『考古学ジャーナル』605
- 高瀬克範 2004 「剥片石器による現代の皮革加工」『考古学ジャーナル』520
- 坪井正五郎 1888 「本邦石器時代の遺跡は何者の手になりたるか」東京人類学会雑誌第 31 号
- Т. М. Дикова 1983 Археология южной Камчатки в связи с проблемой расселения айнов
- M. Titsingh 1814 Descriptions de la terre iesso "Annales des voyages, de la geographie et de l'histoire" Vol. 24 (この書には、147～186 頁に「蝦夷談筆記」(Ieso-Ki)、186～190 頁に「蝦夷志序」(Jeso-Ki)、190～213 頁に「蝦夷志」(Jeso-Ki) が仏訳されている。蝦夷談筆記については、1652 年の書と誤解されている。Schrenck (1881) は、1652 年と誤った年号で引用している。Klaproth はその年号を 1752 年として三国通覧図説の仏訳に引用している。実際は宝永 7 年 (1710 年) である。)
- C. J. Thomsen 1836 Ledtraad til Nordisk Oldkyndighed
- 鳥居龍蔵 1903 『千島アイヌ』
- R. Torii 1919 Etudes Archeologiques et Ethnologiques. Les Ainou des Iles Kouriles.
- 中谷治宇二郎 1935 『日本先史学序史』岩波書店
- 名取武光 1939a 『南千島の発掘旅行記』(私家版)
- 名取武光 1939b 「北海道の土器」『人類学・先史学講座』第 10 巻 雄山閣
- 名取武光 1972 『アイヌと考古学 (一)』北海道出版企画センター
- 名取武光 1974 「南千島の発掘旅行記」『アイヌと考古学 (二)』北海道出版企画センター
- S. Nilsson 1866 Skandinaviska nordens ur-invånere, Bd. 1, Stenåldern
- 博物館・犀川会 1932 『第一回北海道先史時代遺物展覧会陳列品目録』(蝦夷往来第 6 号) 尚古堂
- 馬場脩 1939 「考古学上より見たる北千島」『人類学・先史学講座』第 10 巻 雄山閣
- 馬場脩 1940 「日本北方地域及び附近外地出土の「内耳土鍋」に就て」『人類学・先史学講座』雄山閣
- 林子平 1786 『三国通覧図説』(山岸徳平・佐野正巳編 1979 『林子平全集』第 2 巻所収 第一書房)
- J. Batchelor 1892 Ainu of Japan
- Л. С. Берг 1935 Открытие Камчатки и экспедиции Беринга, 1725-1742
- エリ・エス・ベルグ著・小場有米訳 1942 『カムチャッカ発見とベーリング探検』龍吟社
- 北海道庁編 1937 新撰北海道史第 5 巻 北海道庁
- 武笠耕三 1934 「南千島の旅」『蝦夷往来』第 13 号 尚古堂
- 村上島之丞 1800 『蝦夷島奇観』(佐々木利和編 1983 『蝦夷島奇観』雄峰社)
- 村山七郎 1965 『漂流民の言語』吉川弘文館
- 村山七郎 1971 『北千島アイヌ語』吉川弘文館
- 村山七郎 1987 『クリル諸島の文献学的研究』三一書房
- W. Jochelson 1928 Archaeological Investigations in Kamchatka
- F. D. Laguna 1947 Memoirs of the society for American Archaeology: The Prehistory of Northern North America as seen from the Yukon. Supplement to American Antiquity. Vol. XII, No. 3 Part 2.





# 大学博物館所蔵写真資料の活用に関する一例についてー北海道根室市

猪熊 樹人<sup>1</sup>

はじめに

今回の研究において整理された写真の中で、北海道史の中で重要な屯田関係に関する写真が含まれていたため、その写真の価値と活用について紹介する。

## 1. 写真について

ここでとりあげる写真は、プリント No.1530～1532、1538～1542 の木造建築とその周囲を写した写真である。プリント No.1542 (写真1) では、建物に架かっている看板から「根室市公民館和田村分室」と読める。根室市は、1953年に根室町と和田村が合併して市制を施行しているため、写真の撮影年代は1953年以降と考えられる。

北海道教育委員会では1963年から「開拓記念物調査」と称し、北海道内における開拓期の遺構や民具類の一斉調査を行った。当時、北海道大学名誉教授であった犬飼哲夫氏もこの調査のメンバーであったため、概ね1960年代に撮影されたものではないかと考えている(北海道文化財保護協会編1965)。

写真に写された建物は、撮影当時「根室市公民館和田村分室」という名称で、根室市の公共施設であったが、もともとは和田村役場であった建物である。1955年6月5日付の和田村開村七十周年を伝える北海道新聞(写真2)によれば、この和田村役場は、1886年頃に建設された屯田大隊本部であったということである。

このことを裏付けるために、1890年頃に撮影された屯田大隊本部を転用して開校した和田尋常小学校の写真(写真3)や大正時代の和田村役場の写真(写真4)と比較したところ、中央に玄関があり、左右対称に部屋が配置される平面形や窓の位置がほぼ一致していることから、冒頭で取り上げた写真は、かつて根室市和田地区に存在した屯田大隊本部として使われた建物であることが明らかになった。



写真1. 北海道大学植物園・博物館蔵 プリント No.1542



写真2. 北海道新聞記事(1955年6月5日)

記事中の写真下に「カット写真は和田村役場・上原元帥か(ママ)中尉時代に設計した屯田兵大隊本部であつた」とある。



写真3. 1890年頃撮影された和田尋常小学校(旧、屯田大隊本部)



写真4. 西和田駅前に移転した頃の和田村役場(1926年頃撮影)

<sup>1</sup> 根室市歴史と自然の資料館

## 2. 屯田大隊本部について一写真をきっかけにわかったこと

根室市和田地域における屯田の入地は、1886年に東和田に第二大隊第一中隊220戸が入地したことに始まり、1888年と1889年に西和田に220戸が入地した。屯田兵とその家族の入地に伴い、住居である兵屋や兵村の運営や行政的機能を担った大隊本部が建設された。

根室市内における屯田関係の建築物としては、北海道指定有形文化財の「和田屯田兵村の被服庫」が残っている。写真3によれば、大隊本部と「和田屯田兵村の被服庫」（写真3白枠内）が近接していることがわかり、両者はもともと一体の建物であったことが示唆される。

1897年に和田村にあった大隊本部が北見へ移転されたのを機に、大隊本部として使っていた建物は、和田村立尋常小学校校舎として転用された。また、1913年から校舎の一部を村役場として使用し、1926年には西へ約1.5kmの距離にある西和田駅前に建物を移動させ、和田村役場として使用された。それとは別に、大隊本部に隣接していた「和田屯田兵村の被服庫」は1928年に新築された和田小学校の体育館として使われた。もともと一体だった建物は、昭和の初めに分割され、異なる場所でそれぞれの用途に使われていったのである。

戦後、「和田屯田兵村の被服庫」の方は和田小学校の施設の一部として使われ続けたが、1966年に実施された北海道教育委員会の開拓記念物調査で調査に訪れた遠藤明久氏が、「和田屯田兵村の被服庫」の小屋組がバルーンフレーム式によるものであり、札幌市の札幌農学校演武場や札幌農学校第二農場と類似する作りであることを指摘し、1968年12月18日に北海道指定有形文化財に指定された。

一方、和田村役場として使われていた旧大隊本部であった建物は、根室町との合併まで役場として使われた後、「根室市公民館和田村分室」となった。「根室市公民館和田村分室」は和田屯田記念館としての機能も兼ねており、屯田の子孫から寄贈された資料を展示していた。しかし、「和田屯田兵村の被服庫」が北海道指定文化財に指定されたのを機に、和田屯田記念館の機能が1969年に「和田屯田兵村の被服庫」に移り、その後「根室市公民館和田村分室」は解体・滅失してしまったようである。犬飼哲夫氏の撮影した写真は、北海道内でも少なくなっていた屯田本部建物の最後の姿を写したものであり、大変貴重なものである。

## 3. 写真資料の価値と活用

以上のように、かつて根室市和田地区にあった屯田大隊本部の建物が、少なくとも1960年代まで残っていたという事実は、今回の一連の研究において整理された犬飼哲夫氏の残した写真と現地調査に基づく知見から明らかになった。また、和田村の大隊本部の履歴に関する調査についても犬飼哲夫氏の撮影した写真が端緒となり、停滞気味である当地域の屯田兵村の研究に新しい情報をもたらした。

現在も、大学教員が文化財保護の委員等で行政から委嘱されるケースが多いが、学芸員や文化財担当職員が地域に配属されていなかった時代においては、文化財に関する古い記録はほとんど無いため、大学教官が収集した写真や記録類は地域史を掘り起こす上で大きな手がかりとなり、その資料的価値は高いものである。こうした資料を、所蔵先である大学博物館が中心となり整理し、地方博物館で活用する仕組みは、地域にとって極めて有益である。なお、今回の研究で明らかになった大隊本部の履歴に関する新知見は、Aゼロサイズのパネルにまとめ、北海道指定有形文化財「和田屯田兵村の被服庫」内に展示し活用されている。

## 参考文献

北海道教育委員会文化財保護係 1965「座談会 開拓記念物の調査から開拓期のあしあとを探る」『北海道の文化』9、北海道文化財保護協会、83-89頁

### 第3部 目録

第3部として、本プロジェクトによって整理された古写真に関する目録を報告する。本報告書における目録は、以下の5種類からなる。

- 1) 文献目録：八田三郎・犬飼哲夫・名取武光の著作目録と、古写真に関連する文献目録
- 2) ネガフォルダ目録：古写真のうち、ネガの全体像を示すための目録
- 3) プリントフォルダ目録：古写真のうち、プリントの全体像を示し、ネガとの対応を示すための目録
- 4) 主題分類目録：報告対象とした写真を主題ごとに分類した目録
- 5) 地域分類目録：報告対象とした写真を地域別に分類した目録

#### 〈文献目録解説〉

古写真整理にあたっては、大部分の古写真の撮影者と考えられる八田三郎、犬飼哲夫、名取武光に関わる著作物を可能な限り収集し、それらに掲載されている写真をデータ化した。得られた文献写真と古写真とを照合し、合致した古写真に付属しない被写体情報を確認した。本文献目録は、調査において収集した三者の著作目録および古写真が掲載されているその他の文献、古写真に写されている文献を取りまとめたものである。次ページ以降にまとめた目録は、次のような構成となっている。

- ・文献表記：それぞれの文献に対して、著者名と発表年次、アルファベットによって固有の表記を示し、これ以降の目録で利用するためのツールとした。
- ・文献名, 文献情報：各論文、著作物の著者名、論文・著作名、掲載誌、出版社などの情報である。
- ・画像有無：各文献に、古写真に含まれる可能性のある画像があるか否かについて整理を行った結果を示している。
- ・対応写真有無：文献に画像が含まれている場合に、その画像に対応する古写真の有無について確認を行った結果を示す。

なお、この文献目録は実際に確認した文献のみを掲載しているが、八田・犬飼・名取については、著作目録などを用いて確認された文献のうち、利用・確認できなかったものについても掲載した。これらについては、文献名に下線を引き、利用できなかったことを示している。名取の著作のうち、異動後に報告された考古調査報告類は除外している。

文献表記	文献名, 文献情報	画像 有無	対応写真 有無
八田 1891	S. Hatta, On the Formation of the Germinal Layers in Petromyzon, Journal of the College of Science, Imperial University, Tokyo, 5 (6), 129-147	有	無
八田 1892	八田三郎編, 動物学新書, 富山房, 204p	無	-
八田 1893a	八田三郎, 明治二十五年西海の動物, 動物学雑誌, 5 (52), 76-78	無	-
八田 1893b	八田三郎, 動物界に現はるゝ生活法, 動物学雑誌, 5 (53), 79-81	無	-
八田 1893c	八田三郎, Carl Rabl の中胚葉説, 動物学雑誌, 5 (57), 273-277	無	-
八田 1897a	S. Hatta, Preliminary Note on the Development of the Pronephros in Petromyzon, Annotationes Zoologicae Japonenses, 1, 137-140	無	-
八田 1897b	S. Hatta, Contribution to the morphology of cyclostomata. I. On the formation of the heart in Petromyzon, Journal of the College of Science, Imperial University, Tokyo, 10 (2), 225-237	無	-
八田 1897c	八田三郎, ヤツメの記, 動物学雑誌, 9 (102), 133-137	無	-
八田 1897d	八田三郎, トゲウヲの巢及び卵の其保護, 動物学雑誌, 9 (102), 135-137	無	-
八田 1897e	八田三郎, やつめの記 第三やつめノ構造, 動物学雑誌, 9 (105), 272-275	無	-
八田 1897f	八田三郎, やつめの記 第三やつめノ構造つづき, 動物学雑誌, 9 (107), 356-359	無	-
八田 1898	八田三郎, 足立震太郎, 吉田彦六郎共著, 理科示教: 博物に係る事柄: 全, 金港堂	無	-
八田 1900a	S. Hatta, Contributions to the Morphology of Cyclostomata II The Development of Pronephros and Segmental Duct in Petromyzon, Journal of the College of Science, Imperial University, Tokyo, 13 (3), 311-425	有	無
八田 1900b	八田三郎, 日本に於けるヤツメの種類及び配布, 動物学雑誌, 12 (139), 157-174	有	無
八田 1901a	S. Hatta, On the relation of the metameric segmentation of mesoblast in Petromyzon to that in Amphioxus and the higher Craniota, Annotationes Zoologicae Japonenses, 4 (1), 43-47	無	-
八田 1901b	S. Hatta, On the Lampreys of Japan together with notes on a specimen from Siberia, Annotationes Zoologicae Japonenses, 4 (1), 21-29	無	-
八田 1905	八田三郎, 村田庄次郎, 北海道産鳥類目録, Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc. Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc., 1 (1), 51-71	無	-
八田 1906	八田三郎 (例会報告), 札幌のヤツメウナギ及ヤツメウナギの雌雄異態, Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc. Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc., 1 (2), 24	無	-
八田 1907	S. Hatta, On the Gastrulation in Petromyzon, J. Coll. Sci. Imp. Univ. Tokyo, 21, 1-44	有	無
八田 1908	S. Hatta, Bemerkungen über die früheren Entwicklungsstadien des Gefässsystems des Ammocoetes, J. Coll. Agr. Hokkaido Imp., 3 (1), 81-107	有	無
八田 1909	八田三郎 (例会報告), 動物分布上に於ける北海道の位置, Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc. Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc., 3, 6	無	-
八田 1910a	S. Hatta and N. Sasaki, 北海道に産する腹足類及び瓣鳃類の目録, Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc. Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc., 3, 93-98	無	-
八田 1910b	八田三郎, 新撰動物学教科書, 開成館, 204p	有	有
八田 1910c	八田三郎, 動物の分布上北海道の位置, 動物学雑誌, 22 (256), 85-89	無	-
八田 1910d	キューネー, 八田, 橋本, 北海道に於ける両棲類及び爬虫類, 動物学雑誌, 26, 558-563	無	-
八田 1911a	S. Hatta, Ueber die Variabilität und den Dimorphismus des japanischen Neunauges, Annotationes Zoologicae Japonenses, 7 (5), 263-270	有	無
八田 1911b	八田三郎, 熊, 富山房, 東京, 89p	有	有
八田 1912a	八田三郎, 熊の渡海, 動物学雑誌, 24 (288), A1-A3	有	有
八田 1912b	八田三郎, 北海道のヒキガヘル, 動物学雑誌, 24 (289), 40	無	-
八田 1913a	S. Hatta, Zur Tiergeographie von Hokkaido, Zoologischen Anzeiger, XLIII (1), 27-36	有	有
八田 1913b	八田三郎, 北海道の狼, 動物学雑誌, 25 (291), 口絵記事	有	有
八田 1914a	八田, Carotin は動物にもある, 動物学雑誌, 26 (305), 139-141	有	無
八田 1914b	八田三郎, 北海道の疑問を伯林で晴す, 動物学雑誌, 26 (310), 20-21	無	-
八田 1915a	S. Hatta, The Fate of the Peristomal Mesoderm and the Tail in Petromyzon, Annotationes Zoologicae Japonenses, 9 (1), 46-62	無	-
八田 1915b	S. Hatta, On the Mesodermic Origin and the Fate of the So-called Mesoderm in Petromyzon, Proceedings of the Royal Society, B, 88, 457-475	有	無
八田 1915c	八田三郎, ヤツメ行脚 (1), 動物学雑誌, 27 (324), 35-39	無	-
八田 1915d	八田三郎, 伯林動物学会近況二三, 動物学雑誌, 27 (324), 40-42	無	-
八田 1915e	八田三郎, ヤツメ行脚 (2), 動物学雑誌, 27 (325), 32-33	無	-
八田 1915f	八田三郎, 現今の世界毛皮産額, 動物学雑誌, 27 (326), 29	無	-
八田 1920	八田三郎, 奈良と鹿, 官幣大社春日神社春日神鹿保護會, 68p	有	有
八田 1921a	八田三郎, プラキストン線は地球上果して其の意味を為すか, 地学雑誌, 33 (196), 649-661	無	-
八田 1921	-, アイヌの熊祭, 啓明会報告	-	-



文献表記	文献名, 文献情報	画像 有無	対応写真 有無
八田 1922a	S. Hatta, Über die Entwicklung des Gefäßsystems des Neunauges ( <i>Lampetra mitsukurii</i> HATTA), Zool. Jahrb. Abt. Anat., 44, 1	有	無
八田 1922	八田三郎, 北海道帝国大学農学部附属植物園及博物館, 北海道帝国大学農学部	無	-
八田 1924	八田三郎, 北海道の白鳥, 北海道史蹟名勝天然記念物調査報告書, 238-246	無	-
八田 1926a	Saburo Hatta, Some points on the Zoo-geography of Japan, Proceedings of the Third Pan-Pacific Science Congress Tokyo, 1024-1038	無	-
八田 1926b	八田三郎, アイヌの生活と博物館のアイヌ品陳列棚, 啓明会第十八回講演集 大正十五年, アイヌ史史料集 (5), 31-41	無	-
八田 1926c	八田三郎, 白老コタンのアイヌの生活 (活動写真), 啓明会第十八回講演集 大正十五年, アイヌ史史料集 (5), 42-51	無	-
八田 1929	八田三郎, 脊椎動物の胚に於ける主要なる静脈の起源, 動物学雑誌, 41 (490・491), 412-414	無	-
八田 1930	八田三郎, 発生学, 岩波書店, 74p	有	無
八田 1931	八田三郎, 比較発生学, 刀江書院, 393p	有	無
八田 1932	八田三郎, 脊椎動物系統発生学, 養賢堂, 642p	有	有
八田 1933a	八田三郎, 発生学, 岩波書店, 74p	有	無
八田 1933b	八田三郎, 巖島の鹿, 植物及動物, 1 (10), 1465-1469	有	有
八田 1933c	八田三郎, 日本の鹿, 植物及動物, 1 (4), 509-516	有	有
犬飼 1922	Tetsuo Inukai, Experimental studies on the developing eggs. I. Age and environment in Amphibia., Jour.Coll.Agr.Hokkaido Univ, 10, 107-140	有	無
犬飼 1924	Tetsuo Inukai, Statistical studies on the variation of stag beetles., Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc., 9, 77-91	有	有
犬飼 1925a	Tetsuo Inukai, Über den Einfluss der Temperatur auf die Pulsationszahl bei den Amphibienlarven und Vogelembryonen, Jpn. Jour.Zool., 1, 67-75	無	-
犬飼 1925b	犬飼哲男, イトミミズに対する二, 三駆除剤の作用, 札幌農林学会会報, 15 (64), 24-28	無	-
犬飼 1925c	犬飼哲男, 蛙の習性特に食性に就いて, 札幌農林学会会報, 16 (70), 1-10	無	-
犬飼 1925d	犬飼哲男, 松木豊雄, 北樺太鳥界雑誌, 札幌農林学会会報, 16 (71), 97-102	無	-
犬飼 1925e	犬飼哲男, 鮭稚魚に表はれし双尾畸形 KATADIDYMUS の数例に就いて, 動物学雑誌, 37 (445・446), 483-497	有	無
犬飼 1925f	犬飼哲男, 樺太産山椒魚に就いて, 動物学雑誌, 37 (445・446), 497-505	有	無
犬飼 1927a	Tetsuo Inukai, Beiträge zur Entwicklungsgeschichte der Reptilien. I. Die frühesten Entwicklungsvorgänge bei <i>Waldeidechse</i> ( <i>Lacerta vivipara</i> Jacq.), Jour.Coll.Agr.Hokkaido Univ, 16 (3), 125-201	有	有
犬飼 1927b	犬飼哲男, On the urodelan fauna of Sakhalin., 日本動物学彙報, 11 (3), 255-256	無	-
犬飼 1928	Tetsuo Inukai, On the loss of Purkinje cells, with advancing age, from the cerebellar cortex of the albino rat., Jour.Comp. Neur, 45 (1), 1-31	有	無
犬飼 1929a	Tetsuo Inukai, Japanese Vipern mit zwei Koepfen, Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc., 11 (1), 21-24	有	有
犬飼 1929b	Tetsuo Inukai, Die Vorniere (Pronephros) auf ihrer höchsten Entwicklungsstufe bei Neunaugen ( <i>Lampetra</i> [ <i>Petromyzon</i> ] <i>fluviatilis</i> und <i>planeri</i> ) ., Zeitschr.mikr.-anat. Forsch., 19 (1), 139-162	有	無
犬飼 1930a	Tetsuo Inukai, Notes on the Breeding Habits of <i>Takydromus Tachydromoides</i> Schlegel, Jour.Fac.Sci. Hokkaido Imp. Univ.,Ser. VI, 1 (1), 33-40	有	有
犬飼 1930b	犬飼哲男, 島倉亨次郎, On <i>Ochotona</i> , a new rodent unrecorded from Hokkaido., Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc., 11, 115-118	有	有
犬飼 1930c	犬飼哲男, 食用蛙の副業的価値, 農学研究, 14, 152-154	無	-
犬飼 1931a	Tetsuo Inukai, Seikichi Ochiai, A study on the breeding habits of <i>Hyla arborea japonica</i> Guenther, Jour.Fac.Sci. Hokkaido Imp. Univ.,Ser. VI, 1, 111-116	有	無
犬飼 1931b	Tetsuo Inukai, Yaichiro Okada, <i>Salamandrella keyserlingii</i> from Paramushir and Shimushir Islands of the Kurile. Group., Proc.Imp.Acad., 7 (10), 385-386	無	-
犬飼 1931c	犬飼哲男, A food-hoard of <i>Ochotona</i> from Daisetsuzan, the central mountains of Hokkaido., Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc., 11, 210-214	有	有
犬飼 1931d	Tetsuo Inukai, A record of <i>Ochotona</i> from Sakhalin, Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc., 12, 6-8	有	無
犬飼 1931e	犬飼哲男, 大雪山を繞る動物, 蝦夷往来, 5, 133-142	有	有
犬飼 1931f	犬飼哲男, 市川申平, 北海道における孔雀の飼育, 農業園芸, 6 (6), 951-954	有	有
犬飼 1931g	犬飼哲男, 動物の大群移動, 理科教育, 13 (3), 1-10	有	有
犬飼 1932a	Tetsuo Inukai, Urodenarten aus Nordjapan mit besonderer Berücksichtigung der Morphologie des Schädels., Jour.Fac.Sci. Hokkaido Imp. Univ.,Ser. VI, 1 (4), 191-217	有	有
犬飼 1932b	Tetsuo Inukai, A preliminary note on changes of mammalian fauna since the settlement of Hokkaido., Proc.Imp.Acad., 8 (10), 524-527	無	-
犬飼 1932c	Tetsuo Inukai, Distribution of <i>Ochotona</i> so far discovered in Hokkaido and Sakhalin., Proc.Imp.Acad., 8 (6), 255-258	有	有



文献表記	文献名, 文献情報	画像有無	対応写真有無
犬飼 1932d	Tetsuo Inukai, Observations on the hibernation lair of the Yezo brown bear., Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc., 12check, 175-179	有	有
犬飼 1932e	Marquis Yoshimaro Yamashina, Tetsuo Inukai, Buko Natori, A list of birds' skins presented by Captain Blakiston in the University Museum of Natural History of Sapporo with a brief account of his life in Hokkaido., Trans. Sapporo Nat.Hist.Soc., 12 (4) , 213-255	有	有
犬飼 1932f	犬飼哲夫, 北海道の山の動物, 山岳, 27 (3) , 139-149	有	有
犬飼 1932g	犬飼哲夫, 特に頭骨の構造を考慮した日本北部に産する山椒魚の種類に就いて, 動物学雑誌, 44 (519・520) , 1-2	無	-
犬飼 1932h	犬飼哲夫, ヒグマ(熊)は保護すべき動物か, 北海道倶楽部, 4 (1) , 36-40	無	-
犬飼 1932i	犬飼哲夫, 北海道に於ける熊の被害, 応用動物学雑誌, 4 (3) , 1-4	無	-
犬飼 1933a	Tetsuo Inukai, On Onychodactylus from Korea., Annot.Zool.Japan, 14 (2) , 193-195	有	無
犬飼 1933b	犬飼哲夫, ジョン氏の蝦夷巡航記, 蝦夷往来, 10, 121-125	無	-
犬飼 1933c	犬飼哲男, 西尾新六, イワナの食性研究(予報), 札幌農林学会会報, 24 (111) , 1-2	無	-
犬飼 1933d	犬飼哲男, 熊の習性, 植物及動物, 1 (1) , 57-64	有	有
犬飼 1933e	犬飼哲夫, 北海道狼とその滅亡経路, 植物及動物, 1 (8) , 1091-1098	有	有
犬飼 1933f	犬飼哲夫, 朝鮮に産するハコネサンセウオ属の研究史, 植物及動物, 2 (1) , 124-125	無	-
犬飼 1933g	犬飼哲夫, 岡田彌一郎, 幌筵島及び占守島に産する山椒魚, 動物地理雑, 4 (1) , 71-76	有	無
犬飼 1933h	犬飼哲夫, 牧野佐二郎, 秋田県及山形県に産する東北山椒魚(Hynobius lichenatus Boul.)の一変異形に就きて, 日本学術協会報, 8 (3) , 454-457	有	有
犬飼 1933i	犬飼哲男, 絶滅した北海道の狼, 日本犬, 2 (1) , 1-7	有	有
犬飼 1933j	犬飼哲夫, 名取武光, 自然的遺物II 動植物, 北海道原始文化聚英, 4-6	無	-
犬飼 1933k	犬飼哲夫, 名取武光, 狩猟具及武器, 北海道原始文化聚英, 47-51	無	-
犬飼 1934a	Tetsuo Inukai, Kozo Mukasa, Über den Zahnwechsel des Yezo Braunbaren, Ursus arctos yesoensis Lyd., Folia Anat. Jpn., 112 (4) , 291-300	有	有
犬飼 1934b	Tetsuo Inukai, On the partial albino of the Japanese mink found in Hokkaido., Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc., 13 (3) , 313-316	有	有
犬飼 1934c	Tetsuo Inukai, Shinjiro Ikeda, An observation on the sand particles in the gizzard of some small wild birds., Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc., 13 (3) , 317-323	無	-
犬飼 1934d	Tetsuo Inukai, Jiro Yamashita, On the occurrence of Ascaris in the intestine of a bear, Ursus arctos yesoensis Lyd., Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc., 13 (3) , 324-325	有	無
犬飼 1934e	犬飼哲夫, 名取武光, 北大附属博物館所蔵アイヌ土俗品解説(1), ドルメン, 3 (2) , 31-39	有	無
犬飼 1934f	犬飼哲夫, 北海道の開拓と動物, 蝦夷往来, 13, 26-28	無	-
犬飼 1934g	犬飼哲夫, 北海道に於けるイタチの冬季の食性, 札幌農林学会会報, 25 (118) , 495-496	無	-
犬飼 1934h	犬飼哲夫, 佐藤信一, 北海道近海の油鯨に就いて, 植物及動物, 2 (1) , 16-24	有	有
犬飼 1934i	犬飼哲夫, 鼬の北海道内侵入経路とその利用, 植物及動物, 2 (8) , 1309-1317	有	有
犬飼 1934j	犬飼哲夫, 鼬鼠と北海道, 北海道倶楽部, 1 (2) , 9-13	無	-
犬飼 1934k	犬飼哲夫, 阿寒国立公園地帯の動物, 北海道景勝地協会, 32p	有	有
犬飼 1934l	犬飼哲夫, 野幌国有林内の動物調査書(改訂増補第2版), 北海道林業試験場, 48p	有	有
犬飼 1934m	犬飼哲夫, 動物生殖生理学, 養賢堂, 158p	有	有
犬飼 1935a	Tetsuo Inukai, A peculiar poison used by the Ainu for bird hunting, Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc., 14 (2) , 136-137	無	-
犬飼 1935b	犬飼哲夫, 動物発生学(脊椎動物), 岩波書店, 東京, 303p	有	有
犬飼 1935c	犬飼哲夫, 登山に関する一二の生理学的問題, 山, 2 (5) , 9-13	無	-
犬飼 1935d	犬飼哲夫, アイヌの作る山小屋, 山岳, 30 (1) , 75-81	有	有
犬飼 1935e	犬飼哲夫, 熊による人の被害, 植物及動物, 3 (3) , 541-546	有	有
犬飼 1935f	犬飼哲夫, 大雪山概観, 生物地理雑, 1 (1) , 1-13	有	有
犬飼 1935g	犬飼哲夫, 北海道の丹頂鶴, 北海道倶楽部, 2 (4) , 29-31	無	-
犬飼 1935h	犬飼哲夫, アイヌの行ふ熊の解剖, 民族学研究, 1 (3) , 73-83	有	有
犬飼 1935i	犬飼哲夫, イタチの食性研究及び其の保護策に就いて, 応用動物学雑誌, 7 (1) , 49-52	無	-
犬飼 1936a	Tetsuo Inukai, Saburo Hatta (1865-1935) , Jour. Fac.Sci. Hokkaido Imp. Univ. Ser. VI , 5 (1) , 1-4	無	-
犬飼 1936b	Tetsuo Inukai, Kikutaro Hirasaki, Observation on the oscillatory frequency and the pulse rate of the salamander under the influence of low barometric pressure., Jour. Fac.Sci. Hokkaido Imp. Univ. Ser. VI , 5 (1) , 41-56	無	-
犬飼 1936c	犬飼哲夫, 犬飼哲夫教授米国各地視察復命報告書, 教授海外視察復命報告書, 6, 1-9	無	-
犬飼 1936d	犬飼哲夫, 鮭稚魚の直接海水放流試験(予報), 札幌農林学会会報, 29, 402	無	-
犬飼 1936e	T. Inukai, The Animal Life of Hokkaido, 大日本文明協会, 東京, 14p	有	有
犬飼 1936f	犬飼哲夫, カナヘビ Takydromus tachydromoides Schlegel の主静脈の発生, 動物学雑誌, 48 (4) , 200-201	無	-
犬飼 1936g	犬飼哲夫, 故八田三郎先生略伝, 動物学雑誌, 48 (7) , 335-336	無	-
犬飼 1936h	犬飼哲夫, 鮭稚魚の海水放流試験, 動物学雑誌, 48 (8-10) , 907-910	有	有

文献表記	文献名, 文献情報	画像 有無	対応写真 有無
犬飼 1937a	Tetsuo Inukai, Shinroku Nishio, A limnological study of Akkeshi Lake with special reference to the propagation of the oyster, Jour.Fac.Agr.,Hokkaido Univ., 40 (1), 1-33	有	有
犬飼 1937b	犬飼哲夫, 動物生殖生理上の二三の新問題, 植物及動物, 5 (1), 229-232	無	-
犬飼 1937c	犬飼哲夫, 米国西部の視察旅行より, 植物及動物, 5 (6), 87-93	有	無
犬飼 1937d	犬飼哲夫, アイヌの熊の頭の処置に就いて, 東京人類学会・日本民族学会聯合大会紀事, 2, 27 - 29	無	-
犬飼 1937e	犬飼哲夫, 学内野球本年の追懐, 部報 (北海道帝国大学野球部), 3, 1-2	無	-
犬飼 1937f	犬飼哲夫, 日満毛皮動物に就て, 北大畜産学会第二回例会記事, 1-5	無	-
犬飼 1937g	犬飼哲夫, 米国西部に於けるアイヌに関する講演経過, 民族学研究, 3 (2), 219-221	無	-
犬飼 1938a	Tetsuo Inukai, Amphibians and reptiles collected in Inner Mongolia, Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc., 15 (3), 168-171	無	-
犬飼 1938b	犬飼哲夫, アイヌと地震, ドルメン, 4 (9), 22	無	-
犬飼 1938c	犬飼哲夫, 動物発生学実験法, 建文館	有	有
犬飼 1938d	犬飼哲夫, 羽田良木, 東内蒙古小水域の生物, 植物及動物, 6 (7), 1191-1197	有	無
犬飼 1938e	犬飼哲夫, 北海道に於ける野生毛皮獣減少の原因考察, 日本学術協会報, 13 (3), 464-469	無	-
犬飼 1938f	犬飼哲夫, 日本及満州の毛皮及び毛皮獣, 日本農学会第9回大会講演集, 97-108	有	有
犬飼 1938g	犬飼哲夫, 満州の毛皮及び毛皮獣, 満蒙研究資料, 6, 1-20	有	有
犬飼 1938h	犬飼哲夫, 札幌付近の小河川に於ける淡水魚の移動に就て, 陸水學雑誌, 8 (3・4), 388-395	有	無
犬飼 1939a	犬飼哲夫, 樺太犬の調査, 樺太庁, 13p	無	-
犬飼 1939b	犬飼哲夫, 連載講座 動物比較生理の諸事項 [I - XXV], 植物及動物, 5/6/7	有	有
犬飼 1939c	犬飼哲夫, 樺太に発生したドブ鼠の大群とその被害, 植物及動物, 7 (12), 2039-2051	有	有
犬飼 1939d	犬飼哲夫, アイヌの木皮船 (ヤチップ), 東京人類学会・日本民族学会聯合大会紀事, 3, 57-59	無	-
犬飼 1939e	犬飼哲夫, 各種毛皮の防寒性, 日本学術協会報, 14 (1), 130-132	有	有
犬飼 1939f	犬飼哲夫, アイヌの木皮舟 (ヤラチップ), 北方文化研究報告, 1, 93-105	有	有
犬飼 1939g	犬飼哲夫, 名取武光, イオマンテ (アイヌの熊祭) の文化的意義とその形式 (1), 北方文化研究報告, 2, 237-271	有	有
犬飼 1940a	Tetsuo Inukai, A preliminary note on the ribbonseal, Histriophoca fasciata (Zimm.) Gill, from the waters of Saghalin., Jour. Fac.Sci. Hokkaido Imp. Univ., Ser. VI, 7 (3), 299-303	有	有
犬飼 1940b	犬飼哲夫, 本邦産養殖毛皮と海外に於ける生産並に価格に就て (1), 札幌農林学会会報, 32 (154), 58-75	無	-
犬飼 1940c	犬飼哲夫, 樺太の所謂クラカケアザラシ (一名リボンアザラシ) に就て, 植物及動物, 8 (11), 65-68	有	有
犬飼 1940d	犬飼哲夫, 北海道に於ける白鳥の食性, 動物学雑誌, 52 (2), 67	無	-
犬飼 1940e	犬飼哲夫, 警戒すべき本邦毛皮産業の投機性, 農政, 2, 1-4	無	-
犬飼 1940f	犬飼哲夫, 名取武光, イオマンテ (アイヌの熊祭) の文化的意義とその形式 (2), 北方文化研究報告, 3, 79-135	有	有
犬飼 1941a	犬飼哲夫, 栗鼠・狐・貂, 山小屋, 110, 24-27	無	-
犬飼 1941b	犬飼哲夫, 防寒用各種毛皮の耐久性の研究, 日本学術協会報, 15 (4), 430-432	無	-
犬飼 1941c	犬飼哲夫, 文武会野球部改組を前に, 部報 (北海道帝国大学野球部), 6, 2-3	無	-
犬飼 1941b	犬飼哲夫, 生物学に於て注意すべき時間要素の考察, 兵庫県中等教育博物学雑誌, 7, 247-248	無	-
犬飼 1941a	犬飼哲夫, アイヌのペカンベ祭 (菱取り祭), 北方文化研究報告, 4, 1-14	有	有
犬飼 1941b	犬飼哲夫, 樺太オロッコの海豹狩, 北方文化研究報告, 4, 15-33	有	有
犬飼 1941c	犬飼哲夫, シシャモカムイノミ (柳葉魚祭), 北方文化研究報告, 5, 89-102	有	有
犬飼 1942a	犬飼哲夫, 樺太に大発生したドブ鼠の駆除対策とその効果批判, 札幌農林学会会報, 34 (3), 1-13	有	有
犬飼 1942b	犬飼哲夫, 我が北洋の海豹 (アザラシ) [1-2], 植物及動物, 10 (10), 10 (11), 927-932/1025-1030	有	有
犬飼 1942c	犬飼哲夫, 北洋を征したわが臘虎船, 探検, 1, 107-112	無	-
犬飼 1942d	鈴木醇, 犬飼哲夫, 館脇操, 自然科学上より見たる阿寒国立公園, 北海道景勝地協会, 52p	有	有
犬飼 1942e	犬飼哲夫, 北千島の生物と湖沼, 北方研究, 6, 1-4	無	-
犬飼 1942f	犬飼哲夫, 天災に対するアイヌの態度 (呪ひその他), 北方文化研究報告, 6, 141-162	無	-
犬飼 1942g	犬飼哲夫, 北洋の開拓者臘虎船, 北洋漁業, 3 (5) / 3 (6), 40-51, 83-92	無	-
犬飼 1942h	犬飼哲夫, 流水期のオロッコ海豹狩, 民族学研究, 8 (1), 13-40	有	有
犬飼 1942i	犬飼哲夫, 北海道の白鳥, 野鳥, 9 (8), 407-419	有	有
犬飼 1943a	Tetsuo Inukai, Kozo Mukasa, Über Reptilien und Amphibien aus den Südkurilen, besonders über eine seltene fremde Schlange aus der Insel Shikotan., Jour.Fac.Sci. Hokkaido Imp. Univ., Ser. VI, 9, 71-75	有	有
犬飼 1943b	犬飼哲夫, 北海道・樺太・千島に於ける鳥獣の分布, 自然科学観察と研究叢書 1 北海道・樺太・千島列島篇 / 山下秀之助編, 79-97	有	有
犬飼 1943c	犬飼哲夫, 佐藤信一, 然別湖に於けるミヤベイワナ (Salvelinus miyabei Oshima) の産卵習性について, 動物学雑誌, 55 (2), 78-79	無	-
犬飼 1943d	犬飼哲夫, その後の野球班と最後の班報, 班報, 最終号, 3-4	無	-
犬飼 1943e	犬飼哲夫, 北方の原住民と野猪, 北の会報, 6, 6-7	無	-
犬飼 1943f	犬飼哲夫, 北の風土と動物, 北方出版社, 239p	有	有
犬飼 1943g	犬飼哲夫, 寒地に於けるシチロウネズミの野外越冬に就いて, 應用動物学雑誌, 14 (3-5), 263-266	無	-

文献表記	文献名, 文献情報	画像 有無	対応写真 有無
犬飼 1944a	犬飼哲夫, 佐藤信一 / 犬飼哲夫, 北千島の魚類 / 北千島の海豹, 千島学術調査研究隊報告書, 1, 54-63/64-66	無	-
犬飼 1944b	犬飼哲夫, 信仰および儀礼, 東亜民族要誌資料 帝国学士院, 2, 101-109	無	-
犬飼 1946a	犬飼哲夫, D.D.T. のこと, 新生科学, 1, 14	無	-
犬飼 1946b	犬飼哲夫, 動物の回帰性, 新生科学, 3, 1-2	無	-
犬飼 1946c	犬飼哲夫, 自然と人為の結果, 大道, 1 (4), 5-7	無	-
犬飼 1946d	犬飼哲夫, 山の鳥・海の鳥, 北方風物, 1 (6), 14-15	無	-
犬飼 1946e	犬飼哲夫, 菱取り祭と柳葉魚祭, 北方風物, 1 (8), 4-5	無	-
犬飼 1947a	犬飼哲夫, 北海道に於ける毛皮獣ヌートリアの無水飼育, 札幌農林学会会報, 37, 17-19	無	-
犬飼 1947b	犬飼哲夫, 最近の世界毛皮界の動向と吾が毛皮産業の将来, 畜産の研究, 1 (7), 293-296	無	-
犬飼 1947c	犬飼哲夫, 熊に斃れた人々: 痛ましき開拓の犠牲, 鶴文庫, 29p	有	有
犬飼 1947d	犬飼哲夫, 夏山登山のあり方, 北の観光, 1 (1), 6-8	有	無
犬飼 1948a	犬飼哲夫, この頃の鳥, 季節の科学, 北方書院, 50-56	無	-
犬飼 1948b	犬飼哲夫, 北海道の動物の由来とその変遷, 辺境北海道, 北方書院, 64-88	無	-
犬飼 1949a	鈴木醇, 犬飼哲夫, 館脇操, 支笏洞爺国立公園の自然科学, 国立公園, 5, 4-11	無	-
犬飼 1949b	犬飼哲夫, 野鼠駆除のため北海道近島へイタチ放飼とその成績, 札幌博物会報, 18 (3・4), 57-59	無	-
犬飼 1949c	犬飼哲夫, 北海道美々川に於けるウグイの食性, 水産孵化場試験報告, 4 (2), 57-61	無	-
犬飼 1949d	犬飼哲夫, 野鼠, 北海道野鼠防除協会, 36p	無	-
犬飼 1949e	犬飼哲夫, それは動物です, 旅, 24 (6), 24-26	有	有
犬飼 1950a	犬飼哲夫, 熊の生態, 熊の話 吉岡一郎編 観光社, 34-63	有	有
犬飼 1950b	犬飼哲夫, 県内ナメ流し (毒物漁法) の禁止, 青森県水産資源調査報告, 246	無	-
犬飼 1950c	犬飼哲夫, 津軽十二湖のニジマス, 青森県水産資源調査報告, 246-247	無	-
犬飼 1950d	犬飼哲夫, 蕪島のウミネコ, 青森県水産資源調査報告, 248	無	-
犬飼 1950e	犬飼哲夫, 海獣及び久六島, 青森県水産資源調査報告, 82	無	-
犬飼 1950f	犬飼哲夫, 樺太及北海道のウミガラスの生態, 動物学雑誌, 59 (2/3), 34	無	-
犬飼 1950g	犬飼哲夫, 上田明一, 森林と野鼠, 林野庁, 20p	有	無
犬飼 1950	犬飼哲夫, 学術研究余談, 教育新潮, 1 (6)	-	-
犬飼 1951a	犬飼哲夫, サンショウウオ幼体の頭部切断が後體部の發生に及ぼす影響, 動物学雑誌, 60 (1・2), 27	無	-
犬飼 1951b	犬飼哲夫, 森林の野鼠とその防除, 北海道野鼠防除協会, s36p	有	有
犬飼 1952a	犬飼哲夫, 北海道に於けるダニの外聴道内侵入の例に就て, 衛生動物, 3 (3/4), 128	無	-
犬飼 1952b	犬飼哲夫, 北海道の造林地の野兎被害, 応用動物学会・日本応用昆虫学会合同大会講演要旨, 1952, 3	無	-
犬飼 1952c	犬飼哲夫, 鳥獣北海道, 新都市, 6 (6), 86-87	無	-
犬飼 1952d	犬飼哲夫, 野鼠の被害—長野, 森林防疫ニュース, 1 (8), 41	無	-
犬飼 1952e	犬飼哲夫, 熊の子, 動物文学, 18 (2), 20-21	無	-
犬飼 1952f	犬飼哲夫, 熊と原始文化, 北大季刊, 2, 1-4	無	-
犬飼 1952g	犬飼哲夫, 若園武, 天塩国一の橋造林地の野鼠被害と道内の鼠被害の一般考察, 北大農邦紀要, 1 (2), 127-131	無	-
犬飼 1952h	犬飼哲夫, 神野次郎, 芳賀良一, 北海道におけるカラスの被害と防除の研究 [ I ] カラスの生態研究の概要, 北大農邦紀要, 1 (2), 194-198	有	無
犬飼 1952i	犬飼哲夫, 芳賀良一, 野鼠のカラマツ属に対する嗜好の実験生態学的研究, 北大農邦紀要, 1 (3), 282-300	有	有
犬飼 1952j	犬飼哲夫, 北海道の鹿とその興亡, 北方文化研究報告, 7, 1-45	有	有
犬飼 1952k	犬飼哲夫, 雪・温度・環境差, 北方林業, 35, 2-4	無	-
犬飼 1952l	犬飼哲夫, 水田を荒らすのはドブネズミ, 野鼠, 27 (12), 3	無	-
犬飼 1952m	犬飼, ストローブ松も鼠に食われた, 野鼠, 27 (12), 4	無	-
犬飼 1953a	犬飼哲夫, 森樊須, 北海道の造林地に於ける野兎の防除の研究, 応用動物学会・日本応用昆虫学会合同大会講演要旨, 1953, 13	無	-
犬飼 1953b	犬飼哲夫, 野兎の好む樹種, 森林防疫ニュース, 2 (1), 57	無	-
犬飼 1953c	犬飼哲夫, 野兎の忌避剤, 森林防疫ニュース, 2 (6), 115	無	-
犬飼 1953d	犬飼哲夫, 芳賀良一, 森樊須, 北海道新十津川に於ける水田のドブネズミによる被害 (予報), 北大農邦紀要, 1 (3), 301-304	有	無
犬飼 1953e	犬飼哲夫, 芳賀良一, 北海道に於けるカラスの被害と防除の研究 [ III ] 特にカラスの食性と農薬との関係, 北大農邦紀要, 1 (4), 459-482	無	-
犬飼 1953f	犬飼哲夫, 野鼠の駆除に就て, 北日本病害虫研究年報, 4	無	-
犬飼 1953g	犬飼哲夫, 武笠耕三, アイヌの丸木舟の作製, 北方文化研究報告, 8, 177-184	有	有
犬飼 1953h	犬飼哲夫, 北海道の野鼠駆除の方向, 野鼠, 28 (5), 1-2	無	-
犬飼 1953i	犬飼哲夫, ワルファリンを含む二つの新殺鼠剤, 野鼠, 3, 1	無	-
犬飼 1953j	犬飼哲夫, ツグミに寄せる, 野鳥, 18 (2)	無	-
犬飼 1954a	犬飼哲夫, ヒグマと冬眠, 遺伝, 8 (12), 14-17	有	有

文献表記	文献名, 文献情報	画像 有無	対応写真 有無
犬飼 1954b	犬飼哲夫, 野兎の行動に関する研究, 応用動物学会・日本応用昆虫学会合同大会講演要旨, 1954, 20	無	-
犬飼 1954c	犬飼哲夫, 林木を食害する野鼠は林野特有のネズミではない, 森林防疫ニュース, 3 (2), 206	無	-
犬飼 1954d	犬飼哲夫, ノネズミの天敵, 森林防疫ニュース, 3 (2), 218-219	有	無
犬飼 1954e	犬飼哲夫, ノネズミは雪の下でも繁殖する, 森林防疫ニュース, 3 (5), 280	無	-
犬飼 1954f	犬飼哲夫, アイヌの鮭漁と乾魚の作り方, 東京人類学会・日本民族学会聯合大会紀事, 7, 48-51	無	-
犬飼 1954g	犬飼哲夫, 脊椎動物発生学, 動物学雑誌, 63 (8/9), 314-315	無	-
犬飼 1954h	犬飼哲夫, 動物幻想, 北大季刊, 6, 34-36	無	-
犬飼 1954i	犬飼哲夫, 森樊須, 芳賀良一, 野鼠の血糖量の変動に及ぼす環境温度の影響 (予報), 北大農邦紀要, 2 (1), 62-65	無	-
犬飼 1954j	犬飼哲夫, アイヌの鮭漁に於ける祭事 (1), 北方文化研究報告, 9, 79-90	無	-
犬飼 1954k	犬飼哲夫, 笹の結実と野ネズミ, 北方林業, 6 (11), 235-236	無	-
犬飼 1954l	犬飼哲夫, 知床半島の動物, 網走道立公園知床半島学術調査報告, 64-69	有	無
犬飼 1954m	犬飼哲夫, 伊豆半島の造林地における野鼠の被害について, 応用動物学雑誌, 19 (2), 83-85	有	有
犬飼 1955a	Tetsuo Inukai, Jiro Yamashita, Hans Mori, Most probable of route of introduction of Echinococcus into the island of Rebun., Jour.Fac.Agr.,Hokkaido Univ., 50 (2), 134-139	無	-
犬飼 1955b	犬飼哲夫, ヒグマの赤児, グリーン・エージ, 5 (8), 21-22	無	-
犬飼 1955c	犬飼哲夫, アイヌの狩猟と漁労, 遺伝, 9 (8), 31-34	有	有
犬飼 1955d	犬飼哲夫, 芳賀良一, 高津昭三, 阿部永, 北海道における笹の結実 (昭和 29 年) と森林野鼠の異常発生について, 応用動物学会・日本応用昆虫学会合同大会講演要旨, 1955, 11	無	-
犬飼 1955e	犬飼哲夫, 北海道における野兎の防除, 応用動物学会・日本応用昆虫学会合同大会講演要旨, 1955, 14-15	無	-
犬飼 1955f	犬飼哲夫, 成人の日を有意義に, 教育新潮, 6 (1), 8	無	-
犬飼 1955g	犬飼哲夫, 北海道の野兎被害とその防除, 森林防疫ニュース, 1 (3), 11	無	-
犬飼 1955h	犬飼哲夫, 森樊須, ノネズミの血糖量と林木食害, 森林防疫ニュース, 4 (2), 32-34	無	-
犬飼 1955i	犬飼哲夫, ハタネズミの習性の知見, 森林防疫ニュース, 4 (5), 103	無	-
犬飼 1955j	犬飼哲夫, 狩野康比古, 脊椎動物発生実験 魚類, 中山書店, 54p	有	無
犬飼 1955k	犬飼哲夫, アイヌの狩猟, 東京人類学会・日本民族学会聯合大会紀事, 8, 105-109	無	-
犬飼 1955l	犬飼哲夫, 天然記念物としての北海道犬, 道犬, 5 (1/2), 4-5	無	-
犬飼 1955m	犬飼哲夫, 新たに登場した害獣の兎とその防除, 農薬, 1 (7), 19-22	無	-
犬飼 1955n	犬飼哲夫, 保険と研究生活, 保険評論, 7 (5), 6-7	無	-
犬飼 1955o	犬飼哲夫, 厚賀地方におけるササ結実による野鼠の異常被害について, 北大農邦紀要, 2 (3), 92-96	有	有
犬飼 1955p	犬飼哲夫, 往時の北洋の臘腸獣船, 北方文化研究報告, 10, 27-54	無	-
犬飼 1955q	犬飼哲夫, 北海道の野兎被害とその防除, 北方林業, 7 (11), 244-245	無	-
犬飼 1955r	犬飼哲夫, 北海道の野兎被害とその防除 -2-, 北方林業, 7 (12), 263-265	無	-
犬飼 1955s	犬飼哲夫, 野兎の防除, 野ねずみ, 1, 4	無	-
犬飼 1955t	犬飼哲夫, 風倒木と野鼠の被害の問題, 野ねずみ, 7, 1	無	-
犬飼 1955u	犬飼哲夫, 応用動物学 25 年 哺乳類 (獣類), 応用動物学雑誌, 20 (1・2), 38-39	無	-
犬飼 1956	犬飼哲夫, 数の子, 筋子は資源の破壊, さけ・ます資源管理センター技術情報 (愛称; 魚と卵), 60, 5-6	-	-
犬飼 1956a	犬飼哲夫, 野兎の嫌忌剤について, 応用動物学会・日本応用昆虫学会合同大会講演要旨, 1956, 18-19	無	-
犬飼 1956b	犬飼哲夫, 北海道国立公園のヒグマとナキウサギ, 国立公園, 78, 6-7	無	-
犬飼 1956c	犬飼哲夫, 積雪地方のノウサギの誘殺, 森林防疫ニュース, 5 (2), 8-9	無	-
犬飼 1956d	犬飼哲夫, 日本海におけるオットセイの廻遊, 動物学雑誌, 65 (34), 114	無	-
犬飼 1956e	犬飼哲夫, アイヌの漁猟, 日本文化財, 15, 29-30	無	-
犬飼 1956f	犬飼哲夫, 井上聰, 貧栄養型湖における鱒類の食性 (予報), 北海道大學農学部邦文紀要, 2 (4), 156-161	無	-
犬飼 1956g	犬飼哲夫, 森樊須, 北海道アイヌのアザラシ及びオットセイ狩り, 北方文化研究報告, 11, 35-47	有	有
犬飼 1956h	犬飼哲夫, 野兎防除における生態学的問題, 北方林業, 8 (10), 241-242	無	-
犬飼 1956i	犬飼哲夫, 野兎の被害防止と嫌忌剤について, 野ねずみ, 14, 1-2	有	無
犬飼 1956j	犬飼哲夫, 北海道野鳥界の展望, 林, 1956 (5), 1-6	無	-
犬飼 1957a	犬飼哲夫, 北海道野生動物興亡史 (1), 自然, 11 (12), 20-27	有	有
犬飼 1957b	犬飼哲夫, 北海道野生動物興亡史 (2), 自然, 12 (1), 66-73	有	有
犬飼 1957c	犬飼哲夫, 諏訪でヤマネを買う, 信濃往来, 77, 4-5	無	-
犬飼 1957d	犬飼哲夫, 風倒跡地造林のノネズミ・ノウサギ対策, 森林防疫ニュース, 6 (8), 180-181	無	-
犬飼 1957e	犬飼哲夫, アイヌの夢判断, 東京人類学会・日本民族学会聯合大会紀事, 11, 187-189	無	-
犬飼 1957f	犬飼哲夫, 札幌市における家鼠の出現の季節的变化の一例, 日本応用動物昆虫学会大会講演要旨, 1, 8	無	-
犬飼 1957g	犬飼哲夫, 唐沢徳武, ドブネズミの野外越冬状態の観察, 日本応用動物昆虫学会大会講演要旨, 1, 8	無	-
犬飼 1957h	犬飼哲夫, 芳賀良一, 樺太犬考 (1), 北方文化研究報告, 12, 43-58	有	有
犬飼 1957i	犬飼哲夫, アイヌの夢うらない, 民族学研究, 21 (4), 17-19	無	-
犬飼 1958a	犬飼哲夫, サケとマスの生態, 遺伝, 12 (12), 4-8	有	有



文献表記	文献名, 文献情報	画像 有無	対応写真 有無
犬飼 1958b	犬飼哲夫, 円山の動物 (脊椎動物), 札幌円山の自然科学的研究, 61-66	有	有
犬飼 1958c	犬飼哲夫, 第 4 回国際植物保護会議に出席して, 森林防疫ニュース, 7 (4), 78-79	無	-
犬飼 1958d	犬飼哲夫, 芳賀良一, 日本南極地域観測隊犬橇関係報告 (1), 南極資料, 4, 175-189	有	無
犬飼 1958e	犬飼哲夫, 北海道で仕立てた南極の犬, 農家の友, 10 (1), 61-64	有	無
犬飼 1958f	犬飼哲夫, 欧米の野兎・野鼠の防除, 農薬の進歩, 4 (6), 1-5	無	-
犬飼 1958g	犬飼哲夫, 動物の共食い, 北海春秋, 1 (1), 9-10	無	-
犬飼 1958h	犬飼哲夫, 森樊須, 野兎嫌忌剤の試作とその効果 (1), 北大農邦紀要, 3 (1), 187-197	有	有
犬飼 1958i	犬飼哲夫, 森樊須, 北海道西南部の鉄道防雪林の鼠害とその原因の考察, 北大農邦紀要, 3 (1), 198-200	有	無
犬飼 1958j	犬飼哲夫, 竹内忒, 芳賀良一, 樺太犬考 (2), 北方文化研究報告, 13, 35-52	無	-
犬飼 1959a	犬飼哲夫, 生きていた樺太犬, 教育月報, 100, 31	有	無
犬飼 1959b	犬飼哲夫, 北の犬, 犬の世界, 1, 55-56	有	無
犬飼 1959c	犬飼哲夫, 毛皮動物史 (I), 自然, 14 (4), 18-25	有	有
犬飼 1959d	犬飼哲夫, 毛皮動物史 (II), 自然, 14 (5), 54-60	有	有
犬飼 1959e	犬飼哲夫, 毛皮動物史 (III), 自然, 14 (6), 44-52	有	有
犬飼 1959f	犬飼哲夫, 週刊新潮掲示板, 週刊新潮, 4 (6), 48	無	-
犬飼 1959g	犬飼哲夫, 森樊須, 野兎嫌忌剤チオソルベント・クレオソート混合液の試験成績, 森林防疫ニュース, 8 (3), 15-18	有	無
犬飼 1959h	犬飼哲夫, 北海道における本年の野鼠の大発生, 森林防疫ニュース, 8 (8), 126-129	有	有
犬飼 1959i	犬飼哲夫, 毛皮獣, 畜産体系, 養賢堂, 24-53p	有	有
犬飼 1959j	犬飼哲夫, 加納一郎編, からふといぬ, 日本評論社, 274p	無	-
犬飼 1959k	犬飼哲夫, アメリカ農林業の害獣とその駆除, 農薬春秋, 6, 22-23	無	-
犬飼 1959l	犬飼哲夫, 北海道文化財 (アイヌのまるきぶね / 北見小清水海岸 / オオミズナギドリ繁殖地 / 春採湖 / 北海道犬 / 大黒島, 北海道教育委員会	有	有
犬飼 1959m	犬飼哲夫, 大黒島鳥島繁殖地・オオミズナギドリ繁殖地・春採湖の緋鮎生息地・北海道犬, 北海道文化財シリーズ, 1 (天然記念物)	有	有
犬飼 1959n	犬飼哲夫, 森樊須, 高安知彦, 野兎嫌忌剤チオソルベント・クレオソート混合液および二, 三薬剤による造林地の害獣防除試験, 北大農邦紀要, 3 (2), 70-75	有	無
犬飼 1959o	犬飼哲夫, アメリカの野兎鼠駆除, 北方林業, 126, 2-4	無	-
犬飼 1959p	犬飼哲夫, 島牧村の野鼠の異常発生について, 野ねずみ, 34, 6-7	有	有
犬飼 1959q	犬飼哲夫, 珍しい太古の動物ナキウサギ, 旅, 33 (7), 42	有	無
犬飼 1959r	犬飼哲夫, 野兎による森林の被害, 林業技術, 214, 18-21	有	無
犬飼 1960a	Tetsuo Inukai, Harmful rodents of the forest and their control in Japan, Proc.Intern.Cong.Crop Protection, Hamburg, 2, 1333-1334	無	-
犬飼 1960b	犬飼哲夫, 害獣の忌避剤, 応動昆第 4 回シンポ要旨, 37-39	無	-
犬飼 1960c	犬飼哲夫, ネズミ三族を退治すること, 家の光 (北海道版), 38 (1), 274-275	有	有
犬飼 1960d	犬飼哲夫, 森樊須, 高安知彦, 二, 三嫌忌剤の害獣阻止効果, 森林防疫ニュース, 9 (2), 7-8	無	-
犬飼 1960e	犬飼哲夫, ノネズミの名前と駆除, 青森林友, 136, 14-15	無	-
犬飼 1960f	犬飼哲夫, 芳賀良一, 日本南極地域観測隊犬橇関係報告 (II), 南極資料, 10, 697-720	無	-
犬飼 1960g	犬飼哲夫, 害獣の忌避剤, 日本応用動物昆虫学会大会講演要旨, 4, 35-36	無	-
犬飼 1960h	犬飼哲夫, 忘れられた土地, 日本残酷物語, 2, 335-356	有	無
犬飼 1960i	共著, 風土記日本 北海道篇, 平凡社	無	-
犬飼 1960j	犬飼哲夫, 森樊須, 高安知彦, 家兎と野兎に対するモノフルオル醋酸塩, 硝酸ストリキニーネ及び Scillirocid の殺兎効果, 北大農邦紀要, 3 (4), 18-25	有	無
犬飼 1960k	犬飼哲夫, 民族学的に見た北海道の野猪 (イノシシ), 北方文化研究報告, 15, 1-6	無	-
犬飼 1960l	犬飼哲夫, 日本近海の家獣, 理科の教育, 9 (3), 43-46	無	-
犬飼 1961a	犬飼哲夫, ひぐまのブン (監修), 1 年のかがかく, 12 (3), 2-7	無	-
犬飼 1961b	犬飼哲夫, 太田嘉四夫, 阿部永, サロベツ総合調査中間報告書 生物部門, 北海道開発局, 昭和 36 年, 21-39	無	-
犬飼 1961c	犬飼哲夫, 北海道文化財 (アイヌのまるきぶね), 北海道教育委員会, 1961 年, 24-26	有	有
犬飼 1961d	犬飼哲夫, 釧路地方のアイヌの川漁 (ヤス) について, 北方文化研究報告, 16, 35-38	無	-
犬飼 1961e	犬飼哲夫, ヒグマの被害の生態, 林, 114, 7-10	無	-
犬飼 1962a	犬飼哲夫, タンチョウヅルと飛行機, エアーツーリスト, 1, 3	有	無
犬飼 1962b	犬飼哲夫, サケはふたたび帰ってくる, 科学朝日, 22 (11), 11-16	有	有
犬飼 1962c	犬飼哲夫, 信州の味噌づくり, 紅, 34, 4-5	無	-
犬飼 1962d	犬飼哲夫, イエネズミの季節的消長について, 日本応用動物昆虫学会大会講演要旨, 6, 25	無	-
犬飼 1962e	犬飼哲夫, 北海道と毛皮, 北海道, 21, 18-19	無	-

文献表記	文献名, 文献情報	画像 有無	対応写真 有無
犬飼 1962f	犬飼哲夫, 太田嘉四夫, 阿部永, 小林恒明, サロベツ総合調査中間報告書 生物部門, 北海道開発局, 昭和 37 年, 16-23	有	有
犬飼 1962g	犬飼哲夫, 利尻・礼文の動物, 利尻・礼文 風景・気候・動物・考古 / 礼礼国定公園既成促進会, 16-21	有	有
犬飼 1963a	犬飼哲夫, 熊, ぶやら新書, 62p	有	無
犬飼 1963b	犬飼哲夫, 森林とヒグマの話, 森林防疫ニュース, 12 (10), 6-7	有	有
犬飼 1963c	犬飼哲夫, 大雪山の動物, 大雪火山群の研究 (日本自然保護協会調査報告), 8, 61-69	有	有
犬飼 1963d	犬飼哲夫, 祝辞にかえて, 道犬, 13 (2), 3	無	-
犬飼 1963e	犬飼哲夫, 北海道根室標津におけるクマの被害の特性, 日本応用動物昆虫学会大会講演要旨, 7, 11-12	無	-
犬飼 1963f	犬飼哲夫, 毛皮動物史, 日魯毛皮株式会社資料, 7, 37-69	無	-
犬飼 1963g	犬飼哲夫, ノウサギの被害とその防除, 農薬, 10 (1), 44-49	有	有
犬飼 1963h	犬飼哲夫, タロのこのごろ, 婦人之友, 57 (9)	有	有
犬飼 1963i	犬飼哲夫執筆, 北海道文化財 (アイヌのまるきぶね / 北見小清水海岸 / オオミズナギドリ繁殖地 / 春採湖 / 北海道犬 / 大黒鳥 / 「語る」, 北海道教育委員会, 141p	有	無
犬飼 1963j	犬飼哲夫, 千島アイヌの鳥皮衣, 北方文化研究報告, 18, 71-78	有	有
犬飼 1964a	T. Inukai, Experimentelle Untersuchungen über die Wirkung von Vitamin H bei Nerzen., Vet.medz.Nachr., 1964, 171-176	無	-
犬飼 1964b	犬飼哲夫, 日本の自然, エコノミスト, 42 (37), 92-93	無	-
犬飼 1964c	犬飼哲夫, 日本の山水と沿岸漁業, エコノミスト, 42 (41), 60-61	無	-
犬飼 1964d	犬飼哲夫, クマと冷害, エコノミスト, 42 (46), 64-65	無	-
犬飼 1964e	犬飼哲夫, クマ騒動後日談, エコノミスト, 42 (53), 54-55	無	-
犬飼 1964f	犬飼哲夫, 秘境・大雪山をさぐる, 科学朝日, 24 (11), 97-103	有	有
犬飼 1964g	犬飼哲夫, 北辺の野生動物たち, 科学朝日, 24 (4), 123-130	有	有
犬飼 1964h	犬飼哲夫, 学生とアルバイト, 教育月報, 166, 24-25	無	-
犬飼 1964i	犬飼哲夫, 日本のクマの生活, 子供の科学, 27 (15), 28-29	有	有
犬飼 1964j	犬飼哲夫, 山口県下のノネズミの被害, 森林防疫ニュース, 13 (7), 11-13	有	無
犬飼 1964k	犬飼哲夫, 信州の人 老いることを忘れた人, 日本の屋根, 5 (12), 10	有	無
犬飼 1964l	犬飼哲夫, 北海道のカラス, 農薬の進歩, 10, 24-25	無	-
犬飼 1964m	犬飼哲夫, クマ退治裏ばなし, 農薬の進歩, 10, 52-53	無	-
犬飼 1964n	犬飼哲夫, 知床半島, 文化財調査概要報告書, 北海道教育委員会, 昭和 38 年, 46-50	無	-
犬飼 1964o	犬飼哲夫, 太田嘉四夫, 阿部永, 小林恒明, サロベツ総合調査中間報告書 生物部門, 北海道開発局, 昭和 39 年, 26-27	無	-
犬飼 1964p	犬飼哲夫執筆, 北海道文化財, 北海道教育委員会, 第 6 集 アイヌ文化篇	有	有
犬飼 1964q	犬飼哲夫, 森林と毛皮, 林, 150, 1-4	無	-
犬飼 1965a	犬飼哲夫, ヘビのはたらき, でんでん, 46, 1-2	有	無
犬飼 1965b	犬飼哲夫, 自然保護とそのあゆみ, 札幌林友, 121, 40-54	無	-
犬飼 1965c	犬飼哲夫他, 動物の実験室北海道 (対談), 週刊朝日, 70 (38), 32-35	有	無
犬飼 1965d	犬飼哲夫, 毛皮十話, 十人百話, 毎日新聞社, 9, 5-21	無	-
犬飼 1965e	犬飼哲夫, トムラウシ渓谷の動物生態, 大雪山: 特別調査報告, 北海道文化財シリーズ, 7, 25-26	有	無
犬飼 1965f	犬飼哲夫, 大雪山について, 大雪山: 特別調査報告, 北海道文化財シリーズ, 7, 5-10	有	無
犬飼 1965g	犬飼哲夫, 大雪山の動物, 大雪山のあゆみ / 層雲峡観光協会, 74-79	有	無
犬飼 1965h	犬飼哲夫, 長野県の県鳥は?, 日本の屋根, 6 (1), 5	無	-
犬飼 1965i	犬飼哲夫, 海獣のさまざま, 農薬の進歩, 11 (1), 34-35	無	-
犬飼 1965j	犬飼哲夫, ハワイの日米農薬会議と諸問題, 農薬の進歩, 11 (2), 1-8	有	有
犬飼 1965k	犬飼哲夫, 最後の秘境 知床の自然美, 北海道, 46, 9	無	-
犬飼 1965l	犬飼哲夫, 観光開発と裏大雪および知床の自然, 北海道自保協誌, 1, 6-7	無	-
犬飼 1965m	犬飼哲夫, 釧路アイヌの鮭のテシ漁, 北方文化研究報告, 20, 109-118	有	有
犬飼 1965n	犬飼哲夫, 日本学術会議の性格と委員会活動, 北方林業, 17 (9), 32-33	無	-
犬飼 1965o	犬飼哲夫, 北海道中央山系中部連峰の名称, 林, 1965 (9), 2-4	無	-
犬飼 1966a	犬飼哲夫, 自然保護と観光, 自然保護研究, 1, 12-13	無	-
犬飼 1966b	犬飼哲夫, 欧米博物館とその規模, 第 14 回全国博物館大会報告書 講演要旨, 9	無	-
犬飼 1966c	犬飼哲夫, 野趣を求めて, 朝日ジャーナル, 8 (34)	無	-
犬飼 1966d	犬飼哲夫, ルソーと現代教育, 都留文科大学教育学会誌, 1, 11-20	無	-
犬飼 1966e	犬飼哲夫, ヒグマの毒殺試験, 日本応用動物昆虫学会大会講演要旨, 10, 38	無	-
犬飼 1966f	犬飼哲夫, 農村とヒグマ, 農薬グラフ, 20, 7	有	有
犬飼 1966g	犬飼哲夫, 脊椎動物発生学 (久米又三編 魚類・爬虫類), 培風館, 99-210	有	有
犬飼 1966h	犬飼哲夫, 開拓記念物等調査報告 胆振地区, 北海道開拓記念物等現地調査概要報告書, 昭和 39・40 年度, 61-62	有	無
犬飼 1966i	犬飼哲夫, 開拓記念物等調査報告 稚内市, 北海道開拓記念物等現地調査概要報告書, 昭和 39・40 年度, 86-89	有	有

文献表記	文献名, 文献情報	画像 有無	対応写真 有無
犬飼 1966j	犬飼哲夫, 阿部永, 小林恒明, サロベツ総合調査中間報告書 生物部門, 北海道開発局, 昭和 41 年, 3-11	無	-
犬飼 1967a	犬飼哲夫, クマの母性愛, PHP, 226, 60-62	無	-
犬飼 1967b	犬飼哲夫, 北海道におけるコウモリの種類および生態, こうもり通信, 7, 1-2	無	-
犬飼 1967c	犬飼哲夫, 服部睦作, 阿部永, 北海道におけるコウモリの分布並に生態に関する研究, こうもり通信, 9, 1-2	無	-
犬飼 1967d	犬飼哲夫, 北海道の動物, 遺伝, 21 (8), 43-46	有	有
犬飼 1967e	犬飼哲夫, タンチョウヅルの保護, 科学朝日, 27 (1), 60-61	無	-
犬飼 1967f	犬飼哲夫, 野鳥と文化財, 月刊文化財, 45, 10-13	有	有
犬飼 1967g	犬飼哲夫, 滅らないヒグマの生態, 自然, 22 (5), 68-75	有	有
犬飼 1967h	犬飼哲夫, 自然保護の最近の動向, 自然保護研究, 2, 17-18	無	-
犬飼 1967i	犬飼哲夫, 密漁とライフル銃, 週刊東洋経済, 3335, 110-11	無	-
犬飼 1967j	犬飼哲夫, 知床の鳥獣類, 知床半島: 特別調査報告, 北海道文化財シリーズ, 9, 3-10	有	無
犬飼 1967k	犬飼哲夫, ヒグマの薬殺における二次被害に関する研究, 農林水産業特別試験研究費補助金による試験研究結果概要書, 昭和 41 年度, 83-84	無	-
犬飼 1967l	犬飼哲夫, 自然保護の国際的動向, 北海道自保協誌, 2, 2-3	無	-
犬飼 1967m	犬飼哲夫, 自然保護の現在の問題点, 北海道自保協誌, 3, 1	無	-
犬飼 1967n	犬飼哲夫, 内陸水産資源の保護, 北海道自保協誌, 3, 14-15	無	-
犬飼 1967o	犬飼哲夫, 天北地方の自然と鳥獣, 北方林業, 216, 1-4	有	有
犬飼 1968a	犬飼哲夫, アイヌ漁猟の調査, アイヌ民族資料調査報告, 北海道教育委員会, 125-140	有	有
犬飼 1968b	犬飼哲夫, 獣そのほか, あなたの博物誌: 北海道新聞社編, 59-116	有	有
犬飼 1968c	犬飼哲夫, 阿部永, 服部睦作, コウモリの分布及び生態に関する研究, こうもり通信, 14, 1-2	無	-
犬飼 1968d	犬飼哲夫, 漁業, 開拓記念物概容, 産業関係, 北海道教育委員会, 79-96	有	有
犬飼 1968e	犬飼哲夫, 池田真次郎, 対談, 全猟, 33 (7), 67-73	無	-
犬飼 1968f	犬飼哲夫, 南極のタロは十二歳, 潮, 93, 318-323	有	無
犬飼 1968g	犬飼哲夫他, 北海道地区トップ対談, 通信協会雑誌, 680, 8-21	無	-
犬飼 1968h	犬飼哲夫, 人間が育てた鮭, 暮らしの手帖, 94, 168-179	有	有
犬飼 1968i	犬飼哲夫, 阿部永, 小林恒明, 高安和彦, サロベツ総合調査中間報告書 生物部門, 北海道開発局, 昭和 42 年度, 13-21	無	-
犬飼 1968j	犬飼哲夫, 自然保護と観光, 北海道自保協誌, 4, 1	無	-
犬飼 1968k	犬飼哲夫, アイヌと山, 民族学研究, 32 (4), 328-338	無	-
犬飼 1968l	犬飼哲夫他, てい談 ヒグマ, 林, 194, 21-27	無	-
犬飼 1969a	T. Inukai, Metabolism of strychnine nitrate applied for the control of the bear., Residue Reviews, 25, 315-318	無	-
犬飼 1969b	犬飼哲夫, 「はっつあん」こと初見氏, すこし前の話, 1-2	無	-
犬飼 1969c	犬飼哲夫, タンチョウヅルと北海道, 月刊健康, 59, 5-6	無	-
犬飼 1969d	犬飼哲夫, 自然保護の目標, 自然保護研究, 3, 14-16	無	-
犬飼 1969e	犬飼哲夫担当分, アイヌ民族誌, 第一法規出版, 上下	有	有
犬飼 1969f	犬飼哲夫, 齊藤春雄, 阿部永, 北オホーツク沿岸の鳥獣類, 北オホーツク沿岸文化財調査報告書 / 北海道教育委員会, 1-5	有	有
犬飼 1969g	犬飼哲夫他, アイヌの丸木舟他, 北海道の文化財, 総合編, 158p	有	有
犬飼 1969h	犬飼哲夫, 阿部永, 小林恒明, サロベツ総合調査中間報告書 生物部門, 北海道開発局, 昭和 43 年, 9-19	無	-
犬飼 1969i	犬飼哲夫, 北海道の野生動物の保護, 北方林業, 21 (3), 10-12	無	-
犬飼 1969j	犬飼哲夫, 郵便雑感, 郵政, 21 (8), 53-54	無	-
犬飼 1970a	犬飼哲夫, カラフト犬タロ, Collie Fancy, 137, 2-3	有	無
犬飼 1970b	Tetsuo Inukai, Bear damage and bear control in Japan. Bears- their biology and management Panel5: bears and human beings., IUCN publications; new ser., no. 23 Proc. Intern. Conf. Calgary, Alberta, Canada, 333	無	-
犬飼 1970c	犬飼哲夫, 北海道の自然, アルプ, 145, 5-10	無	-
犬飼 1970d	犬飼哲夫, 間違われたクマとオオカミ, どうぶつと動物園, 1970 (1), 2	無	-
犬飼 1970e	犬飼哲夫, フゴッベ洞窟の発掘動物遺体の特徴, フゴッベ洞窟, ニューサイエンス社, -, 129-132	無	-
犬飼 1970f	犬飼哲夫, 冬季オリンピックと外人, ほっかいどう青少年, 2 (7), 2-3	無	-
犬飼 1970g	犬飼哲夫, 南極で生きぬいたタロ, ゆうびん, 21 (1), 19-20	有	無
犬飼 1970h	犬飼哲夫, 陸上哺乳類, 遺伝, 24 (8), 42-46	有	有
犬飼 1970i	犬飼哲夫, 北海道の自然と保護の問題, 学士会会報, 708, 26-30	無	-
犬飼 1970j	犬飼哲夫, わが著書を語る「わが動物記」, 出版ニュース, 824, 32	無	-
犬飼 1970k	犬飼哲夫, 興安嶺の花, 小原流插花, 70 (8), 16	無	-
犬飼 1970l	犬飼哲夫, 謎の民族アイヌ, 世界, 295, 312-319	有	無
犬飼 1970m	犬飼哲夫他, 幌尻岳の動物 / アポイ岳及びその附近の動物, 日高山脈学術調査報告, 12-16	有	無
犬飼 1970n	犬飼哲夫, わが動物記, 暮らしの手帖社, 353p	無	-

文献表記	文献名, 文献情報	画像 有無	対応写真 有無
犬飼 1970o	犬飼哲夫, 阿部永, 小林恒明, サロベツ総合調査中間報告書 生物部門, 北海道開発局, 昭和 44 年, 14-35	無	-
犬飼 1970p	犬飼哲夫, 野ネズミ駆除初期の思い出, 野ねずみ, 100, 32	有	無
犬飼 1970q	犬飼哲夫, 森林と水産業, 緑の栄光, 16, 10-11	無	-
犬飼 1970r	犬飼哲夫, 南極から帰ってからのタロ, 林, 225, 24-25	有	無
犬飼 1971a	犬飼哲夫, 記念館のアイヌのチセ, 北海道開拓記念館開設準備だより, 2 (5), 5	有	無
犬飼 1971b	犬飼哲夫, 阿部永, 小林恒明, サロベツ総合調査中間報告書 生物部門, 北海道開発局, 昭和 45 年, 11-23	無	-
犬飼 1971	-, 天然記念物の保護の問題, 月刊文化財	-	-
犬飼 1972a	犬飼哲夫, 門崎充昭, ヒグマの歯のいわゆる年輪による年齢測定に関する研究 (予報), 日本応用動物昆虫学会誌, 16, 148-151	有	無
犬飼 1972b	犬飼哲夫, 北大農学部付属博物館の沿革, 農業博物館研究シリーズ, 14, 49-50	無	-
犬飼 1972c	犬飼哲夫, 林業と自然保護, 林, 239, 29-30	無	-
犬飼 1973a	犬飼哲夫, サケの自然史, 自然, 1973 (12), 30-38	有	有
犬飼 1973b	犬飼哲夫, 自然の保護について, 生命ある地球, 67-89	無	-
犬飼 1974a	犬飼哲夫, わが国北方の動物地理学上の諸問題, 第四紀研究, 12, 241-243	無	-
犬飼 1974b	犬飼哲夫, 二つの小島, 中央公論, 1月	無	-
犬飼 1974c	犬飼哲夫, 門崎充昭, ヒグマの歯の年輪形成時期および歯の種類による年輪数について, 日本応用動物昆虫学会誌, 18 (3), 139-144	有	無
犬飼 1975	犬飼哲夫, 北方動物誌, 北苑社, 152p	有	有
犬飼 1975	-, 中央アジアのシルクロード紀行-天山北路の旅-, 北海道自保協誌, 15, 1-7	-	-
犬飼 1976	犬飼哲夫, 森林と水の問題, 北方林業, 29 (6), 141-146	無	-
犬飼 1977	犬飼哲夫, 北海道の自然と開拓による変化 (昭和 52 年 7 月電気学会全国大会における特別講演), 電気学会雑誌, 97 (9), 753-756	無	-
犬飼 1979a	犬飼哲夫, ヒグマのコミュニケーション (生物のコミュニケーション -- 人間以外の生物はいかにして情報を伝達しているのか) -- (哺乳類のコミュニケーション), エレクトロニクス, 24 (6), 53-56	有	有
犬飼 1979b	犬飼哲夫, 動物発生学の研究材料蒐集の余談 (100 周年記念特集), 動物学雑誌, 88 (4), 381-383	無	-
犬飼 1979c	犬飼哲夫, 門崎充昭, 北海道における近年のヒグマによる人の被害, 北海道開拓記念館研究年報, 7, 37-51	無	-
犬飼 1979d	犬飼哲夫, 門崎充昭, 北海道におけるヒグマの冬籠り穴について, 哺乳動物雑, 7 (5・6), 280-299	有	無
犬飼 1981a	犬飼哲夫, 日本南極観測隊と犬ぞり, 極地, 32, 2-8	有	有
犬飼 1981b	犬飼哲夫, 北海道沿岸のトドについて, 北海道開拓記念館研究年報, 9, 1-4	有	無
犬飼 1981	-, 北海道の開拓と自然, 月刊文化財, 209	-	-
犬飼 1982	犬飼哲夫, 飯田汲事, 古島敏雄, 諏訪彰, (信毎選書; 6. 来し方の記)	-	-
犬飼 1982	犬飼哲夫, 門崎充昭, 北海道における近年の飼いグマによる人の被害, 北海道開拓記念館研究年報, 10, 21-30	無	-
犬飼 1983	犬飼哲夫他, 北海道におけるヒグマ捕獲の実態について (1), 北海道開拓記念館研究年報, 11, 1-22	無	-
犬飼 1985	犬飼哲夫, 動物学六十年, 私のなかの歴史, 4, 124-145	有	無
犬飼 1987	犬飼哲夫, 門崎充昭, ヒグマ 北海道の自然, 北海道新聞社, 353pp	有	有
犬飼 1988a	犬飼哲夫, ブラキストン大尉, 近代日本生物学者小伝, 平河出版社, 64-68	有	有
犬飼 1988b	犬飼哲夫, 八田三郎, 近代日本生物学者小伝, 平河出版社, 223-229	有	無
犬飼? a	犬飼哲夫, 野鼠駆除と鼯, 不明, 1-5	無	-
犬飼? b	犬飼哲夫, 北海道の動物考, 不明, 1-4	無	-
犬飼? c	犬飼哲夫, 芳賀良一, 殺鼠剤としての団子の大きさに対するエゾヤチネズミの嗜好, 北海道森林防疫協会, 札幌, 1-4	無	-
名取 1931	Buko Natori, On an ovo-testis found in a Larva of Locust, Podisma sapporo SHIRAKI, Trans. Sap. Nat. His. Soc., 12 (1), 1-5	有	有
名取 1932a	Buko Natori, A supernumerary chromosome found in a Podisma sapporoense Shiraki and its relation to the sex-chromosome, Trans. Sap. Nat. His. Soc., 12 (2・3), 79-84	有	有
名取 1932b	Teijiro Hayashi, Buko Natori, On the vertical distribution of Diaptomus denticornis Wierzejsky var. yezoensis Kokubo in Lake Shikotsu, Trans. Sap. Nat. His. Soc., 12 (2・3), 86-92	無	-
名取 1932c	Teijiro Hayashi, Buko Natori, A biological survey of Lake Kaba, an uncultivated lake, comparing it with Lake Shikotsu, for the purpose of cultivation for fishery, Trans. Sap. Nat. His. Soc., 12 (2・3), 93-99	無	-
名取 1933a	名取武光, 南千島だより, ドルメン, 2 (10), 24	有	有
名取 1933b	名取武光, 積丹半島の遺跡と遺物 (其の一), 蝦夷往来, 10, 135-141	有	有
名取 1933c	名取武光, 後藤寿一, 利尻・礼文島紀行, 蝦夷往来, 11, 199-211	有	有
名取 1933d	名取武光, 北海道江別兵村に於ける竪穴式墳墓の発掘報告, 考古学雑誌, 23 (11), 27-44	有	有
名取 1933e	名取武光, 故篠岡亮一氏の蒐集せる北海道先史的遺物の紹介, 考古学雑誌, 23 (3), 11-17	有	有
名取 1933f	名取武光, 利尻, 礼文両島に於ける考古学的調査報告, 史前学雑誌, 5 (3), 1-30	有	有
名取 1933g	名取武光, 自然的遺物 I 人骨, 北海道原始文化聚英, 1-4	無	-



文献表記	文献名, 文献情報	画像 有無	対応写真 有無
名取 1933h	名取武光, 人為的遺物 I 骨・角・牙・貝器, 北海道原始文化聚英, 29-32	無	-
名取 1933i	犬飼哲夫, 名取武光, 自然的遺物 II 動植物, 北海道原始文化聚英, 4-6	無	-
名取 1933j	犬飼哲夫, 名取武光, 狩猟具及武器, 北海道原始文化聚英, 47-51	無	-
名取 1934a	犬飼哲夫, 名取武光, 北大附属博物館所蔵アイヌ土俗品解説 (1), ドルメン, 3 (2), 31-39	有	有
名取 1934b	名取武光, 北大附属博物館所蔵アイヌ土俗品解説 (2), ドルメン, 3 (4), 13-25	有	無
名取 1934c	名取武光, 北大附属博物館所蔵アイヌ土俗品解説 (3), ドルメン, 3 (7), 59-65	無	-
名取 1934d	名取武光, 最近のバチラーさん, ドルメン, 3 (10), 16-17	無	-
名取 1934e	名取武光, 北大附属博物館所蔵アイヌ土俗品解説 (4), ドルメン, 3 (11), 19-26	有	無
名取 1934f	名取武光, アイヌの埋葬法, 郷土芸術, 3 (7), 68-70	無	-
名取 1934g	名取武光, アイヌの狩猟信仰, 郷土芸術, 3 (9), 10-21	無	-
名取 1934h	名取武光, 熊の身上話 アイヌ説話, 北海, 1 (3), 2-5	無	-
名取 1934i	名取武光, 土器から見た北海道の史前文化, 北海, 1 (4), 2-5	有	有
名取 1934j	名取武光, アイヌの貞操観と羽衣伝説 (上), 北海道倶楽部, 1 (7), 29-34	有	無
名取 1934k	名取武光, アイヌの貞操観と羽衣伝説 (下), 北海道倶楽部, 1 (8), 24-30	有	無
名取 1934	ㄥ, アイヌの狩猟信仰, 獵友会報, 創刊号, 20-31	-	-
名取 1934	ㄥ, アイヌの羽衣伝説, 東京朝日新聞, 8/11-8/15	-	-
名取 1934	ㄥ, オホーツク海岸の原始時代と北方文化 (1) - (4), 北海タイムス, 11/30-12/04	-	-
名取 1934	ㄥ, アイヌの埋葬法, 北海タイムス, 5/26	-	-
名取 1935a	名取武光, 北大附属博物館所蔵アイヌ土俗品解説 (5), ドルメン, 4 (3), 186-192	有	有
名取 1935b	名取武光, 映画になった近文の熊祭, ドルメン, 4 (3), 60-62	無	-
名取 1935c	名取武光, 岩宇地方と私 (上), 岩宇郷土研究, 1 (1), 3	有	有
名取 1935d	名取武光, 岩宇地方と私 (下), 岩宇郷土研究, 1 (2), 6	無	-
名取 1935e	名取武光, 茶津の洞窟, 岩宇郷土研究, 1 (4), 4	有	無
名取 1935f	名取武光, 陰刻ある石斧の新資料, 考古学雑誌, 25 (9), 47-48	有	無
名取 1935g	名取武光, アイヌ犬の身上話, 北海道倶楽部, 2 (4), 32-34	有	無
名取 1935	ㄥ, 土器から見た北海道の史前文化, 柏葉 (帯広中学校柏葉会), 7, 20-22	-	-
名取 1935	ㄥ, アイヌの狩猟信仰の地方相, 北海道帝国大学新聞, 153 11/5	-	-
名取 1936a	名取武光, 北海道帝大農学部附属博物館近況, 考古学雑誌, 26 (9), 581	無	-
名取 1936b	名取武光, 北日本に於ける動物意匠遺物と其の分布相, 単行本 (北大博物館), 34p	有	有
名取 1937	名取武光, 花矢より見たるアイヌ民族—主としてアイヌの花矢の地方型—, 東京人類学会・日本民族学会連合大会第 2 回記事, 101-105	無	-
名取 1938a	名取武光, アイヌ捕鯨記, ドルメン, 4 (9), 23-26	有	無
名取 1938b	名取武光, 北海道の先史時代, 人類学・先史学講座, 6, 1-41	有	有
名取 1938	ㄥ, 狩猟と雪靴, 北海道帝国大学新聞, 208 1/20	-	-
名取 1939a	名取武光, アイヌの矢毒「アイコルチエップ」, ドルメン, 5 (6), 6-7	無	-
名取 1939b	名取武光, 北海道の土器, 人類学・先史学講座, 雄山閣, 10, 1-42	有	有
名取 1939c	名取武光, アイヌの原始狩猟具「ハナレ」と其の地方相, 東京人類学会・日本民族学会連合大会第 3 回記事, 49-51	無	-
名取 1939d	犬飼哲夫, 名取武光, イオマンテ (アイヌの熊祭) の文化的意義とその形式 (1), 北方文化研究報告, 2, 237-271	有	有
名取 1939e	名取武光, 北海道の喜田先生, 歴史地理, 74 (2), 21-22	無	-
名取 1939f	名取武光, 南千島の発掘旅行記, 名取武光著作集 (1972) より	有	有
名取 1939	ㄥ, オコタンベ湖 (上・中・下), 北海タイムス, 5/5-7	-	-
名取 1940a	名取武光, 北海道国後島古釜府に於ける後期薄手縄文土器期の竪穴様墳墓, 考古学, 11 (11), 661-673	有	有
名取 1940b	名取武光, 北海道学界近況, 人類学雑誌, 55 (3), 137	無	-
名取 1940c	名取武光, 削箸・祖印・祖系・祖元及び主神祈り見たる沙流川筋のアイヌ, 人類学雑誌, 55 (5), 203-229	有	無
名取 1940d	名取武光, 北海道噴火湾アイヌの捕鯨, 北方文化研究報告, 3, 137-161	有	有
名取 1940e	犬飼哲夫, 名取武光, イオマンテ (アイヌの熊祭) の文化的意義とその形式 (2), 北方文化研究報告, 3, 79-135	有	有
名取 1941a	名取武光, 沙流アイヌの熊送りに於ける神々の由来とヌサ, 北方文化研究報告, 4, 35-112	有	有
名取 1941b	名取武光, 銚頭寸話, 民族文化, 2 (8), 1	無	-
名取 1942	名取武光, アイヌ民族の精神生活, 北海道文化史考, 37-62	有	有
名取 1943a	名取武光, 月と若水, 北の会報, 1 (1), 12-13	無	-
名取 1943b	名取武光, ピセツ晴雨計, 北の会報, 1 (1), 13	無	-
名取 1943c	名取武光, 拳闘精神と北方原住民, 北の会報, 1 (1), 13-17	無	-
名取 1943d	名取武光, 雪と伝説, 北の会報, 1 (1), 9-11	無	-
名取 1943e	名取武光, 沙流川筋アイヌの家紋と婚姻, 北海道文化史考, 9 (1), 1-11	有	無
名取 1944	名取武光, 生死冠婚等に関する習俗行事, 東亜民族要誌資料 帝国学大学院, 2, 71-100	無	-

文献表記	文献名, 文献情報	画像 有無	対応写真 有無
名取 1945	名取武光, 噴火湾アイヌの捕鯨, 北方文化出版社, 306p	有	有
名取 1946a	名取武光, 探訪余談, 学海, 3 (8), 39-40	無	-
名取 1946b	名取武光, えとびりか, 大道, 1 (7), 18-19	無	-
名取 1946c	名取武光, 鮭衣, 北方風物, 1 (10), 12-13	無	-
名取 1946d	名取武光, 梟の祭 - アイヌ童話 -, 北方風物, 1 (8), 10-11	無	-
名取 1947a	名取武光, 最寄貝塚, あんとろぼす, 8, 18	無	-
名取 1947b	名取武光, 熊まつりの意義, 週刊朝日, 50 (11), 14-15	有	無
名取 1947c	名取武光, モヨロ貝塚, 続随筆北海道, 札幌青磁社, 197-224	無	-
名取 1947d	名取武光, 北海道の遺跡と遺物, 大道, 2 (1), 14-16	無	-
名取 1947e	名取武光, ギリヤークとオロッコの幣と刻印, 民族学研究, 12 (1), 27-32	有	無
名取 1947	名取武光, 貝づか, 子供の国, 55 11/10	-	-
名取 1947	名取武光, モヨロ貝塚(上)(下), 新北海, 7/7-7/8	-	-
名取 1947	-, 夏の夜の鳥 - 僕らのホビイ帖より -, 北海タイムス, 8/16	-	-
名取 1947	-, モヨロ貝塚の木棺, 北海道大学新聞, 317 11/1	-	-
名取 1947	-, エゾセンニウ, 北針, 2 (2), 9-10	-	-
名取 1947	-, アイヌの貞操帯, 毎日新聞, 8/19	-	-
名取 1948a	名取武光, 遼時代の素焼土器, モヨロ遺跡と考古学	有	無
名取 1948b	名取武光, モヨロ遺跡と考古学, 札幌講談社, 214p	有	有
名取 1948c	名取武光, 北海道モヨロ貝塚とオホーツク式文化, 民族学研究, 12 (4), 312-314	無	-
名取 1948d	名取武光, 絵画に現れたオホーツク式文化の舟漁, 民族学研究, 13 (1), 53-57	無	-
名取 1948	-, I氏の像, 新北海, 9/16	-	-
名取 1949a	名取武光, 北海道の住居跡, 北海道先史学十二講, 北方書院, 97-101	無	-
名取 1949b	名取武光, 千歳アイヌの祖印, 民族学研究, 13 (4), 67-71	無	-
名取 1951a	名取武光, アイヌの貞操帯, 毎日情報, 6 (5)	有	無
名取 1951b	名取武光, アイヌ, 児童百科事典, 1, 16-22	無	-
名取 1951c	名取武光, 北海道フゴッベ洞窟の発掘, 民族学研究, 16 (2), 85-86	無	-
名取 1953	名取武光, 峰山巖, 貝殻文様ある円筒形土器, 歴史家, 2, 16-17	無	-
名取 1954a	名取武光, あいぬの「トイチセ」, 釧路博物館新聞, 31, 52-53	無	-
名取 1954b	名取武光, 発掘の注意 (1), 歴史家, 3, 8-11	無	-
名取 1955a	名取武光, 北海道の先住民族, 遺伝, 9 (8), 17-20	有	有
名取 1955b	名取武光, アイヌ (物質文化), 世界大百科事典, 平凡社, 1, 26-27	無	-
武笠 1934	武笠耕三, 南千島の旅, 蝦夷往来, 13, 14-23	有	有
バチェラー 1892	John Batchelor, The Ainu of Japan : the religion, superstitions, and general history of the hairy aborigines of Japan, Religious Tract Society, 336p	有	有
バチェラー 1901	John Batchelor, The Ainu and their folk-lore, Religious Tract Society, 603p	有	有
北大博物館, 犀川会 1932	北海道帝国大学附属博物館・札幌市犀川会, 第一回北海道先史時代遺物展覧会陳列品目録, 蝦夷往来, 6	有	有
グブラー 1931	Arnold Gubler, Die Kurilen: ein geographisch-ethnographischer Beitrag, Aschmann & Scheller, 104p	有	有
山階・池田 1935	Marquis Y. Yamashina and S. Ikeda, A list of birds' skin belonging to Anatidae kept in the University Museum of Sapporo, Trans. Sapporo Nat.Hist.Soc., 14 (1), 57-67	有	有
岡田 1938	岡田正夫, イオマンデ アイヌの熊祭, 月刊小型カメラ, 9 (1), 36-38	有	有
学習院 2006	学習院大学史料館編, 写真集 明治の記憶 - 学習院大学所蔵写真, 吉川弘文館	有	有
河野 1933	樺太の旅, 人類学雑誌, 48 (3) / (5)	参考	参考
犀川会 1933	犀川会編, 北海道原始文化聚英, 民族工芸研究會	参考	参考
米村 1934	米村喜男衛, 網走町モヨロ貝塚に就いて, 北海道倶楽部, 1 (4)	参考	参考
駒井 1959	駒井和愛, 音江 北海道環状列石の研究, 開明堂	参考	参考
知床遺跡調査班 1967	知床遺跡調査班, 知床半島の遺跡, 知床半島 (特別調査報告), 北海道文化財シリーズ, 9, 北海道教育委員会	参考	参考
Allen 1902	Allen, J. A., The hair seals (family Phocidae) of the North Pacific Ocean and Bering Sea, Bulletin of the AMNH ; v. 16, article 34	参考	有
Allen 1903	Allen, J. A., Report on the mammals collected in northeastern Siberia by the Jesup North Pacific Expedition : with itinerary and field notes, by N.G. Buxton. Bulletin of the AMNH ; v. 19, article 4	参考	有
Aubel 1936	The effects of Low-Phosphorus rations on Growing Pigs/Journal of Agricultural Research Vol.52 (2)	参考	有
Schrenck 1881	L. v. Schrenck Die Völker des Amur-Landes	参考	有

文献表記	文献名, 文献情報	画像 有無	対応写真 有無
内田 1957	内田清之助著者代表, 原色動物大圖鑑; 1 脊椎動物 哺乳綱 鳥綱 爬虫綱 両棲綱, 北隆館	参考	有
Yamaha ・ Ishii 1932	Gihei Yamaha and Tomoyuki Ishii, Über die Ionenwirkung auf die Chromosomen der Pollenmutterzellen von Tradescantia reflexa I p.333, CYTOLOGIA Vol.3, No.3	参考	有
Snow 1910	Snow H. J. , In forbidden seas : recollections of sea-otter hunting in the Kurils	参考	有
Ludwig 1896	LUDWIG, Will, Beitrage zur Entwicklungsgeschichte der Reptilien. 3. Die Anlage der Keimblätter bei der Eidechse(Lacerta). Zoologische Jahrbücher. Abteilung für Anatomie und Ontogenie der Tiere bd.9	参考	有
田子 1922	田子 勝彌, 日本近海に産する鯨族に就きて, 動物学雑誌 34(401), 446-479	参考	有

## 〈ネガフォルダ目録解説〉

ネガフォルダ目録は、個々の古写真を対象とするのではなく、35mm スリーブケースやガラス乾板の箱、封筒などの小さなまとまりとしてのネガの情報を示す目録である。個々の写真が持つ情報ではなく、群として持つ情報を喪失しないことと、いつでも原型に復帰できるようにするための基本的情報としての目録である。次ページ以降にまとめた目録は、次のような構成となっている。

- ・NF-ID：ネガフォルダの固有の ID である。個々のネガにはそれぞれこの ID が与えられており、共通の ID を持つネガは、整理時点で同一のグループに属していることになる。
- ・N-ID：当該フォルダに含まれるネガの番号である。
- ・ネガフォルダ記載：フォルダに記載されている写真情報である。判読できない文字は■で示している。大学関係者や文献に引用されている人物を除く人物名は、<< 個人名 >> として表記した。筆跡や記述内容から、撮影者ではなく後世の博物館関係者によって記載されたと判断された記述については、「 」で括って表記した。記載がないものについては《記載なし》と表記した。
- ・撮影年次：記載されている情報に加え、対応するプリント、文献などによって判断される撮影年次を記載した。年次を確定できないものの、調査によって推定された撮影年次を示す場合は、【 】で括って表記した。
- ・フィルムタイプ：35mm ネガフィルム、35mm ハーフ、ガラス乾板などフィルムの形状、サイズを記述した。フォルダ中に複数の形態のネガが含まれている場合は列記した。
- ・文献：フォルダに含まれるネガのいずれかが何らかの文献に利用されている場合、当該文献を文献目録の文献表記に基づいて記述した。
- ・メモ：フォルダに記載がない場合や、含まれるネガの内容が記載と合致しない場合に、おおよその内容について記述した。
- ・留意点：スリーブのパーフォレーション番号から、1本の35mm ネガとして欠落がある場合や、複数のネガの部分が一つのフォルダに混在していることが認められた場合にその情報を記載した。また、分散したネガについて接続するネガが確認された場合についてもその旨を記載した。その他の留意点についてもここに記載した。



NF-ID	N-ID	ネガフォルダ記載	撮影年次 【 】は比定	フィルムタイプ	文献	メモ	留意点
0001	N00001-00024	博物館	【1963年】	35mm	-	1963年の博物館展示リニューアル	
0002	N00025-00060	博物館	【1963年】	35mm	-	1963年の博物館展示リニューアル	
0003	N00061-00081	クマ牧場	【1967年前後か】	35mm	-	登別大湯沼・クマ牧場	
0004	N00082-00094	登別クマ牧場, ユーカラの里	1967年7月	35mm	-		
0005	N00095-00115	ユーカラの里	【1967年前後か】	35mm	-		
0006	N00116-00130	ユーカラの里, 白老	【1969年以前】	35mm	犬飼 1969e		欠落有
0007	N00131-00142	ユーカラの里	【1968年以前】	35mm	犬飼 1968d, 犬飼 1969e		
0008	N00143-00161	ユーカラの里	1967年10月29日	35mm	-		
0009	N00162-00183	ユーカラの里及金山	1967年10月29日	35mm	-		
0010	N00184-00202	ユーカラの里, クジラ	1967年10月29日	35mm	犬飼 1968a	奇鯨の踊り	
0011	N00203-00223	アイヌ墓標	1968年5月15日	35mm	-	墓標製作	ネガフォルダ 192 に連続
0012	N00224-00251	標津クマ		35mm			欠落有
0013	N00252-00273	母葬儀	1962年12月	35mm ハーフ	-		
0014	N00274-00309	サロベツ		35mm		サロベツ総合調査	
0015	N00310-00329	サロベツ	【1962年以前】	35mm	犬飼 1962f	サロベツ総合調査	
0016	N00330-00357	松山	1962年9月	35mm ハーフ	-		
0017	N00358-00389	網走	1962年10月	35mm	-	シヨウドウツバタメ果・網走ミンク養殖場予地	
0018	N00390-00408, N08889-08890	サロベツ	【1962年以前】	35mm	犬飼 1962f		
0019	N00409-00428	日魯村上ミンク	1963年2月12-13日	35mm	-		
0020	N00429-00445	日魯村上ミンク	1963年2月12-13日	35mm	-		
0021	N00446-00451	《記載なし》	【1969年以前】	35mm	犬飼 1969e	アイヌ資料	
0022	N00452-00463	■■■■ buri	【1969年以前】	35mm	犬飼 1969e	アイヌ資料	
0023	N00464-00484	発掘, 板縫船	【1966年5月】	35mm		苫小牧市丸木舟発掘	
0024	N00485-00505	シヤモ■■■		35mm	-	シヤモ販売その他	
0025	N00506-00527	クッタラ湖		35mm	-	クッタラ湖, 登別大湯沼	
0026	N00528-00541	<<個人名>>氏	1967年5月	35mm	-	北大農学部・神奈川県立博物館	混在
0027	N00542-00561	《記載なし》		35mm	-	神奈川県立博物館	
0028	N00562-00581	栄小学校		35mm	-	小学校式典	
0029	N00582-00600	エリモ	1966年11月24-25日	35mm	-	樺葉岬	
0030	N00601-00630	十勝ハッタ塚	1966年11月23日	35mm	-		
0031	N00631-00657	日光		35mm	-		混在 (HPN00652-00657 は NF0032 と関連)
0032	N00658-00663	日光		35mm	-		
0033	N00664-00699	Alaska, <<個人名>>, 及月寒東小学校		35mm	-	アラスカ空港, 北大構内, 小学校式典	

NF-ID	N-ID	ネガフォルダ記載	撮影年次 【 】は比定	フィルムタイプ	文献	メモ	留意点
0034	N00700-00718	北大構内野鼠調査, クラーク会館傍	1967年4月8日	35mm	犬飼 1968b		欠落有
0035	N00719-00740	道犬審査		35mm	-	函館市街, 苫小牧丸木舟	
0036	N00741-00761	小樽トド	1968年7月1日	35mm	-		
0037	N00762-00799	丹頂鶴, 釧路根室	1966年5月10-14日	35mm	-		
0038	N00800-00835	丹頂鶴, 釧路根室	1966年5月10-14日	35mm	-		
0039	N00836-00875	丹頂鶴, 釧路根室	1966年5月10-14日	35mm	-		混在
0040	N00876-00912	丹頂鶴, 釧路根室	1966年5月10-14日	35mm	-	厚岸床潭沼ヒブナ調査	
0041	N00913-00932	《記載なし》		35mm	-	海外, 雪景色の海岸	
0042	N00933-00955	根室開拓記念物		35mm	-	厚岸の文化財写真多数	
0043	N00956-00992	丹頂鶴, 釧路根室, 開拓記念物	1966年3月	35mm	-	釧路, 鶴居の文化財	
0044	N00993-01025	開拓記念物		35mm	-	厚岸の文化財	
0045	N01026-01043	開拓記念物, 釧路鳥取	1966年3月	35mm	-	阿寒町椴田の石碑, その他不明	
0046	N01044-01083	オットセイ, 大槌	1952年6月	35mm	-	イルカ類	混在 (NF0047の一部に接続)
0047	N01084-01122	北見, スエーデン人, オットセイ, 大槌	【1952年6月カ】	35mm	-	イルカ類	混在 (NF0046の一部に接続)
0048	N01123-01157, N08891	オットセイ類, 室蘭	1952年6月9日	35mm	-	北大植物園博物館写真を含む	混在
0049	N01158-01200	アザラシ, 佐渡	1968年7月	35mm ハーフ	-		
0050	N01201-01219	稚内訓練所創設当時	【1956年3月頃】	35mm	-		
0051	N01220-01267	フラトール団子製造, ■氏宅, ブラジル《個人名》氏一行	1952年7-8月	35mm	-	北大植物園内での写真を含む	
0052	N01268-01293	トブネズミ 水稲の被害	1953年9月10日	35mm	-	北大植物園内での写真を含む	混在
0053	N01294-01343	根室 鉄道 十條	1955年7月	35mm	-	鉄道沿線の樹木被害	
0054	N01344-01353	仔熊		35mm	-		
0055	N01354-01374	常盤のクマ	1964年7月20日	35mm	-		
0056	N01375-01395	麗舞熊書	1964年11月	35mm	-		
0057	N01396-01407	タロと孫	1965年3月28日	35mm	-		欠落有
0058	N01408-01426	《記載なし》		35mm	-	南極観測隊壮行会か	
0059	N01427-01459	Amherst	1958年7月6日	35mm	-	マサチューセッツ出張時	欠落有
0060	N01460-01479	知床		35mm	-	アザラシ類	
0061	N01480-01505	一ノ橋	【1952年頃】	35mm	-	下川町の樹木被害	
0062	N01506-01528	道犬	【1966年5月カ】	35mm	-	北海道犬審査	
0063	N01529-01552	人物?	【1960年6月】	35mm	-	国際鳥類保護会議 (ICBP) 北海道見学	欠落有
0064	N01553-01570	IBPC	【1960年6月】	35mm	-	国際鳥類保護会議 (ICBP) 北海道見学	欠落有
0065	N01571-01585	IBPC	【1960年6月】	35mm	-	国際鳥類保護会議 (ICBP) 北海道見学	
0066	N01586-01615	水専 破壊 人物	【1964年】	35mm ハーフ	-	北大農学部水産学講堂の取り壊し	

NF-ID	N-ID	ネガフォルダ記載	撮影年次 【 】は比定	フィルムタイプ	文献	メモ	留意点
0067	N01616-01628	Über den Zahnwechsel des Yezo Braunbären, Ursus arctos yesoensis Lyd.	【1934年以降】	35mm		犬飼論文の複写	
0068	N01629-01657	<<個人名>>	1968年3月30日	35mm			
0069	N01658-01690	島内にて	1961年4-5月	35mm		長野県島内	
0070	N01691-01702	大沼兎狩採集兎 教室白兎		35mm			
0071	N01703-01711	《記載なし》		35mm		オロフレ峠他	混在
0072	N01712-01748	小島	1965年5月16日	35mm ハーフ		松前小島の海鳥調査	
0073	N01749-01763	小島	1965年5月16日	35mm		松前小島の海鳥調査	
0074	N01764-01775, N08892-08894	ニッカの会		35mm			NF0217の一部に接続
0075	N01776-01797	登別クマ	1965年2月	35mm		毛皮オークションを含む	
0076	N01798-01820	登別クマ牧場		35mm			
0077	N01821-01839	登別クマ牧場		35mm			
0078	N01840-01841	クマ牧場 クマの哺乳	1967年7月20日	35mm			
0079	N01842-01877	佐賀		35mm		植物園内の写真,北海道犬審査を含む	
0080	N01878-01919	新潟		35mm ハーフ			
0081	N01920-01962	松本 孫	1964年8月	35mm ハーフ			
0082	N01963-01983	松本の孫達	1965年8月10日	35mm			
0083	N01984-02027	金沢	1968年9月	35mm ハーフ			
0084	N02028-02062	金沢	1966年	35mm		松前城付近の写真を含む	
0085	N02063-02083	香港	【1964年8-9月】	35mm		香港出張前の厚岸写真を含む	
0086	N02084-02106	香港	【1964年9月】	35mm			
0087	N02107-02142	香港	【1964年9月】	35mm		北海道犬審査を含む	
0088	N02143-02177	幕別	1964年3月	35mm	犬飼 1964p	植物園博物館所蔵資料,タロ写真を含む	
0089	N02178-02197	白老民族資料館	1966年6月7日	35mm			
0090	N02198-02210	森(床) アイヌ丸木(層雲峡)	1960年5月16日	35mm	犬飼 1964p, 犬飼 1969e		NF0121と関連
0091	N02211-02230	アカエリカイツブリ 根室	1966年5月	35mm			
0092	N02231-02248	タンチョウ調査	1960年6月19-23日	35mm			
0093	N02249-02281	学会	1960年5月24-28日	35mm		国際鳥類保護会議(ICBP)(於東京)	混在
0094	N02282-02323	沙流川上流	1967年8月23日	35mm			
0095	N02324-02335	豊平アイヌ犬	1968年6月5日	35mm		北海道犬審査会	
0096	N02336-02362	サル川上流	【1967年8月23日頃】	35mm			
0097	N02363-02383	人物		35mm			
0098	N02384-02418	ラウス?		35mm		北大農学部付近	
0099	N02419-02454	阿蘇	1966年7月	35mm			

NF-ID	N-ID	ネガフォルダ記載	撮影年次 【 】は比定	フィルムタイプ	文献	メモ	留意点
0100	N02455-02488	北オホーツク	1966年7月	35mm	犬飼 1967c, 犬飼 1969f	北オホーツク文化財調査	
0101	N02489-02505	小樽水族館	1968年6月13日	35mm	-		
0102	N02506-02527	小樽水族館	1968年6月13日	35mm	-		
0103	N02528-02550	小樽水族館	1968年6月13日	35mm	-		
0104	N02551-02586	小樽水族館	1968年6月13日	35mm	-	ミンク養殖場写真を含む	
0105	N02587-02606	《記載なし》		35mm	-	白老ポロトコタン	
0106	N02607-02640	岩見沢クマ	【1963年以前】	35mm	犬飼 1963b, 犬飼 1967g	岩見沢クマ被害書	
0107	N02641-02663	人物?		35mm	-	島根県立博物館写真を含む	
0108	N02664-02699	孫		35mm	-		
0109	N02700-02730	タロ	【1963年以前】	35mm	犬飼 1963h	ミンク養殖場写真を含む	混在
0110	N02731-02746	旅行	1963年9月5日	35mm	-		
0111	N02747-02773	知床	1963年9月4日	35mm	-		欠落有
0112	N02774-02811	知床	1963年9月4日	35mm	-		
0113	N02812-02847	知床	1963年9月4日	35mm	-		
0114	N02848-02884	知床	1963年9月5日	35mm	-		
0115	N02885-02919	知床	1963年7-9月	35mm	-		
0116	N02920-02957	サロベツ 知床	1963年7-9月	35mm	-		
0117	N02958-02993	知床	1963年9月4日	35mm	-		
0118	N02994-03029	知床	1963年9月4日	35mm	-		
0119	N03030-03064	稚内流水及ハタケ会	1963年3月24日	35mm	-		
0120	N03065-03084	<< 個人名 >>	1963年5月19日	35mm	-		
0121	N03085-03105	層雲峡博物館	1960年5月15日	35mm	-		NF0090と関連
0122	N03106-03134	釧路川		35mm	-		欠落有
0123	N03135-03156	山口県	1964年4月	35mm	-		
0124	N03157-03177	山口県の山	1964年4月	35mm	-		
0125	N03178-03209	山口県の山 野幌	1964年4月	35mm	-		
0126	N03210-03231	山口	【1964年4月頃】	35mm	-		
0127	N03232-03268	塩田ミンク	1961年1月26日	35mm	-		
0128	N03269-03299	IBCP	【1960年5月】	35mm	-	国際鳥類保護会議 (ICBP) 北海道見学	
0129	N03300-03319	IBCP	【1960年5月】	35mm	-	国際鳥類保護会議 (ICBP) 北海道見学	欠落有
0130	N03320-03338	日光	1960年5-6月	35mm	-		
0131	N03339-03360	稚内最北の地 エビ網 ワカサクナイ サロベツ		35mm	-		
0132	N03361-03378	丹頂		35mm	-		
0133	N03379-03410	ミンク 野球		35mm	-	知床写真を含む	欠落有
0134	N03411-03446	稚内	【1966年以前】	35mm	犬飼 1966i	稚内文化財調査	
0135	N03447-03467	稚内	【1966年以前】	35mm	犬飼 1966i	稚内文化財調査	



NT-ID	N-ID	ネガフォルダ記載	撮影年次 【 】は比定	フィルムタイプ	文献	メモ	留意点
0136	N03468-03509	濱辺?		35mm	-	北見枝幸観別川河口他オホーツク写真	混在
0137	N03510-03531	稚内	【1966年以前】	35mm	犬飼 1966i	稚内文化財調査	
0138	N03532-03566	《記載なし》		35mm	-	松前大島ミズナギドリ・植生調査	
0139	N03567-03586	十勝岳		35mm	-		混在
0140	N03587-03623	松前	1966年8月	35mm	-		
0141	N03624-03649	稚内		35mm	-	猿払村写真を含む	欠落有
0142	N03650-03670	《記載なし》		35mm	-	白老ポロトコタン?	
0143	N03671-03691	松前	1966年8月	35mm	-	大沼シカ園写真	
0144	N03692-03728	松前		35mm	-	知内青函トンネル工事写真を含む	
0145	N03729-03766	濱屯別		35mm	-	中頓別鍾乳洞写真, 浜頓別遺跡写真	
0146	N03767-03787	浜トン サルプツ		35mm	-		
0147	N03788-03823	《記載なし》	【1966年】	35mm	-	松前大島	年次は対応プリント記載から
0148	N03824-03858	《記載なし》	【1966年】	35mm	-	松前大島	年次は対応プリント記載から
0149	N03859-03894	《記載なし》	【1966年】	35mm	-	松前大島ミズナギドリ調査, 植生調査	
0150	N03895-03915	《記載なし》	【1966年】	35mm	-	松前大島	
0151	N03916-03944	Denmark		35mm	-		
0152	N03945-03968	Hawai	1965年4月	35mm / ハーフ	-		
0153	N03969-03998	知床	1965年3月24日	35mm	-		欠落有
0154	N03999-04015	知床	1965年3月24日	35mm	-		
0155	N04016-04053	ラウス		35mm/35mm ハーフ	-		混在
0156	N04054-04095	羅臼 Hawai	1965年3-4月	35mm ハーフ	犬飼 1965j	知床写真を含む	欠落有
0157	N04096-04126	《記載なし》		35mm	-	知床写真を含む	
0158	N04127-04162	《記載なし》		35mm	-	海岸調査	
0159	N04163-04203	小島	1965年5月16日	35mm / ハーフ	-		
0160	N04204-04225	小島 ウミネコ (海岸)	【1965年5月】	35mm	-		
0161	N04226-04253	小島 知床	1965年5月	35mm/35mm ハーフ	-		混在
0162	N04254-04269	ヌプリトラウシ	【1964年7月】	35mm	-		混在
0163	N04270-04282	ヌプリトラウシ	【1964年7月】	35mm	-		
0164	N04283-04304	ヌプリトラウシ	【1964年7月】	35mm	-		混在
0165	N04305-04338	ヌプリトラウシ	1964年7月3日	35mm	犬飼 1964f		混在
0166	N04339-04360	ユートムラ, ヌプリトラウシ	【1964年7月】	35mm	犬飼 1964f		混在
0167	N04361-04396	ユートムラウシ	1964年7月1日	35mm	犬飼 1964f		混在
0168	N04397-04432	厚岸	1964年9月1日	35mm	-	厚岸大黒島コジロウミツバム調査	
0169	N04433-04466	山口県	1964年4月	35mm	-		
0170	N04467-04485	《記載なし》		35mm	-	学校調査	
0171	N04486-04523	《記載なし》		35mm	-	学校調査	

NF-ID	N-ID	ネガフォルダ記載	撮影年次 【 】は比定	フィルムタイプ	文献	メモ	留意点
0172	N04524-04544	《記載なし》		35mm	-	学校調査	
0173	N04545-04561	ユキザサ及滝野山	1970年5月26日	35mm	-		
0174	N04562-04571	小学校 信濃中	1970年2月	35mm			
0175	N04572-04591	《記載なし》		35mm		斜里調査	
0176	N04592-04613	《記載なし》		35mm		斜里調査	
0177	N04614-04650	《記載なし》		35mm		釧路地方の漁港写真を含む	NF0202に接続
0178	N04651-04660	《記載なし》		35mm			
0179	N04661-04679	《記載なし》		35mm		アイヌ資料写真を含む	
0180	N04680-04697	カエル	【1968年以前】	35mm	犬飼 1968b	アイヌ資料写真を含む	内田 1957の複写
0181	N04698-04716	《記載なし》		35mm		登別温泉	
0182	N04717-04735	ボロシリ		35mm			
0183	N04736-04772	ボロシリ		35mm			
0184	N04773-04788	水族館		35mm		タロ写真を含む	
0185	N04789-04825	ボロシリ		35mm			
0186	N04826-04839	《記載なし》		35mm			
0187	N04840-04869	■登別	1969年6月	35mm		昭和新山, オロフレ峠, 登別温泉	混在
0188	N04870-04871	白老ヌサ		35mm		白老のヌサ	
0189	N04872-04882	《記載なし》		35mm		ミンクオークション, 伊達市開拓記念館	
0190	N04883-04920	《記載なし》		35mm	岡田 1938	旭川熊送り	
0191	N04921-04943	第2農場 静内アイヌ	1965年11月	35mm		サケの解体	
0192	N04944-04966	アイヌ墓標	1968年5月15日	35mm		墓標製作	NF0011に関連
0193	N04967-04988	アイヌ		35mm		白老町内のヌサなど	NF0291の一部に接続
0194	N04989-05004	《記載なし》		35mm		ヨーロッパの毛皮関連写真を含む	
0195	N05005-05030	《記載なし》		35mm		ヨーロッパの毛皮関連写真を含む	混在
0196	N05031-05042	《記載なし》		35mm		海外写真	
0197	N05043-05087	《記載なし》		35mm ハーフ		アイヌ資料, 犬写真, 海外写真	混在
0198	N05088-05089	《記載なし》		35mm		厚岸床潭沼ヒブナ調査	
0199	N05090-05110	《記載なし》		35mm		標茶町塘路湖付近写真	
0200	N05111-05124	農実卒業生の会	【1958年以降】	35mm			年次は被写体の碑の建立年代から
0201	N05125-05139	《記載なし》		35mm			
0202	N05140-05161	雨竜沼	1969年8月8日	35mm		釧路地方の漁港写真を含む	NF0177から接続
0203	N05162-05181	《記載なし》		35mm		アイヌ資料写真を含む	
0204	N05182-05202	アヤマ園		35mm			
0205	N05203-05213	《記載なし》		35mm			

NF-ID	N-ID	ネガフォルダ記載	撮影年次 【 】は比定	フィルムタイプ	文献	メモ	留意点
0206	N05214-05234	《記載なし》		35mm		山中の調査	
0207	N05235-05247	《記載なし》		35mm		植物調査, 白老コタン	混在
0208	N05248-05253	《記載なし》		35mm		海外での毛皮調査	欠落有
0209	N05254-05256	大阪■港	1969年4月	35mm			
0210	N05257-05259	《記載なし》	【1969年以前】	35mm	犬飼 1969e	アイヌ人物写真	
0211	N05260-05287	《記載なし》		35mm		小学校 (常盤小学校か)	
0212	N05288-05324	金山ダム	1967年9月27日	35mm			
0213	N05325-05345	《記載なし》	1968年5月23日	35mm		飛行機からのスナップ	
0214	N05346-05366	ミソコビ		35mm			
0215	N05367-05404	ルシヤ付近		35mm			
0216	N05405-05426	松本		35mm			
0217	N05427-05447	ニッカの会		35mm			
0218	N05448-05465	北オホツク タロ	【1967年以前】	35mm	犬飼 1967o, 犬飼 1969f		
0219	N05466-05523	Europe		35mm			混在
0220	N05524-05543	登別クマ牧場	1965年12月16日	35mm			
0221	N05544-05579	静内アイヌ	1965年11月4日	35mm	犬飼 1965m, 犬飼 1968h, 犬飼 1969e		
0222	N05580-05599	静内アイヌ	1965年11月4日	35mm			
0223	N05600-05621	静内アイヌ	1965年11月4日	35mm			
0224	N05622-05658	静内アイヌ	1965年11月4日	35mm			
0225	N05659-05694	日高静内アイヌ	1965年11月5日	35mm	犬飼 1965m, 犬飼 1969e		
0226	N05695-05754	アメリカ Barkeley		35mm			混在
0227	N05755-05775	Barkeley		35mm			
0228	N05776-05790	Barkeley		35mm			欠落有
0229	N05791-05805	Alaska		35mm			欠落有
0230	N05806-05836	Alaska		35mm			欠落有
0231	N05837-05856	Alaska		35mm			
0232	N05857-05892	Alaska		35mm			
0233	N05893-05912	Alaska		35mm			
0234	N05913-05936	Alaska		35mm			欠落有
0235	N05937-05966	コウモリ		35mm	犬飼 1968b		
0236	N05967-05978	日高小樽余市	1970年6月	35mm			
0237	N05979-05997	《記載なし》		35mm		登別	
0238	N05998-06019	羅白, 原生花園		35mm			参照: 知床遺跡調査班 1967
0239	N06020-06056	岬 赤岩 赤岩→カンノン		35mm			
0240	N06057-06094	岬		35mm			

NF-ID	N-ID	ネガフオルダ記載	撮影年次 【 】は比定	フィルムタイプ	文献	メモ	留意点
0241	N06095-06128	小樽ニシン御殿	【1968年以前】	35mm	犬飼 1968d		混在
0242	N06129-06155	羅臼岳		35mm			
0243	N06156-06182	《記載なし》		35mm		白老コタン	
0244	N06183-06188	《記載なし》		35mm		鳥	
0245	N06189-06199	夏の熊 支笏で討ったもの (■を食っていたクマ)		35mm			
0246	N06200-06236	塩田ミンク	1961年1月26日	35mm			
0247	N06237-06258	《記載なし》		35mm			
0248	N06259-06296	《記載なし》	【1964年以前】	35mm	犬飼 1964p, 犬飼 1969e	植物園でのアイヌ調査	混在
0249	N06297-06327	イトコ会	1959年	35mm			混在
0250	N06328-06358	藤野沢 小鳥の村	1957年6月7日	35mm			
0251	N06359-06381	《記載なし》		35mm		ミンク養殖場など	
0252	N06382-06407	日東捕鯨 高野山 北野	1960年9月20日	35mm			
0253	N06408-06443	日魯ミンク	1961年3月8日	35mm			
0254	N06444-06484	日魯ミンク	1961年3月8日	35mm			
0255	N06485-06505	日魯ミンク	1961年3月8日	35mm			
0256	N06506-06530	《記載なし》		35mm		樹木被害調査	
0257	N06531-06566	《記載なし》		35mm		史料複写	
0258	N06567-06601	《記載なし》	【1959年以前】	35mm	犬飼 1959e	史料複写	
0259	N06602-06633	《記載なし》		35mm		水産加工場の様子	
0260	N06634-06658	《記載なし》		35mm		樺太犬訓練所	
0261	N06659-06677	《記載なし》		35mm		史料複写	
0262	N06678-06701	《記載なし》		35mm		史料複写	
0263	N06702-06720	《記載なし》		35mm		ミンク養殖場など	
0264	N06721-06754	《記載なし》		35mm		ミンク養殖場など	
0265	N06755-06787	《記載なし》		35mm		ミンク養殖場など	
0266	N06788-06817	《記載なし》		35mm		シカ園など	
0267	N06818-06851	《記載なし》		35mm		ミンク養殖場など	
0268	N06852-06885	《記載なし》		35mm		調査の様子など	
0269	N06886-06904	《記載なし》		35mm		樹木被害調査など	
0270	N06905-06912	《記載なし》		35mm			
0271	N06913-06917	《記載なし》		35mm		ミンク養殖場など	
0272	N06918-06928	《記載なし》		35mm		人物写真など	
0273	N06929-06939	《記載なし》		35mm		樹木被害調査など	
0274	N06940-06948	《記載なし》		35mm	犬飼 1955o	船上での釣りの様子	
0275	N06949-06954	《記載なし》		35mm		ミンク養殖場など	

NF-ID	N-ID	ネガフォルダ記載	撮影年次 【 】は比定	フィルムタイプ	文献	メモ	留意点
0276	N06955-06960	《記載なし》		35mm			
0277	N06961-06966	《記載なし》		35mm		ミンク養殖場など	
0278	N06967-06970	《記載なし》		35mm		人物写真	
0279	N06971-06978	《記載なし》		35mm		樹木被害調査	
0280	N06979-06986	《記載なし》		35mm		樹木被害調査	
0281	N06987-06999	《記載なし》		35mm		日光	
0282	N07000-07005	《記載なし》		35mm		樹木被害調査か	
0283	N07006-07041	《記載なし》		35mm		ミンク養殖場など	混在 (NF0285 に接続)
0284	N07042-07071	《記載なし》		35mm		ミンク養殖場など	
0285	N07072-07089	《記載なし》		35mm		ミンク養殖場など	
0286	N07090-07095	《記載なし》		35mm		ミンク養殖場など	
0287	N07096-07101	《記載なし》		35mm		ミンク養殖場など	
0288	N07102-07107	《記載なし》		35mm		ミンクの輸送 (飛行機)	
0289	N07108-07113	《記載なし》		35mm		シマリスなど	
0290	N07114-07115	《記載なし》		35mm		網走ミンク養殖場	
0291	N07116-07144	《記載なし》	【1969年以前】	35mm	犬飼 1969e	植物園板綴舟他標本 / 白老 / 釧路タン チョウ	混在
0292	N07145-07179	厚岸 コシジロ 大黒島		35mm			
0293	N07180-07215	サロベツのスナムグリ << 個人名 >>	1965年8月9日	35mm			
0294	N07216-07237	タンチョウ調査 釧路原野	1964年12月5日	35mm			
0295	N07238-07258	タンチョウ調査 釧路原野	1964年12月5日	35mm		クマ捕獲 / 釧路温原	
0296	N07259-07277	日光 日米会議	1967年8月17日	35mm		日光 / 日勝峠	混在
0297	N07279-07284	《記載なし》		35mm			
0298	N07285-07303	《記載なし》		35mm		ヒグマ捕獲の様子か	欠落有
0299	N07304-07308	《記載なし》		35mm		樹木被害調査	
0300	N07309-07313	《記載なし》		35mm	犬飼 1955o	樹木被害調査	
0301	N07314-07325	《記載なし》		35mm ハーフ		ジロ展示 / 松本城	
0302	N07326-07328	《記載なし》		35mm		犬審査	
0303	N07329-07333	《記載なし》		35mm		ミンクの輸送	
0304	N07334-07338	《記載なし》		35mm		海岸の様子	
0305	N07339-07342	《記載なし》		35mm		文献複写	
0306	N07343-07348	《記載なし》		35mm		ネズミ	
0307	N07349-07354	《記載なし》		35mm		樹木被害調査	
0308	N07355-07367	《記載なし》		35mm		風景写真	
0309	N07368-07371	《記載なし》		35mm		ミンクの輸送	
0310	N07372-07373	《記載なし》		35mm		樹木被害調査	



NF-ID	N-ID	ネガフォルダ記載	撮影年次 【 】は比定	フィルムタイプ	文献	メモ	留意点
0311	N07374-07390	《記載なし》		35mm		犬	
0312	N07391-07393	《記載なし》		35mm		人物写真	
0313	N07394-07408	《記載なし》		35mm		ミンク処理の様子など	
0314	N07409-07411	《記載なし》	【1959年以前】	35mm	犬飼 1959e	捕鯨船（文献複写）	
0315	N07412-07444	《記載なし》		35mm		海岸の様子	
0316	N07445-07466	《記載なし》		35mm		千歳ふ化場付近	
0317	N07467-07489	《記載なし》		35mm		旭川アイヌ人物写真	
0318	N07490-07501	《記載なし》		35mm			
0319	N07502-07511	《記載なし》		35mm		養魚場の様子か	
0320	N07512-07524	《記載なし》		35mm	犬飼 1951b	樹木被害調査	
0321	N07525-07537	《記載なし》		35mm		犬など	
0322	N07538-07541	《記載なし》		35mm			
0323	N07542-07569	《記載なし》		35mm		樺丹半島	
0324	N07570-07594	《記載なし》		35mm		海岸の様子	
0325	N07595-07629	《記載なし》		35mm		樹木被害調査	
0326	N07630-07646	《記載なし》		35mm		登山時のスナップ	
0327	N07647-07663	《記載なし》		35mm		海岸の様子	
0328	N07664-07695	クシロ 丹頂 山■	1944年12月	35mm			
0329	N07696-07715	鮭産卵	1959年	35mm			
0330	N07716-07732	<<個人名>>	1956年4月	35mm			
0331	N07733-07753	野兔		35mm			
0332	N07754-07786	富士山麓	1952年3月	35mm			
0333	N07787-07820	蛾眉野	1951年5月2日	35mm			
0334	N07821-07855	藤の沢 ミンク 農試鼠害		35mm			
0335	N07856-07885	野鼠雪の下の跡		35mm			
0336	N07886-07919	旭川アイヌ クマ祭 岡田	【1935年1月】	35mm	犬飼 1943f, 犬飼 1964i, 岡田 1938		
0337	N07920-07952	旭川アイヌ クマ祭 岡田	【1936年1月12日】	35mm	犬飼 1969e, 岡田 1938		旭川ではなく千歳
0338	N07953-07961	旭川アイヌ クマ祭 岡田	【1935年1月】	35mm	岡田 1938		
0339	N07962-07996	道水旅館調査 函館	【1951年以前】	35mm			室蘭博物館建設以前
0340	N07997-08028	アイヌ熊解剖		35mm			
0341	N08029-08044	ガビノ	1951年5月2日	35mm			
0342	N08045-08072	■野 鼠■		35mm			
0343	N08073-08109	<<個人名>>	【1963年以前】	35mm	犬飼 1963c		
0344	N08110-08141	伊豆の山	1954年1月	35mm	犬飼 1954m		
0345	N08142-08174	<<個人名>> 小学校長 <<個人名>>		35mm			

NF-ID	N-ID	ネガフォルダ記載	撮影年次 【 】は比定	フィルムタイプ	文献	メモ	留意点
0346	N08175-08208	大沼鹿の角 塩田養狐 <<個人名>>		35mm			
0347	N08209-08229	Massachusetts Univ.	1956年9月26日	35mm			
0348	N08230-08257	湯川 森町		35mm			
0349	N08258-08290	札幌 民族学会		35mm			
0350	N08291-08351	沼の端 兎書		35mm			
0351	N08352-08401	秋田	【1951年以前】	35mm	犬飼 1951b		混在
0352	N08402-08439	米人鼠調査 十勝 苦小牧		35mm			
0353	N08440-08459	外人苦小牧 鼠書		35mm			
0354	N08460-08508	アザラシ文献 複写	【1902年以降】	35mm			
0355	N08509-08524	《記載なし》		35mm		キャンパス内でのスナップなど	
0356	N08525-08544	《記載なし》		35mm		雪の下のネズミ被害調査か	
0357	N08545-08546	《記載なし》		35mm		樹木被害調査	
0358	N08547-08548	《記載なし》		35mm		ウサギトラップ	
0359	N08549-08554	<<個人名>>		35mm		植物園板綴舟	
0360	N08555-08568	<<個人名>>	1967年	35mm			混在
0361	N08569-08599	<<個人名>> 氏より借用		35mm			
0362	N08600-08623, N9064	根室原野		35mm			
0363	N08624-08656	■	1955年7月	35mm		糠平ダム建設の様子	
0364	N08657-08688	《記載なし》		35mm			
0365	N08689-08708	《記載なし》		35mm		サンショウウオ調査の様子	
0366	N08709-08711	《記載なし》		35mm		サンショウウオ調査の様子	
0367	N08712-08723	南氏 犬ソノ	【1956年頃】	35mm	犬飼 1975	南極犬ぞり訓練所/人物写真	混在
0368	N08724-08742	Audubon Bird Walk	1958年5月10日	35mm			
0369	N08743-08777	Old Dear friend Sugar koaf pantry of Shelborne Fall		35mm			
0370	N08778-08779	《記載なし》		35mm		犬飼哲夫	
0371	N08780-08781	《記載なし》		35mm		海岸の様子	
0372	N08782	《記載なし》		35mm		海岸の様子	
0373	削除						動画 (8mm) を誤登録のため
0374	削除						動画 (8mm) を誤登録のため
0375	削除						動画 (8mm) を誤登録のため
0376	削除						動画 (8mm) を誤登録のため
0377	N08810-08816	《記載なし》		35mm			
0378	N08817-08831	《記載なし》		35mm		雪の下のネズミ被害調査か	
0379	N08832-08853	北村 西川古川の網漁		35mm			
0380	N08854-08855	《記載なし》		35mm			

NF-ID	N-ID	ネガフォルダ記載	撮影年次 【 】は比定	フィルムタイプ	文献	メモ	留意点
0381	N08856-08857	《記載なし》		35mm		樹木被害調査	
0382	N08858-08888	千歳放流 ノートリア 高尾山		35mm			
0383	N08895-08911	Mink Mating	1956年3月	35mm	犬飼 1959c		
0384	N08912-08937	Show 1-11	【1910年以降】	35mm			
0385	N08938-08955	12-30	【1910年以降】	35mm			
0386	N08956-08992	30Page 前後	【1910年以降】	35mm			
0387	N08993-09030	39-71	【1910年以降】	35mm			
0388	N09031-09063	72-86	【1910年以降】	35mm			
1001	1297点	農学部旧蔵シートフィルム・ガラス乾板単体		八田 1911b, 八田 1932, 犬飼 1927a, 犬飼 1929a, 犬飼 1930a, 犬飼 1931g, 犬飼 1932c, 犬飼 1932d, 犬飼 1932f, 犬飼 1933d, 犬飼 1933h, 犬飼 1934b, 犬飼 1934i, 犬飼 1934j, 犬飼 1934l, 犬飼 1935b, 犬飼 1935d, 犬飼 1938c, 犬飼 1938f, 犬飼 1939b, 犬飼 1939e, 犬飼 1939f, 犬飼 1940a, 犬飼 1940c, 犬飼 1941b, 犬飼 1941c, 犬飼 1941d, 犬飼 1941e, 犬飼 1941f, 犬飼 1942b, 犬飼 1942h, 犬飼 1943a, 犬飼 1943f, 犬飼 1949e, 犬飼 1952j, 犬飼 1954a, 犬飼 1955c, 犬飼 1957a, 犬飼 1957b, 犬飼 1959d, 犬飼 1959i, 犬飼 1959m, 犬飼 1961c, 犬飼 1964g, 犬飼 1964p, 犬飼 1969e, 犬飼 1969g, 犬飼 1979a, 名取 1979b, 学習院 2006			
1002	N30185-30186	《記載なし》		フィルム：ベスト判		海外でのスナップ	
1003	N30187-30188	《記載なし》		フィルム：ベスト判		海外でのスナップ	
1004	N30189-30190	《記載なし》		フィルム：ベスト判		海外でのスナップ	
1005	N30191-30192	《記載なし》		フィルム：ベスト判		海外でのスナップ	
1006	N30193-30194	《記載なし》		フィルム：ベスト判		海外でのスナップ (アメリカ)	
1007	N30195-30196	《記載なし》		フィルム：ベスト判		海外でのスナップ	
1008	N30197-30198	《記載なし》		フィルム：ベスト判		海外でのスナップ	
1009	N30199-30201	《記載なし》		フィルム：ベスト判			
1010	N30202-30203	《記載なし》		フィルム：ベスト判			
1011	N30204-30211	《記載なし》		フィルム：ベスト判		シカ圖など	
1012	N30212-30219	《記載なし》		フィルム：ベスト判			
1013	N30220-30222	《記載なし》		フィルム：ベスト判		養狐場など	
1014	N30223-30229	《記載なし》		フィルム：ベスト判			
1015	N30230-30253	《記載なし》		フィルム：ベスト判		道東での調査写真か	
1016	N30254-30261	《記載なし》		フィルム：ベスト判		樹皮舟製作	
1017	N30262-30269	《記載なし》		フィルム：ベスト判		満州か	
1018	N30270-30284	満州	【1942年以前】	フィルム：ベスト判	犬飼 1942d		インデックスに 1-5, 十勝川孵化場 1937, 6: 摩周湖の漁など有
1019	N30285-30352	満州		フィルム：ベスト判			
1020	N30353, N30993-30999	馴鹿		フィルム：ベスト判/ 大名判判			
1021	N30354-30373, N31000-31001	鼠 <<個人名>> 鼠		フィルム：ベスト判/ 大名判判			

NF-ID	N-ID	ネガフォルダ記載	撮影年次 【 】は比定 【1938年以前】	フィルムタイプ	文献	メモ	留意点
1022	N30374-30391	滝沢村ほか	【1938年以前】	フィルム：ベスト判	犬飼 1938c		
1023	N30392-30441	<< 個人名 >> 鼠		フィルム：ベスト判			
1024	N30442-30450	《記載なし》	1937-38年	フィルム：ベスト判		水産調査関連か	
1025	N30451-30458	《記載なし》		フィルム：ベスト判		水産調査関連か	
1026	N30459-30501	満州		フィルム：ベスト判			
1027	N30508-30521, N31076-31124	ドイツ及アメリカ紀行		フィルム：ベスト判/ 大名判			
1028	N30522-30525	札幌市観光/ウニ/予科高商		フィルム：ベスト判			
1029	N30526-30532, N31380-31391	冬季登山 十勝		フィルム：ベスト判/ 手札判			
1030	N30533-30551, N31377-31379	人物		フィルム：ベスト判/ 手札判			
1031	N30552-30560	<< 個人名 >>	1932年4月	フィルム：ベスト判			
1032	N30561-30566	網走■物		フィルム：ベスト判			
1033	N30567-30575	山岳写真 十勝岳合宿	1932年12月22-28日	フィルム：ベスト判			
1034	N30576-30588, N31045-31051, N31393-31397, N31443-31447	《記載なし》		フィルム：ベスト判/ 大名判/手札判/大 判		ドイツか	
1035	N30589-30600	《記載なし》		フィルム：ベスト判		ドイツか	
1036	N30601-30621, N31392	《記載なし》		フィルム：ベスト判/ 手札判		海外でのスナップ	
1037	N30622-30629	札幌岳登山	1930年7月13日	フィルム：ベスト判			
1038	N30630-30642, N31002-31011	《記載なし》		フィルム：ベスト判/ 大名判		海外でのスナップ	
1039	N30643-30650	《記載なし》		フィルム：ベスト判		餌いづま	
1040	N30651-30661	《記載なし》		フィルム：ベスト判		冬山, 大沼公園など	
1041	N30662	《記載なし》		フィルム：ベスト判			
1042	N30663-30673	《記載なし》		フィルム：ベスト判		水産調査関連か	
1043	N30674-30676	《記載なし》		フィルム：ベスト判			
1044	N30677-30683	《記載なし》		フィルム：ベスト判			
1045	N30684-30691	《記載なし》		フィルム：ベスト判			
1046	N30692-30698	《記載なし》		フィルム：ベスト判			
1047	N30699-30703	《記載なし》		フィルム：ベスト判		アイヌ関連写真	
1048	N30704-30742	《記載なし》		フィルム：ベスト判		アイヌ関連写真	
1049	N30743-30746	銀狐オーケション		フィルム：ベスト判			

NF-ID	N-ID	ネガフォルダ記載	撮影年次 【 】は比定	フィルムタイプ	文献	メモ	留意点
1050	N30747-30754	島倉氏出征		フィルム：ベスト判			
1051	N30755-30762	小島村熊被害写真	1933年7月	フィルム：ベスト判			
1052	N30763-30768	小島村熊被害写真	1933年7月	フィルム：ベスト判			
1053	N30769-30771	《記載なし》		フィルム：ベスト判		人物写真	
1054	N30772-30791, N31012-31044, N52054-52055	人物		フィルム：ベスト判/ 大名刺判/乾板：ベスト判			
1055	N31052-31072, N31752	大島	【1959年以前】	フィルム：大名刺判	犬飼 1959m, 犬飼 1959l, 犬飼 1969g		
1056	N31073-31075	熊が喰った林檎及熊退治		フィルム：大名刺判			
1057	N31125-31139	エリモ海豹		フィルム：大名刺判			
1058	N31140-31152	江別のヤツメ		フィルム：大名刺判			
1059	N31153-31162	<< 個人名 >> 熊		フィルム：大名刺判			
1060	N31163-31180	海豹島	【1943年以前】	フィルム：大名刺判	犬飼 1975, 犬飼 1943b		
1061	N31181-31184	麗舞の鳥の被害		フィルム：大名刺判			
1062	N31185-31187	《記載なし》		フィルム：大名刺判		トナカイ	
1063	N31188-31200	軼犬 夏		フィルム：大名刺判			
1064	N31201-31214	帯広獣害専門/ Rein Deer の足	1944年7月	フィルム：大名刺判			
1065	N31216-31222	《記載なし》		フィルム：大名刺判			
1066	N31223-31224	《記載なし》		フィルム：大名刺判			
1067	N31225-31231	《記載なし》		フィルム：大名刺判		飼育下のネズミ	
1068	N31232-31239	《記載なし》		フィルム：大名刺判		海岸の様子	
1069	N31240-31246	《記載なし》		フィルム：大名刺判		樹木被害調査	
1070	N31247-31248	《記載なし》		フィルム：大名刺判		大雪山	
1071	N31249-31261	ナキウサギ		フィルム：ベスト判			
1072	N31357-31368	罾とアイヌ犬 千歳	1935年4月14日	フィルム：手札判	犬飼 1969e		
1073	N31371-31373	ベカ ■ ■ ■ 川 ■ ■ ■		フィルム：手札判			
1074	N31374-31376	《記載なし》		フィルム：手札判		海岸の様子など	
1075	N31448-31449	《記載なし》		フィルム：大判		大雪山	
1076	N31450-31458	大雪山沼の原		フィルム：大判			
1077	N31459-31460	大雪山産ノゴマ及ビンズイの巢		フィルム：大判			
1078	N31461-31463	■ ・ ・ ・ ・ Blakiston		フィルム：大判			
1079	N31464-31467	阿寒調査	1931年7月10-12日	フィルム：大判			
1080	N31468-31470	クレオソート 書		フィルム：大判			
1081	N31471-31472	■ ■ ■ in Aomori の産卵場	1930年4月	フィルム：大判			



NF-ID	N-ID	ネガフォルダ記載	撮影年次 【 】は比定	フィルムタイプ	文献	メモ	留意点
1082	N31473-31525	ドイツ及アメリカ紀行		フィルム：大名刺判/ 犬判			
1083	N31647-31704	トムラウシ/トムラウシ-オブタテシケ		フィルム：ペスト判/ 手札判			
1084	N31705-31737	大雪山沼の原	1931年7月14-18日	フィルム：ペスト判/ 犬手札判			
1085	N31753-31756	Ochotona 生態		フィルム：大名刺判	犬飼 1931c		
1086	N31738-31740	熊の穴 島松	1931年1月28日	フィルム：犬手札判	犬飼 1954a		
1087	N31741	Hynobius lichenatus aus Aomori		フィルム：犬手札判	犬飼 1935h		
2001	N50001-50010	熊祭 於博物館 / << 個人名 >> 熊の解剖	1935年2月17日	乾板：手札判			
2002	N31547-31646, N50011-50013	Ainu Things		フィルム：ペスト判/ 手札判/乾板：手札判			1935年の可能性もあり
2003	N50014-50018	旭川熊祭	1934年1月	乾板：手札判	犬飼 1969e		
2004	N50019-50024	熊祭 博物館	1937年4月27日	乾板：手札判			
2005	N50025	屈斜路アイヌ 熊柵		乾板：手札判			
2006	N50060-50066	罾とアイヌ犬 千歳 アイヌ犬と熊狩	1935年4月14日	乾板：手札判			
2007	N50067-50074	阿寒地方調査	1932年7月	乾板：手札判			
2008	N50075-50086	独木舟造り 樺勘太郎 朱鞠内(雨竜)/アイヌ 独木舟	1937年4月18-21日	乾板：手札判	犬飼 1953g, 犬飼 1964p, 犬飼 1969e		
2009	N31611-31618, N50087-50097	アイヌ皮舟作製 幻燈/アイヌ丸木舟	【1937年4月18-21日】	フィルム：手札判/乾 板：手札判	犬飼 1939f, 犬飼 1964p, 犬飼 1969e		
2010	N50101-50110	博物館 熊の解剖/博物館 罾アイヌ式解剖	1933年12月10日	乾板：手札判	犬飼 1935h		
2011	N31603-31607, N50111-50122	ウンメンケ?		フィルム：手札判/乾 板：手札判			
2012	N50123-50126	旭川熊祭	1935年1月	乾板：手札判			
2013	N50127-50129	アイヌ鹿猟		乾板：手札判	犬飼 1952j, 犬飼 1955c, 犬飼 1957a, 犬飼 1964p		
2014	N50130-50132	Ribbon Seal 及 Common Seal の胃袋		乾板：手札判	犬飼 1941b	Ribbon Seal VII 1940 Shikka/Seal Stomak Used as oilseae of Orochon VII 1940	
2015	N50134-50135	土器発掘の状 江別町村農場及 Ethnology	1931年10月11日	乾板：手札判			
2016	N31715-31720, N50136	江別町村農場発掘の時	1930年11月	フィルム：犬手札判/ 乾板：手札判	名取 1933d, 名取 1939b		
2017	N31529-31531, N50141-50146	月寒の熊の足跡	1935年9月22日	フィルム：ペスト判/ 乾板：手札判	犬飼 1934i		
2018	N31619-31627, N50147-50149	鹿舞の熊書		フィルム：手札判/ 乾板：手札判	犬飼 1936c, 犬飼 1947c		

NF-ID	N-ID	ネガフォルダ記載	撮影年次 【 】は比定	フィルムタイプ	文献	メモ	留意点
2019	N50150-50153	熱布熊		乾板：手札判			
2020	N50154-50160	罌		乾板：手札判	犬飼 1987		
2021	N31601-31602, N50161-50169	罌		フィルム：手札判/ 乾板：手札判	犬飼 1950a		
2022	N50170-50179	麗舞村熊被害	1934年4月20日	乾板：手札判	犬飼 1987		
2023	N50180-50182	<<個人名>>の熊被害		乾板：手札判			
2024	N31608-31610, N50183-50184	熊の跡 足爪		フィルム：手札判/ 乾板：手札判			
2025	N50185	エトロフ共喰と熊	1935年	乾板：手札判			
2026	N50186-50189	録函熊		乾板：手札判			
2027	N50266-50274	阿寒地方調査	1932年7月	乾板：手札判	犬飼 1934k		
2028	N31628-31632, N50275-50279	銅多峰時任牧場	1933年5月28日	フィルム：手札判/ 乾板：手札判			
2029	N50280-50284	八雲旅行 狼頭骨 熊大根喰フ、遊楽部岳、 ■ノ祭段、プー、エカシケナル	1933年11月26日	乾板：手札判			
2030	N50285-50289	満州犬 毛皮	1937年7月13日	乾板：手札判	犬飼 1938f		
2031	N50290-50294	イタチ食性写真	1935年12月21日	乾板：手札判			
2032	N50295-50299	A Mammal General/罌		乾板：手札判	犬飼 1934l		
2033	N31722-31724, N50307	《記載なし》		フィルム：大手札判/ 乾板：手札判		苫小牧の鳥か	
2034	N50308-50321	野幌生態		乾板：手札判	犬飼 1934l		
2035	N50322-50338	野幌生態 II		乾板：手札判	犬飼 1934l		
2036	N31532, N31587-31591, N50339-50352	《記載なし》		フィルム：ペスト判/ 手札判/乾板：手札判	犬飼 1932f	剥製など	ボジ幻燈板
2037	N50353-50362	野幌生態写真 エゾオホアマガラ Hymobiusノ卵 鼠が食った木	1934年4月29日	乾板：手札判	犬飼 1934l, 犬飼 1968b		
2038	N31581, N50363-50369	Mammal 生態		フィルム：手札判/乾 板：手札判	犬飼 1937a		
2039	N50370-50373	小島村		乾板：手札判			
2040	N50374-50379	札幌附近の鱈漁	1936年9月13日	乾板：手札判			
2041	N31633-31640, N50380-50387	大沼の鹿		フィルム：手札判/乾 板：手札判			
2042	N50388-50395, N52007-52008	満州毛皮		乾板：手札判/ペスト 判	犬飼 1938g		
2043	N50409	Ochotona 生態 大雪山	1931年9月19日	乾板：手札判			

NF-ID	N-ID	ネガフォルダ記載	撮影年次 【 】は比定	フィルムタイプ	文献	メモ	留意点
2044	N50410	Ochotona 生態 大雪山	1931年9月19日	乾板：手札判			
2045	N50411-50413	オコトナーの巣	1936年	乾板：手札判			
2046	N50414	《記載なし》		乾板：手札判		シカ頭骨	
2047	N50415-50423	Ochotona		乾板：手札判	犬飼 1931c, 犬飼 1932f		
2048	N50424-50434	Mammal 生態		乾板：手札判	犬飼 1939c		
2049	N50435-50449, N52091	アイヌ犬展覧会 丸井呉服店	1935年5月11日	乾板：手札判/キャビ ネ判			
2050	N50450-50451	エゾヤマドリ		乾板：手札判			
2051	N50514-50530	阿寒屈斜路	1933年	乾板：手札判	犬飼 1934k, 犬飼 1942d, 名取 1939b		
2052	N50531-50532	Travel and micera 1. 大雪山修学旅行 2. Blakiston の Handwriting	1932年	乾板：手札判			
2053	N50533	瀧の沢		乾板：手札判			
2054	N50709	《記載なし》		乾板：手札判		顕微鏡写真	
2055	N50710	《記載なし》		乾板：手札判		顕微鏡写真	
2056	N50711-50712	《記載なし》		乾板：手札判		顕微鏡写真顕微鏡写真	
2057	N50713-50714	《記載なし》		乾板：手札判			
2058	N50720-50721	<< 個人名 >>		乾板：手札判			
2059	N50730	崎形卵 秋田 << 個人名 >>	1951年8月	乾板：手札判			
2060	N50742	アイヌ鮭漁		乾板：手札判			
2061	N50749-50751	《記載なし》		乾板：手札判		発生写真	
2062	N50823-50830	伊藤秀五郎論文関係		乾板：手札判			
2063	N50831-50842	原稿用複写 犬飼先生用	1938年1月	乾板：手札判	犬飼 1938c, 犬飼 1939b, 犬飼 1962b		
2064	N50843-50845	熊ノ毛更り 博物館		乾板：手札判			
2065	N50846-50853	小島村熊笹書写真		乾板：手札判			
2066	N50854-50869	《記載なし》	1924年9月	乾板：手札判		顕微鏡写真	
2067	N31586, N50876-50877	子供 野外桑園学校	1934年6月3日	フィルム：手札判/乾 板：手札判			
2068	N50912-50920	Variation of ■■■		乾板：手札判	犬飼 1924		
2069	N50921-50935	《記載なし》		乾板：手札判		顕微鏡写真	
2070	N50936-50952	《記載なし》		乾板：手札判		文献複写	
2071	N50953-50964	Duplicates Poster of Salmo	1924年11月	乾板：手札判			
2072	N50965-50978	《記載なし》		乾板：手札判		顕微鏡写真	
2073	N50979-50987	Duplicates Salam		乾板：手札判			
2074	N50988-51003	《記載なし》		乾板：手札判		顕微鏡写真	

NF-ID	N-ID	ネガフォルダ記載	撮影年次 【 】は比定	フィルムタイプ	文献	メモ	留意点
2075	N51004-51014	Duplicates anterior (Click)		乾板：手札判			
2076	N51015-51025	《記載なし》		乾板：手札判		顕微鏡写真	
2077	N31533-31539, N51026-51029, N52009-52010	Tachidromus Gastrulation?		フィルム：ベスト判/ 乾板：手札判/ベスト判	犬飼 19341		
2078	N51030-51041	Duplicates Click		乾板：手札判		顕微鏡写真	
2079	N51042-51049	発生		乾板：手札判		顕微鏡写真	
2080	N50050-51053	Segmentation of Tachydromus Tach. No.201-o		乾板：手札判		顕微鏡写真	
2081	N51054-51064	《記載なし》		乾板：手札判		顕微鏡写真	
2082	N31540-31546, N31582-31585, N31721, N51183-51191	人物		フィルム：ベスト判/ 手札判/大手札判/乾板：手札判			
2083	N51192-51195	博物館小熊	1934年5月30日	乾板：手札判			
2084	N51198	熟布の熊		乾板：手札判			
2085	N51201, N52060	共喰いイタチ		乾板：手札判/大手札判			
2086	N51202-51204	Parasphenoid von Hynobius		乾板：手札判	犬飼 1932a		
2087	N51205-51206	巽		乾板：手札判			
2088	N51207-51245	B 34-72		乾板：手札判		顕微鏡写真	
2089	N51246-51284	B 73-113		乾板：手札判		顕微鏡写真	
2090	N51285-51310	S 1-26		乾板：手札判		顕微鏡写真	
2091	N51311-51349	1-47 1930	1930年頃	乾板：手札判		顕微鏡写真	
2092	N51350-51387	34-100 1934	1934年頃	乾板：手札判		顕微鏡写真	
2093	N51388-51414	41-64 1934	1934年頃	乾板：手札判		顕微鏡写真	
2094	N51415-51458	92-135 1930	1930年頃	乾板：手札判		顕微鏡写真	
2095	N51459-51496	136-181 1930	1930年頃	乾板：手札判		顕微鏡写真	
2096	N51497-51528	《記載なし》		乾板：手札判		動物（カエル・鳥など）	
2097	N51529-51561	《記載なし》		乾板：手札判		顕微鏡写真	
2098	N51562-51608	437-517 1931	1931年頃	乾板：手札判		顕微鏡写真	
2099	N51609-51649	1-40 1934	1934年頃	乾板：手札判		顕微鏡写真	
2100	N51650-51684	R 1-42		乾板：手札判		顕微鏡写真	
2101	N51685-51711	R 43-3		乾板：手札判		顕微鏡写真	
2102	N51712-51748	264+307 1930	1930年頃	乾板：手札判		顕微鏡写真	
2103	N51749-51783	396+436 1931	1931年頃	乾板：手札判		顕微鏡写真	
2104	N51784	Takydromus No.51		乾板：手札判		顕微鏡写真	

NF-ID	N-ID	ネガフォルダ記載	撮影年次 【 】は比定	フィルムタイプ	文献	メモ	留意点
2105	N51785	Takydromus No.52		乾板：手札判		顕微鏡写真	
2106	N51786	Takydromus No.53		乾板：手札判		顕微鏡写真	
2107	N51787	Takydromus No.54		乾板：手札判		顕微鏡写真	
2108	N51788	Takydromus No.55		乾板：手札判		顕微鏡写真	
2109	N51789-51790	Takydromus No.56		乾板：手札判		顕微鏡写真	
2110	N51791-51792	Takydromus No.69		乾板：手札判		顕微鏡写真	
2111	N51793	Takydromus No.57		乾板：手札判		顕微鏡写真	
2112	N51794	Takydromus No.58		乾板：手札判		顕微鏡写真	
2113	N51795	Takydromus No.59		乾板：手札判		顕微鏡写真	
2114	N51796	Takydromus No.60		乾板：手札判		顕微鏡写真	
2115	N51797	Takydromus No.61		乾板：手札判		顕微鏡写真	
2116	N51798	Takydromus No.62		乾板：手札判		顕微鏡写真	
2117	N51799-51800	Takydromus No.63 ごみの無い方		乾板：手札判		顕微鏡写真	
2118	N51801	Takydromus No.64		乾板：手札判		顕微鏡写真	
2119	N51802	Takydromus No.65		乾板：手札判		顕微鏡写真	
2120	N51803	Takydromus No.66		乾板：手札判		顕微鏡写真	
2121	N51804	Takydromus No.67		乾板：手札判		顕微鏡写真	
2122	N51805	Takydromus No.68		乾板：手札判		顕微鏡写真	
2123	N51806	Takydromus No.70 gastrula		乾板：手札判		顕微鏡写真	
2124	N51807	Takydromus No.71 gastrula		乾板：手札判		顕微鏡写真	
2125	N51808	Takydromus No.72 gastrula		乾板：手札判		顕微鏡写真	
2126	N51809	No. 76 gastrula		乾板：手札判		顕微鏡写真	
2127	N51810	No.77 not printed		乾板：手札判		顕微鏡写真	
2128	N51811	77 gastrula better		乾板：手札判		顕微鏡写真	
2129	N51812	Takydromus No.78 gastrula		乾板：手札判		顕微鏡写真	
2130	N51813	Takydromus No.79 gastrula		乾板：手札判		顕微鏡写真	
2131	N51814	Takydromus No.80 gastrula		乾板：手札判		顕微鏡写真	
2132	N51815	Takydromus No.81 gastrula		乾板：手札判		顕微鏡写真	
2133	N51816	Takydromus No.82 blastula		乾板：手札判		顕微鏡写真	
2134	N51817	Takydromus No.83 gastrula		乾板：手札判		顕微鏡写真	
2135	N51818	Takydromus No.83 earliest stage?		乾板：手札判		顕微鏡写真	
2136	N51819	Takydromus No.85 gastrula		乾板：手札判		顕微鏡写真	
2137	N51820	Takydromus No.86 gastrula		乾板：手札判		顕微鏡写真	
2138	N51821	Takydromus No.87 gastrula		乾板：手札判		顕微鏡写真	
2139	N51822-51823	Takydromus No.93		乾板：手札判		顕微鏡写真	
2140	N51824	Takydromus No.94		乾板：手札判		顕微鏡写真	



NF-ID	N-ID	ネガフォルダ記載	撮影年次 【 】は比定	フィルムタイプ	文献	メモ	留意点
2141	N51825-51826	Takydromus No.97 淡い方を printed		乾板：手札判		顕微鏡写真	
2142	N51827-51828	Takydromus No.99 淡い方を printed		乾板：手札判		顕微鏡写真	
2143	N51829	Takydromus No.100 gastrula		乾板：手札判		顕微鏡写真	
2144	N51830-51831	T.1 1929 Takydromus tachy ■■■		乾板：手札判		顕微鏡写真	
2145	N51835	Copulation marks on the ventral side of female Tachydromus.		乾板：手札判	犬飼 1930a	顕微鏡写真	
2146	N51836	Penis of Tachydromus pull out artificially		乾板：手札判	犬飼 1930a	顕微鏡写真	
2147	N51837	Copulation of Tachydromus		乾板：手札判	犬飼 1930a	顕微鏡写真	
2148	N51538-51839	Tail swelling of the male (Tachydromus)		乾板：手札判	犬飼 1930a	顕微鏡写真	
2149	N51840, N52056	Skin ecdysised (Tachydromus)		乾板：手札判 / 大手札判	犬飼 1930a	顕微鏡写真	
2150	N51841-51842	Skin ecdysised (Tachydromus)	1930年5月	乾板：手札判	犬飼 1930a	顕微鏡写真	
2151	N51843-51844	Young Tachydromus just hatched out		乾板：手札判		顕微鏡写真	
2152	N51845, N52057	Young Tachydromus just hatched out		乾板：手札判 / 大手札判	犬飼 1930a	顕微鏡写真	
2153	N52058-52059	Takydromus egg before hatching		乾板：大手札判		顕微鏡写真	
2154	N51846	Takydromus No. (IO1) =B.1		乾板：手札判		顕微鏡写真	
2155	N51847	Takydromus No. (IO2) =B.2		乾板：手札判		顕微鏡写真	
2156	N51848	Takydromus No. (IO3) =B.3		乾板：手札判		顕微鏡写真	
2157	N51849	Tachydromus B.4		乾板：手札判		顕微鏡写真	
2158	N51850	Tachydromus No. (105) =B.5		乾板：手札判		顕微鏡写真	
2159	N51851	Tachydromus B.6 neurula		乾板：手札判		顕微鏡写真	
2160	N51852	Takydromus No.107 eubryo		乾板：手札判		顕微鏡写真	
2161	N51853	B.8		乾板：手札判		顕微鏡写真	
2162	N51854	B.9		乾板：手札判		顕微鏡写真	
2163	N51855	Tachydromus B10		乾板：手札判		顕微鏡写真	
2164	N51856	Tachydromus B.11		乾板：手札判		顕微鏡写真	
2165	N51865	Tachydromus No.13		乾板：手札判		顕微鏡写真	
2166	N51866	Tachydromus No.14		乾板：手札判		顕微鏡写真	
2167	N51867	Tachydromus No.15		乾板：手札判		顕微鏡写真	
2168	N51868-51871	Tachydromus No.12		乾板：手札判		顕微鏡写真	
2169	N51874-51876	Tachydromus No.16		乾板：手札判		顕微鏡写真	
2170	N51877	Tachydromus No.17		乾板：手札判		顕微鏡写真	
2171	N51878	T. No1 8 segmentation		乾板：手札判		顕微鏡写真	
2172	N51879	Tachydromus No19		乾板：手札判		顕微鏡写真	
2173	N51880	Tachydromus No19'		乾板：手札判		顕微鏡写真	

NT-ID	N-ID	ネガフォルダ記載	撮影年次 【 】は比定	フィルムタイプ	文献	メモ	留意点
2174	N51881	Takydromus No20		乾板：手札判		顕微鏡写真	
2175	N51882-51883	Takydromus No21		乾板：手札判		顕微鏡写真	
2176	N51884	Takydromus No22		乾板：手札判		顕微鏡写真	
2177	N51885	Takydromus No23		乾板：手札判		顕微鏡写真	
2178	N51886	Takydromus No24		乾板：手札判		顕微鏡写真	
2179	N51888-51889	Takydromus No26		乾板：手札判		顕微鏡写真	
2180	N51890	Takydromus No27		乾板：手札判		顕微鏡写真	
2181	N51891	Takydromus No28		乾板：手札判		顕微鏡写真	
2182	N51892	Takydromus No29		乾板：手札判		顕微鏡写真	
2183	N51893	Takydromus No30		乾板：手札判		顕微鏡写真	
2184	N51894	Takydromus No31		乾板：手札判		顕微鏡写真	
2185	N51895	T. No33		乾板：手札判		顕微鏡写真	
2186	N51896	T. No34		乾板：手札判		顕微鏡写真	
2187	N51897-51898	T. No35 若い方を35a Olderを35bとした		乾板：手札判		顕微鏡写真	
2188	N51899	T. No36		乾板：手札判		顕微鏡写真	
2189	N51900-51901	T. No37 薄い方37a 濃い方37b		乾板：手札判		顕微鏡写真	
2190	N51902	T. No38		乾板：手札判		顕微鏡写真	
2191	N51903-51904	T. No39		乾板：手札判		顕微鏡写真	
2192	N51905	T. No40		乾板：手札判		顕微鏡写真	
2193	N51906	T. No41		乾板：手札判		顕微鏡写真	
2194	N51907	T. No42		乾板：手札判		顕微鏡写真	
2195	N51908	T. No43		乾板：手札判		顕微鏡写真	
2196	N51909	T. No44		乾板：手札判		顕微鏡写真	
2197	N51910	T. No45		乾板：手札判		顕微鏡写真	
2198	N51911	T. No46		乾板：手札判		顕微鏡写真	
2199	N51912	T. No47		乾板：手札判		顕微鏡写真	
2200	N51913	T. No48 cut		乾板：手札判		顕微鏡写真	
2201	N51914-51915	T. No49		乾板：手札判		顕微鏡写真	
2202	N51916-51917	Coplation of Lacerta viviparar imm. Zool. Institute Sei. Dep.	1932年6月14日	乾板：手札判		顕微鏡写真	
2203	N51918	Takydromus Gastrulation broken gastrula not printed		乾板：手札判		顕微鏡写真	
2204	N51929	Takydromus No.2 (a とした)		乾板：手札判		顕微鏡写真	
2205	N51933-51934	Takydromus No.3		乾板：手札判		顕微鏡写真	
2206	N51935-51937	31 切片		乾板：手札判		顕微鏡写真	
2207	N51938-51939	Takydromus No.4		乾板：手札判		顕微鏡写真	
2208	N51945-51946	Takydromus No.5		乾板：手札判		顕微鏡写真	

NF-ID	N-ID	ネガフォルダ記載	撮影年次 【 】は比定	フィルムタイプ	文献	メモ	留意点
2209	N51947-51950	Tachydro. T5 (他に better なのがある) 他は無番		乾板：手札判		顕微鏡写真	
2210	N51951	Tachydromus No.6 (surface)		乾板：手札判		顕微鏡写真	
2211	N51952	Tachydromus No.6 (surface) 濃 better		乾板：手札判		顕微鏡写真	
2212	N51953-51954	Tachydromus No.7 Beginning of Gastrulation Print せず 濃い		乾板：手札判		顕微鏡写真	
2213	N51958-51959	Tachydromus No.7 Beginning of Gastrulation 濃い 方が better		乾板：手札判		顕微鏡写真	
2214	N51962-51964	7' 切片		乾板：手札判		顕微鏡写真	
2215	N51966	Tachydromus No.8 printed		乾板：手札判		顕微鏡写真	
2216	N51969-51971	Tachydromus No.8 Segmentation Print せず		乾板：手札判		顕微鏡写真	
2217	N51972	Tachydromus No.9 T9a T9b		乾板：手札判		顕微鏡写真	
2218	N51974-51976	T. No9 Tachydromus segmentation 封筒内の を Printed		乾板：手札判		顕微鏡写真	
2219	N51978-51979	Tachydromus No.10 濃い方を Printed		乾板：手札判		顕微鏡写真	
2220	N51980	Tachydromus No.10 (new replaced) 良		乾板：手札判		顕微鏡写真	
2221	N51981, N52092	Tachydromus No.11		乾板：手札判		顕微鏡写真	
2222	N52015-52019	Breeding Habbits of Hyla.		乾板：ベスト判		顕微鏡写真	
2223	N52020-52022	《記載なし》	1937年	乾板：ベスト判	犬飼 1929a	クマの爪痕など	
2224	N52023-52026	両頭蛇		乾板：ベスト判			
2225	N52027-52035	《記載なし》		乾板：ベスト判		両頭蛇	
2226	N52036-52049	Tomato Twins	1924年9月2日	乾板：ベスト判			
2227	N52050-52053	「熊の共喰の跡」乾板4枚 (千歳)		乾板：ベスト判			
2228	N52062-52065	Albino Eggs of Hinobius elected by matsuo ■ ■ at Kuechan		乾板：大手札判			
2229	N52066	Ochotona 生態		乾板：大手札判			
2230	N52067-52068	ホシガラス生態 大雪山	1931年9月19日	乾板：大手札判			
2231	N52069-52072	S ■ ■ des Salamandus		乾板：手札判			
2232	N52073-52075	大山椒魚 及 ハコネ山椒魚の乾物		乾板：手札判			
2233	N52076-52079	血染めの貝化石 (複写原板) 四板 自修会報 一九二八年 自八三頁 - 至八六頁	1928年以降	乾板：手札判	犬飼 1935c		



NF-ID	N-ID	ネガフォルダ記載	撮影年次 【 】は比定	フィルムタイプ	文献	メモ	留意点
3029	N60589-60601	Supernumerary Chromosome 名取 (印)		乾板：手札判	名取 1932a	3N 14 動物発生 13 枚	
3030	N60602-60614	A3 Duckl		乾板：手札判		3O 15 動物発生 13 枚	
3031	N60615-60630	《記載なし》		乾板：手札判		3P 16 動物発生 16 枚	
3032	N60631-60645	発生 良 赤字十枚		乾板：手札判		3Q 17 動物発生 15 枚	
3033	N60646-60657	Taf VII 7 枚 計 98 枚		乾板：手札判		3R 18 動物発生 12 枚	
3034	N60658-60670	《記載なし》		乾板：手札判		3S 19 動物発生 13 枚	
3035	N60671-60684	《記載なし》		乾板：手札判		3T 20 動物発生 14 枚	
3036	N60685-60699	Inter sex Negative of Photograph 発生		乾板：手札判	名取 1931	3U 21 動物発生 15 枚	
3037	N60700-60708	ハブキ！ ツボ 発生		乾板：手札判		3V 22 動物発生 9 枚	
3038	N60709-60728	発生		乾板：手札判		3W 23 動物発生 20 枚	
3039	N60731-60746, N61110	《記載なし》		乾板：手札判		植物園内の様子など	
3040	N60747-60755	《記載なし》		乾板：手札判		顕微鏡写真	
3041	N60756-60768	Biforation Exp. (3)		乾板：手札判			
3042	N60769-60771	犬文献付図「クマ文献付図」		乾板：手札判			
3043	N60772-60789	《記載なし》		乾板：手札判		文献複写	
3044	N60790-60802	熊の Schadel 「クマの頭骨」		乾板：手札判	犬飼 1934a		
3045	N60803-60815	<< 個人名 >> 「<< 個人名 >> 小樽住居」	1932 年	乾板：手札判			
3046	N60816-60833	<< 個人名 >> 「生物講堂 学生 恐路」	1935 年	乾板：手札判			
3047	N60834-60846	「ツキノワ シカ 頭骨」	1932 年 11 月 18 日	乾板：手札判			
3048	N60847-60856	北田→石田		乾板：手札判			
3049	N60857-60880	《記載なし》		乾板：手札判		人物写真など	
3050	N60881-60885	博物館熊解剖 飼育中檻破壊		乾板：手札判			
3051	N60886-60887	鯨文献付図		乾板：手札判			
3052	N60888-60891	熊文献付図		乾板：手札判			
3053	N60892-60905	「ヒゲマ頭骨」		乾板：手札判	犬飼 1934a	アンゴラ♀×カスタ♂ 1932.VI.28 抹消	
3054	N60932-60943	《記載なし》		乾板：手札判		文献複写など	
3055	N60944-60958	《記載なし》		乾板：手札判		顕微鏡写真	
3056	N60981-60992	犬飼氏 Duplicitas anterior Salamander	1924 年 4 月	乾板：手札判			
3057	N60993-61002, N61246	《記載なし》		乾板：手札判 / 大名判		発生写真	
3058	N61010-61019	エゾヤマドリ体内ニ発生セル寄生菌乾板		乾板：手札判			
3059	N61045-61049	<< 個人名 >>	1934 年 5 月 20 日	乾板：手札判			
3060	N61089-61098	利尻礼文島遺跡調査乾板	1932 年 8 月	乾板：手札判	名取 1933c, 名取 1933f	7B 遺跡 10 枚	
3061	N61111-61121	不審		乾板：手札判		海外でのスナップなど	



NF-ID	N-ID	ネガフォルダ記載	撮影年次 【 】は比定	フィルムタイプ	文献	メモ	留意点
3062	N61122-61137	Hatta 不善		乾板：手札判		顕微鏡写真	
3063	N61138-61142	《記載なし》		乾板：手札判		顕微鏡写真	
3064	N61143-61152	《記載なし》		乾板：手札判			
3065	N61153-61155	Hatta Abzi ■		乾板：手札判			
3066	N61156-61166	《記載なし》		乾板：手札判		海外でのスナップなど	
3067	N61167-61179	<< 個人名 >>		乾板：手札判			
3068	N61180-61197	《記載なし》		乾板：手札判		顕微鏡写真	
3069	N61198-61208	《記載なし》		乾板：手札判		顕微鏡写真	
3070	N61209-61222	《記載なし》		乾板：手札判		顕微鏡写真	
3071	N61223-61224	《記載なし》		乾板：手札判		顕微鏡写真	
3072	N61225-61229	《記載なし》		乾板：手札判		顕微鏡写真	
3073	N61231-61240	八田 山根博士 I		乾板：手札判		3D 4 動物発生 10枚	
3074	N61247-61255	《記載なし》		乾板：大名刺判		人物写真など	
3075	N61256-61260	《記載なし》		乾板：大名刺判		人物写真など	
3076	N61659-61660	エゾヤマドリ分布 食性写真板		乾板：キャビネ判			
3077	N61661-61674	四十四年種板 ■■用 陳列せる鳥類 博物館陳列品 鳥類	1911年	乾板：キャビネ判	犬飼 1943b, 学習院 2006	4K 鳥類 14枚	
3078	N61675-61681	工科焼済		乾板：キャビネ判	学習院 2006	4L 鳥類 7枚	
3079	N61682-61689	鳥類		乾板：キャビネ判	学習院 2006		
3080	N61690-61697	海豹島の正面 原版 オットセイ		乾板：キャビネ判		ID 海豹島のオットセイ 8枚	
3081	N61698-61702	標本並二複写		乾板：キャビネ判		3X 動物発生 5枚	
3082	N61704	色丹島ノ蛇 原版		乾板：キャビネ判			
3083	N61709-61717	《記載なし》		乾板：キャビネ判		サンショウウオなど	
3084	N61741-61746	《記載なし》		乾板：キャビネ判		人物写真など	
3085	N61747-61755	巽 Schadel ヒゲマ頭骨		乾板：キャビネ判			
3086	N61756-61758	《記載なし》		乾板：キャビネ判		植物実験の様子	
3087	N61759-61760	《記載なし》		乾板：キャビネ判		文献複写	
3088	N61761-61766	《記載なし》		乾板：キャビネ判		魚類	
3089	N61767-61783	《記載なし》		乾板：キャビネ判		魚類	
3090	N61784-61790	《記載なし》		乾板：キャビネ判		外国博物館の標本	
3091	N61791-61798	Prof. S. Hatta 14Negative		乾板：キャビネ判		外国博物館の標本	
3092	N61799-61802	《記載なし》		乾板：キャビネ判		植物実験の様子	
3093	N61803-61816	エジプト複写原版		乾板：幻燈		13E エジプト複写原版 14枚	
3094	N61855-61870	園内雑		乾板：幻燈		外国写真スライド	
3095	N61871-61887	人物		乾板：幻燈		外国写真スライド	
3096	N61888-61905	《記載なし》		乾板：幻燈		外国写真スライド	

NF-ID	N-ID	ネガフォルダ記載	撮影年次 【 】は比定	フィルムタイプ	文献	メモ	留意点
3097	N61906-61923	園内		乾板：幻燈		国内寺社等のスライド	
3098	N61924-61931	<<個人名>>親子乾板		乾板：幻燈		聖書の場面などのスライド	
3099	N61932-61945	アイヌ		乾板：幻燈		聖書の場面などのスライド	
3100	N61946-61965	動物類		乾板：幻燈		聖書の場面などのスライド	
3101	N61966-61987	植物		乾板：幻燈		聖書の場面などのスライド	
3102	N70205-70236, N70259-70264, N70421	「北樺太風物?」		フィルム：ベスト判/ 手札判/大手札判/大 名刺判			
3103	N70217-70219	手稲山ノ熊の穴	1931年3月15日	フィルム：大手札判	犬飼 1932d, 犬飼 1987		
3104	N70220	大雪山 リスノ足跡 ホシガラスの生態	1931年9月19日	フィルム：大手札判			
3105	N70221-70222	樺太産ジャコウ鹿のジャコウ玉		フィルム：大手札判			
3106	N70302	ニセコ エゾフジ	1943年5月25日	フィルム：大名刺判			
3107	N70303-70308	《記載なし》		フィルム：大名刺判			
3108	N70309-70317	《記載なし》		フィルム：大名刺判			
3109	N70326-70328	樺太散香 オタスのオロッコ 西海岸タラントマ リ アイヌノ熊ノ檻 水をやるもの Kono Photo	1932年7-8月	フィルム：大名刺判			
3110	N70365-70368	《記載なし》		フィルム：大名刺判		アイヌ人物写真など	
3111	N70497-70510	《記載なし》		フィルム：ベスト判		外国でのスナップなど	
3112	N70511-70523	《記載なし》		フィルム：ベスト判		外国でのスナップなど	
3113	N70524-70529	《記載なし》		フィルム：ベスト判		外国でのスナップなど	
3114	N70530-70532, N71072	鯨鱈人工孵化		フィルム：ベスト判			
3115	N70533-70547	利尻島	1930年7月27-31日	フィルム：ベスト判			
3116	N70548-70555	《記載なし》		フィルム：ベスト判		人物写真など	
3117	N70556-70563	《記載なし》		フィルム：ベスト判		人物写真など	
3118	N70564-70565	《記載なし》		フィルム：ベスト判			
3119	N70566-70567	《記載なし》		フィルム：ベスト判		アイヌ人物写真など	
3120	N70570-70576	古川アイヌ 熊祭り		フィルム：ベスト判			
3121	N70577-70592	No.1 顕微鏡写真		フィルム：ベスト判			
3122	N70593-70608	No.2		フィルム：ベスト判			
3123	N70609-70624	No.3		フィルム：ベスト判			
3124	N70625-70640	No.4		フィルム：ベスト判			
3125	N70641-70656	No.5		フィルム：ベスト判			
3126	N70657-70672	No.6		フィルム：ベスト判			
3127	N70673-70686	No.7		フィルム：ベスト判			
3128	N70687-70702	No.8		フィルム：ベスト判			

NF-ID	N-ID	ネガフォルダ記載	撮影年次 【 】は比定	フィルムタイプ	文献	メモ	留意点
3129	N70703-70718	No.9		フィルム：ベスト判			
3130	N70719-70734	No.10		フィルム：ベスト判			
3131	N70735-70749	No.11		フィルム：ベスト判			
3132	N70750-70765	No.12		フィルム：ベスト判			
3133	N70766-70781	No.13		フィルム：ベスト判			
3134	N70782-70797	No.14		フィルム：ベスト判			
3135	N70798-70813	No.15		フィルム：ベスト判			
3136	N70814-70828	No.16		フィルム：ベスト判			
3137	N70829	ゴダラの巣穴（ツガの木） 高越山約700m	1948年5月16日	35mm		阿部永写真	
3138	N70830	トサムササビ 川島町（自家）	1947年10月10日	35mm		阿部永写真	
3139	N70831	ホホジロ 高越山麓（崖のくぼみ）	1948年4月25日	35mm		阿部永写真	
3140	N70832	フクロウ巢		フィルム：ベスト判		阿部永写真	
3141	N70833	カモシカの頭骨		35mm		阿部永写真	
3142	N70834-70869	貝標本 1 088		35mm			
3143	N70870-70902	貝標本 2 190		35mm			
3144	N70903-70931, N71096-71099	貝標本 3 089		35mm			
3145	N70932-70939	貝標本 4 191		35mm			
3146	N70940-70974	貝標本 5 192 << 個人名 >>		35mm			
3147	N70975-70988	ネガ 5 市役所の山の死ワナ	1959年	35mm			
3148	N70989-70993	《記載なし》		35mm		オオカミ剥製	
3149	N70994-70996	《記載なし》		35mm			
3150	N70997-71002	《記載なし》		35mm			
3151	N71003-71006	《記載なし》		35mm			
3152	N71007-71046	「飼育グマ」		35mm	犬飼 1954a		
3153	N71047-71050	《記載なし》		35mm		鷹狩りの鷹	
3154	N71051-71064	《記載なし》		35mm		漁の様子	
3155	N71073-71074	「ラッコのネガ」		35mm	犬飼 1959c, 犬飼 1968b, 犬飼 1975		
3156	N71075-71092	《記載なし》		35mm		アイヌ民族資料など	

## 〈プリントフォルダ目録解説〉

プリントフォルダ目録は、個々の古写真を対象とするのではなく、プリントが保存されていたアルバムや封筒、箱などの小さなまとまりとしてのプリントの情報を示す目録である。また、プリントとネガの対応関係についても提示することを意図した目録である。次ページ以降にまとめた目録は、次のような構成となっている。

- ・ PF-ID：プリントフォルダの固有の ID である。個々のプリントにはそれぞれこの ID が与えられており、共通の ID を持つプリントは、整理時点で同一のグループに属していることになる。
- ・ P-ID：当該フォルダに含まれるプリントの番号である。
- ・ プリントフォルダ記載：フォルダに記載されている写真情報である。判読できない文字は■で示している。大学関係者や文献に引用されている人物を除く人物名は、<< 個人名 >> として表記した。筆跡や記述内容から、撮影者ではなく後世の博物館関係者によって記載されたと判断された記述については、「 」で括って表記した。記載がないものについては《記載なし》と表記した。
- ・ 撮影年次：記載されている情報に加え、対応するネガ、文献などによって判断される撮影年次を記載した。年次を確定できないものの、調査によって推定された撮影年次を示す場合は、【 】で括って表記した。
- ・ 対応 NF-ID：フォルダに含まれるプリントの原版であるネガが確認された場合に、対応するネガが含まれるネガフォルダの ID を記した。
- ・ 文献：フォルダに含まれるプリントのいずれかが何らかの文献に利用されている場合、当該文献を文献目録の文献表記に基づいて記述した。
- ・ メモ：フォルダに記載がない場合や、含まれるプリントの内容が記載と合致しない場合に、おおよその内容について記述した。
- ・ 留意点：留意すべき情報について記述した。

PF-ID	P-ID	記載目録	撮影年次 【 】は比定	文献	対応 NF-ID	メモ	留意点	
0001	2451点	農学部旧蔵単体プリント	-	犬飼 1929a, 犬飼 1930a, 犬飼 1930b, 犬飼 1931c, 犬飼 1931e, 犬飼 1931g, 犬飼 1932a, 犬飼 1932f, 犬飼 1933d, 犬飼 1933e, 犬飼 1933h, 犬飼 1933i, 犬飼 1934b, 犬飼 1934h, 犬飼 1934k, 犬飼 1934l, 犬飼 1934m, 犬飼 1935b, 犬飼 1936e, 犬飼 1937a, 犬飼 1938c, 犬飼 1938f, 犬飼 1938g, 犬飼 1939b, 犬飼 1939e, 犬飼 1939f, 犬飼 1940a, 犬飼 1940c, 犬飼 1940f, 犬飼 1941a, 犬飼 1941b, 犬飼 1942a, 犬飼 1942b, 犬飼 1942d, 犬飼 1943f, 犬飼 1947c, 犬飼 1949e, 犬飼 1951b, 犬飼 1952j, 犬飼 1954a, 犬飼 1955o, 犬飼 1956g, 犬飼 1957a, 犬飼 1957b, 犬飼 1957h, 犬飼 1958a, 犬飼 1959i, 犬飼 1959l, 犬飼 1959m, 犬飼 1963j, 犬飼 1963k, 犬飼 1964g, 犬飼 1964i, 犬飼 1964p, 犬飼 1965j, 犬飼 1968a, 犬飼 1969e, 犬飼 1973a, 犬飼 1975, 犬飼 1987, 名取 1959b, 名取 1941a, 名取 1942				
0002	P00001-00035	大島の植生及人工施設	1966年6月1日		0138・0147・0148・0149			
0003	P00036-00068	厚岸 コシジロ 大黒島			0292			
0004	P00069-00102	アイヌの鮭の解体 八重九郎氏 静内にて	1965年11月5日		0221・0222・0223・0225			
0005	P00103-00123	静内 ヤスのカムイノミ ヤス漁のカムイ ノミ 静内	1965年11月4日	犬飼 1965m, 犬飼 1969e	0221・0224・0225		HP00123 は別グループの写真	
0006	P00124-00141	白老民俗資料館	1967年6月7日		0089			
0007	P00142-00163	厚岸 トコタン 厚岸床漕沼	1966年5月		0040・0198			
0008	P00164-00199	根室開拓記 根室 釧路	1966年3月		0042・0043・0044			
0009	P00200-00217	厚岸 根室 太田村 開拓記念館	1966年3月		0045			
0010	P00218-00248	大黒島 厚岸	1964年9月1日		0168			
0011	P00249-00284	根室 釧路			0042・0043・0044			
0012	P00285-00314	北オホーツク 松前	1966年		0084・0218			
0013	P00315-00337	釧路 鳥取村 文化財 タンチョウ			0033・0042・0043・0199・0218			
0014	P00338-00373	釧路原野	1966年5月		0037・0038・0039・0040			
0015	P00374-00398	小島			0159・0160			
0016	P00399-00431	知床 シレットコ(冬) アザラシ	1965年3月24日		0153・0154・0218			
0017	P00432-00465	サロベツのスナムグリ <<個人名>>	1965年8月9日		0293			
0018	P00466-00494	サケ解体 アイヌの踊り 八重とその甥 静内にて 静内川の捕獲場	1965年11月5日	犬飼 1969e	0221・0222・0223・0225			
0019	P00495-00531	釧路原野	1966年5月		0037・0038・0039・0040			
0020	P00532-00565	大島のミズナギドリ	1966年6月1日		0138・0142・0147・0149・0150			
0021	P00566-00586	タンチョウ調査 釧路原野	1964年12月5日		0294・0295			
0022	P00587-00618	静内川の舟おろし	1965年11月4日		0221・0224・0225			
0023	P00619-00653	根室水源池 釧路タンチョウ調査の時	1966年5月		0037・0038・0039・0040			
0024	P00654-00674	Hawai	1965年4月		0156			
0025	P00675-00705	ハワイ			0152・0156			
0026	P00706-00717	<<個人名>> Nikkaの会			0074・0217			
0027	P00718-00763	《記載なし》			0177・0178		水産加工場の様子など	
0028	P00764-00785	ミンク, 水族館 小樽 ミンク	1968年9月		0104			
0029	P00786-00800	市役所の北	1970年6月		0173			



PF-ID	P-ID	記載目録	撮影年次 【 】は比定	文献	対応 NF-ID	メモ	留意点
0030	P00801-00806	《記載なし》			0009	調査の様子	
0031	P00807-00832	斜里の調査	1970年1月		0175・0176		
0032	P00833-00883	Barkeley Alaska			0226・0227・0228・0229・0230・ 0232・0234		
0033	P00884-00898	<<個人名>> <<個人名>>			0224	旅行時のスナップ	
0034	P00899-00940	《記載なし》			0079・0139	犬の審査会の写真	
0035	P00941-00943	香港			0087		
0036	P00944-01033	ポロシリ 宮尾			0182・0183・0185		
0037	P01034-01096	沙流川上流 日勝峠 サル川上流	1967年8月22-24日		0094・0096・0296		
0038	P01097-01119	香港			0085・0086		
0039	P01120-01146	《記載なし》			0187	昭和新年など	
0040	P01147-01162	《記載なし》			0171・0172	表彰式の様子など	
0041	P01163-01196	日光			0031・0032・0296		
0042	P01197-01270	Mink			0127・0251・0275・0783・0284・ 0285・0286・0287		
0043	P01271-01316	志賀高原	1962年8月17日		対応なし		
0044	P01317	<<個人名>>			0204		
0045	P01318-01433	新潟佐渡	1968年9月		0049・0080・0083		
0046	P01434-01468	《記載なし》		犬飼 1981a	0069・251	ミンク養殖場、棟上げの様子など	
0047	P01469-01492	《記載なし》			対応なし	ミンク処理の様子	
0048	P01493-01555	野付半島			対応なし		
0049	P01556-01560	《記載なし》			対応なし	卵など	
0050	P01561-01704	北オホーツク			対応なし		
0051	P01705-01709	《記載なし》			0098・0136・0141・0145・0146・0298		
0052	P01710-01733	《記載なし》			対応なし	ミミス調査	
0053	P01734-01749	知床			0034・0291・0359・0360	クラーク会館傍のネズミ被害	
0054	P01750-01822	ハワイ			対応なし		
0055	P01823-01842	《記載なし》			0214	陸を船上から撮影	
0056	P01843-01879	《記載なし》			0215	陸を船上から撮影	
0057	P01880-01885	《記載なし》			0216	犬飼実家の様子か	
0058	P01886-01892	《記載なし》			0220	白老・登別の様子	
0059	P01893-01916	《記載なし》			0235	コウモリ写真など	
0060	P01917-01969	《記載なし》			対応なし	日高軽種馬農協種馬場の様子など	
0061	P01970-01990	《記載なし》			0238		知床遺跡調査班 1967 参照
0062	P01991-02027	《記載なし》			0239・0240	天売島	
0063	P02028-02054	《記載なし》			0240	海岸調査	

PF-ID	P-ID	記載目録	撮影年次 【 】は比定	文献	対応 NF-ID	メモ	留意点
0064	P02055-02060	《記載なし》		犬飼 1968d	0241	ニシン御殿調査	
0065	P02061-02141	《記載なし》			0157・0158・0242	知床調査	
0066	P02142-02144	《記載なし》			0130・0158	日光か	
0067	P02145-02201	十勝ハツタ塚			0029・0030・0226		
0068	P02202-02236	動物		犬飼 1968b	0024・0034・0078・0240・0291		
0069	P02237-02273	《記載なし》			対応なし	クマなど	カラー写真
0070	P02274-02319	松前 福島 道立公園写真			対応なし		
0071	P03991-04003	《記載なし》		犬飼 1932e, 犬飼 1988a	1001・2052・3001	ブラキストン関連	
0072	P04004-04006	《記載なし》			対応なし	犬飼証明写真	
0073	P04411-04487	十勝岳	1967年11月12日		0024・0139		
0074	P04488-04513	帯広 吉田菊太郎 アイヌ		犬飼 1964p	0088		
0075	P04514-04537	白老			0193・0291		
0076	P04538-04561	白老コタン	1965年5月		0243		
0077	P04562-04573	《記載なし》			0191	サケ解体など	
0078	P04574-04635	根室 標準 クマ			0012		
0079	P04636-04662	岩見沢 クマ被害			0106		
0080	P04663-04698	ミンク			0109・0133		
0081	P04699-04737	ツル 自然公園			0132・0291		
0082	P04738-04769	北オーツク (ママ)	1966年7月		0100		
0083	P04770-04820	松前	1966年8月		0140・0144		
0084	P04821-04840	大沼	1966年8月		0143		
0085	P04841-04874	阿蘇	1966年7月		0099		
0086	P04875-04884	野球部 OB			0133		
0087	P04885-04892	知床			0133		
0088	P04893-04901	破岳会			0119		
0089	P04902-04909	ニッカの会			0071・0074・0217		
0090	P04910-04935	稚内 流水			0119		
0091	P04936-04956	<< 個人名 >>			0109・0120		
0092	P04957-04974	《記載なし》			対応なし	発生写真	
0093	P04975-05028	《記載なし》			0026・0035・0074・0082・0217・0296・0360	ミンク養殖場など (雑)	
0094	P05029-05033	クマ			0361		
0095	P05034-05059	《記載なし》			0035・0179	舟	
0096	P05060-05087	裏大雪		犬飼 1964f	0165・0167		
0097	P05088-05112	野兔		犬飼 1955o	対応なし		
0098	P05113-05119	余市郡赤井川村一部 << 個人名 >> 方にて	1932年5月31日		2089		

PF-ID	P-ID	記載目録	撮影年次 【 】は比定	文献	対応 NF-ID	メモ	留意点
0099	P05120-05125	《記載なし》			1001	漁具	
0100	P05126-05128	《記載なし》			対応なし	人物写真	
0101	P05129-05137	《記載なし》		犬飼 1930a	2145・2146・2147・2148・2149・2150	Notes on the Breeding Habits of Takydromus Tachydromoides Schlegel	
0102	P05138-05145	《記載なし》		犬飼 1966g	対応なし	発生写真	
0103	P05146	《記載なし》		犬飼 1966g	対応なし	発生写真	
0104	P05147-05153	《記載なし》		犬飼 1966g	対応なし	発生写真	
0105	P05154-05165	《記載なし》		犬飼 1966g	対応なし	発生写真	
0106	P05166-05167	《記載なし》		犬飼 1932d, 犬飼 1987	3103	ヒグマの穴	
0107	P05168-05169	六 仔熊 (私が飼ったもの)			2083		
0108	P05170-05171	《記載なし》			1001	奇形動物	
0109	P05172-05174	《記載なし》		犬飼 1929a	1001・2224	マムシ	
0110	P05175-05176	《記載なし》			対応なし	発生写真	
0111	P05188-05191	《記載なし》			対応なし		
0112	P05192-05195	《記載なし》			対応なし	トラップ	
0113	P05196-05200	エンゾファンウニ 成熟卵			対応なし		
0114	P05203-05204	《記載なし》			対応なし	雑	
0115	P05205	《記載なし》			対応なし	鳥	
0116	P05413-05424	《記載なし》		犬飼 1930b	対応なし	ナキウサギなど	台紙貼り付け写真
0117	P05425-05433	阿寒	1968 年 6 月		1001・1015		
0118	P05449-05453	《記載なし》			対応なし	アメリカ留学時	
0119	P05454-05463	網走■物			1032		
0120	P05464-05498	《記載なし》			対応なし	アメリカ	
0121	P05606	各界著名人写真展			対応なし		
0122	P05643-05651	《記載なし》			対応なし	ドイツか	
0123	削除				-		
124	P05652-05653	クマ			対応なし		
125	P05654-05656	月寒の熊の足跡	1935 年 9 月 22 日		対応なし		
126	P05657-05667	ウンメンケ?			対応なし		
1001	1830 点	博物館旧蔵単体プリント		犬飼 1930a, 犬飼 1932c, 犬飼 1932f, 犬飼 1933d, 犬飼 1933i, 犬飼 1934i, 犬飼 1934l, 犬飼 1935e, 犬飼 1935f, 犬飼 1935h, 犬飼 1935i, 犬飼 1935j, 犬飼 1936e, 犬飼 1936h, 犬飼 1938c, 犬飼 1938f, 犬飼 1939b, 犬飼 1939f, 犬飼 1939g, 犬飼 1941a, 犬飼 1941b, 犬飼 1941c, 犬飼 1941e, 犬飼 1942b, 犬飼 1942d, 犬飼 1942h, 犬飼 1942i, 犬飼 1943f, 犬飼 1949e, 犬飼 1950a, 犬飼 1951b, 犬飼 1952j, 犬飼 1953g, 犬飼 1954a, 犬飼 1955c, 犬飼 1955o, 犬飼 1957a, 犬飼 1957b, 犬飼 1958a, 犬飼 1958b, 犬飼 1958h, 犬飼 1959c, 犬飼 1959d, 犬飼 1959e, 犬飼 1959f, 犬飼 1959g, 犬飼 1959h, 犬飼 1959i, 犬飼 1959p, 犬飼 1960c, 犬飼 1961c, 犬飼 1962b, 犬飼 1963c, 犬飼 1963j, 犬飼 1964g, 犬飼 1964i, 犬飼 1964j, 犬飼 1964k, 犬飼 1966f, 犬飼 1967d, 犬飼 1967f, 犬飼 1968b, 犬飼 1969e, 犬飼 1970h, 犬飼 1973a, 犬飼 1975, 犬飼 1987, 八田 1910b, 八田 1911b, 八田 1933b, 名取 1939d, 名取 1940c, 学習院 2006			
1002	P31360-31467	《記載なし》			0017・0123・0124・0125・0126・0169	雑	

PF-ID	P-ID	記載目録	撮影年次 【 】は比定	文献	対応 NF-ID	メモ	留意点
1003	P31468-31480	虹別自動車事故	1963 年		対応なし		
1004	P31481-31500	ボロト湖	1965 年 3 月 24 日		対応なし		
1005	P61501-31506	利尻		犬飼 1962g	対応なし		
1006	P31507-31524	島根松江市			0107		
1007	P31525-31551	松本 焼却爐	1964 年		0081・0125・0126		
1008	P31552-31572	登別クマ牧場及ミンクオークション	1965 年 1 月		0075		
1009	P31573-31594	稚内 稚咲内 エビ網 サロベツ湿原	1964 年 8 月		0131		
1010	P31595-31609	糠平 宮脇先生			対応なし		
1011	P31610-31618	各務君送別会			対応なし		
1012	P31619-31669	二国米帯	1959 年 9 月 16 日		対応なし		
1013	P31670-31675	《記載なし》			対応なし	樹木被害調査か	
1014	P31676-31680	《記載なし》			対応なし	樹木被害調査か	
1015	P31681-31701, P32037	「外国風景(アメリカ ニューハンブシヤ ー (犬飼)」			対応なし		後世の包紙のみ
1016	P31702-31717	ミスマイ 林橋口 Com	1964 年 11 月		0056		
1017	P31718-31766	登別クマ牧場			0076・0077		
1018	P31767-31783	スナネズミ			対応なし		
1019	P31784-31793	シヤマカムイノミ		犬飼 1964p, 犬飼 1969e	対応なし		
1020	P31794-31795	熊の親子	1933 年 7 月 1 日		対応なし	風景写真	
1021	P32015-32036	《記載なし》			対応なし		
1022	P32122	カモシカの頭骨			3141		阿部永撮影写真
1023	P32123	アクロウ巢			3140		阿部永撮影写真
1024	P32124	ホホジロ 高越山麓(崖のくぼみ)	1948 年 4 月 25 日		3139		阿部永撮影写真
1025	P32125	トサムササビ 川島町(自家)	1947 年 10 月 10 日		3138		阿部永撮影写真
1026	P32126-32127	コゲラの巣穴(ツガの木) 高越山約 700m	1948 年 5 月 16 日		3137		阿部永撮影写真
1027	P32129-32139	大東町	1960 年 7 月 27 日		対応なし		
1028	P32140-32143	<<個人名>>保管 毛皮外套		犬飼 1959d	対応なし		
1029	P32144-32149	帯農 ■ 帯畜産大			対応なし		
1030	P32150-32151	綿羊の糞による被書	1953 年 9-10 月		対応なし		
1031	P32152-32164	沼之端野兎被書			対応なし		
1032	P32165-32173	千歳上長都野兎被書写真	1952 年 9 月 10 日		対応なし		
1033	P32174-32186	王子西野兎書			対応なし		
1034	P32187-32188	《記載なし》			3001	オオカミ剥製	
1035	P32274-32281	《記載なし》			対応なし	顕微鏡写真	
1036	P32282-32289	《記載なし》			対応なし	顕微鏡写真	
1037	P32290-32292	竅穴 内耳土器原板「土器」			3009		

PF-ID	P-ID	記載目録	撮影年次 【 】は比定	文献	対応 NF-ID	メモ	留意点
1038	P32293-32307	《記載なし》			3090・3091		
1039	P32308-32317	《記載なし》			3090		
1040	P32318	《記載なし》			対応なし		





## 〈主題分類目録解説〉

主題分類目録は、調査された古写真群を内容に基づいて分類した目録である。分類体系は、以下の表に示す大分類—小分類の2段構成とした。この分類が適用できない写真については、目録に掲載していない。

目録は次のような構成となっている。

- ・写真番号:古写真固有のIDを示すもので、Nから始まる番号はネガを、Pから始まる番号はプリントであることを示す。なお、プリントに対応するネガが確認されている場合は、ネガの番号を記載してプリントの番号は記載していない。プリントの場合、焼き増しされたことで同じ写真が複数残されている場合がある。これらの重複写真は統合せず、すべての写真番号が記載されている。
- ・年次:フォルダやプリント裏面、対応する文献などに撮影年次の記載があるものについて、ここにその情報を記した。当欄に【雑】とあるものは、当該分類に含まれる写真ではあるものの、グループとして提示できるだけの情報が不足している写真をまとめたものである。
- ・地名:撮影された市町村名、地域を表す。市町村名称は、撮影された時期を考慮に入れ、「角川日本地名大辞典 北海道」(1987年)による市町村名を用いた。ただし、利尻町および利尻富士町については分類が困難であったことから、利尻として扱った。現在の市町村名との対応関係については、地域分類目録解説に示す別表を参考していただきたい。
- ・事項:グループ化された写真の内容を示している。
- ・文献:グループに含まれる写真が文献に利用されている場合、当該文献を文献目録の文献表記に基づいて示している。
- ・備考:記載事項に疑念がある場合や、推定できる情報を示している。
- ・図版:グループに含まれる写真のうち、図版に掲載したものについて、図版番号と写真番号及び内容を示している。

付表 本目録における分類表

大分類	小分類	
動物	クマ	
	ナキウサギ	
	シカ	
	犬	
	哺乳類(上記を除く)	
	鳥類	
	爬虫類・両生類	
	魚類	
	円口類(ヤツメウナギ)	
	動物その他	
	顕微鏡写真	
アイヌ	熊送り	
	クマ解体	
	シシャモカムイノミ	
	丸木舟・樹皮舟	
	ベカンベ祭	
	山小屋	
	クマ狩り	
	サケ漁	
	サケの解体	
	アイヌその他	
	考古	遺跡
		遺物

大分類	小分類
文化財	道央
	道南
	道東
	道北
調査	哺乳類・鳥類
	水産
	被害(ネズミ・ウサギ)
	被害(クマ)
	調査その他
毛皮	ミンク
	毛皮その他
南極観測	南極観測関連
北海道大学	北大関連
標本	標本
博物館	博物館
山岳部	山岳部
史料・資料	史料・資料
その他	ICBP(国際鳥類保護会議)
その他	民族(アイヌを除く)
人物	人物写真

クマ		クマ		クマ		クマ		クマ	
動物	写真番号	年次	地名	事項	文献	備考			
	N60387	1912年5月23日	利尻	利尻島にわたったヒグマ	八田 1912a, 八田 1913a, 犬飼 1987				
	<u>図版 001 : N60387 : 大塩から利尻に泳ぎ渡ったヒグマ</u>								
	N31738-3140	1931年1月28日	恵庭	島松のクマ穴	犬飼 1954a				
	<u>図版 002 : N31739 : クマの穴 (島松)</u>								
	N70217-70219	1931年3月15日	札幌	手稲山のクマ穴	犬飼 1932d, 犬飼 1987				
	<u>図版 003 : N70219 : クマの穴 (手稲)</u>								
	P31954	1933年7月1日	八雲	木に登る子グマ		八雲松木教諭撮影			
	P31794-31795	1933年7月1日	大雪山	野生のヒグマの親子					
	N60790-60802, N60892-60905	1934年	札幌 (博物館)	ヒグマ頭骨	犬飼 1934a	犬飼・武笠撮影			
	<u>図版 004 : N60792 : ヒグマ頭骨 (博物館標本 HUNHM48846)</u>								
	N51192-51195	1934年5月30日	札幌 (博物館)	飼育子グマ					
	N31608, N50156	1934年8月	-	パンケのヒグマの爪痕					
	N50183	1934年8月	比布	比布のヒグマの爪痕					
	N31529-31531	1935年2月22日	札幌	月寒のヒグマの跡					
	N50141-50146	1935年9月22日	札幌	月寒のヒグマの跡	犬飼 1934i	野幌の報告書 (犬飼 1934i) に掲載されており、年次および撮影データは要検討			
	P30412	1935年9月23日	江別	野幌国有林のヒグマの足跡					
	N50185	1935年12月14日	千島	択捉ヒグマの共食い					
	N52020-52022	1937年	-	ヒグマの爪痕					
	<u>図版 005 : N52022 : ヒグマの爪痕</u>								
	P03669	1952年10月	網走	網走博物館のヒグマ					
	P31955, P31959, P31961	1953年3月15日	-	ヒグマの足サイズ					
	P30933	1953年6月18日	静内	西川奥で駆除されたヒグマ					
	P30080	1954年4月11日	札幌	手稲で捕獲したクマと捕獲者					
	N06189-06199	1956年	札幌	札幌駅付近の剥製社前のヒグマ					
	<u>図版 006 : N06193 : 札幌駅付近の剥製社前のヒグマ (支笏で捕獲されたもの)</u>								
	P30831	1958年10月28日	登別	クマ牧場					
	P30832	1959年	登別	クマ牧場					
	N04385-04389	1964年7月1日	大雪山	トムラウシでヒグマが食べた鹿骨					
	N01778-01785	1965年2月	登別	クマ牧場					
	<u>図版 007 : N01781 : 登別クマ牧場の様子</u>								

N05630-05634	1965年11月	札幌	無意根山荘のヒグマ毛皮		
N05533-05543	1965年12月16日	登別	クマ牧場		
N02457-02462, N05463-05465	1966年7月	雄武	ピヤシリ山中のクマ穴	犬飼 1967o, 犬飼 1969f	
<b>図版 008 : N02462 : クマの巣穴 (ピヤシリ山)</b>					
P31820	1966年9月	大雪山	ヒグマ		
N02187-02191	1967年6月7日	白老	アイヌ民族博物館のヒグマ		
N00087-00089, N01840-01841	1967年7月	登別	クマ牧場		
N05341-05345	1968年5月23日	-	動物園飼育ヒグマ		
N04849-04852	1969年6月	壮瞥	昭和断山観光施設のヒグマ		
N50732	-	-	ヒグマの巣穴	犬飼 1932d, 犬飼 1933d	札幌手稲山か
<b>図版 009 : N50732 : クマの穴</b>					
N50163	-	-	クマの穴の入り口	犬飼 1950a	
N50738, N50740-50741, N71035	-	-	捕獲されたヒグマの親子, 巣穴, 糞	犬飼 1954a, 犬飼 1961c	
<b>図版 010 : N50738 : 捕獲したヒグマ</b>					
N08098, P4042, P04044-04045	-	大雪山	大雪山のヒグマの親子	犬飼 1963c	
<b>図版 011 : N08098 : 大雪山上のヒグマの親子</b>					
P32248	-	-	ナワバリを争うヒグマ	犬飼 1966f	登別か
P02423	-	-	雌熊の乳房	犬飼 1933d	1967年頃か
N00069-00081	-	登別	クマ牧場	-	
N60881-60885	-	札幌 (博物館)	飼育ヒグマの解体の様子		
N50137-50138	-	士別	ヒグマ頭骨		
N50186-50189	-	小樽	錢函のクマ穴		
N52050-52053	-	千歳	ヒグマの共食い		
N01798-01839, N03504-03506, N08555-08556, P04090, P04142, P30383, P30386, P30833, P31758-31766	-	登別	クマ牧場		
P04178, P04180	-	様似	アボイ岳のヒグマの痕跡		
N01344-01353	-	-	飼育子グマ		
N07446-07455, N50843-050845	<b>【雑】</b>	札幌 (博物館)	飼育ヒグマ, 毛皮調査の様子		
N08094-08101, N08573-08587, N31410, N31609, N71012-71020, N71029-71034, N71036-71040, P04035, P30813, P30835, P32238	<b>【雑】</b>	大雪山	ヒグマ親子, ヒグマの足跡など		
N50139-50140, N50245, N50424-50426, N50428, N50739, N60386, N61106-61109, N61601-61613, N61747-61748, N61750-61575, P30288	<b>【雑】</b>	札幌 (博物館)	博物館ヒグマ標本, 骨格標本	八田 1911b, 犬飼 1964i, 犬飼 1979a	
<b>図版 012 : N60386 : 剥製ヒグマ (HUNHM13144 欠)</b>					

N04117-04118, N06706-06707, N30057, N30643-30650, N30684, N31153, N31158-31159, N31610, N50166-50167, N50184, N50733-50735, N50737, N51521-51522, N51528, N61021, N61622, N71041-71046, P02235, P02239-02241, P03776, P04057, P04063, P04175, P04182, P05031, P05033, P05231, P30384-30385, P30387-30393, P30396-30397, P30403, P30457, P30834, P30836, P30847, P31070, P31810, P31815-31819, P31950-31953, P31956-31958, P31962, P32225	【雑】 -	ヒグマ関連写真				
<b>動物</b>						
<b>ナキウサギ</b>						
	写真番号	地名	事項	文献	備考	
P02458	1931年8月15日	大雪山	ナキウサギの巢のある崖壁			
N050231	1931年8月31日	鹿追	然別のナキウサギの糞	犬飼 1932c, 犬飼 1932f		
<b>図版 013 : N50231 : ナキウサギの糞塊 (然別沼)</b>						
N50409-50410	1931年9月19日	大雪山	ナキウサギの生熊			
P30116	1932年8月26日	大雪山	ナキウサギの多くいる岩地			
N50222, N50264	1934年9月12日	鹿追	然別のナキウサギと糞塊			
N50411-50413	1936年	-	ナキウサギの巢 (1936年飼育)			
N61624-61625	1938年10月	-	ナキウサギ			
P05629	1951年8月25日	大雪山	トムラウシのナキウサギ			
<b>図版 014 : P05629 : ナキウサギ (トムラウシ山)</b>						
P30060	1956年7月28日	留辺蘂	温根湯西方 5km, 丸山のナキウサギ			
P32007	1966年9月20日	-	ナキウサギの食い跡 (カラマツ)			
N50398	-		ナキウサギ文献写真複写			1926年2月13日犬飼より借用とあり
P03528, P03548, P05420-05423	-	置戸	北海道初発見の標本, 頭骨	犬飼 1930b		
<b>図版 015 : P03528 : ナキウサギ (野付牛採集, HUNHM06803)</b>						
<b>図版 016 : P03548 : ナキウサギ頭骨</b>						
N31754, N31756, N50421	-	-	ナキウサギの食糧貯蔵庫, 食糧の一例	犬飼 1931c		
<b>図版 017 : N31754 : ナキウサギ食料貯蔵庫</b>						
N50418	-	-	ナキウサギ	犬飼 1932f		
P30321-30322	-	留辺蘂	丸山のナキウサギ			
N31249-31261, P05072, P30038, P30040, P30045, P30743, P30802, P31066	【雑】	大雪山	大雪山のナキウサギなど			

N31675, N31753, N31755, N50233, N50415-50417, N50419-50420, N50422-50423, N52066, N61992, P02534, P03409, P05607, P30051, P30111, P30318-30320, P30992, P31043, P31224, P32001, P32003-32004, P32203-32204, P32211, P32236		【雑】	-	ナキウサギ関連写真		
<b>シカ</b>						
写真番号		年次	地名	事項	文献	備考
N61988		1921年1月29日	-	神社境内のシカ		
N60834-60840		1932年11月18日	-	シカ頭骨標本		
P30747		1942年	置戸	置戸山中の鹿の足跡と糞	犬飼 1952j	
N03674-03691		1966年8月	七飯	大沼のシカ園		
<b>図版 018 : N03684 : 大沼のシカ園</b>						
N30247		1968年6月		飼育シカ		「阿寒」とあり
N61380, N61387-61388, N61460, N61552-61553, N61824-61825		-	-	八田三郎が用いたシカ資料（博物館剥製、各地のシカ、シカに関連する玩具など）	八田 1920, 八田 1933b, 八田 1933c	
<b>図版 019 : N61388 : 剥製エゾシカ (HUNHM13132, 13020)</b>						
<b>図版 020 : N61821 : 「短冊を吊るしたる紅葉の玩具</b>						
P05612, P32012-32014		-	江別	野幌で採集されたシカ角	犬飼 1934i	
P30784, P32251		-	-	野生のシカ	犬飼 1957a	
N51175-51176, P30279		-	-	千歳シカ在詰工場で用いられたラベル	犬飼 1957a	
<b>図版 021 : N51175 : 鹿肉在詰ラベル</b>						
N61382		-	札幌 (博物館)	博物館剥製 (植物園内にて)		
N08202-08208, N31633-31640, N50380-50387		-	七飯	大沼のシカ園		撮影は同一年代ではない
<b>図版 022 : N31633 : 大沼のシカ園</b>						
P04177, P04179, P30195, P30535		-	様似	アポイ岳のシカの痕跡		
P05073-05076		-	大雪山	トムラウシのシカの痕跡		
N50352, N61538-61551, N61554-61600, N61818-61819		-	-	シカ角標本		
<b>図版 023 : N61556 : シカ類頭骨</b>						
N06794-06798, N30008, N30010, N30016, N30209-30211, N31266, N31269, N50241, N50414, N60388-60389, N60402-60403, N61326, N61371, N61375-61379, N61381, N61383-61386, N61389-61392, N61394-61397, N70165-70167, N70239, P02260, P02267-02268, P30540-30541, P31930, P31996		【雑】	-	シカ関連写真		

動物	犬	写真番号	年次	地名	事項	文献	備考	
		N50435-50449	1935年5月11日	札幌	北海道犬展覧会		丸井呉服店にて	
		<b>図版 024 : N50448 : 北海道犬展覧会 (丸井今井)</b>						
		N08032-08033, N08037-08042	1951年5月2日	函館	蛾眉野の犬			
		P02579, P02582, P02634	1962年10月21日	室蘭	北海道犬審査会 (室蘭栄高校)			
		<b>図版 025 : P02582 : 北海道犬展覧会 (室蘭栄高校)</b>						
		N03030-03031	1963年3月	稚内	犬			
		N02756-02759	1963年9月4日	知床	犬			
		N02153-02154	1964年3月	幕別	犬			
		N03600	1966年8月	松前	犬			
		N02324-02335	1968年6月5日	札幌	北海道犬審査会 (豊平)			
		<b>図版 026 : N02333 : 北海道犬展覧会 (豊平小学校付近)</b>						
		P04298	-	樺太	アレキサンドスキーの犬	犬飼 1957h		
		P31501	-	利尻	夏でも働くカラフト犬	犬飼 1962g		
		N02138-02142	-	-	北海道犬審査会		1964年か	
		N03438-03440, N03445-03446	-	稚内	子犬ほか		1964年前後	
		N30820-30823	-	札幌 (植物園)	樺太犬			
		N30918	-	札幌	犬			
		N06634-06637	-	稚内	樺太犬訓練所の犬			
		<b>図版 027 : N06637 : 樺太犬訓練所の犬</b>						
		N08248-08251	-	渡島管内	犬		「湯の川森町」	
		N08456-08459	-	苫小牧か	北海道犬審査会		フィルム送り悪い	
		N030969-30970	-	樺太	豊原市の犬			
		<b>図版 028 : N30969 : 樺太豊原市の犬</b>						
		N00724-00735, N01506-01528, N01872-01877, N05046-05055, N6288-06290, N07327-07328, N07367, N07374-07390, N07527-07534, N07843-07846, N08390, N30104, N30915, N30917, N30919, N30973, N30983, N31188-31200, N31526, N50011, N52088-52089, N61627-61628, N70429-70430, P02238, P02570, P02709, P02990, P03011, P03032, P03800, P03820-03821, P03854, P03935, P04092, P04099, P04124-04125, P04153, P04155, P04203, P04241, P04295, P04362, P04379, P04976, P05365, P30927, P32162	-		犬間連			



動物	哺乳類	写真番号	年次	地名	事項	文献	備考	
		N61989	1915年9月30日	小樽	銭函のイルカ			
		N70220	1931年9月19日	大雪山	リスの足跡			
		N50512	1934年9月12日	鹿追	然別のリス			
		N50295-50296	1935年1月21日	江別	野幌のエゾモモンガ	犬飼 1934i	野幌の報告書(犬飼 1934i)に掲載されており、年次および撮影データは要検討	
		<b>図版 029 : N50295 : エゾモモンガ</b>						
		N30928, N31163-31166, N31169-31170, N31172, N31179, N52082, N61634-61637, N61690-61697, P02967, P05359, P31797, P31804	1942年	海豹島	海豹島のオットセイ	犬飼 1943b, 犬飼 1975		
		<b>図版 030 : N31164 : 海豹島のオットセイハハーレム</b>						
		N31201-31214	1944年7月	帯広	帯広高等獣医学学校のトナカイ			
		N01044-01122	1952年5月	岩手大槌	イルカ猟		年次は犬飼手帳より	
		<b>図版 031 : N01097 : イルカ猟 (大槌)</b>						
		P32005	1952年8月28日	-	灌漑湖畔のドブネズミの穴			
		N01123-01152, P30364	1952年6月9日	室蘭	オットセイ猟			
		<b>図版 032 : N01142 : オットセイ猟 (室蘭)</b>						
		P30026-30027	1953年2月3日	小樽	小樽内川のエゾテン痕跡			
		P30374, P30379	1957年3月	-	トド			
		P31223	1957年10月10日	留辺蘂	エゾテン			
		P30670, P30376	1959年2月	-	アザラシ			
		P31357	1967年4月20日	-	野生のシマリス		阿部永撮影	
		N61849-61852	-	樺太	樺太のトナカイ	八田 1920		
		<b>図版 033 : N61850 : 森林のトナカイの群れ (樺太)</b>						
		N31313, N50396, N50401-50402, N70238, P30438-30441, P30838, P31836, P32250	-	-	アメリカ・ソビエトのオットセイ標識	犬飼 1959d, 犬飼 1968b	1953年頃	
		<b>図版 034 : N50401 : ソビエトのオットセイ標識</b>						
		P30760	-	-	流水上で鷺に頭部を食われたフイリアザラシ	犬飼 1942b		
		N00582-00600, N31125-31139, N70256	-	えりも	アザラシ			
		<b>図版 035 : N31127 : アザラシ</b>						
		P31226	-	木古内	野ネズミ			

<p>N30369-30370, N30393, N30400, N30408, N30413, N30419, N30430, N30432, N30994-30999, N31185-31187, N31433, N61561, N70205, N70530, P03007, P03018, P03138, P03144, P03160, P03168, P03496-03497, P03499, P03516, P03521, P03576, P04218-04220, P04240, P04296, P04378, P30504, P30542, P031030, P31994-31995, P32038-32039</p>	<p>【雑】</p>	<p>樺太他</p>	<p>トナカイ関連写真</p>	<p>犬飼 1970h</p>	
<p>N01691-01693, N05939-05960, N06705, N06979-06981, N07109-07113, N07343-07347, N30948, N30977, N31225-31231, N31315, N31329, N31442, N50297-50298, N51201, N51212, N51267-51268, N52060, N60398-60399, N60407, N61510, N61630-61631, N61990, N70178-70180, N70221-70222, N70665, P02203, P02207, P02223, P02225, P02269-02271, P02884, P03161, P03339, P03666, P04058-04059, P04082, P04084, P04294, P04313, P05106-05107, P05311, P30029-30030, P30039, P30041-30044, P30046, P30048-30050, P30052-30058, P30061-30063, P30065-30067, P30069-30072, P30146, P30312-30317, P30323-30330, P30366, P30368-30373, P30375, P30377-30382, P30411, P30446, P30532, P30662-30663, P30670, P30742, 30761, P31058-31060, P31340-31344, P31348, P31357, P31767-31783, P31801, P31807, P32005, P32263</p>	<p>【雑】</p>	<p>-</p>	<p>哺乳類動物関連</p>	<p>犬飼 1958b</p>	
<p>動物</p>					
<p>鳥類</p>					
	<p>写真番号</p>	<p>年次</p>	<p>地名</p>	<p>事項</p>	<p>文献</p>
<p>N61532</p>	<p>1923年5月7日</p>	<p>苫小牧</p>	<p>カワガラス</p>		
<p>N61531</p>	<p>1923年5月14日</p>	<p>苫小牧</p>	<p>カワガラス</p>		
<p>P03384</p>	<p>1930年6月</p>	<p>札幌</p>	<p>桑園のオオヨシキリ巢中のカッコウの雛</p>		
<p>N60338-60339</p>	<p>1931年8月</p>	<p>札幌(植物園)</p>	<p>植物園で採集したツツドリ</p>		
<p>図版 036 : N60338 : ツツドリ (植物園内捕獲)</p>					
<p>N50234-50239, N61008-61009</p>	<p>1932年5月29日</p>	<p>登別</p>	<p>エゾヤマドリの卵</p>		
<p>N50514</p>	<p>1933年</p>	<p>阿寒</p>	<p>ヤマセミの繁殖する太郎湖</p>	<p>犬飼 1934k, 犬飼 1942d</p>	
<p>N31628, N31631, N31722-31724, N50307</p>	<p>1933年5月28日</p>	<p>苫小牧</p>	<p>時任牧場の鳥類</p>		
<p>図版 037 : N31722 : 時任牧場(苫小牧)の鳥</p>					

N30931, N31168, N31171, N31173-31176, N31180, P02720, P02983, P02993, P03024, P030599, P30612, P30615, P30622, P30879, P31297-31299, P31303-31304	1942年	海豹島	ウミガラスのココロニー		
<b>図版 038 : N31173 : 海豹島のウミガラスコロニー</b>					
P32216	1953年12月15日	阿寒	阿寒村付近の農家でえさを求めるタンチヨウの雛	犬飼 1957b	
P30570	1959年5月4日	根室	温根沼のタンチヨウ		
P30594	1954年6月6日	網走	音根内オジロワシの巣		
P30587	1959年5月20日	別海	走古丹の鳥の雛		
P30877	1961年4月	小樽	アオハト		
P30604, P30606, P30620	1962年6月	苫小牧	ハクチヨウ他		
P04184	1963年9月	網走	オジロワシ (飼育)		
P32194	1965年	厚岸	オオハクチヨウ	犬飼 1967f	
N02211-02230	1966年5月	根室	アカエリカイツブリ		
P030869, P30887	1966年9月20日	札幌	藤の沢のクロゾル		
N50300-50306, N50312-50314, N50316-50319, N50322-50338, N50353-50354, N50356-50361	1934年	江別	野幌生態調査	犬飼 1934i	
<b>図版 039 : N50360 : エゾオオカゲラ (野幌生態調査)</b>					
N30923, P30605, P30607, P31238-31239, P32192	-	別海	別海のハクチヨウ		犬飼 1942i 関連
N03361-03376, N07131-07139, P04699-04702, P04711-04712, P04714, P04717, P04719, P04725, P04735-04737, P30753, P31241, P31245-31246, P31253, P31260, P31272	-	釧路	釧路市丹頂鶴自然公園のタンチヨウ	犬飼 1957b	
N30930, N31055, N31064	-	松前	大島のミズナギドリ	犬飼 1959i, 犬飼 1959m, 犬飼 1969g	
<b>図版 040 : N31064 : オオミズナギドリ (マスキングして文献利用)</b>					
N60342-60347, N60356-60372, N61100-61102, N61516, N61564	【雑】	札幌 (博物館)	博物館飼育のクジヤク, 幼鳥	犬飼 1931f	1928年6月, 1933年7月など
<b>図版 041 : N61516 : カンムリクジヤク (植物園飼育)</b>					
<b>図版 042 : N60344 : クジヤク雛か</b>					
N50308-50309, N61103, N61294, N61514-61515, N61517, N61565, N61571-61572, N61574-61575, N61581, N70267	【雑】	札幌 (博物館)	植物園で飼育していた鳥	犬飼 1934m	1930年6月11日など
<b>図版 043 : N61575 : 北大博物館における鶏の家鴨雑音状態</b>					
N03496-03499, N03502-03503, N03644-03646, N03753-03757, N07291, P01637	【雑】	オホーツク	オホーツク地域の鳥類関連		
N31459-31460, N51197, N52067-52068, P05071, P5077, P30945, P30948, P31083, P32215	【雑】	大雪山	大雪山の鳥類関連	犬飼 1963c	

	<p>【雄】</p> <p>N03379-03380, N03383-03386, P01734-01740, P01742-01748, P02234</p> <p>【雌】</p> <p>N02384-02389, N02407-02409, N03241-03244, N03509, N05347-05365, N06009, N06183-06188, N07108, N08258-08273, N30017, N30248, N50399, N50407, N50450-50451, N51246-51253, N51284, N51508, N60330-60333, N60340, N60348-60355, N60373-60378, N60383-60385, N60929, N61518-61530, N61533-61536, N61562-61563, N61567-61570, N61573, N61577, N70684, N70688-70689, N70691, N70696, N70721-70726, N70729-70730, N70732-70735, N70750-70753, N70758-70764, N71047-71050, P01558-01560, P02186-02187, P02204, P02341, P02751-02752, P02770, P03116, P03416, P03758, P03763, P03766-03767, P03986, P04286, P05203-05204, P30095-30096, P30290-30311, P30331-30333, P30571-30572, P30582-30583, P30586, P30589-30593, P30595-30596, P30598, P30600-30601, P30603, P30608-30609, P30617-30619, P30621, P30623-30628, P30757-30758, P30786, P30788-30790, P30870, P30872-30875, P30880-30886, P30888-30890, P31236-31237, P31300, P31365, P31675, P32198, P32265</p>	知床	知床の鳥類関連	犬飼 1931e, 犬飼 1934k, 犬飼 1939b, 犬飼 1942d	
			鳥類関連		
動物	爬虫類・両生類				
	写真番号	地名	事項	文献	備考
	N51196, N51835-51842, N52057, P02456, P02526, P02560, P02811, P03743, P05132, P05135, P05137, P05228	-	カナヘビ	犬飼 1930a	
	図版 044 : N51835 : カナヘビ 図版 045 : N51842 : 脱皮したカナヘビの皮				
	N61705	樺太	樺太産サンショウウオ		
	P02327	-	サンショウウオの卵塊		
	N31471-31472	青森	青森のサンショウウオ産卵場		
	P02504, P02561, P03917-03918	札幌	円山のサンショウウオ		
	N51916-51917	-	カナヘビ		
	P03988-03990	大分	大分産サンショウウオ		
	N50355	江別	野幌生態調査		
	図版 046 : N50355 : エゾサンショウウオの卵塊				

P03683, P03753	1935年6月21日	札幌	円山のアマガエルの産卵池		
P32249	1968年11月6日	-	アルビノカエル		
N52062-52065	-	倶知安	アルビノサンショウウオの卵塊		
N31400, N52001, N52003, N52023-52026, N52080, P05173	-	-	マムシ(双頭)	犬飼 1929a	
N51203-51204, P02334, P02430, P02566, P03694	-	-	サンショウウオ	犬飼 1932a, 犬飼 1935b	
N50909	-	-	トホククサンショウウオの変異形	犬飼 1933h	
N50251-50252	-	-	トカゲの胚, 卵	犬飼 1938c	
N08689-08710, N50403, P30629, P30631-30638	-	-	カラフトサンショウウオのすみ湿原環境	犬飼 1943a, 犬飼 1967d	
P05146	-	-	アカウミガメの産卵	犬飼 1966g	
N04680-04695	-	-	カエルと図鑑複写	犬飼 1968b	
P05616-05618	-	-	コモチカナヘビ	犬飼 1975	
N31422, N50195, N50227-50228, N50230, N50247, N50254, N50908-50911, N51208, N51504-51505, N51509-51511, N51832-51833, N51843-51845, N51988-51989, N52002, N52004, N52016-52019, N52027-52035, N52056, N52058-52059, N52069-52075, N52084-52087, N60974-60975, N60993-60999, N61246, N61704, N61706-61724, N61848, P02226-02228, P02242, P02244, P02331, P02340, P02343, P02353, P02356, P02358, P02364, P02367-02368, P02379, P02405, P02421, P02442-02443, P02445-02446, P02448, P02459, P02466, P02492, P02512, P02522, P02553, P02558, P02562, P02564, P02785, P02788, P02813, P02921, P03020, P03338, P03342, P03390, P03401, P03412, P03418-03421, P03555-03558, P03584-03587, P03733, P03741, P03837, P03865, P03898, P03911-03912, P03914, P03983-03984, P04007, P04089, P04222, P04223-04225, P04235, P04259, P04317, P05175, P05207-05210, P05212, P05215, P05219, P05221, P05292, P05299-05300, P05302, P05357, P05414, P05611, P05614-05615, P30630, P30759, P30768	【雑】	爬虫類・両生類関連写真			
魚類					
N50896, N51029, P03979	1934年	江別	野幌生態調査	犬飼 1934i	備考
図版 047 : N50896 : フケドジョウ					

N61737-61738, N61773-61778, N61783	1935年	-	市場で撮影された魚		捕獲は古平, 羽幌など
<b>図版 048 : N61778 : 方言 アカソイ</b>					
P30555	1954年10月1日	常呂	常呂川で再捕されたサケ		
P30557	1957年6月8日	-	カラフトマス		52.29N, 179.38W で捕獲したもの
P31350	1957年8月18日	音更	音更川の陸封マス		
N00888-00912, N05088-05089	1966年5月15日	厚岸	床潭沼のヒブナ調査		
<b>図版 049 : N00911 : 床潭沼ヒブナ調査</b>					
P30561	-	-	ブナザグのサケ雌雄	犬飼 1962b	
P05154-05165	-	-	ワカサギの卵の初期発生	犬飼 1966g	
N61621, P0222	-	札幌 (博物館)	チヨウザメの標本		
P05078	-	大雪山	十勝川上流のイワナ (裏大雪)		
N03651, N05235-05237, N07140-07144, N30184, N50895, N50897-50898, N51209-51210, N61005, N61725-61726, N61735, N61739-61740, N61761, N61767-61772, N61779-61782, N61790, P01556, P02215, P02231, P02233, P02256, P03806, P03974, P03978, P04114, P04156, P05266, P30549-30550, P30552, P30558-30559, P30898-30901, P31061, P31080, P31286-31287, P31290, P31349, P32264	-	【雑】	魚類関連写真		
<b>動物</b>					
<b>凹口類 (ヤツメウナギ)</b>					
写真番号					
N50311, P02418, P02460, P03945	1934年	江別	野幌生態調査 (ヤツメウナギ)	犬飼 1934I	備考
N31140-31152	-	江別	江別のヤツメウナギ捕獲		
<b>図版 050 : N31151 : ヤツメ漁 (江別)</b>					
N50246, N50871, N50905, N51028, P02488, P04208, P30413	【雑】	-	ヤツメウナギ関連写真		
<b>動物その他 (上記分類以外や痕跡など)</b>					
写真番号					
N50912-50920	1924年2月	-	各種のクワガタ	犬飼 1924	備考
<b>図版 051 : N50920 : ノコギリクワガタ (雄)</b>					
<b>図版 052 : N50914 : ノコギリクワガタ (雌)</b>					
N50202, P03422, P03463, P03987, P04303	1934年	江別	野幌生態調査 (ザリガニ, マイマイなど)	犬飼 1934I	



N50290-50294	1935年12月21日	-	イタチ食性顕微鏡写真		
N50253	1936年1月9日	-	ノウサギわな		
N50368-50369	-	厚岸	厚岸のカキ	犬飼 1937a	
P31356	1953年2月4日	札幌	エゾリスの巣(定山渓)		
N03007-03014	1963年9月4日	知床	動物の痕跡		
N06005-06008	1965年7月	羅臼か	海獣の骨		
N50368-50369	-	厚岸	厚岸のカキ	犬飼 1937a	
N03515-03524	-	稚内	飼育動物		連続するフィルムから1966年以前の撮影フィルム
N61762-61766, N61828-61829, N61831, N61833-61834	-	小樽	忍路で採集された貝		
<b>図版 053 : N61765 : タコブネ (忍路)</b>					
N71093-71095	-	十勝岳	十勝岳の動物の痕跡		
N06079, N06081, N06083-06088	-	知床	海岸の動物骨		
N50204-50205	-	-	カブトガニ	犬飼 1939b	
N02684-02686, N04134-04137, N04139-04141, N04861-04683, N04881-04882, N05231-05234, N05278-05282, N05286-05287, N07858-07861, N30038, N30223-30227, N30251, N30420, N30961-30962, N30993, N50193, N50197-50198, N50220-50221, N50226, N50242-50244, N50255, N50363-50364, N50367, N50400, N50432-50433, N50502-50503, N51512, N51518, N51983, N52009-52010, N61015-61019, N61830, N61832, N61835, P01468, P02205-02206, P02224, P02656, P02707, P02710, P02715, P02721-02722, P02724-02725, P02727, P02729-02730, P03733-02737, P02739-02740, P02743-02744, P02747-02750, P02943, P03050, P03152, P03343, P03522, P03526-03527, P03529-03530, P03550, P03553, P03755, P03829, P03899-03900, P03906, P03929, P04060-04062, P04152, P04158-04159, P04173-04174, P04188, P04239, P04320, P05170, P05177-05178, P05437, P30746, P30824, P30893, P31031-31036, P31045-31047, P31065, P31068, P31071, P31076-31077, P31129, P31136-31139, P31187-31205, P31229, P31321, P31327, P31339, P31361, P31921, P31998-32000, P32051-32057	-	【雑】 動物その他関連写真			

顕微鏡写真（発生関連の写真が多数存在、文献で対応させられたもののみ掲載）						
動物	写真番号	年次	地名	事項	文献	備考
	N50564-50536, N50538-50544, N50547-50553, N50555-50562, N50566-50571, N50574-50576, N50584, N50586, N50588, N50593-50595, N50597-50602, N50605, N50608-50609, N50611-50614, N50616-50617, N50619-50622, N50624-50626, N50628-50629, N50631-50634, N50636-50639, N50641, N50658-50662, N50679, N50683-50688, N50695	-	-	トカゲの発生	犬飼 1927a	
	<b>図版 054 : N50620 : 顕微鏡写真（発生）</b>					
	N60441-6060449, N60589-60601	-	-	染色体写真	名取 1932a	
	P02519-02520	-	-	エゾムラサキウニの卵分割	犬飼 1935b	
	P05138-05145, P05147-05153			アカウミガメの初期発生	犬飼 1966g	
アイス						
熊送り						
	写真番号	年次	地名	事項	文献	備考
	P30846	1932年1月28日	千歳			
	N50101-50104	1932年12月10日	札幌（博物館）	クマの解体と熊送り		
	N50014-50017	1934年1月	旭川			
	<b>図版 055 : N50015 : 旭川熊送り</b>					
	N04883-04920, N07888-07919, N50026, N50042, N50048, N50053, N50056, N50123-50126, P04233, P30845, P31074	1935年1月	旭川		岡田 1938, 犬飼 1943f, 犬飼 1964i	博物館所蔵熊送り動画フィルム撮影時のもの
	<b>図版 056 : N04896 : 旭川熊送り</b>					
	<b>図版 057 : N07905 : 旭川熊送り</b>					
	<b>図版 058 : N07912 : 旭川熊送り</b>					
	<b>図版 059 : N07917 : 旭川熊送り</b>					
	<b>図版 060 : N50053 : 旭川熊送り</b>					
	N07920-07961	1936年1月12日	千歳		岡田 1938, 犬飼 1949e	
	<b>図版 061 : N07925 : 千歳熊送り</b>					
	<b>図版 062 : N07935 : 千歳熊送り</b>					
	N50115, P03148, P03237	1937年3月4日	札幌（博物館）	博物館での調査（十勝アイス）	名取 1941a, 名取 1942	
	N31550, N31554-31557	1937年4月27日	札幌（博物館）	博物館での調査（白老アイス）		
	<b>図版 063 : N31550 : 白老アイスの熊送り（植物園にて）</b>					
	N06261-06287, N61251, P31972	1960年2月5日	札幌（博物館）	博物館での調査（千歳アイス）	犬飼 1964p, 犬飼 1969e	
	<b>図版 064 : N06286 : 千歳アイスの熊送り（植物園にて）</b>					

N30740, N30774, N30786, N70477-70481, N70570-70576, P04209, P30511, P30770, P30770	-	札幌 (博物館)	博物館での調査 (十勝アイヌ)	犬飼 1940f, 犬飼 1964p, 犬飼 1987	
図版 065 : N70478 : 十勝アイヌの熊送り (植物園にて)					
N61069-61070	-	標茶	標茶のヌサ		
図版 066 : N61070 : 標茶のヌサ					
N08009-08028, P30476	-	札幌 (博物館)	博物館での調査 (旭川アイヌ)		
図版 067 : N08016 : 旭川アイヌの熊送り (植物園にて)					
図版 068 : N08022 : 旭川アイヌの熊送り (植物園にて)					
N30704-30706, N30708-30715, N30724-30731, P04226, P30458	-	旭川			
図版 069 : N30713 : 熊送り (旭川)					
P30035	-	-	「アイヌ熊送り 室外ニ於ケル本儀式」	学習院 2006	
P03501	-	-	ウンメンケで飾り付けをされたマラット	犬飼 1964p	
P31964-31965, P31992	-	弟子屈		名取 1940e	
図版 070 : P31992 : 弟子屈のヌサ (植物園か)					
N31603-61607	-	札幌 (博物館)	博物館での調査 (塘路アイヌ)		
図版 071 : N31605 : 塘路アイヌの熊送り (植物園にて)					
図版 072 : N31607 : 塘路アイヌのヌサ (植物園にて)					
N06259-06260, N31547-31549, N31551-31553, N50031-50037, N50043-50044, N50055, N50111-50114, N50116-50122, N60258-60259, P30450-30452, P30460, P30468-30469, P30842-30842, P31332, P31844-31856, P31888-31889, P31892, P31895, P32092, P32106, P32116	【雑】	-	詳細不明の熊送り, ヌサ標本写真など		
図版 073 : N50055 : ヌサ (場所不明)					
図版 074 : N50122 : ヌサ (場所不明)					
アイヌ					
クマ解体					
写真番号					
N50105-50110	1933年12月10日	札幌 (博物館)	クマの解体と熊送り	犬飼 1935h	
N50001-50010, N51523, P33240	1935年2月17日	札幌 (博物館)	千歳アイヌのクマ解体	犬飼 1935h	
図版 075 : N50001 : プーキルプを離すところ (千歳アイヌ)					
図版 076 : N50006 : 千歳のニセウ					
N07997-08008	-	札幌 (博物館)	アイヌのクマ解体		
図版 077 : N08001 : アイヌによるクマの解剖 (植物園にて)					

アイヌ	シシヤモカムイノミ				写真番号	年次	地名	事項	文献	備考
	シシヤモカムイノミ				N70472-70473, N70476, P30001, P30465-30467, P30481-30482, P31326, P32065, P32067, P32069-32071, P32075, P32094, P32096-32098, P32100-32105, P32112-32114, P32209	1940年	鶴川	シシヤモカムイノミとシシヤモ漁	犬飼 1941c, 犬飼 1964p, 犬飼 1968b, 犬飼 1969e	
	図版 078 : N70473 : シシヤモ漁の時の板小屋様 図版 079 : P30001 : シシヤモ漁の縄 図版 080 : P30465 : シシヤモ漁の前のカムイノミ (ムリエトにて) 図版 081 : P31326 : シシヤモ漁の前のカムイノミ (遠景) 図版 082 : P32067 : シシヤモ漁									
	P31784-31793, P31859				-	鶴川	シシヤモカムイノミとシシヤモ漁	犬飼 1964p, 犬飼 1969e		
	図版 083 : P31784 : 板小屋 (複製)									
	P31857-31858, P32060-32064, P32068, P32072-32074, - P32076-32084, P32086-32087, P32089				-	鶴川	シシヤモ漁など	犬飼 1964p, 犬飼 1969e		
	丸木舟・樹皮舟									
アイヌ	写真番号				N50075-50086	1937年6月18-21日	雨竜	丸木舟の製作	犬飼 1953g, 犬飼 1964p, 犬飼 1969e	
	図版 084 : N50075 : 丸木舟の製作 図版 085 : N50078 : 丸木舟の製作 (荒削りの丸木舟) N05544-05550, N05557-05560, N5639-05647, N05651-05652, N05654-05665, P00602 図版 086 : N05644 : 丸木舟 (静内川の舟おろし) N30254-30256, N30716-30723, N30732-30738, N31558, - N31611-31618, N50027-50030, N50087-50098, N61023-61029, P05317, P05319-05320 図版 087 : N50097 : 樹皮舟の製作 図版 088 : N50088 : 樹皮舟の製作 (木皮をのぼす) 図版 089 : N50090 : 樹皮舟の製作 (完成した樹皮舟)									
						1965年11月4-5日	静内	丸木舟の製作		
							雨竜	樹皮舟の製作	犬飼 1939f, 犬飼 1964p, 犬飼 1969e	

アイヌ	ペカンベ祭	写真番号	年次	地名	事項	文献	備考
		N31561-31562, N50054, P02760, P02766, P03720, P30464, P30855	1940年	標茶	ペカンベ祭の様子, ペカンベ(菱)	犬飼1941a, 犬飼1964p, 犬飼1969e	
		図版 090 : N31562 : ペカンベ祭のヌサ 図版 091 : N31561 : ペカンベ祭(塘路の水神様の御神体)					
アイヌ	山小屋	写真番号	年次	地名	事項	文献	備考
		N31276, N31564, N31567, N31573, N31592, N50045-50046, N50050-50051	1934年8月	阿寒	山小屋の製作	犬飼1935d, 犬飼1964p, 犬飼1969e	
		図版 092 : N31592 : 山小屋の製作 図版 093 : N50045 : 山小屋の製作 図版 094 : N31564 : 山小屋の製作					
アイヌ	クマ狩り	写真番号	年次	地名	事項	文献	備考
		N31357-31368, N50060-50066, N50366, N50498, N50501, N50505, P02478, P03468, P30073, P30748, P30794, P30928	1935年4月14日	千歳	アイヌのクマ狩り, アイヌ犬	犬飼1969e	
		図版 095 : N31367 : 千歳アイヌの熊狩り 図版 096 : N31364 : 千歳アイヌの熊狩り(アイヌ犬)					
アイヌ	サケ漁	写真番号	年次	地名	事項	文献	備考
		N07217-07219, N07257-07258	1964年12月5日	釧路	川辺のイナウ		
		図版 097 : N07219 : サケ漁のイナウ N05551-05556, N05561-05566, N05568-05572, N05659, N05666-05670 図版 098 : N05561 : ヤス漁のカムイノミ(鶴居アイヌ, 静内にて) P04266					
		サケ漁のカムイノミ(鶴居アイヌ) 犬飼1965m, 犬飼1968h					
		サケ漁(チシ)					
		図版 099 : P04266 : チシ					

サケの解体						
アイヌ	写真番号	年次	地名	事項	文献	備考
	N04921-04927, N05575-05621, N05683-05694	1965年11月4-5日	静内	鶴居アイヌによるサケの解体	犬飼 1965m, 犬飼 1968h	
	<b>図版 100 : N05582 : サケの解体 (鶴居アイヌ・静内にて)</b>					
	P30485-30495	-	-	サケの解体		
その他						
アイヌ	写真番号	年次	地名	事項	文献	備考
	N50071-50073, N50273	1932年7月	阿寒	阿寒アイヌのクマ檻, 人物写真など		
	<b>図版 101 : N50071 : クマ檻</b>					
	N50529	1933年	阿寒	クマ檻		写真には「阿寒屈斜路」とあり
	N70326-70328	1932年7-8月	樺太	樺太アイヌのクマ檻など		河野撮影
	N50280-50284	1933年11月26日	八雲	エゾオオカミ神頭骨, エカシケナルの様 子か		
	<b>図版 102 : N50282 : アイヌ住宅 (エカシケナルか)</b>					
	<b>図版 103 : N50280 : エゾオオカミ神頭骨</b>					
	N31565-31566, N31568-31572, N31593, N50041, N50099-50100	1934年	美幌	美幌アイヌ人物写真	犬飼 1969e	
	N31559-31560, N31563, N50012, N50025, N50047	1934年8月	弟子屈	屈斜路アイヌ人物写真, クマ檻など		
	<b>図版 104 : N50025 : クマ檻</b>					
	N31641-31646	1936年	旭川	アイヌ人物写真, 神頭骨		
	P31973	1952年11月1日	旭川	アイヌ人物写真		
	N02207-02210, N3086-03088	1960年5月16日	上川	層雲峡の丸木舟	犬飼 1964p, 犬飼 1969e	
	<b>図版 105 : N02210 : 丸木舟</b>					
	N02143-02152	1964年3月	幕別	幕別町観夷文化考古館所蔵資料		
	N04879-04880, N06156-06182, P31481-31500	1965年	白老	白老ポロトコタンなど		同時に撮影されたものではないが 1965年の撮影と考えられるものを まとめている
	<b>図版 106 : N06174 : 白老コタン (ポロトコタン)</b>					
	<b>図版 107 : P31489 : ポロトコタンのヌサ</b>					
	<b>図版 108 : P31487 : ポロトコタン (現在の博物館入り口付近)</b>					
	N04925, N04928-04936, N05567, N05573-05574, N05586-05599, N05648-05650, N05653, N05671-05673	1965年11月	静内	アイヌ人物写真		丸木舟製作, サケ漁カムイノミの 間に撮影された人物写真を含む
	N05524-05532	1965年12月16日	登別	ユーカーの里		
	N00083-00086, N02178-02186, N02192-02197	1967年6-7月	白老	アイヌ民族博物館関連		6月と7月の写真を含む



N00090-00094, N00140, N00142-00151, N00154-00161, N00170-00202	1967年	登別	ユーカーの里	犬飼 1968a, 犬飼 1968d	7月と10月の写真を含む
<b>図版 109 : N00157 : クマ糞 (ユーカーの里)</b>					
N00203-00223, N04944-04966	1968年5月15日	-	墓標製作の調査		
<b>図版 110 : N00205 : 墓標製作調査</b>					
<b>図版 111 : N00219 : 墓標製作調査</b>					
N05255-05256, P04118, P04132-04136	1969年4月	大阪	大阪万博参加時の記念写真		
N04846-04852	1969年6月	壮瞥	昭和新山の観光施設		
N70194	-	平取	マンロー博士邸前のアイヌ父子	名取 1942	
N30916, P02960-02961, P02973	-	-	サチェツプの作製	犬飼 1964p, 犬飼 1973a	
<b>図版 112 : N30916 : サチェツプを作る</b>					
P02679	-	-	オプクワ携行時の鞘	犬飼 1968a, 犬飼 1969e, 犬飼 1987	
N50052	-	-	酒造りの様子	犬飼 1969e	
N00446-00463	-	-	チクベニの枝, エカエカ	犬飼 1969e	
<b>図版 113 : N00447 : チクベニの茎にキケをつけたもの</b>					
<b>図版 114 : N00458 : 首にかけるエカエカ</b>					
N30741-30742	-	厚沢部	ピリカ会資料		
N00948-00951, N00998	-	厚岸	アイヌ資料調査		1966年3月か
<b>図版 115 : N00948 : アットウシ (厚岸文化財調査)</b>					
N03417, N03423-03424, N03431-03433, N03455-03456, N05043-05045	-	稚内	アイヌ資料調査		
<b>図版 116 : N03417 : 漆器 (稚内文化財調査)</b>					
<b>図版 117 : N03432 : アットウシ (稚内文化財調査)</b>					
N30032, N30353, N70475	-	樺太	樺太庁博物館のそり		
<b>図版 118 : N30353 : 犬ぞり (樺太庁博物館)</b>					
N00031-00057, N02168-02177, N07116-07125, N08551, N50039, N50127-50129, N50743, N51178-51179, N60147, N61407-61410, N61509, N71075-71079, N71083-71092	<b>【雑】</b>	札幌 (博物館)	博物館所蔵資料	犬飼 1939g, 犬飼 1940c, 犬飼 1941b, 犬飼 1952j, 犬飼 1955c, 犬飼 1956g, 犬飼 1957a, 犬飼 1963j, 犬飼 1964p, 犬飼 1969e, 犬飼 1987, 名取 1934a, 名取 1939d	
N50742, P30851, P31075, P31232	<b>【雑】</b>	-	アイヌ関連の資料複写 (絵図類)		
N00123-00124, N02587-02603, N03656-03661, N03663, N03665-03669, N04870-04871, N04967-04979, N05242-05243, N05247, N50013, N50049, N70566, N70567, P03330-03334, P30857, P31839, P31967-31969, P31983-31984, P32120	<b>【雑】</b>	白老	白老ポロトコタン, 町内のスサなど		

N00095-00121, N00125-00139, N00141, N05193-05195, N05244-05259	【雑】	登別	ユウカラの里	犬飼 1969e	
N07567-07489, P04197, P30474-30475	【雑】	旭川	アイヌ人物写真など		
N04661-04664, N04696-04697, N05961-05966, N30234-30235, N30446, N30739, N50038, N50040, N50057-50059, N50874, N60249, N60251, N60255-60267, N70080, N70082, N70186, N70299, N70365-70368, P02759, P02852-02853, P02970, P03003, P03019, P04388, P05269, P05304, P05308, P05442, P30470-30473, P30477-30480, P30484, P30505, P30507, P30510, P30525, P30771, P30856, P31842, P31986-31991, P32235	【雑】	-	分類できないアイヌ人物写真, 資料など		
遺跡					
考古					
写真番号					
N60224-60225	1931年	千島	武笠耕三の調査	武笠 1934	
図版 129 : N60224 : 千島発掘調査 (武笠・ピールの調査時)					
N31715-31720, N50134-50136	1931年 10月 11日	江別	町内農場発掘	名取 1933d, 名取 1939b	
図版 120 : N31716 : 江別発掘調査の様子					
図版 121 : N50136 : 江別土器発掘の状態 (犬飼撮影)					
N51270-51274, N51279	1932年 5月 31日	赤井川	赤井川の遺跡・遺物		
図版 142 : N51274 : 赤井川板小屋沢遺物散布 (スナップ)					
N61089-61093, N61096-61098, N70007-70013, N70018, N70023-70035, N70091-70093	1932年 8月	利尻・礼文	名取武光・後藤寿一の調査	名取 1933c, 名取 1933f	
図版 126 : N61093 : 利尻礼文発掘調査 (礼文島船泊村の遠望)					
図版 127 : N70009 : 利尻礼文発掘調査 (利尻島オントマリ遺物散列地)					
図版 128 : N70024 : 利尻礼文発掘調査 (礼文島船泊第二の沢)					
N70134-70137	1932年 10月 16日	泊	堀株村の遺跡	名取 1933b	
図版 143 : N70134 : 泊堀株村の遺跡 (スナップ)					
N60170, N60200, N60207, N60245	1933年	江別	町内農場発掘	名取 1933d, 名取 1939b	
図版 122 : N60200 : 江別発掘調査の様子					
図版 123 : N60245 : 江別発掘調査の様子					
図版 124 : N60170 : 江別発掘調査の様子 (H-IV 墳墓)					
N60191, N60221-60223, N70095-70098, N70100, N70102, N70104-70105, N70107, N70109-70112, N70114-70117, N70119, N70125-70129	1933年 7-8月	千島	名取武光の調査	名取 1933a, 名取 1939f, 名取 1940a	

図版 130 : N60221 : 南千島発掘調査						
図版 131 : N70096 : 南千島発掘調査 (浜中から金毘羅チャシの断崖を望む)						
図版 132 : N70107 : 南千島発掘調査 (留別付近)						
図版 133 : N70110 : 南千島発掘調査 (古釜府のアイヌ地遺跡墓塚における墓石)						
N60227-60232	1934年07月05日	豊頃	旅来の遺跡			
図版 146 : N60227 : 旅来チャシ (スナップ)						
図版 147 : N60229 : 旅来チャシ (スナップ)						
N60203, N61405-61406	1936年	枝幸	枝幸竪穴		名取 1938b	
図版 137 : N61405 : 枝幸竪穴遺跡調査						
図版 138 : N61406 : 枝幸竪穴遺跡調査						
N61398-61404	1941年	恵庭	恵庭竪穴発掘		名取 1948b	
図版 139 : N61398 : 恵庭公園遺跡調査						
図版 140 : N61401 : 恵庭公園遺跡調査						
図版 141 : N61402 : 恵庭公園遺跡調査						
N02944-02955	1963年7-9月	斜里	朱円環状土籬, 栗沢台地環状土籬			
図版 150 : N02946 : 斜里朱円環状土籬 (スナップ)						
図版 151 : N02948 : 斜里朱円環状土籬 (スナップ)						
N00464-00484, N00739-00740	1966年5月	苫小牧	板綴船の発掘			
図版 158 : N00476 : 苫小牧板綴船出土時の様子 (スナップ)						
図版 159 : N00478 : 苫小牧板綴船出土時の様子 (スナップ)						
図版 160 : N00482 : 苫小牧板綴船出土時の様子 (スナップ)						
N60212	-	泊	照岸洞窟		名取 1938b	
N60197, N60199, N60218, N70085	-	札幌 (植物園)	植物園内の竪穴など		名取 1939b	
図版 144 : N60197 : 植物園内の竪穴 (スナップ)						
N61077	-	網走	モヨロ遺跡		名取 1948b	
図版 136 : N61077 : モヨロ貝塚調査 (1936年か)						
N70122	-	釧路	モシリヤチャシコツ			名取の1933年千島調査の際に撮影されたものか
図版 145 : N70122 : モシリヤチャシ (スナップ)						
N06010	-	羅臼	飛仁帯洞窟発掘の様子			1965年7月か, 参考: 知床遺跡調査班 1967
図版 154 : N06010 : 羅臼飛仁帯洞窟の第1号人骨 (スナップ)						
N05986-05992	-	白老	虎杖浜第2遺跡, アヨロ遺跡			
図版 155 : N05988 : 白老虎杖浜第2遺跡か (スナップ)						
図版 156 : N05991 : 白老アヨロ遺跡 (スナップ)						
図版 157 : N05992 : 白老アヨロ遺跡 (スナップ)						

N60204, N60219	-	ニセコ	狩太北栄環状列石, 狩太滝台環状列石	参考: 駒井 1959
<p>図版 148: N60204: ニセコ狩太北栄環状列石第2号 (スナップ)          図版 149: N60219: ニセコ狩太滝台環状列石 (スナップ)</p>				
N03747-03751, N03758	-	浜頓別	日の出竪穴群	
<p>図版 152: N03749: 浜頓別クッチャロ湖畔日の出貝塚 (スナップ)          図版 153: N03750: 浜頓別クッチャロ湖畔日の出貝塚 (スナップ)</p>				
N60198, N60213-60215	-	江別	江別年次不明	
N60002-60004, N60210, N70094, N70099, N70101, N70103, N70106, N70108, N70113, N70120-70121	-	千島	千島年次不明	
N60216-60217, N60244, N61073-61074, N61473	-	網走	網走年次不明	
<p>図版 134: N61073: モヨロ貝塚調査          図版 135: N61074: モヨロ貝塚調査</p>				
考古				
遺物				
写真番号				
N60127-60130	-	地名	石器	文献 ハチエラー 1901
<p>図版 161: N60129: 遺物幻燈版 (ハチエラー文献利用)          図版 162: N60127: 遺物幻燈版 (ハチエラー利用か)</p>				
N60101, N60111-60117, N60119-60120, N60122-60126, N60138, N60172, N61507	-	-	石器 土器石器写真: 先史時代遺物展覧会目録に掲載された遺物	北大属博物館・犀川会 1932, 名取 1938b
<p>図版 181: N60124: 縄文時代の石器 (室蘭出土, 北海道先史時代遺物展覧会目録写真)          図版 196: N60101: 縄縄文時代 (?) の石器 (枳提出土, HUNHM14531, 北海道先史時代遺物展覧会目録写真)          図版 198: N60116: 縄縄文時代の石器・骨角器など (江別出土, 北海道先史時代遺物展覧会目録写真)</p>				
N60097-60100, N60102-60105, N60113, N60118, N60156-60157, N60159, N60165-60166, N60175, N60185, N60188-60190, N60192-60196, N61471, N61486, N61488, N61491-61492, N61499-61501, N70087-70089, N70175-70176	-	千島	千島出土遺物など	武笠 1934, 名取 1934i, 名取 1935a, 名取 1936b, 名取 1938b, 名取 1939b, 名取 1939f, 名取 1940a, 名取 1945
<p>図版 188: N60157: 縄縄文時代の土器: 千島前期 (古釜府出土)          図版 189: N61471: 縄縄文時代の土器: 千島前期          図版 193: N60193: 縄縄文時代の土器: 千島後期 (枳提出土)          図版 204: N60159: 擦文・オホーツク時代の土器: 千島 (枳提出土, HUNHM39285)          図版 205: N60175: 擦文・オホーツク時代の土器: 千島 (国後出土, HUNHM39283)          図版 206: N61486: 擦文・オホーツク時代の土器: 千島出土資料 (植物園事務所前にて)          図版 208: N60098: 擦文・オホーツク時代の金属器など (枳提島年萌出土)          図版 212: N60185: 中世・アヌメ時代に並行する内耳土器文化遺物: 千島 (留別出土, HUNHM33519)</p>				

N61474, N61498	-	千島	千島出土遺物	グラマー 1931	
N60060, N60062, N60086-60091, N60134, N60139-60140, N60142, N60148, N60168-60169, N60173-60174, N60176, N61356-61359, N61361, N61481-61482, N61485, N61489-61490, N61505-61506	-	江別	江別出土遺物	名取 1933d, 名取 1934i, 名取 1938b, 名取 1939b	
図版 185 : N60060 : 縄文時代の土器 : 道央前期 図版 186 : N60088 : 縄文時代の土器 : 道央前期 (江別出土, HUNHM39120) 図版 191 : N60090 : 縄文時代の土器 : 道央後期 (江別出土, HUNHM38413) 図版 192 : N60148 : 縄文時代の土器 : 道央後期 (江別出土, HUNHM39128) 図版 194 : N60086 : 縄文時代の石器・骨角器など (江別出土, 副葬品としての化石) 図版 195 : N60087 : 縄文時代の石器・骨角器など (江別出土) 図版 199 : N60089 : 擦文・オホーツク時代の土器 : 道央 (江別出土, HUNHM34434) 図版 200 : N60134 : 擦文・オホーツク時代の土器 : 道央 (野幌出土) 図版 207 : N61356 : 擦文・オホーツク時代の金属器など (江別出土)					
N60078-60085, N60106-60109, N60132-60133, N60141, N60158, N60171, N61071, N61094-61095, N61494, N61503	-	利尻礼文	利尻礼文出土遺物など	名取 1933f, 名取 1939b	
図版 171 : N60132 : 縄文時代の土器など : 道北中期 (右下) (利尻・礼文出土遺物) 図版 174 : N60080 : 縄文時代の土器 : 道北後期 (礼文島神崎出土) 図版 175 : N60084 : 縄文時代の土器 : 道北後期 (礼文島神崎出土) 図版 180 : N60078 : 縄文時代の土器 : 道北晩期 (礼文島オシヨンナイ出土, HUNHMI7835) 図版 182 : N61494 : 縄文時代の石器 (利尻礼文出土) 図版 197 : N60107 : 縄文時代の石器・骨角器など (利尻礼文出土土玉・具製品) 図版 203 : N60171 : 擦文・オホーツク時代の土器など : 道北 (利尻礼文出土)					
N60154-60155, N60184, N70083-70084, N70169-70172	-	泊	堀株出土遺物など	名取 1933b	
図版 170 : N60155 : 縄文時代の土器など : 道央中期 (堀株村出土) 図版 210 : N70170 : 中世・アイヌ時代の刀鏢 (発足村出土)					
N60235, N61363	-	泊	四足獣と鳥を刻んだ石	名取 1935c, 名取 1936b, 名取 1938b	
図版 214 : N60235 : 泊出土, HUNHM39048					
N60177-60178	-	余市	大川出土の土偶	名取 1933e	
図版 184 : N60177 : 土偶 (余市大川出土)					

N60037-60044, N60046-60059, N60182, N60236-60238, - N61364-61366, N61991	小樽	手宮出土遺物, 手宮洞窟壁面彫刻図	名取 1934i, 名取 1938b, 名取 1939b
<p>図版 119 : N61366 : 手宮洞窟壁面彫刻図 (HUNHM33224)</p> <p>図版 169 : N60052 : 縄文時代の土器 : 道史中期 (手宮出土, HUNHM39106)</p> <p>図版 172 : N60047 : 縄文時代の土器 : 道史後期 (手宮出土, HUNHM39114)</p> <p>図版 179 : N60054 : 縄文時代の土器 : 道史晩期 (手宮出土, HUNHM39110)</p> <p>図版 190 : N60046 : 縄文時代の土器 : 道史後期 (手宮出土, HUNHM35222)</p>			
N60069-60074, N61360, N61475	網走	網走出土遺物	名取 1936b, 名取 1939b
<p>図版 168 : N60069 : 縄文時代の土器 : 道史前期 (網走郷土館所蔵資料)</p>			
N60110	白滝	上白滝出土の黒曜石の石核と石槌	名取 1938b
N61493	泊	照岸洞窟の石室	名取 1938b
N61504, N61508	滝上	滝上出土の黒曜石製石器	名取 1938b
<p>図版 165 : N61504 : 旧石器時代の石器 (北見国滝ノ上村出土の黒曜石製巨石器)</p> <p>図版 166 : N61508 : 旧石器時代の石器 (北見国滝ノ上村出土の黒曜石製巨石器)</p>			
P02338, P03665	釧路	石器, 内耳鍋	釧路公会堂にて撮影
N61354-61355, N61497	札幌	鋳先, 独鈷石 (月寒)	
<p>図版 183 : N61497 : 縄文時代の石器 (札幌出土, HUNHM35229)</p> <p>図版 213 : N61354 : 近世アイヌ期の鋳先 : (札幌出土, HUNHM33188)</p>			
N60131	千歳	千歳祝梅出土土器	名取 1939b
<p>図版 177 : N60131 : 縄文時代の土器 : 道史晩期 (千歳祝梅出土, HUNHM39105)</p>			
N50494, N50745, N60075-60077, N60152, N60160	樺太	樺太出土遺物	犬飼 1942h
<p>図版 211 : N50494 : 中世・アイヌ時代に並行する内耳土器文化遺物</p>			
N61079-61080	枝幸	枝幸出土遺物	
N00464-00475, N00739-00740	苫小牧	出土板綴舟	
N00029, N61362	札幌	博物館所蔵資料 (1910 年頃および 1963 年頃の様子)	学習院 2006
<p>図版 163 : N61362 : 明治期の遺物資料 (高松宮献上写真帖掲載写真)</p> <p>図版 164 : N00029 : 戦後の遺物展示</p>			



N31574, N50527, N51263-51264, N60045, N60064-60065, - N60067, N60135-60137, N60143-60146, N60149-60151, N60161-60164, N60167, N60179-60180, N60186, N60233- 60234, N61472, N61476-61480, N61487, N61495-61496, N70036-70037, N70173-70174	各地	遺物	名取 1938b, 名取 1939b	
図版 173 : N61480 : 縄文時代の土器 : 道央後期 図版 176 : N60167 : 縄文時代の土器 : 道南晩期 (渡島木古内出土, HUNHM38459) 図版 187 : N60065 : 縄文時代の土器 : 道東前期 図版 201 : N50527 : 縄文・オホーツク時代の土器 : 道東 (モヨロ貝塚出土) 図版 202 : N61472 : 縄文・オホーツク時代の土器 : 道東 図版 209 : N60144 : 中世・アイヌ時代の内耳鉄鍋 (沙流出土)				
N60061, N60063, N60066, N60153, N60183, N61076, - N61078, N61483-61484, N70099	-	掲載用に文献写真を複写したもの	名取 1934i, 名取 1936b, 名取 1939b 参考 : 米村 1934, 犀川会 1933	
図版 167 : N60183 : 縄文時代の土器 : 道南早期 (左)・道南前期 (右) (北海道原始文化聚英複写)				
道央				
写真番号	年次	地名	事項	備考
N00583-00600	1966年11月24-25日	えりも	襟裳岬	
図版 215 : N00587 : 国立公園関連 : 襟裳岬				
N06095-06112	-	小樽	小樽博物館, ニシン御殿所蔵資料	犬飼 1968d
図版 216 : N06100 : 小樽ニシン御殿資料 図版 217 : N06107 : 小樽ニシン御殿資料				
N04698-04716	-	登別	登別原始林	
道南				
写真番号	年次	地名	事項	備考
N02035-02042, P02291-02319	-	松前	松前城付近の文化財, 国立公園調査	
図版 218 : N02039 : 松前法源寺山門 現在とは屋根が異なる 図版 219 : N02041 : 松前歴代藩公墓所前のケヤキ				
P02274-02290	-	知内	小谷石, 湧元など国立公園調査	
図版 220 : P02274 : 国立公園関連 : 和楽園 図版 221 : P02279 : 国立公園関連 : 海難者法塔				
P02287-02290	-	福島	岩部, 松浦国立公園調査	

道東					
文化財	写真番号	年次	地名	事項	備考
	N00962-00992	1966年3月	釧路	釧路市内の文化財調査	
	図版 222 : N00969 : 文化財調査 : 釧路蔵島神社 図版 223 : N00979 : 文化財調査 : 釧路鳥取神社 N01041-01042	1966年3月	阿寒	桜田の石碑	
	図版 224 : N01041 : 文化財調査 : 阿寒桜田の石碑 N00934-00951, N00998-01025	1966年3月	厚岸	厚岸町内の文化財調査	
	図版 225 : N00939 : 文化財調査 : 厚岸国泰寺山門脇の仏像 図版 226 : N00944 : 文化財調査 : 厚岸国泰寺扁額 図版 227 : N01003 : 文化財調査 : 厚岸太田村の桑並木 図版 228 : N01007 : 文化財調査 : 厚岸太田村の上杉神社 (現存しない) N00888-00912, N05088-05089	1966年5月15日	厚岸	床澤沼のヒブナ調査	
	図版 049 : N00911 : 床澤沼ヒブナ調査 N04616-04627, N07696-07700, P01497-01501, P01513, - P01521, P01525, P01528, P01530-01532, P01534, P01538- 01539, P01542-01543, P01557		根室	根室市内の文化財調査	
	図版 229 : P01497 : 文化財調査 : 根室花吹車石 図版 230 : P01542 : 文化財調査 : 根室公民館和田村分室 図版 231 : P01530 : 文化財調査 : 根室公民館和田村分室 N00601-00630, P02175-02179	1966年11月23日	新得	十勝ハッタ塚	プリントは別の時期の撮影
	図版 232 : N00611 : 文化財調査 : 十勝ハッタ塚 図版 233 : P02178 : 文化財調査 : 十勝ハッタ塚 N00952-00961, N00994-00997, N01026-01040, N05091- 05093	1966年3月	釧路管内	地域不明文化財調査	
道北					
文化財	写真番号	年次	地名	事項	備考
	N03347-03348, N03350	1964年8月	稚内	間宮林蔵渡樺出港の地	
	図版 234 : N03347 : 文化財調査 : 間宮林蔵渡樺の地 N06011-06019	1965年7月15-18日	小清水	小清水原生花園	
	図版 239 : N06017 : 小清水原生花園 図版 240 : N06019 : 小清水原生花園 (駅の様子) N02488, N03672-03673	1966年	紋別	小向原生花園, 紋別流紋岩指定地	
	図版 241 : N02488 : 古向原生花園 図版 242 : N03673 : 天然記念物紋別流紋岩				

	N02410-02418, N02455-02484, N05463-05465 図版 008 : N02462 : クマの巣穴 (ピアシリ山) 図版 243 : N02468 : 雄武ゴメ島	1966年7月	雄武	ゴメ島, ピヤシリ山中のクマ穴	犬飼 1967c, 犬飼 1969f	
	N03411-03437, N03441-03444, N03447-03467, N03525-03531, N05043-05045 図版 235 : N03414 : 文化財調査 : 回向堰 図版 236 : N03447 : 文化財調査 : 麻島神社鰐口 図版 237 : N03463 : 文化財調査 図版 238 : N05043 : 文化財調査	-	稚内	稚内市内の文化財調査	犬飼 1966i	
	図版 244 : N00360 : 網走シヨウドウツバメの巢 N04397-04431 図版 245 : N04422 : 大黒島コジロウミツバメ調査 N07216, N07220-07234, N07242-07243, N07256 N07180-07210 図版 246 : N07183 : サロベツシヨウドウツバメの巢 N00982-00989 図版 247 : N00984 : 鶴居村タンチヨウ調査 N70641-70664, N70666-70683 N07145-07179	1957年6月7日 1960年6月19-23日 1962年10月 1964年9月1日 1964年12月5日 1965年8月9日 1966年3月 - -	札幌 釧路 網走 厚岸 釧路・鶴居 豊富 鶴居 - 厚岸	藤野鳥類調査 タンチヨウ調査 シヨウドウツバメ調査 大黒島コジロウミツバメ調査 タンチヨウ調査 サロベツのシヨウドウツバメ調査 タンチヨウ調査 雪の下のネズミの跡 大黒島コジロウミツバメ調査		
調査	哺乳類・鳥類	写真番号	地名	事項	文献	備考
	水産	写真番号	地名	事項	文献	備考
	N70537-70538 N50074, N50268, N50272, N50274, N50526 図版 248 : N50268 : 阿寒養魚場 P02551 N50374-50379 図版 249 : N50374 : 札幌付近のマス漁 P030556, P30562	1930年7月27-31日 1932年7月 1935年1月19日 1936年9月13日 1954年10月2日	利尻 阿寒 千歳 札幌 石狩	利尻海岸の様子 ワカザギの人工ふ化場ほか 千歳ふ化場 札幌付近のマス漁 石狩のサケ	犬飼 1934k, 犬飼 1942d	

N07703-07712	1959年	-	サケ産卵（ふ化場）		
N03339-03346	1964年8月	稚内	稚内付近のエビ漁		
N03984-03998	1965年3月24日	知床	アザラシ漁		
N05674-05682	1965年11月4-5日	静内	静内川河口の捕獲場		
<b>図版 250 : N05675 : 静内川河口付近の捕獲場</b>					
P02457, P02471, P03387-03388, P03391, P03732	-	厚岸	網にかかった鮫と胃中から出たタコ	犬飼 1934 h	
<b>図版 251 : P02457 : サメの胃中にあったタコ</b>					
P02825	-	厚岸	カキ殻	犬飼 1937a	
N30270	-	弟子屈	摩周湖でのニジマス捕獲	犬飼 1942d	
<b>図版 252 : N30270 : 摩周湖中のニジマス捕獲</b>					
P30553	-	標茶	西別川に溯上したサケ	犬飼 1958a, 犬飼 1973a	大正年間
N30250	-	標茶	虹別ふ化場		
N04628-04639, N04642-04650	-	釧路	港の様子		1969年か
N08858-08876	-	千歳	サケの放流		1951年5月か（犬飼手帳より）
<b>図版 253 : N08860 : 千歳川のサケ放流</b>					
N52005, N52014	-	厚岸	カキ漁の様子		
N31140-31152	-	江別	江別のヤツメウナギ		
N03473-03484	-	枝幸	枝幸幌別川河口の捕獲場		
N07458-07466	-	千歳	千歳ふ化場		
<b>図版 254 : N07464 : 千歳ふ化場のふかじょうばし</b>					
N04980-04988, N07128-07130	-	白老	漁船		
N02390-02394	-	オホーツク	漁船, 網		
N06945-06948	-	知床	釣り		
N30561-30566	-	網走	川での漁の様子		
<b>図版 255 : N30564 : 網走地域での川漁</b>					
N08449-08455	-	苫小牧?	ふ化場		
N03715, N08239-08241	-	渡島管内	漁港		
N03132-03133, N05140-05154	-	釧路管内	漁港の写真など		
P31292, P31296	-	-	鮭稚魚の海水放流試験	犬飼 1936h	
N30379-30390, N70408	-	-	動物発生学実験法で利用した写真群	犬飼 1938c, 犬飼 1958a, 犬飼 1962b	
<b>図版 256 : N30380 : 実験室内の孵化槽, 犬飼 1938c で利用</b>					
N70344, N70379, P30554, P30566	-	-	サケとふ化場	犬飼 1958a	
N50841, P30563-30564, P30868, P32252, P32257-32260	-	-	サケの産卵, ふ化場	犬飼 1962b	
P01961-01969	-	-	漁港の様子		1970年か

N08832-008853	-	-	北村 西川古川の網漁 水産関連写真			
N03655, N04121-04123, N05169-05178, N05181, N06602-06610, N06799-06806, N06808-06813, N07507-07511, N07577-07584, N30005-30006, N30013, N30114, N30244-30246, N30253, N30267-30269, N30443, N30451-30456, N30458, N30664, N30666-30668, N30670-30671, N30677-30681, N30683, N30911-30912, N30935, N30943-30945, N30950, N30967, N31238-31239, N31330, N31585, N50206-50212, N51188, N70278, N70329-70331, N70333-70341, N70343, N70345-70363, N70370-70378, N70380-70383, N70385-70407, N70409-70418, N70531-70532, N70564-70565, N71051-71055, N71072, P01455, P01457, P01469, P02342, P02422, P02454, P02552, P02568, P02573-02575, P02639, P02642, P02794, P02807, P02851, P02859, P02875, P02885-02886, P02888, P02910, P02964, P03014, P03061-03062, P03090, P03241, P03277, P03358, P03368, P03371-03372, P03568, P03591, P03594-03595, P03598, P03675, P03680-03682, P03881, P03888, P04083, P04382, P04671, P04673-04674, P05011, P05035-05047, P05336-05339, P05345, P05370, P05587, P05641-05642, P30109, P30338-30363, P30365, P30543, P30547, P30652-30655, P30657-30661, P30664-30669, P30762, P30866, P30918, P31084, P31087-31088, P31125, P31170, P31182-31184, P31257, P31345, P31798, P32059, P32066, P32118-32119, P32218	【雑】					
<b>調査</b>						
<b>被害</b>						
P31155, P31920, P31922	写真番号	年次	地名	事項	文献	備考
N50362		1931年6月30日 1934年4月29日	- 江別	ウサギ駆除 野幌生態調査 (ネズミが食った木)	犬飼 1934i	
<b>図版 257 : N50362 : 雪中にてヒメネズミの樹皮を食害した跡</b>						
N50408		1934年8月	-	パンケ野ネズミ跡		
N07789-07813, N07515-07820, N08029-08031		1951年5月2日	函館	蛾眉野の樹木被害		
P31012		1951年5月14日	芽室	中美生学校林のネズミ害調査		
P05245-05257, P04291		1952年	-	カラマツのネズミ被害	犬飼 1952i	
P05088, P32165-32173		1952年9月10日	千歳	長都のウサギ被害		
N01268-01283, N01286-01293		1953年9月10日	-	ドブネズミの水稲被害		

N06929-06939, P05090, P31002, P32205 図版 258 : N06935 : 厚質のネズミ被害	1955年5月	門別	厚質のネズミ被害	犬飼 1955o
N01294-01343	1955年7月	根室	根室鉄道付近林(十條製紙の林?)の被害調査	
N70975-70983	1959年	-	市役所の山の兎ワナ	
P30993	1959年3月18日	-	ブナ天然林のネズミ被害	
P30028, P30443-30445, P30447-30448	1959年8月5日	島牧	島牧村国有林内の野鼠	
図版 259 : P30447 : 島牧のネズミ被害 (アカネズミ捕獲)				
N00858-00862	1966年5月10-14日	釧路	釧路湿原の樹木被害	
N00700-00718	1967年4月8日	札幌	北大構内クラーク会館付近のネズミ被害	犬飼 1968b
図版 260 : N00707 : 北大クラーク会館そばのネズミ被害調査				
N02351	1967年8月22-24日	-	ネズミ捕獲	日勝峠付近か
N50427	-	樺太	ドブネズミの被害	犬飼 1939c
N07515, N08358-08359, N08370-08371, N05590	-	-	ネズミの被害	犬飼 1951b
N01480-01505, N07309-07313	-	下川	ネズミ被害	犬飼 1955o
P04205, P04308, P04310, P04312, P04316, P30160, P30827	-	当別	ネズミ被害	犬飼 1955om 犬飼 1964g
P30186-30192, P32174-32176, P32178-32186, P32186	-	札幌	王子造林のネズミ被害	犬飼 1958h
P30211, P31154, P32221-32222, P32232-32233, P32243-32244	-	-	ウサギ被害	犬飼 1963g, 犬飼 1968b
P30165-30166, P30168-30172	-	共和ほか後志管内	果樹園の被害	
N08600-08623, N09064	-	根室	根室雪上の被害調査	
N07821-07842	-	札幌	農業試験場のネズミ被害	
N08045-08051	-	札幌	礼文島の樹木被害	
P05105	-	稚内	沼川保安林の様子	
N01694-01702	-	七飯	大沼のウサギ捕獲	
N08291-08295, N08305-08351	-	苫小牧	ウサギ被害	
N08440-08448	-	苫小牧	ネズミ被害	
N01220-01260, N01264-01267	-	-	フラートル団子製造工場	



	【雑】 N06291-06296, N06511-06527, N06886-06903, N06971-06978, N06982-06986, N07002-07005, N07304-07308, N07425-07426, N07431-07444, N07512-07514, N07516-07518, N07522-07524, N07595-07629, N07733-07753, N07856-07857, N08356-08357, N08362-08368, N08372-08382, N08386-08388, N08391, N08401-08439, N08508, N08518-08522, N08525-08548, N08711, N08819-08831, N08856-08857, N30354-30368, N30373, N30392, N30394-30399, N30401-30403, N30405-30407, N30410-30412, N30414-30415, N30421-30429, N30431, N30433-30439, N30441, N30674, N30937, N30964, N31001, N31223-31224, N31310-31312, N31468-31470, N70250-70251, N70309-70311, P01262-01268, P02232, P02236, P02824, P02826, P03008, P03407, P03407<<Check!>>, P03450, P03465, P03471, P03475, P03531, P03818, P04206-04207, P04273, P04275-04278, P04280-04281, P04288, P04305, P04311, P04314-04315, P05089, P05091-05092, P05094-05104, P05108-05112, P30064, P30068, P30159, P30161-30164, P30167, P30177-30178, P30219, P30226-30234, P30238-30239, P30244-30245, P30249-30253, P30256, P30260-30262, P30264, P30800, P30825, P30839, P30994-30995, P31003-31004, P31006, P31008, P31014, P31064, P31089-31090, P31128, P31172, P31186, P31206, P31212, P31221, P31227, P31231, P31231, P31295, P31322, P31359, P31676-31680, P32008-32011, P32201-32202, P32210, P32212, P32226-32231	-	動物による被害関連写真			
調査	クマの被害	年次	地名	事項	文献	備考
	写真番号	1910年	札幌	被害を受けた人物	八田 1911b	
	N60297, N61059, N61456	1931年10月	別海	ヤウシユベツで駆除したヒグマ		
	N50873	1933年7月	松前	小島村のクマ被害		
	N30755-30768, N50846-50853					
	図版 263 : N50853 : 松前小島のヒグマ被害写真					
	P03466-03467, P03474, P03479, P03482-03483, P31954, P31960	1933年7月1日	八雲	八雲のクマ被害 (熊が殺した牛を土で覆い隠したところなど)	犬飼 1933d	八雲松木教諭撮影
	N50171-50179	1934年4月20日	札幌	簾舞のクマ被害および付近の様子	犬飼 1987	
	N50148	1934年5月	札幌	定鉄沿線で人を襲ったクマ	犬飼 1936e, 犬飼 1947c	
	N31601-31602, N31619-31627, N50147, N50149, N50159	1934年9月4日	札幌	簾舞のクマ被害および付近の様子		

調査	写真番号	年次	地名	事項	文献	備考	
調査	N31181-31184	1944年7月	札幌	簾舞のクマ被害			
	P30076	1952年4月27日	天塩	ピシウク山で捕獲されたヒグマ	犬飼 1954a		
	P32150-32151	1953年10月20日	-	綿羊の被害			
	P30074	1956年5月28日	上士幌	糠平タウシチュベツ沢で捕獲したヒグマ			
	N01354-01374	1964年7月20日	札幌	簾舞のクマ被害			
	N01375-01395	1964年11月	札幌	簾舞のクマ被害			
	N07238-07241	1964年12月5日	釧路管内	駆除したヒグマ		年次は「タンチヨウ調査」とある フォルダより	
	N61652	-	恵庭	補殺したヒグマ (恵庭猟友会)			
	N02607-02640	-	岩見沢	ヒグマ出没に対する対応	犬飼 1963b, 犬飼 1967g		
	<b>図版 264 : 岩見沢のクマ出没注意看板</b>						
	N50152, N51198	-	黒松内	熱郭で駆除されたヒグマ			
	N00224-00251, P02643, P04575-04576, P04578-04583, P04585-04586, P04588, P04590-04591, P04595, P04597-04599, P04601, P04603-04605, P04608-04613, P04616-04618, P04621-04624, P04626-04627, P04629-04632, P06434-06435	-	標津	ヒグマ駆除			ネガとプリントが対応しないが、 写っている人物から同一時期に撮 影されたもの
	N50154, N50169	-	札幌	簾舞のクマ被害			
	N50370-50379	-	松前	小島村のクマ被害			
	N50348, N60931, N61655	-	-	捕獲された春グマ	犬飼 1932f		
	N30907, N31073-31075, N31154-31157, N31160-31162, N50158, N50165, N50168, N50180-50182, N50872, N51205-51206, N60927-60928, N61653-61654, N61656-61657, N61837, N70181, P03027, P30932, P32217, P32266	【雑】	-	ヒグマ被害、駆除されたヒグマ、クマ除け 鈴写真など関連写真真群			
	<b>その他</b>						
	N03178-03192	写真番号	年次	地名	事項	文献	備考
	N03349, N03351-03360		1964年4月	江別	野幌調査		
	N00762-00857, N00863-00883, N00884-00887		1964年8月	稚内・豊富	海岸付近の調査		
N04572-04613		1966年5月10-14日	釧路	釧路湿原調査			
N01712-01763, N04163-04241, P32195		1970年1月	斜里	流水、雪上での調査			
<b>図版 261 : 松前小島の鳥類調査</b>		1965年5月	松前	松前小島調査	犬飼 1967f		
N03532-03566, N03670, N03791-03915		1966年6月1日	松前	大島のミスナギドリ、植生調査			
<b>図版 262 : 松前大島の植生調査 (イタヤの林)</b>							

P04385-04386	1966年7月10日	松前	大島調査			
N00274-00329, N00390-00408, N08889-08890	-	豊富	サロベツ総合調査	犬飼 1962f		
N30926	-	松前	松前小島調査			
N31057-31072, N31752	-	松前	大島ミズナギドリ調査など			
N01460-01474, N06129-06155	【雑】	知床	知床での調査			
N03106-03131, N06616-06627, N06629-06633, N06852-06885, N07285-07290, N30027, N30669, N31000, N52015, P04091, P30442, P30449, P30754	【雑】	-	分類できない調査写真群			
<b>ミンク</b>						
写真番号						
N08895-08911	1956年3月	-	ミンク養殖場			備考
N07701-07702	1959年	根室	ミンク養殖場			
P31932	1960年12月21日	-	ミンク毛皮処理			畜産会館にて
N03232-03240, N03245-03268, N06200-06236	1961年1月26日	札幌	ミンク養殖場			
図版 265 : ミンク養殖場						
N06438-06441, N06445-06505	1961年3月8日	網走	日魯ミンク養殖場			
図版 266 : N06468 : ミンク養殖場						
N00380-00382	1962年10月	網走	ミンク養殖場予定地付近の様子など			
N00409-00445	1963年2月13-14日	網走	日魯ミンク養殖場			
N07235-07237	1964年12月5日	釧路か	ミンク養殖場			
N01786-01797, N04872-04876	1965年	-	ミンク毛皮オークション			
N02578-02586	1968年	札幌	ミンク養殖場			
P30639-30644, P30647	-	-	畜産体系掲載のミンク関連写真	犬飼 1959e, 犬飼 1959i		
N07848-07855	-	札幌	藤の沢のミンク養殖場			
図版 267 : N07855 : ミンク養殖場						
N08142-08156	-	札幌	ミンク養殖場			
P05621-05627	-	札幌 (北大構内)	ミンク審査会			

毛皮

N02700-02707, N03396-03409, N06369-06381, N06651-06652, N06711-06715, N06717-06718, N06721-06724, N06761-06770, N06774-06787, N06823-06847, N06851, N06913-06917, N06949-06954, N06961-06966, N07045-07107, N07368-07369, N07371, N07394-07408, N07962, N07964-07966, P01201, P01470-01474, P01477, P01479, P01489-01492, P02272-02273, P03021, P03451, P04242, P04293, P04663-04670, P04672, P04675-04688, P04978, P05360, P30645-30646, P30648-30651, P31796, P32213	【雑】 -	ミンク関連写真群				
その他						
N50215, N50224, N60930	1933年	上富良野, 夕張, 後志など	イタチ毛皮関連	犬飼 1934b, 犬飼 1934i	文献	備考
図版 268 : N50215 : 上富良野のイタチ毛皮買入所 図版 269 : N60930 : イタチのアルビノ毛皮 (後志, 夕張産)						
N50214, N50258	1934年	樺太	クロテン毛皮	犬飼 1964g		
図版 270 : N50258 : 樺太で密猟されたクロテン						
P04214, P04216-04217	-	-	タヌキ毛皮	犬飼 1934b, 犬飼 1936e		
N50285-50289	1937年7月13日	-	犬毛皮	犬飼 1938f		
N50223, N50397, N50406	-	-	イタチ捕獲わな	犬飼 1938f, 犬飼 1975		
N50393, N50395	-	旧満州	満州産毛皮	犬飼 1938g		
N50257	-	-	毛皮防寒性調査写真	犬飼 1939e		
N50259-50263, N52083, P02202, P02477, P02491, P02954, P03490, P03493, P31037, P31144	-	-	アザラシ各種の毛皮	犬飼 1940a, 犬飼 1942b		
図版 271 : N50259 : ゼニガタアザラシ (根室産) 図版 272 : N50261 : クラカケアザラシ (敷香産)						
P02706, P03545, P30031-30033, P31062-31063, P31142, P32140-32143	1959年2月28日	-	ラッコ, 犬毛皮のコートなど	犬飼 1959d, 犬飼 1959i		
P32237	-	-	アーマン毛皮	犬飼 1959d		
N04593-04601	1970年1月	斜里	毛皮調査			
N70014	-	礼文	礼文の養狐			
N31139	-	えりも	海豹毛皮を用いたバッグ			
図版 273 : N31139 : アザラシ皮製靴						

<p>N04437-04441, N04990-04995, N05001-05004, N05027-05028, N05248-05253, N05466-05468, N05472-05477, N05483, N05490-05495, N05497-05506, N05511, N05515-05523, N05916-05523&lt;&lt;Check!!&gt;&gt;, N05916-05917, N08175-08188, N30047, N30079, N30220-30222, N30375, N30743-30746, N31215, N31284, N31303, N31305, N31532, N50217-50218, N50225, N50229, N50339, N50365, N50392, N50394, N50477, N51220-51223, N52007, N61003, N70268-70269, N70295, N70312-70317, N70424-70425, N70568, P02420, P02569, P02762-02765, P03454, P03535, P03537, P03540-03542, P03600-03602, P03613, P04085, P04181, P04215, P04389, P30034, P30766-30767, P30828, P31049, P31165, P31175, P31178, P31216, P31235, P31371</p>	<p>【雑】 -</p>	<p>毛皮関連写真群</p>		
<p>南極観測</p>				
<p>南極観測関連</p>				
<p>N01201-01215</p>	<p>1956年</p>	<p>稚内</p>	<p>樺太犬訓練所創設時</p>	<p>文 献 備 考</p>
<p>図版 274 : 稚内樺太犬訓練所創設時</p>				
<p>図版 275 : 稚内樺太犬訓練所創設時</p>				
<p>図版 276 : 稚内樺太犬訓練所創設時 (犬飼)</p>				
<p>N08712-08721</p>	<p>1956年</p>	<p>稚内</p>	<p>訓練の様子</p>	
<p>N06634-06637</p>	<p>-</p>	<p>稚内</p>	<p>樺太犬訓練所の様子</p>	
<p>図版 277 : N06634 : 稚内樺太犬訓練所</p>				
<p>N01418-01426</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>観測隊壮行会の様子</p>	
<p>N06254-06258, N06992-06995</p>	<p>-</p>	<p>東京</p>	<p>観測隊壮行会の様子</p>	<p>赤坂プリンスホテル</p>
<p>N07319-07323</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>ジロ剥製の様子</p>	
<p>N70266, P03289-03298</p>	<p>-</p>	<p>札幌 (博物館)</p>	<p>博物館で飼育していた樺太犬</p>	
<p>P03933</p>	<p>-</p>	<p>稚内</p>	<p>訓練所でのスナップ</p>	
<p>P01460-01462, P01465</p>	<p>-</p>	<p>稚内</p>	<p>稚内公園の樺太犬像</p>	<p>犬飼 1981a</p>
<p>P05009-05010</p>	<p>-</p>	<p>東京</p>	<p>東京タワー下の樺太犬像</p>	
<p>N01397-01407, N01597, N01608, N02159-02162, N02711-02730, N04788, N05449-05452, N07127, N08549-08550, P03287-03288, P03309, P03336</p>	<p>【雑】</p>	<p>札幌 (博物館)</p>	<p>タロ関連写真</p>	<p>犬飼 1963h</p>
<p>図版 278 : N02720 : タロ (植物園での余生)</p>				

北海道大学							備考
写真番号	年次	地名	事項	文献	備考		
N60825	1935年	キャンパス内					
P04194	1935年1月31日	キャンパス内	長野県学生会送別会				
N50491-50492	1939年2月19日	キャンパス内	農学部前, 梅谷八木博士来札記念				
P05631	1951年3月	キャンパス内	農学部前の集合写真				
N70608-70624	1952年頃	キャンパス内	恵迪寮付近を中心とした写真群		阿部永撮影		
P03700, P03705	1954年6月10日	キャンパス内	農学部				
N02155-02157, N02163-02167	1964年3月	キャンパス内	農学部				
N01609-01615	1964年	キャンパス内	農学部水産学科講堂取り壊しの様子				
<b>図版 279 : N01612 : 農学部水産学科講堂取り壊しの様子</b>							
P04351	1966年	キャンパス内	農学部前, 日本衛生動物学会総会				
N00700-00718	1967年4月8日	キャンパス内	クラーク会館付近のネズミ被害	犬飼 1968b			
N00530-00537	1967年05月	キャンパス内	クラーク会館から農学部				
N00684-00685, N02370-02372, N02376-02378, N06849-06850, N06918-06928, N07303, N07863-07866, N08514-08515, N30963, N31024-31030, N50155, N51259, N51282, N51525, N60298, N60300, N60735, N60740, N60831-60833, N60862, N60864, N60871-60873, N60879-60880, N61170, N61172, N61248, N70985-70988, P02832, P02904, P02920, P02947-02948, P02950, P03506-03507, P03938-03943, P03947, P04056, P04145-04146, P04243, P05598, P05621-05627, P31214	【雑】	キャンパス内	年次不明				
<b>図版 280 : N60831 : 農学部植物学講堂 (現在の宮部金吾記念館) 付近の様子</b>							
<b>図版 281 : N60833 : 農学部植物学講堂 (現在の宮部金吾記念館) 付近の様子</b>							
N60282-60285, N60293, N60295, N61443, N61446-61448	1928年2月	植物園	秩父宮行啓				
N60881-60885	-	植物園	飼育ガマの解剖調査				
N06261-06287, N07997-08028, N30774, N30786, N31550, N31554-31557, N31603-31605, N50001-50010, N50019-50024, N50101-50110, N50115, N51523, N61251, N70477, N70479-70481, P03148, P03237, P30476, P30511, P31972, P32240	【雑】	植物園	植物園で行われたアイヌ民族調査関連	犬飼 1935h, 犬飼 1964p, 犬飼 1969e, 名取 1941a, 名取 1942	個々の調査はアイヌ関連を参照		

<p>N01156-01157, N01236-01239, N01241-01244, N01246-01263, N01396, N01869-01871, N02158, N05111-05112, N06848, N07121, N07126, N07391-07393, N07446-07455, N08552-08554, N30066, N30784, N50308-50309, N50843-50845, N51192-51195, N60001, N60197, N60199, N60218, N60291-60292, N60294, N60301-60309, N60334, N60731, N60906, N61054-61055, N61099, N61294-61316, N61320-61325, N61327, N61334-61353, N61426-61429, N61431-61432, N61437-61442, N61444-61445, N61451, N61453, N61457-61458, N61467-61470, N61513-61517, N61565-61566, N61571-61572, N61574-61575, N61581, N61688, N61817, N70046-70077, N70079, N70085, N70157-70159, N70252-70255, N70266-70267, N70422-70423, N71065-71069, P01125-01126, P01269-01270, P03289-03298, P03671, P04016, P04086-04088, P04304, P04392, P05595-05596, P05632, P030820-30823</p>	<p>【雑】</p>	<p>植物園</p>	<p>植物園関連写真</p>	<p>犬飼 1931f, 犬飼 1934m, 名取 1939b</p>
<p>図版 282 : <a href="#">N61334</a> : 植物園 (旧事務所・鳥舎)      図版 283 : <a href="#">N61339</a> : 植物園 (現在の南口～付近)      図版 284 : <a href="#">N61336</a> : 植物園 (湿生園付近)</p>	<p>【雑】</p>	<p>植物園</p>	<p>夕口関連写真</p>	<p>犬飼 1963h</p>
<p>N01397-01407, N01597, N01608, N02159-02162, N02711-02730, N04788, N05449-05452, N07127, N08549-08550, P03287-03288, P03309, P03336</p>	<p>【雑】</p>	<p>博物館</p>	<p>展示室</p>	<p>1910年札幌博物館案内に対応</p>
<p>N51174, N51177, N60252, N61317-61319, N61578, N61584, N61609-61613, N61672-61673, N61689, N61749, P30878, P30991, P31078-31079</p>	<p>【雑】</p>	<p>博物館</p>	<p>展示室</p>	<p>1910年札幌博物館案内に対応</p>
<p>図版 285 : <a href="#">N61319</a> : 博物館展示の様子      図版 286 : <a href="#">N61749</a> : 博物館展示の様子</p>	<p>【雑】</p>	<p>博物館</p>	<p>展示：割木 (チエベレニ) に近く猪シカ展示ケース 博物館, ハチエラー記念館展示室 オオカミ剥製</p>	<p>名取 1934a 1953年頃 1963年頃</p>
<p>N60252 N01284-01285 N00001-00060 N60390, N60409, N61558-61560, N61626, N70989-70993, N71071</p>	<p>【雑】</p>	<p>博物館</p>	<p>展示：高松宮に献上された写真帖関連写真</p>	<p>学習院 2006 大正期</p>
<p>N52081, N60414, N60907-60913, N61362, N61579, N61585-61586, N61623, N61632, N61638-61641, N61661-61662, N61664-61665, N61668, N61670-61671, N61674-61681, N61683-61687, N61689, P30147</p>	<p>【雑】</p>	<p>博物館</p>	<p>アルビノのガン</p>	<p>山階 1932</p>
<p>N61006</p>	<p>【雑】</p>	<p>博物館</p>	<p>池田真次郎撮影</p>	<p>池田真次郎撮影</p>



N60790-60802, N60892-60905	1934年	博物館	ヒガマ頭骨 (犬飼・武笠)	犬飼 1934a	
N50137-50138	-	博物館	ヒガマ頭骨		
N50139-50140, N50245, N50424-50426, N50428, N50739, N60386, N61106-61109, N61601-61613, N61747-61748, N61750-61575, P30288	-	博物館	博物館ヒガマ標本, 骨格標本	八田 1911b, 犬飼 1964i, 犬飼 1979a	
N61580, N61667	-	博物館	鳥類標本		
N60379-60382	-	博物館	ブラキストン標本	犬飼 1932e	
図版 287 : N60379 : ブラキストン標本 (エゾライチョウ)					
図版 288 : N60380 : ブラキストン標本 (クマガラ)					
N60246, N60395-60397, N61414, N71080-71081, P02222	-	博物館	函館戦争官軍旗, 内村のアフビ標本など		
図版 289 : N60246 : 函館戦争時の官軍旗 (HUNHM12604)					
図版 290 : N60396 : 内村鑑三のアフビ標本 (HUNHM06804)					
P04247-04248	1957年10月6日	函館	北海道大学水産学部 創基五十周年記念		
N60816-60820	-	忍路	臨海実験所	1935年頃	
N30975-30976, N30982, N70321-70325	-	忍路	臨海実験所の舟おろし		
図版 291 : N30975 : 忍路臨海実験所の舟おろし					
N61254	-	忍路	臨海実験所		
N30068	-	室蘭	海藻研究所	1937年以前	
図版 292 : N30068 : 室蘭海藻研究所					
P02536, P30803		厚岸	臨海実験所	異年代の写真	
標本					
写真番号					
N50299, N50429-50431, N50434, N51216, N60023, N60408, N60410-60413, N60841-60846, N60906, N60914-60921, N61583, N61615, -61617, N61633, N61749, P02208, P02854, P30047, P31151-31153, P31802-31803, P31805-31806, P31808-31809	【雑】	-	哺乳類剥製標本	犬飼 1934k, 犬飼 1931e	博物館標本を含むが, 全てを照合できていない
図版 293 : N60920 : ジャコウジカ (HUNHM45344, 45345)					
P02753-02758	-	-	発掘されたマンモス資料関連写真		博物館標本ではない
N08281	1930年	函館	市立函館図書館・博物館の鳥類標本		
P01749, P30787	1964年1月20日	小清水	シロフクロウ標本		

N61663	-	-	-	シロハヤブサ (千歳産)	犬飼 1943b	
<b>図版 294 : N61663 : シロハヤブサ (千歳産)</b>						
N05431-05432, N05436, N60341, N60860, N61576, N61580, N61666, P31301-31302, P30878, P30991	【雑】	-	-	鳥類剥製標本	-	博物館標本を含むが、全てを照合できていない
N70834-70974, N71096-71099	-	-	-	貝類標本		
N51175-51176, P30279	-	-	-	鹿岳語ラベル		
N31461-31463, N50531, N50906, N51184-51186, N60379-60382, N61316, N61452, P03391	-	-	-	ブラキストン肖像, 標本棚, 証券など	犬飼 1932e	
<b>図版 295 : N61452 : ブラキストン肖像</b>						
博物館 (北大を除く)						
写真番号						
N08279-08290	1930年頃	函館	地名	事項	文献	備考
市立函館博物館基礎工事, 図書館の展示室など						
<b>図版 298 : N08283 : 函館博物館完成予定模型</b>						
<b>図版 299 : N08285 : 函館博物館基礎部分</b>						
N07967-07986	1951年頃	室蘭		水族館調査 (水族館建設予定地の視察)		
<b>図版 300 : N07972 : 室蘭水族館建設予定地</b>						
<b>図版 301 : N07980 : 室蘭水族館建設予定地</b>						
N07987-07996	1951年頃	函館		水族館調査か (立待岬)		
P03670	1952年10月	網走		網走郷土博物館		
N03089-03105	1960年5月15日	上川		層雲峡博物館建設直後		
<b>図版 302 : N03090 : 層雲峡博物館 (完成直後)</b>						
N04877-04878	-	伊達		伊達市開拓記念館外観		1965年頃か
N02489-02577	1968年6月13日	小樽		小樽水族館		
N00742-00761, N01158-01168	1968年7月1日	小樽		小樽水族館		
N05967-05978	1970年6月	余市		余市水産博物館		
P01941-01959	-	小樽		小樽水族館		
N00538-00561, P04996	-	神奈川		神奈川県立歴史博物館		1968年頃
N05993-05997	-	余市		余市水産博物館		
<b>図版 303 : N05993 : 余市水産博物館</b>						
N6095-06112	-	小樽		ニシン御殿資料, 市立博物館資料など	犬飼 1968d	
N70798	-	網走		網走郷土博物館		



ICBP: (国際鳥類保護会議)						
その他	写真番号	年次	地名	事項	文献	備考
	N02249-02281	1960年5月24日	東京	ICBP大会		国際文化会館にて
図版 306 : N02253 : ICBP 大会会場 (国際文化会館)						
	N01529-01585, N03270-03319	1960年6月	北海道 (道東各地)	ICBP 視察		
図版 307 : N01559 : ICBP 北海道視察						
民族						
その他	写真番号	年次	地名	事項	文献	備考
	N50130-50132	-	樺太	ウイルタのイナウほか	犬飼 1941b	
	N60254, N61414, N71080-71082, P02972	-	-	民族資料その他		
人物写真						
その他	写真番号	年次	地名	事項	文献	備考
	-	-	-	八田三郎写真 20 枚		
	-	-	-	犬飼哲夫写真 238 枚		
	-	-	-	その他人物写真 134 枚		
図版 308 : N61843 : 小熊哲夫妻 (自宅にて)						



## 〈地域分類目録解説〉

地域分類目録は、古写真群を撮影場所に基づいて分類した目録である。分類対象は、北海道内市町村を基本として、樺太（サハリン）・千島（クリル）・海豹島のほか、現地調査を行う機会を得た若干の本州、外国地域を含んでいる。

この目録には、主題分類目録では拾い上げられなかった風景写真なども掲載されている。一方で、小樽手宮出土土器を札幌の博物館で撮影されたような場合はこの目録には掲載していない。

地域の表記については、主題分類目録解説で示したように、撮影された時期を考慮に入れ、「角川日本地名大辞典 北海道」（1987年）による市町村名を用いた。ただし、利尻町および利尻富士町については分類が困難であったことから、利尻として扱った。現在の市町村名との対応については下記の付表を参照されたい。市町村名を特定しがたい大雪山系や知床海岸の写真は、地域として取り扱い、末尾にまとめている。

目録は次のような構成となっている。

- ・写真番号：古写真固有のIDを示すもので、Nから始まる番号はネガを、Pから始まる番号はプリントであることを示す。なお、プリントに対応するネガが確認されている場合は、ネガの番号を記載してプリントの番号は記載していない。プリントの場合、焼き増しされたことで同じ写真が複数残されている場合がある。これらの重複写真は統合せず、すべての写真番号が記載されている。
- ・年次：フォルダやプリント裏面、対応する文献などに撮影年次の記載があるものについて、ここにその情報を記した。当欄に【雑】とあるものは、当該分類に含まれる写真ではあるものの、グループとして提示できるだけの情報が不足している写真をまとめたものである。
- ・分類：グループ化された写真について、主題分類目録の大分類を基本として記載している。主題分類に含まれないものはその他としている。
- ・事項：グループ化された写真の内容を示している。
- ・文献：グループに含まれる写真が文献に利用されている場合、当該文献を文献目録の文献表記に基づいて示している。
- ・備考：記載事項に疑問がある場合や、推定できる情報を示している。
- ・図版：グループに含まれる写真のうち、図版に掲載したものについて、図版番号と写真番号及び内容を示している。

付表 2012年現在の自治体名と旧市町村名対応表

現在の自治体名	統合した旧市町村名（本目録で採用している地名）				
函館市	函館市	戸井町	恵山町	榎法華村	南茅部町
森町	森町	砂原町			
せたな町	瀬棚町	北檜山町	大成町		
士別市	士別市	朝日町			
八雲町	八雲町	熊石町			
遠軽町	遠軽町	生田原町	丸瀬布町	白滝村	
石狩市	石狩市	厚田村	浜益村		
釧路市	釧路市	阿寒町	音別町		
幕別町	幕別町	忠類村			
北斗市	大野町	上磯町			
日高町	日高町	門別町			
伊達市	伊達市	大滝村			
北見市	北見市	端野町	常呂町	留辺藪町	
枝幸町	枝幸町	歌登町			
安平町	追分町	早来町			
名寄市	名寄市	風連町			
岩見沢市	岩見沢市	北村	栗沢		
むかわ町	鶴川町	穂別町			
洞爺湖町	洞爺村	虻田町			
新ひだか町	三石町	静内町			
大空町	女満別町	東藻琴村			
湧別町	湧別町	上湧別町			

石狩管内		札幌				北六管内、植物園、博物館関連は主題分類目録を参照			
写真番号	年次	分類	事項	文献	備考				
N60299	1922年	その他	札幌独立教会クラーク記念堂						
<b>図版 309 : N60299 : 札幌独立教会</b>									
P03384	1930年	動物	桑園のカッコウ雛						
N30622, N30624-60626, N30628-60629	1930年	その他	札幌岳登山						
N70217-70219	1931年	動物	手稲山のクマ穴	犬飼 1932d, 犬飼 1987					
<b>図版 003 : N70219 : クマの穴 (手稲)</b>									
N60338-60339	1931年	動物	植物園内で採集したツツドリ						
N50171-50179	1934年4月20日	調査	簾舞のクマ被害, 付近の様子	犬飼 1987					
N50148	1934年5月	調査	定鉄沿線で人を襲ったクマ	犬飼 1936e, 犬飼 1947c					
N50485, N61032	1934年7月6日	その他	北海道庁, 真駒内種畜場						
N31601-31602, N31619-31627, N50147, N50149, N50159	1934年9月4日	調査	簾舞のクマ被害, 付近の様子						
N31529-31531	1935年2月22日	調査	月寒クマの足跡						
N50435-50449	1935年5月11日	その他	北海道犬展覧会		丸井呉服店にて				
<b>図版 024 : N50448 : 北海道犬展覧会 (丸井今井)</b>									
P03683, P03753	1935年6月21日	動物	円山のアマガエルの産卵池						
N50141-50146	1935年9月22日	調査	月寒クマの足跡	犬飼 1934l	犬飼 1934l 掲載の写真であり, 年次など要検討				
N50374-50379	1936年9月13日	調査	札幌付近のマス漁						
<b>図版 249 : N50374 : 札幌付近のマス漁</b>									
N31181-31184	1944年7月	調査	簾舞のクマ被害						
P31356	1953年2月4日	動物	エゾリスの巣 (定山溪)						
P04347	1954年3月7日	山岳部	納会		円山にて				
P30080	1954年4月11日	動物	手稲で捕獲したクマと捕獲者						
P04075	1955年7月20日	人物	定山溪森林荘前の犬飼ら						
N06189-06199	1956年	動物	支笏湖で捕獲したクマ		現在の札幌駅付近の標本社前にて				
<b>図版 006 : N06193 : 札幌駅付近の剥製社前のヒグマ (支笏で捕獲)</b>									
N06328-06357	1957年6月7日	調査	藤野小鳥の村の調査						
N70043-70044	-	その他	豊平館		1958年頃				
N03232-03240, N03245-03268, N06200-06236	1961年1月26日	毛皮	ミンク養殖場						
<b>図版 265 : N03248 : ミンク養殖場</b>									
N01354-01374	1964年7月20日	調査	簾舞のクマ被害						
N01375-01395	1964年11月	調査	簾舞のクマ被害						



N05622-05638	1965年	その他	無意根山荘			
P030869, P30887	1966年9月20日	動物	藤の沢のクワゾル			
N00700-00718	1967年4月8日	調査	北大クラーク会館付近のネズミ害	犬飼 1968b		
<b>図版 260 : N00707 : 北大クラーク会館そばのネズミ被害調査</b>						
N02578-02586	1968年	毛皮	ミンク養殖場			
N02324-02335	1968年6月5日	その他	豊平北海道犬審査会			
<b>図版 026 : N02333 : 北海道犬展覧会 (豊平小学校付近)</b>						
N04665-04670	-	その他	手稲幼稚園		1969年頃	
N04547-04561	1970年	その他	滝野小学校			
N04563-04571	1970年2月	その他	信濃中学校			
N00686-00699	-	その他	月寒小学校			
N07821-07842	-	調査	農業試験場ネズミ害			
N07848-07855	-	毛皮	藤の沢のミンク養殖場			
<b>図版 267 : N07855 : ミンク養殖場</b>						
N08274, N08278	-	その他	民族学会講演 (犬飼・知里)			
N50154, N50169	-	調査	篠舞のクマ被害			
P30186-30188, P30190-30192, P32174-32176, P32178-32186	-	調査	王子造林の被害	犬飼 1958h		撮影日は同一ではない
N08142-08156	-	毛皮	ミンク養殖場			
N03388-03395	-	その他	野球部			
N30522-30524, M30918, N05116-05168, N05260, N06116-06122, N06654-06655, N50298, N70548-70549, P02800, P05270, P30924	<b>【雑】</b>	-				
<b>恵庭</b>						
<b>石狩管内</b>						
<b>恵庭</b>						
N31738-31740	1931年1月28日	動物	島松のクマの穴	犬飼 1954a		
<b>図版 002 : N31739 : クマの穴 (島松)</b>						
N61398-61404	1941年	考古	恵庭竪穴発掘	名取 1948b		
<b>図版 139 : N61398 : 恵庭公園遺跡調査</b>						
<b>図版 140 : N61401 : 恵庭公園遺跡調査</b>						
<b>図版 141 : N61402 : 恵庭公園遺跡調査</b>						
N61652	-	動物	補殺したヒグマ (恵庭猟友会)			

江別	写真番号	年次	分類	事項	文献	備考	
石狩管内	N31715-31720, N50134-50136	1931年10月11日	考古	町村農場発掘	名取 1933d, 名取 1939b		
	N60181	1932年	考古	町村農場発掘			
	N60200	1933年	考古	町村農場発掘			
	N50295, N50300-50306, N50310-50338, N50353-50362, N50896, N51029, P02418, P02460, P03422, P03463, P03975, P03979, P03987, P04303, P05612, P30412, P32012-32014	1934年	調査	野幌国有林内の生態調査	犬飼 1934I, 犬飼 1968b	撮影年月日は同一ではない	
	図版 039 : N50360 : エゾオオカゲラ 図版 046 : N50355 : エゾサンショウウオの卵塊 図版 047 : N50896 : フクドジョウ 図版 257 : N50362 : 雪中にてヒメネズミの樹皮を食害した跡						
	N03178-03192	1964年	その他	野幌			
	N60107, N60207, N60245	-	考古	江別兵村発掘	名取 1933d, 名取 1939b		
	N06113-6115, N06125-06128	-	その他	野幌か			
	N31140-31152	-	調査	「江別のヤツメ」			
	N60198, N60213-60125	-	考古	町村農場発掘			
	千歳						
	石狩管内	写真番号					
		P17043	1932年1月28日	アイヌ	熊送り		
		N60922-60926	1932年	その他	美々缶詰工場跡地他		
図版 310 : N60922 : 千歳美々缶缶詰跡地							
P02551		1935年1月19日	調査	千歳ふ化場			
N31357-31638, N50060-50066, N50366, N50498, N50501, N50505, P30794, P30928		1935年4月14日	アイヌ	クマ狩り	犬飼 1969e		
図版 095 : N31367 : 千歳アイヌの熊狩り 図版 096 : N31364 : 千歳アイヌの熊狩り (アイヌ犬)							
N07920-07961		1936年1月12日	アイヌ	熊送り	岡田 1938, 犬飼 1969e		
図版 061 : N07925 : 千歳熊送り 図版 062 : N07935 : 千歳熊送り							
P05088, P32165-32173		1952年9月10日	調査	長船におけるウサギ被害			
N50497, N61050		-	その他	美々缶詰工場	犬飼 1952I, 犬飼 1957a		

N07458-07466	-	調査	千歳ふ化場			
図版 254 : N07464 : 千歳ふ化場のふかじょうぼし						
N08858-08876	-	調査	千歳の放流			1951年5月か(犬飼手帳より)
図版 253 : N08860 : 千歳川のサケ放流						
N52050-52053	-	動物	クマの共食い			
N70332, N70342, N70359, P02257-2258	-	調査	インディアン水車			
P30856, P31993	-	アイヌ	ヌサ他			
石狩管内						
石狩						
	写真番号	分類	事項	文献		備考
P30556, P30562	1954年10月2日	調査	石狩河口で捕獲したサケ	犬飼 1962b		
石狩管内						
当別						
	写真番号	分類	事項	文献		備考
P04205, P04308, P4310, P4312, P4316, P30160, P30827		調査	当別のネズミ害	犬飼 1955a, 犬飼 1964g		1955年頃
石狩管内						
詳細不明						
	写真番号	分類	事項	文献		備考
N70003-70004, N70748, N70767-70768, 70771	-	その他	支笏湖周辺他			
胆振管内						
伊達						
	写真番号	分類	事項	文献		備考
N04877-04878	-	博物館	伊達市開拓記念館外観			1965年頃か
胆振管内						
室蘭						
	写真番号	分類	事項	文献		備考
N01123-01152, P30364	1952年6月9日	動物	オットセイ猟			
図版 032 : N01142 : オットセイ猟						
P02579, P2582, P02634	1962年10月21日	動物	北海道大審査会			
図版 025 : P02582 : 北海道犬展覧会(室蘭栄高校)						
N30068	-	北大	海藻研究所			1937年の移転前
図版 292 : N30068 : 室蘭海藻研究所						

N07967-N07986	-	博物館	水族館調査		1951年の水族館建設以前	
<b>図版 300 : N07972 : 室蘭水族館建設予定地</b> <b>図版 301 : N07980 : 室蘭水族館建設予定地</b>						
<b>登録</b> オロフレ峠は辻巻をみよ						
N50234-50239, N61008-61009	写真番号	年次	分類	事項	文献	備考
P30831, P30832		1932年5月29日	動物	捕獲したエゾヤマドリの卵		
N01777-01785		1958年10月28日/1959年	動物	クマ牧場		
		1965年2月	動物	クマ牧場		
<b>図版 007 : N01781 : 登録クマ牧場の様子</b>						
N05524-05543		1965年12月16日	アイス, 動物	ユーカーラの里, クマ牧場		
N00087-00094, N01840-1841		1967年7月	アイス, 動物	ユーカーラの里, クマ牧場		
N00143-00202		1967年10月29日	アイス	ユーカーラの里	犬飼 1968a	
<b>図版 109 : N00157 : クマ檻 (ユーカーラの里)</b>						
N00061-00081, N00095-00142		-	アイス, 動物, その他の	ユーカーラの里, クマ牧場, 大湯沼	犬飼 1968d, 犬飼 1969e	
<b>図版 311 : N00068 : 登録大湯沼の温室</b>						
N04857-04859		-	その他	地獄谷入口		1969年頃か
N05857-05258		-	アイス	エカエカをよる	犬飼 1969e	
N01798-01839, P4090, P4142, P30383, P30386, P30833, P31758-31766		-	動物	クマ牧場		
N02604-02606		-	その他	地獄谷		
N04698-4715		-	文化財	登別原始林		
N05193-05244, N05244-05246, N05259		-	アイス	ユーカーラの里		
N00523-00527, N01710-01711, N03504-03506, N05979-05985, N06725-06732		-	【雑】	大湯沼他		
<b>登録</b> 苦ノ牧						
N61531-61532	写真番号	年次	分類	事項	文献	備考
N31628-31632, N31722-31724, N50275-50279, N50307		1923年5月	動物	鳥の巣と卵		
		1933年5月	動物, その他の	時任牧場の鳥類, 池の様子		
<b>図版 037 : N31722 : 時任牧場の鳥</b>						
P30604, P30606, P30620		1962年6月	動物	鳥類		

N00464-00484, N00739-00740	1966年5月	考古	板縫船の発掘		
<p>図版 158 : N00476 : 苫小牧板縫船出土時の様子 (スナップ)            図版 159 : N00478 : 苫小牧板縫船出土時の様子 (スナップ)            図版 160 : N00482 : 苫小牧板縫船出土時の様子 (スナップ)</p>					
N08291-08300, N08305-08351, N08440-08459	【雑】	調査	ウサギ, ネズミ被害他		
<p><b>壮瞥</b></p>					
写真番号		年次	分類	事項	備考
N04844-04869	1969年	その他	昭和新年, 昭和新年のチセ, オロフレ峠		
<p>図版 312 : N04854 : オロフレ峠</p>					
N01703-01709, N04853-4866	-	その他	オロフレ峠		撮影日は同一ではない
<p><b>白老</b></p>					
写真番号		年次	分類	事項	備考
P31481-31500	1965年3月	アイヌ	ポロトコタン		
<p>図版 107 : P31489 : ポロトコタンのヌサ            図版 108 : P31487 : ポロトコタン (現在の博物館入り口付近)</p>					
N06156-06182	1965年5月	アイヌ	ポロトコタン		
<p>図版 106 : N06174 : 白老コタン (ポロトコタン)</p>					
N02178-02197	1967年6月	アイヌ, 博物館	白老民俗資料館開館時		
N00083-00086, N00123-00124	1967年7月	アイヌ	アイヌ資料		フォルダには「ユーカーラの里」とあるが、資料の背景(床)から白老と判断した
N04879-04880	-	アイヌ	ポントコタンのチセ		1965年頃か
N05986-05992	-	考古	虎杖浜2遺跡, アヨロ遺跡		
<p>図版 155 : N05988 : 白老虎杖浜第2遺跡か (スナップ)            図版 156 : N05991 : 白老アヨロ遺跡 (スナップ)            図版 157 : N05992 : 白老アヨロ遺跡 (スナップ)</p>					
N00506-00522, N02587-02603, N3656-03669, N04870-04871, N04967-04988, N05242-05243, N05247, N07128-07130, N07495-07497, N08301-08304, N50013, N50049, N70566-70567, P03330-03334, P30857, P31839, P31967-31969, P31983-31984, P32120	【雑】	-	クッタラ湖, ポロトコタン, 白老町内他		

管内	写真番号	年次	分類	事項	文献	備考	
胆振管内	鶴川 N70472-70473, N70476, P30001, P30465-30467, P30481-30482, P31326, P32065, P32067, P32069-32071, P32075, P32094, P32096-32098, P32100-32105, P32112-32114, P32209	1939-1940年	アイヌ	シシヤモカムイノミ	犬飼 1941c, 犬飼 1964p, 犬飼 1968b, 犬飼 1969e		
	図版 078 : N70473 : シシヤモ漁の時の板小屋群 図版 079 : P30001 : シシヤモ漁の網 図版 080 : P30465 : シシヤモ漁の前のカムイノミ (ムリエトにて) 図版 081 : P31326 : シシヤモ漁の前のカムイノミ (遠景) 図版 082 : P32067 : シシヤモ漁						
	P31784-31793, P31859	-	アイヌ	シシヤモカムイノミ	犬飼 1964p, 犬飼 1969e		
	図版 083 : P31784 : 板小屋 (布製)						
	P31857-31858, P32060-32064, P32068, P32072-32074, P32076-32087, P32089	-	アイヌ		シシヤモ漁		
	詳細不明						
	N30127, N70143	-	その他	洞爺湖か			
	写真番号	年次	分類	事項	文献	備考	
	上川管内	旭川					
	N50014-50017	1934年1月	アイヌ	熊送り			
図版 055 : N50015 : 旭川熊送り N04883-04920, N07888-07919, N50026, N50042, N50048, N50053, N50056, N50123-50126, P04233, P30842, P31074	1935年1月	アイヌ	熊送り	岡田 1938, 犬飼 1943f, 犬飼 1964i	博物館所蔵 35 ミリ動画と同時に撮影されたスチル		
図版 056 : N04896 : 旭川熊送り 図版 057 : N07905 : 旭川熊送り 図版 058 : N07912 : 旭川熊送り 図版 059 : N07917 : 旭川熊送り 図版 060 : N50053 : 旭川熊送り							
N31644-31646	1936年	アイヌ	アイヌ人物写真				
P04254	1952年	その他	日本動物学会 北海道支部会 (学芸大学)				
P31973	1952年	アイヌ	アイヌ人物写真				

	N30704-30706, N30708-30715, N30724-30731, P04226, P30458	-	アイヌ	熊送り		1934年1月の熊送りと関連か
	図版 069 : N30713 : 旭川熊送り					
	N07467-07489, N31641-31643, P04197, P30474-30475	【雑】	アイヌ	神頭骨他		
上川管内	土別		年次	分類	事項	備考
	写真番号					
	N50137-50138	-		動物	ヒグマ頭骨	
上川管内	富良野		年次	分類	事項	備考
	写真番号					
	P04374	-		その他	富良野岳	
上川管内	下川		年次	分類	事項	備考
	写真番号			調査	下川町一の橋国有林内での野鼠調査	
	N01480-01505, N07309-07313	-			犬飼 1955o	
上川管内	上川		年次	分類	事項	備考
	写真番号					
	N02207-2210, N3085-3105	1960年5月		アイヌ, 博物館	層雲峡博物館開館直前, 博物館前の丸木舟	犬飼 1964p, 犬飼 1969e
	図版 105 : N02210 : 丸木舟 (層雲峡)					
	図版 302 : N03090 : 層雲峡博物館 (完成直後)					
上川管内	上富良野		年次	分類	事項	備考
	写真番号					
	N50215	1933年12月28日		毛皮	石狩国上富良野町に於ける鼯毛皮買入所	犬飼 1934i
	図版 268 : N50215 : 上富良野のイタチ毛皮買入所					
上川管内	東川		年次	分類	事項	備考
	写真番号					
	N70138-70139	-		その他	天人峡羽衣の滝	
上川管内	南富良野		年次	分類	事項	備考
	写真番号					
	N05288-05324	1967年9月27日		その他	東大演習林遠景, 金山ダム	



上川管内		比布	写真番号	年次	分類	事項	文献	備考
		N50183		1934年8月	動物	ヒグマの爪痕		
		P01705-P01709		-	その他	水田のミミズ		
後志管内		小樽	写真番号	年次	分類	事項	文献	備考
		N61989-61990		1915年9月30日	動物	銭函のイルカ		
		N60803-60815		1932年	その他	人物、街並み		
		<b>図版 313 : N60811 : 小樽街並み</b>						
		N60182		1935年	北大	忍路臨海実験所		
		P30026-30027		1953年2月3日	動物	小樽内川のエンゼン痕跡		
		P30877		1961年4月	動物	アオハト		
		N02489-02577		1968年6月13日	博物館	小樽水族館		
		N00741-00761, N01158-1168		1968年7月1日	博物館	小樽水族館		
		P01941-01959		-	博物館	小樽水族館		
		N6095-6112		-	文化財、博物館	ニシン御殿資料、市立博物館資料など	犬飼 1968d	
		<b>図版 216 : N06100 : 小樽ニシン御殿資料</b>						
		<b>図版 217 : N06107 : 小樽ニシン御殿資料</b>						
		N30975-30976, N30982, N61254, N70321-70325		-	北大	忍路臨海実験所の船おろしの式典		
		<b>図版 291 : N30975 : 忍路臨海実験所の船おろし</b>						
		N30972, N30974, N50186-50189, N61762-61766, N61828-61832, N61831, N61833-61834, N70550-70552		<b>【雑】</b>	-	銭函のクマ穴、忍路の貝、忍路神社他		
		<b>図版 053 : N61765 : タコブネ (忍路)</b>						
		<b>図版 314 : N70550 : 忍路神社</b>						
後志管内		ニセコ	写真番号	年次	分類	事項	文献	備考
		N70302		1943年5月25日	その他	羊蹄山麓		
		N60204, N60219		-	考古	狩太北栄環状列石、狩太滝台環状列石		参考：駒井 1959
		<b>図版 148 : N60204 : ニセコ狩太北栄環状列石第2号 (スナップ)</b>						
		<b>図版 149 : N60219 : ニセコ狩太滝台環状列石 (スナップ)</b>						
		N31015-31023, N31217, N31220, N70274-70275, N70177, N70279, P03004-3005		<b>【雑】</b>	-	羊蹄山麓他		

後志管内	共和	写真番号	年次	分類	事項	文献	備考
		P30165-30166, P30171	-	調査	ウサギ食害(果樹園など)		
後志管内	倶知安	写真番号	年次	分類	事項	文献	備考
		N52062-52065	-	動物	サンショウウオオアルビノの卵塊		
後志管内	古平	写真番号	年次	分類	事項	文献	備考
		N61773-61777	1936年4月	動物	市場で撮影された魚		
後志管内	黒松内	写真番号	年次	分類	事項	文献	備考
		N50152, N51198	-	調査	熱帯で駆除されたヒグマ		
後志管内	積丹	写真番号	年次	分類	事項	文献	備考
		N07542-07553	-	その他	船上から撮影した積丹半島		
後志管内	赤井川	写真番号	年次	分類	事項	文献	備考
		N51270-51274, N51279	1932年5月31日	考古	赤井川の遺跡・遺物		
		図版 142 : N51274 : 赤井川板小屋遺物散布(スナップ)					
後志管内	島牧	写真番号	年次	分類	事項	文献	備考
		P30028	1959年8月5日	調査	ブナ天然林のネズミ被害	犬飼 1959h, 犬飼 1959p	
		P30443-30445, P30447-30449		調査	わなにかかったネズミ	犬飼 1960c	撮影は上記調査と同一時期か、同一のプリント
		図版 259 : P30447 : 島牧のネズミ被害(アカネズミ捕獲)					

後志管内	泊	写真番号	年次	分類	事項	文献	備考
		N70135-70137	1932年10月16日	考古	堀株村の遺跡		
		N70134	-	考古	堀株村の遺跡	名取 1933b	撮影は上記調査と同一か
		<b>図版 143 : N70134 : 泊堀株村の遺跡 (スナップ)</b>					
		N60212	-	考古	照岸洞窟内の石室	名取 1938b	
後志管内	余市	写真番号	年次	分類	事項	文献	備考
		N05967-05978	1970年6月	博物館	余市水産博物館		
		N05993-05997	-	博物館	余市水産博物館		
		<b>図版 303 : N05993 : 余市水産博物館</b>					
後志管内		詳細不明					
		写真番号	年次	分類	事項	文献	備考
		P30168-30170, P30172	-	調査	ノウサギ被害		岩内・古宇地域
空知管内	岩見沢	写真番号	年次	分類	事項	文献	備考
		N02607-02640	-	調査	ヒグマ出没に対する対応	犬飼 1963b, 犬飼 1967g	
		<b>図版 264 : N02631 : 岩見沢のクマ出没注意看板</b>					
空知管内	夕張	写真番号	年次	分類	事項	文献	備考
		P04232	-	動物	夕張岳のヒグマの足跡		
空知管内	雨竜	写真番号	年次	分類	事項	文献	備考
		N50075-50086	1937年6月18-21日	アイス	丸木舟製作	犬飼 1953g, 犬飼 1964p, 犬飼 1969c	
		<b>図版 084 : N50075 : 丸木舟の製作</b>					
		<b>図版 085 : N50078 : 丸木舟の製作 (冠削りの丸木舟)</b>					
		N05157-05160	1969年8月8日	その他	白龍の滝		

N30254-30256, N30716-30723, N30732-30738, N31558, - N31611-31618, N50027-50030, N50087-50098, N61023- 61029, P05317, P05319-5320	-	アイヌ	樹皮舟製作	犬飼 1939f, 犬飼 1964p, 犬飼 1969e	
<p>図版 087 : N50097 : 樹皮舟の製作            図版 088 : N50088 : 樹皮舟の製作 (木皮をのぼす)            図版 089 : N50090 : 樹皮舟の製作 (完成した樹皮舟)</p>					
<p>えりも</p>					
<p>日高管内</p>					
N00582-00600	1966年11月24-25日	文化財	襟裳岬付近		
<p>図版 215 : N00587 : 国立公園関連 : 襟裳岬</p>					
N00582-00600, N31125-31139, N70256	-	動物	海岸の海獣		
<p>図版 035 : N31127 : アザラシ</p>					
N31139	-	毛皮	アザラシ皮製靴		
<p>図版 273 : N31139 : アザラシ皮製靴</p>					
<p>三石</p>					
<p>日高管内</p>					
P03043	1935年6月13日	動物	三石川河口から12キロで撮影されたウサギの胎児		
<p>静内</p>					
<p>日高管内</p>					
P30933	1953年6月18日	調査	西川奥で駆除されたヒグマ		
N04921-04936, N05544-05621, N05639-05694, P00602	1965年11月4-5日	アイヌ他	丸木舟, サケ漁, サケ解体など	犬飼 1965m, 犬飼 1968h, 犬飼 1969e	道教委制作映像の撮影時に撮影された写真
<p>図版 086 : N05644 : 丸木舟 (静内川の舟おろし)            図版 098 : N05561 : ヤス漁のカムイノミ (鶴居アイヌ, 静内にて)            図版 100 : N05582 : サケの解体 (鶴居アイヌ, 静内にて)            図版 250 : N05675 : 静内川河口付近の捕獲場</p>					
P01917-01940	-	その他	日高軽種馬農協静内種馬場		1970年頃か
<p>図版 315 : P01928 : 日高軽種馬農協静内種馬場</p>					
<p>日高</p>					
<p>日高管内</p>					
N02311-02317, N02336-02338	1967年8月23日	その他	ウエンザルダム, 日高町内		日勝峠調査の前後の記録

日高管内	写真番号	年次	分類	事項	文献	備考
	N70194	-	アイヌ	マンロー博士邸前のアイヌ父子	名取 1942	
	N04717-04772, N04789-04825	-	その他	ポロシリ岳登山		1969年頃か
	P32242	-	その他	ポロシリ岳七つ池のカフレのモレーンの丘		
日高管内						
	写真番号	年次	分類	事項	文献	備考
	N06929-06939, P05090, P31002, P32205	1955年5月	調査	厚賀のネズミ食害	犬飼 19550	
	図版 258 : N06935 : 厚賀のネズミ被害					
日高管内						
	写真番号	年次	分類	事項	文献	備考
	P04177-04180, P30195, P30535	-	動物	アポイ岳のクマ・シカの痕跡		
日高管内						
	写真番号	年次	分類	事項	文献	備考
	N07787-07820, N08029-08044	1951年5月2日	調査	蛾眉野の樹木被害		
	P04247-04249	1957年10月6日	北大	水産学部 創基五十周年記念協賛会記念写真		
	N08279-08290	-	博物館	市立函館図書館(博物館建設直前), 博物館建設途中, 完成模型など		博物館の基礎工事のため, 1930年前後の写真
	図版 298 : N08283 : 函館博物館完成予定模型					
	図版 299 : N08285 : 函館博物館基礎部分					
	N07987-07996	-	博物館	水族館調査(立待岬)		連続するネガから1951年以前の写真
	N00738	-	その他	若松町郵便局前の人物		
渡島管内						
	写真番号	年次	分類	事項	文献	備考
	P05584	1953年10月10日	人物	犬飼(大沼公園にて)		
	N03674-03691	1966年8月	動物	大沼のシカ園		
	図版 018 : N03684 : 大沼のシカ園					
	N08202-08208, N31633-31640, N50380-50387	-	動物	大沼のシカ園		撮影は同一年代ではない
	図版 022 : N31633 : 大沼のシカ園					

	N01694-01702	-	調査	大沼のウサギ被害		
	N08201, N30534, N30655-30656	【雑】	-	駒ヶ岳, 大沼公園		
<b>渡島管内</b>						
<b>松前</b>						
		写真番号	年次	分類	事項	文献
	N30755-30768, N50846-50853		1933年7月	調査	小島村のクマ被害	
	図版 263 : N50853 : 松前小島のヒグマ被害写真 図版 316 : N30768 : 小島村遠景					
	N01712-01763, N04163-04241		1965年5月	調査	小島の鳥類調査など	犬飼 1967f
	図版 261 : N01738 : 松前小島の鳥類調査					
	N02028-02049, N03692-03701, P00291		1966年	文化財, その他	松前城, 公園内寺社, 海岸など文化財調査	
	図版 218 : N02039 : 松前法源寺山門 現在とは屋根が異なる 図版 219 : N02041 : 松前歴代藩公墓所前のケヤキ					
	N03532-03566, N03670, N03791-03915		1966年6月1日	調査	大島ミズナギドリ, 植生調査	
	図版 262 : N03882 : 松前大島の植生調査 (イタヤの林) 図版 317 : N03805 : 大島を船上より撮影					
	P04385-04386		1966年7月10日	調査	大島ミズナギドリ調査	
	N03587-03622		1966年8月	調査	松前町付近, 船上からの撮影など	
	N30930, N31064		-	動物	大島ミズナギドリの成鳥	犬飼 1959l, 犬飼 1959m, 犬飼 1969g
	図版 040 : N31064 : オオミズナギドリ (マスキングして文献利用)					
	P02291-02319			文化財	「国立公園」白神灯台, 海岸を中心とした写真	
	N50370-50379			調査	小島村のクマ被害	
	N30926			その他	小島灯台前での記念写真	
	N31057-31072, N31752			調査	大島ミズナギドリ調査など	
	N03702-03712, N03715-3728, N03788-03789, N31052-31056	【雑】		-	調査前後の移動中スナップなど	
<b>渡島管内</b>						
<b>知内</b>						
		写真番号	年次	分類	事項	文献
	N03713-03714		-	その他	青函トンネル工事の様子	
	P02274-02283		-	文化財	「国立公園」知内温泉, 湧元, 小谷石付近の様子	
	図版 220 : P02274 : 国立公園関連 : 和楽園 図版 221 : P02279 : 国立公園関連 : 海難者法塔					

渡島管内	長万部	写真番号	年次	分類	事項	文献	備考	
		P30003-30005	-	その他	駅での記念写真		駅名不明、「長万部保線区」とある、同一の写真	
		P31213	-	その他	麻谷駅での記念写真			
		P30931	-	人物	徳川侯の熊狩り			
渡島管内	八雲	写真番号	年次	分類	事項	文献	備考	
		P03466-03467, P03474, P03479, P03482-03483, P31954, P31960	1933年7月1日	調査	八雲のクマ被害(熊が殺した牛を土で覆い隠したところなど)	犬飼 1933d	八雲松木教諭撮影	
		N50280-50284	1933年11月26日	アイヌ	エゾオオカミ神頭骨, エカシケルルの様子か			
		図版 102 : N50282 : アイヌ住宅(エカシケルルか)						
		図版 103 : N50280 : エゾオオカミ神頭骨						
渡島管内	福島	写真番号	年次	分類	事項	文献	備考	
		P02287-02290	-	文化財	「国立公園」岩部海岸, 松浦海岸			
渡島管内	木古内	写真番号	年次	分類	事項	文献	備考	
		P31226	-	動物	捕獲したネズミ			
渡島管内	詳細不明	写真番号	年次	分類	事項	文献	備考	
		N08230-08257	-	その他	講演, 街並みの様子など		「湯の川, 森町」とあり	
檜山管内	厚沢部	写真番号	年次	分類	事項	文献	備考	
		N30741-30742	-	アイヌ	ピリカ会資料			



網走管内	網走	写真番号	年次	分類	事項	文献	備考
		N60121, N60201-60202, N60205-60206, N60208-60209, N60211	1933年	考古	モヨロ貝塚	名取 1938b, 名取 1948b, 名取 1955	米村撮影写真の複写を含む(参考: 米村 1934)
		P03669-03670	1955年 10月	博物館, 動物	網走郷土博物館, 飼育クマ		
		P30594	1954年 6月 6日	動物	音根内オジロワシの巣		
		N06438-06441, N06445-06505	1961年 3月 8日	毛皮	日魯ミンク養殖場		
		図版 266 : N06468 : ミンク養殖場					
		N00358-00389, P31364	1962年 10月	調査, その他	シヨウドウツツバメの巣の様子, ミンク養殖場予定地付近の様子など		
		図版 244 : N00360 : 網走シヨウドウツツバメの巣					
		N00409-00445	1963年 2月 13-14日	毛皮	日魯ミンク養殖場		
		P04184	1963年 9月	動物	オジロワシ(飼育)		
		N07006-07071, N07114-07115	-	毛皮	日魯ミンク養殖場		
		N30561-30566	-	調査	川での漁の様子		
		図版 255 : N30564 : 網走地域での川漁					
		N60216-60217, N60244, N61073-61074, N61077, N61473	-	考古	モヨロ遺跡		
		図版 134 : N61073 : モヨロ貝塚調査					
		図版 135 : N61074 : モヨロ貝塚調査					
		図版 136 : N61077 : モヨロ貝塚調査					
		N70086, N70798	【雑】	博物館, その他	網走郷土博物館ほか		
網走管内	紋別	写真番号	年次	分類	事項	文献	備考
		N02488, N03672-03673	1966年	文化財	小向原生花園, 紋別流紋岩指定地		
		図版 241 : N02488 : 古向原生花園					
		図版 242 : N03673 : 天然記念物紋別流紋岩					
網走管内	遠軽	写真番号	年次	分類	事項	文献	備考
		N03056-03064	1963年 3月 24日	山岳部	破岳会(セトセ温泉)		記載は年次と「破岳会」のみ, 犬飼手帳よりセトセ温泉とした
		図版 297 : N03057 : 破岳会					

網走管内	興部	写真番号	年次	分類	事項	文献	備考
	N30257	-		その他	街並み		
網走管内	糸里	写真番号	年次	分類	事項	文献	備考
	P32189	1955年1月10日		その他	知床半島岩宇別付近の滝		
	N02943-02955	1963年7-9月		考古	朱円環状土籬, 栗沢台地環状土籬		
	図版 150 : N02946 : 斜里朱円環状土籬 (スナップ)						
	図版 151 : N02948 : 斜里朱円環状土籬 (スナップ)						
	N04572-04613	1970年1月		調査	雪上・川辺での動物調査, 毛皮資料調査		
	N01460-01474	-		調査	海岸での海獣調査		
	N05367-05404	-		その他	ルシヤ付近を船上から		
網走管内	小清水	写真番号	年次	分類	事項	文献	備考
	P01749, P30787	1964年1月20日		標本	シロフクロウ剥製		
	N06011-06019	1965年7月15-18日		その他	小清水原生花園		
	図版 239 : N06017 : 小清水原生花園						
	図版 240 : N06019 : 小清水原生花園 (駅の様子)						
網走管内	常呂	写真番号	年次	分類	事項	文献	備考
	P30555	1954年10月1日		動物	常呂川で再捕されたサケ		
網走管内	生田原	写真番号	年次	分類	事項	文献	備考
	P31821	1937年6月		その他	奥生田原国有林内の樹木		
網走管内	置戸	写真番号	年次	分類	事項	文献	備考
	P30747	1942年		動物	置戸山中のシカの足跡と糞	犬飼 1952j	
	P05422	-		動物	ナキウサギの巣穴	犬飼 1930b	

網走管内	美幌	写真番号	年次	分類	事項	文献	備考
		N31565-61566, N31568-31572, N31593, N50041, N50099-50100 P30029, P30020	1934年 -	アイス 人物	北見アイヌの服装 美幌峠にて	犬飼 1969e	
網走管内	雄武	写真番号	年次	分類	事項	文献	備考
		N02410-02418, N02455-02484, N05463-05465 図版 008 : N02462 : クマの巣穴 (ピアシリ山) 図版 243 : N02468 : 雄武ゴメ島	1966年7月	文化財, 動物	ゴメ島, ピアシリ山中のクマ穴	犬飼 1967g, 犬飼 1969f	
網走管内	留辺蘂	写真番号	年次	分類	事項	文献	備考
		P30060, P30321-30322	1956年7月28日	動物	丸山のナキウサギ		
網走管内	詳細不明	写真番号	年次	分類	事項	文献	備考
		N02731-02746	1963年9月5日	その他	踏切付近の様子		犬飼手帳の当該年次から、網走・ウトロ知床付近の調査を行っていることがわかる
釧路管内	釧路	写真番号	年次	分類	事項	文献	備考
		P04367 N07664-07695 N01567, N3280-03282 N02231, N02234-002248 N07216-007237, N07244-07258 図版 097 : N07219 : サケ漁のイナウ	1938年2月 1955年12月 1960年6月8-14日 1960年6月19-23日 1964年12月4日	その他 調査 その他 調査 調査, アイス	春採海岸で採集された化石 「クシロ 丹頂」 ICBP 観察の様子 (釧路アジアホテル, 湿原内) 釧路市丹頂鶴自然公園 湿原内でのタンチョウ調査, 川辺のサケ漁イナウ		
		N00962-00992 図版 222 : N00969 : 文化財調査 : 釧路磯島神社 図版 223 : N00979 : 文化財調査 : 釧路島取神社 N00762-00887	1966年3月 1966年5月10-14日	文化財 調査	市内文化建築, 文化財調査 湿原内での調査		

N70122	-	考古	モシリヤチャシコツ			名取の1933年千島調査の際に撮影されたものか
<u>図版 145 : N70122 : モシリヤチャシ (スナップ)</u>						
N04628-04639, N04642-04650	-	その他	港の様子			1969年か
P03505, P30895	-	人物	天然記念物釧路丹頂鶴繁殖地標柱の前			
N033561-03378, N07131-07139, P04699-04702, P47111-04712, P04714, P04717, P04719, P04719, P04725, P04735-04737, P31241, P31245-31246, P31253, P31260, P31264, P31272	-	動物	釧路市丹頂鶴自然公園			異年代の写真混在
P01476, P01478, P01480-01488, P30896-30897, P31132	<b>【雑】</b>	その他	港付近, 温原			
<b>阿寒</b>						
<b>釧路管内</b>						
<b>写真番号</b>						
N31464-31467	1931年7月10-12日	調査	「阿寒調査」			
N50067-50074, N50256-50274	1932年7月	調査, アイス	水産ふ化場, スサ, クマ檻など		犬飼 1934k	
<u>図版 248 : N50268 : 阿寒蓬魚場</u>						
<u>図版 101 : N50071 : クマ檻</u>						
N50514-50526, N50528-50530	1933年	調査, アイス	阿寒国立公園調査, 水産孵化場, クマ檻など		犬飼 1934k, 犬飼 1942d	
N31595	1934年	その他	雄阿寒岳			
N31276, N31564, N31567, N31573, N31592, N50045-50046, N50050-50051	1934年8月	アイス	アイスの山小屋の製作		犬飼 1935d, 犬飼 1964p, 犬飼 1969e	
<u>図版 092 : N31592 : 山小屋の製作</u>						
<u>図版 093 : N50045 : 山小屋の製作</u>						
<u>図版 094 : N31564 : 山小屋の製作</u>						
N50493, N50510	1936年3月10-11日	その他	雄阿寒岳・雌阿寒岳			
P32216	1933年12月15日	動物	阿寒村付近の農家でえさを求めるタンチヨウの雛		犬飼 1957b	
N03275-03279, N03285-3292	1960年6月	その他	ICBP 視察の様子			
N01041-01042	1966年3月	文化財	桜田の石碑			
<u>図版 224 : N01041 : 文化財調査：阿寒桜田の石碑</u>						
N30230, N31274-31275	1968年6月	人物	双湖台他でのスナップ			
N30056, N30231, N30239, N30243, N31296, N31594, N31600, N50513	<b>【雑】</b>	その他	雄阿寒・雌阿寒など			

鉤路管内	厚岸	写真番号	年次	分類	事項	文献	備考
		P02457, P02471, P03387-03388, P03391, N03732, N03897	-	調査	網にかかった鮫と胃中から出たタコ	犬飼 1934 h	
		<b>図版 251 : サメの胃中にあったタコ</b>					
		N50368-50369, P02825	-	調査	厚岸のカキとカキ殻	犬飼 1937a	
		P03781	1937年2月	その他	厚岸湾		
		N01538-01552, N01538	1960年6月8-14日	その他	ICBP 視察の様子, 町での歓迎会		
		N02063-02074, N04397-04432	1960年9月1日	調査	大黒島コジジロウミツツバメ調査		
		P32194	1965年	動物	オオハクチョウ	犬飼 1967f	
		N00934-01025	1966年3月	文化財	厚岸町内文化財調査		
		<b>図版 115 : N00948 : アットウシ (厚岸文化財調査)</b>					
		<b>図版 225 : N00939 : 文化財調査 : 厚岸国泰寺山門脇の仏像</b>					
		<b>図版 226 : N00944 : 文化財調査 : 厚岸国泰寺福額</b>					
		<b>図版 227 : N01003 : 文化財調査 : 厚岸太田村の桑並木</b>					
		<b>図版 228 : N01007 : 文化財調査 : 厚岸太田村の上杉神社 (現存しない)</b>					
		N00888-00912, N05088-5089	1966年5月15日	文化財, 動物	床潭沼ヒブナ調査		
		<b>図版 049 : N00911 : 床潭沼ヒブナ調査</b>					
		P05432-05433	1968年6月	その他	弁天神社		フォルダには「昭和43年6月阿寒」とある
		N07145-07179	-	調査	大黒島コジジロウミツツバメ調査		
		<b>図版 245 : N04422 : 大黒島コジジロウミツツバメ調査</b>					
		P02536, P30803	-	北大	厚岸臨海実験所		異年代の写真
		N31270, N52005, N52014	<b>【雑】</b>	-	カキ漁の様子, 弁天神社		
		<b>鉤路管内</b>					
		<b>鶴居</b>					
		写真番号	年次	分類	事項	文献	備考
		N07242-07243	1964年12月5日	動物	タンチョウ調査		
		N00982-00989	1966年3月	動物	タンチョウ調査		
		<b>図版 247 : N00984 : 鶴居村タンチョウ調査</b>					
		<b>鉤路管内</b>					
		<b>弟子屈</b>					
		写真番号	年次	分類	事項	文献	備考
		N31596	1934年8月	その他	摩周湖		

N31559-31560, N31563, N50012, N50025, N50047	1934年8月	アイヌ	屈斜路アイヌ人物写真, クマ艦など			
<b>図版 104 : N50025 : クマ艦</b>						
N03300-03319	1960年6月8-14日	その他	ICBP 視察			
N30270	-1942年	調査	摩周湖でのニジマス捕獲	犬飼 1942d		
<b>図版 252 : N30270 : 摩周湖中のニジマス捕獲</b>						
N30003-30004, N30238, N31575-31576, N31597-31599, N50404-50405, N70457	【雑】	-	屈斜路湖, 和琴半島など			
<b>標茶</b>						
<b>釧路管内</b>						
写真番号	年次	分類	事項	文献	備考	
N31561-31562, N50054, P02760, P03720, P30464, P30855	1940年	アイヌ	ペカンベ祭調査	犬飼 1941a, 犬飼 1964p, 犬飼 1969e		
<b>図版 090 : N31562 : ペカンベ祭のヌサ</b>						
<b>図版 091 : N31561 : ペカンベ祭 (塘路の水神様の御神体)</b>						
P30553	-	調査	西別川に湖上したサケ	犬飼 1958a, 犬飼 1973a	大正年間 (文献より)	
N61069-61070	-	アイヌ	ヌサ			
<b>図版 066 : N61070 : 標茶のヌサ</b>						
N05094-05110	-	その他	塘路湖周辺の様子			
N30250	-	調査	北海道サケマスマスふ化場虹別支場			
<b>詳細不明</b>						
<b>釧路管内</b>						
写真番号	年次	分類	事項	文献	備考	
N01529-01537, N01540, N01553-01566, N01568-01570, N01584, N3269-03274, N03283-03284, N03288, N03293-03299	1960年6月8-14日	その他	ICBP 視察の様子			
N02232-02233	1960年6月19-23日	人物	川辺の船上の人物		「タンチョウ調査」とあり	
N07238-07241	1964年12月5日	調査	駆除したヒグマ		年次は「タンチョウ調査」とあるフォルダより	
N00952-0997, N01026-01040, N01043	1966年3月	文化財	釧路地域の文化財か			
P30872	1964年1月	動物	タンチョウ			
N00993, N03106-03134, N05140-05154, P30753, P31250-31252	【雑】	-	港, タンチョウ, 釧路川調査			
<b>帯広</b>						
<b>十勝管内</b>						
写真番号	年次	分類	事項	文献	備考	
N31201-31214	1944年7月	動物	帯広高等獣医学学校のトナカイ			

	P31620, P31627, P31632, P31560-31663, P31665 P31619, P31624-31626, P31628-31631, P31633-31635, P31637-31649, P31666-31669 P03819, P04015, P31596-31597, P32144-32148 【雑】	1959年9月16日 1959年9月16日 【雑】	人物 人物 その他	二国二郎氏 (帯広畜産大学) 二国二郎氏 (日本甜菜製糖株式会社) 帯広畜産大学校舎, 学長胸像など		
十勝管内	音更	年次	分類	事項	文献	備考
	P31350	1957年8月18日	動物	陸封マス (音更川)		
十勝管内	芽室	年次	分類	事項	文献	備考
	P03667, P31012	1951年5月14日	調査	中美生学校林のネズミ害調査		
十勝管内	土幌	年次	分類	事項	文献	備考
	P31621-31623, P31636, P31664 図版 318 : P31664 : 土幌村農協前にて	1959年9月16日	人物	二国二郎氏 (土幌農協) ほか		
十勝管内	鹿追	年次	分類	事項	文献	備考
	N50231 図版 013 : N50231 : ナキウサギの糞塊 (然別沼) N50222, N50264, N50512	1931年8月31日 1934年9月12日	動物 動物	然別のナキウサギの糞塊 然別のナキウサギと糞塊, エゾリス	犬飼 1932c, 犬飼 1932f	
十勝管内	上土幌	年次	分類	事項	文献	備考
	N08624-08656 図版 319 : N08635 : 糠平ダム建設中の様子 P30074 P3007431595, P31598, P31603-31607	1955年 1956年5月28日 -	その他 調査 その他	糠平ダム建設の様子 糠平タムシユベツ沢で捕獲したヒゲマ 帯広畜産大学糠平生物研究所の様子		1958年頃



十勝管内	新得	写真番号	年次	分類	事項	文献	備考
		N00601-00630, P02175-02179	-	文化財	十勝ハッタ塚		撮影は同時ではない
		図版 232 : N00611 : 文化財調査 : 十勝ハッタ塚 図版 233 : P02178 : 文化財調査 : 十勝ハッタ塚					
十勝管内	豊頃	写真番号	年次	分類	事項	文献	備考
		N60227-60232	1934年07月05日	遺跡	旅來の遺跡		
		図版 146 : N60227 : 旅來チャシ (スナップ) 図版 147 : N60229 : 旅來チャシ (スナップ)					
十勝管内	幕別	写真番号	年次	分類	事項	文献	備考
		N02143-02154	1964年3月	アイス	幕別町蝦夷文化考古館所蔵資料		
十勝管内	詳細不明	写真番号	年次	分類	事項	文献	備考
		N30526-30532, P31599-31602, P31608-31609	【雑】	その他	十勝冬登山, 人物写真など		
根室管内	根室	写真番号	年次	分類	事項	文献	備考
		N01294-01343	1955年7月	調査	根室鉄道付近林(十條製紙の林?)の被害調査		
		P30570	1959年5月4日	動物	温根沼のタンチョウ		
		N07696-07702	1959年	文化財, 毛皮	車石, ミンク養殖場		
		N01571-01582	1960年6月8-14日	その他	ICBP 観察の様子		
		N02211-02230	1966年5月	動物	アカエリカイツブリ		
		N04616-04627	-	文化財	車石		
		N08600-08623, N09064	-	調査	根室原野の樹木被害調査		
		N30019-30021, N30025, N30028-30031, N70123-70124	-	その他	風連湖, 弁天島など		

P01497-1501, P01513, P01521, P01524-1525, P01528, P01530-01532, P01534, P01537-01539, P01542-01543, P01557	文化財	車石, 長節湖, ユルリ・モユルリ島, 根室市公民館和田分室など			
図版 229 : P01497 : 文化財調査 : 根室花咲車石 図版 230 : P01542 : 文化財調査 : 根室公民館和田村分室 図版 231 : P01530 : 文化財調査 : 根室公民館和田村分室					
標津					
根室管内	写真番号	年次	分類	事項	文献 備考
	N00224-00251, P02643, P04575-04576, P04578-04583, P04585-04586, P04588, P04590-04591, P04595, P04597-04599, P04601, P04603-04605, P04608-04613, P04616-04618, P04621-04624, P04626-04627, P04629-04632, P06434-06435	-	調査	ヒグマ駆除	ネガとプリントが対応しないが、写っている人物から同一時期に撮影されたもの
別海					
根室管内	写真番号	年次	分類	事項	文献 備考
	N50873	1931年10月	調査	厚別字ヤウシユベツ牧場内で駆除したヒグマ	
	P30587	1959年5月20日	動物	走古丹の鳥の雛	
	N30923, P30602, P30610-30611, P31238-31239	-	動物, 人物	捕獲したハクチョウと犬飼 犬飼 1942i	
	P01493-01496, P01502-01512, P01514-01520, P01522-01523, P01526-01527, P01529, P01533, P01536, P01540-01541, P01544-01555, P03444, P03448, P03461	-	その他	野付半島付近の様子	
	P30605, P30607, P32192	-	動物	風連湖のオオハクチョウ	
羅臼					
根室管内	写真番号	年次	分類	事項	文献 備考
	N05998-06010	-	遺跡, その他	飛仁帯洞窟発掘の様子など	1965年7月か 参考 : 知床遺跡調査班 1967
図版 154 : N06010 : 羅臼飛仁帯洞窟の第1号人骨 (スナツプ)					
	N01475-01479, N04016-04020	-	【雑】	調査前後のスナツプ	

宗谷管内	種内	写真番号	年次	分類	事項	文献	備考
		N06303-06313	1959年	その他	「イトコ会」, 宗谷護国神社, 間宮林蔵像		
		N03030-03055	1963年3月	その他	流水, 街並み		
		N03339-03356	1964年8月	その他	間宮林蔵渡樺出港の地, エビ漁		稚咲内(豊富)の記載もあり
		<u>図版 234 : N03347 : 文化財調査 : 間宮林蔵渡樺の地</u>					
		N01201-01216	-	南極観測	犬ぞり訓練所創設時		1956年か
		<u>図版 274 : N01203 : 稚内樺太犬訓練所創設時</u>					
		<u>図版 275 : N01208 : 稚内樺太犬訓練所創設時</u>					
		<u>図版 276 : N01214 : 稚内樺太犬訓練所創設時 (犬飼)</u>					
		N06634-06638, N08712-08721, P3933	-	南極観測	犬ぞり訓練所の訓練		同一時期に撮影されたものではない
		<u>図版 027 : N06637 : 樺太犬訓練所の犬</u>					
		<u>図版 277 : N06634 : 稚内樺太犬訓練所</u>					
		P01460-01462, P01465	-	南極観測	訓練所跡の樺太犬像	犬飼 1981a	
		N03411-03467, N03510-03531, N05043-05045	-	文化財	稚内の文化財調査	犬飼 1966i	
		<u>図版 116 : N03417 : 漆器 (稚内文化財調査)</u>					
		<u>図版 117 : N03432 : アットウシ (稚内文化財調査)</u>					
		<u>図版 235 : N03414 : 文化財調査 : 回向帳</u>					
		<u>図版 236 : N03447 : 文化財調査 : 厳島神社廻り</u>					
		<u>図版 237 : N03463 : 文化財調査 :</u>					
		<u>図版 238 : N05043 : 文化財調査 :</u>					
		N03636-03640, N03644-03645	-	その他	最北の地標柱, 間宮林蔵像		
		N03625-003635, P05105	【雑】	-	風景ほか		風景写真は稚内ではない可能性もある
		<u>図版 320 : N03474 : 幌別川河口付近の捕獲施設</u>					
宗谷管内	猿払	写真番号	年次	分類	事項	文献	備考
		N03624, N03647-03649	-	その他	ヒグマ出没注意の看板		
宗谷管内	枝幸	写真番号	年次	分類	事項	文献	備考
		N60203, N61405-61406	1936年	考古	枝幸竪穴	名取 1948b, 名取 1972	
		<u>図版 137 : N61405 : 枝幸竪穴遺跡調査</u>					
		<u>図版 138 : N61406 : 枝幸竪穴遺跡調査</u>					
		N03473-03484	-	調査	枝幸幌別川河口の捕獲場		

宗谷管内	中頓別	写真番号	年次	分類	事項	文献	備考
		N03729-03736	-	その他	中頓別鍾乳洞		
		図版 321 : N03736 : 中頓別の鍾乳洞					
宗谷管内	浜頓別	写真番号	年次	分類	事項	文献	備考
		N03737-03787	-	考古, その他	クッチャロ湖畔日の出遺跡ほか		
		図版 152 : N03749 : 浜頓別クッチャロ湖畔日の出貝塚 (スナップ)					
		図版 153 : N03750 : 浜頓別クッチャロ湖畔日の出貝塚 (スナップ)					
宗谷管内	豊富	写真番号	年次	分類	事項	文献	備考
		N03357-03360	1964年8月	その他	稚咲内砂丘林帯の沼		
		N07180-07210	1965年8月9日	調査	サロベツのシヨウドウツツバメ調査		
		図版 246 : N07183 : サロベツシヨウドウツツバメの巢					
		N00274-00329, N00390-00408, N0889-8890	-	調査	サロベツ総合調査	犬飼 1962f	
		N06644-06648	-	その他	豊富温泉ほか		
宗谷管内	利尻	写真番号	年次	分類	事項	文献	備考
		N60387	1912年5月23日	動物	利尻島にわたったヒゲマ	八田 1912a, 八田 1913a, 犬飼 1987	
		図版 001 : N60387 : 天塩から利尻に泳ぎ渡ったヒゲマ					
		N70533-70547	1930年7月27-31日	その他	港付近ほか		
		N61089-61092, N70001, N70007-70009, N70015-70017, N70019, N70026-70035	1932年7月27-31日	考古	名取・後藤の発掘調査時	名取 1933f	
		図版 127 : N70009 : 利尻礼文発掘調査 (利尻島オントマトマリ遺物散列地)					
		P04335, P04339-04344	1965年8月28-31日	その他	利尻山, 姫沼ほか		
		P31501-31506	-	調査	動物調査	犬飼 1962g	
		N70697, N70705, N70708, N70711-70714	-	その他	利尻山		

宗谷管内	礼文	写真番号	年次	分類	事項	文献	備考
		N61093-61098, N70002, N70005-70006, N70010-70014, N70018, N70020-70025, N70091-70093	1932年8月	考古	名取・後藤の発掘調査時	名取 1933c, 名取 1933f, 名取 1972	
		図版 126 : N61093 : 利尻礼文発掘調査 (礼文島船泊村の遠望) 図版 128 : N70024 : 利尻礼文発掘調査 (礼文島船泊第二の沢)					
		P04336-04338	1965年8月31日	その他	桃岩, 地藏岩		
		N08045-08051	-	調査	船泊付近の食害調査		
留萌管内	羽幌	写真番号	年次	分類	事項	文献	備考
		N61783	1935年12月	動物	市場で撮影された魚 (純尻沖のテグソ)		
		N6178306020-06056	-	その他	天売島赤岩, 屏風岩ほか		
留萌管内	遠別	写真番号	年次	分類	事項	文献	備考
		N06639-06643	-	その他	富士見ヶ丘ほか		
留萌管内	天塩	写真番号	年次	分類	事項	文献	備考
		P30076	1952年4月27日	調査	ピシウク山で捕獲されたヒグマ	犬飼 1954a	
北海道	オホーツク	写真番号	年次	分類	事項	文献	備考
		N02920-0242, 2 02956-02957	1963年7-9月	その他	開発工事ほか	「サロベツ, 知床」とあり, 詳細不明	
		N05453-05461	1966年	その他	海岸沿いの様子	「北オホーツク」とあり	
		N02485-02487	1966年7月	その他	トラック脱輪	「北オホーツク」とあり	
		N02390-02406, N03468-03472, N03485-03503, N07285-07302, P01637, P01656	【雑】	その他	漁港, 溪流, 農地, 海岸ほか		
北海道	十勝岳	写真番号	年次	分類	事項	文献	備考
		N30567-30575, P30796	1932年12月22-28日	山岳部	十勝岳合宿		

N00496-00505, N03567-03586, P04420-04421, P04423, P04425-04428, P04430-04431, P04433-04435, P04438, P04440, P04444-04448, P04451, P04453-04458, P04460-04468	1967年2月11-12日	山岳部	十勝岳			
N30078, 30699-30701, N031380-031391, N71093-71095, P02531, P02837-02841, P02862-02871, P03578, P30797	【雑】	山岳部	十勝岳			
<b>北海道</b>						
<b>大雪山</b>						
写真番号						
N31705-31710, N31725-31737, N51197	1931年7月14-18日	その他	大雪山沼の平ほか	文献	備考	
P02458, P02540, P30947	1931年8月15-16日	その他	桂月岳ほか			
N50409-50410, N52067-52068, N70220	1931年9月19日	動物	ナキウサギ, 鳥類調査			
P30116	1932年8月26日	動物	トムラウシ, ナキウサギの多い岩場			
N50532	1932年9月25日	人物	大雪山登山中のスナップ			
P31794-31795	1933年7月1日	動物	ヒグマの親子			
P31083	1938年8月2日	動物	鳥類			
P05629	1951年8月25日	動物	トムラウシのナキウサギ			
<b>図版014：P05629：ナキウサギ（トムラウシ山）</b>						
N04305-04356, N04361-04696, P05077	1964年7月1-3日	その他	トムラウシ	犬飼 1964f		
P31820	1966年9月	動物	ヒグマ			
N31401	-	その他	ナキウサギのすむトムラウシ	犬飼 1943f, 犬飼 1949c, 犬飼 57b		
N08098, P04042, P04044-4045	-	動物	大雪山上のヒグマの親子	犬飼 1954a, 犬飼 1963c		
<b>図版011：N08098：大雪山上のヒグマの親子</b>						
N04254-04279, N04283-04304, N04339-04355, N04357-04360, N08073-08097, N08099-08108, N08573-08592, N30077, N30966, N31249-31261, N31404-31411, N31417, N31424, N31427, N31438, N31450-31460, N31609, N31647-31674, N31676-31700, N31702-31704, N31711-31713, N70242-70243, N71012-71020, N71027, N71029-71034, N71036-71040, P04035, P05063-05076, P05078-05087, P05634, P30038, P30040, P30045, P30084, P30105, P30743, P30802, P30813, P30835, P30934-30937, P30945, P30948, P31066, P32238	【雑】	-	大雪山, ヒグマ, ナキウサギ			

北海道	知床	写真番号	年次	分類	事項	文献	備考
		N02747-02919, N02958-03029	1963年9月4日	調査	船上, 山中, ふ化場など		
		N03969-004015, N04062-04065, P00406, P00408, P00416, P00419, P00427, P00429	1965年3月24日	その他	流水など		
		N04242-04253, P04119-04120	1965年5-6月	調査	船上での調査		
		P31110	1969年2月8日	動物	海岸でキツネが掘ったネズミの穴		
		N03379-03387, N03410, N04021-04053, N04100-04116, N06057-06094, N06129-06155, N06940-06948, N07640-07645, N7080-70809, P01734-01748, P02234, P30088	【雑】	-	船上, 海岸, 山中など		
北海道	日勝峠	写真番号	年次	分類 <td>事項</td> <td>文献</td> <td>備考</td>	事項	文献	備考
		N02282-02323, N02339-02350, N02352-02362, N07267-07272	1967年8月22-24日	調査	日勝峠付近での調査		
北海道	詳細不明	写真番号	年次	分類 <td>事項</td> <td>文献</td> <td>備考</td>	事項	文献	備考
		N01231-01235	1952年7月29日	調査	動物飼育小屋など		
		N01220-01230, N01264-01267	1952年8月22日	調査	フラトール団子の製造工場にて		
		N01268-01283, N01286-01293	1953年9月10日	調査	ドブネズミによる水稻の被害調査		
		N00203-00223, N04944-04966	1968年5月15日	アイヌ	墓標制作の調査		
		N00446-00463	-	アイヌ	チクベニの枝, エカエカ	犬飼 1969c	米人調査 十勝・苫小牧とある
		N08402-08439	-	調査	ネズミ被害調査		
		P04388, P05269	-	アイヌ	アイヌ人物写真, コタンの様子		
		N01344-01353, N01691-01693, N01764-01775, N05347, N05357-05359, N05362-05363, N05365, N08258-08273, P030595-30596	【雑】	-	飼育子グマ, ウサギ, 海岸のカモメ調査など		
北海道	樺太	写真番号	年次	分類 <td>事項</td> <td>文献</td> <td>備考</td>	事項	文献	備考
		N70326-70328	1932年7-8月	アイヌ	樺太アイヌのクマ糞など		河野撮影
		N50258	1934年6月	毛皮	密猟されたクロテン	犬飼 1964g	
		N61031	1934年7月12日	その他	阿庭湾船上にて		



N61849-61852	-	動物	構太トナカイの群れ	八田 1920	
図版 033 : N61850 : 森林のトナカイの群れ					
N50427	-	調査	ドブネズミの被害	犬飼 1939c	
N50039, N50130-50132	-	アイヌ, その他	アザラシ漁関連資料など	犬飼 1941b	
N50201, P02793	-	調査	ドブネズミ被害関連資料	犬飼 1942a	
P04298	-	動物	アレキサンドスキーの犬	犬飼 1957h	
N30032, N30353, N70257-70258, N70475, P02849, P02877, P02882, P03347, P03355, P03360, P03895, P03944, P03946, P03952-03953, P05356, P05358	-	アイヌ, 標本	構太庁博物館のそり, アザラシ剥製		
図版 118 : N30353 : 犬ぞり (構太庁博物館)					
図版 304 : N70257 : 構太庁博物館の水産動物室					
N30968-30970, N31036, N31038, N61034-61038, N70206-70210, N70223-70227, P05325, P30082, P30501-30502, P31018-31019, P31030, P31994-31995	【雑】	-	構太神社, 豊原の街並み, トナカイなど		
図版 028 : N30969 : 構太豊原市の犬					
千島					
写真番号		分類	事項	文献	備考
N60224-60225	1931年	考古	武笠耕三の調査時	武笠 1934	
図版 129 : N60224 : 千島発掘調査 (武笠・ピールの調査時)					
N060191, N60221-60223, N70095-70100, N70102, N70104-70105, N70107, N70109-70112, N70114-70117, N70119, N70125-70129	1933年 7-8月	考古	名取武光の調査時	名取 1933a, 名取 1939f, 名取 1940a	武笠調査の写真混在の可能性もある
図版 130 : N60221 : 南千島発掘調査					
図版 131 : N70096 : 南千島発掘調査 (浜中から金毘羅チャシの断崖を望む)					
図版 132 : N70107 : 南千島発掘調査 (留別付近)					
図版 133 : N70110 : 南千島発掘調査 (古釜府のアイヌ地遺跡墓壇における葺石)					
N50185	1935年 12月 14日	動物	挾棍の共食いクマ		
N60002-60004, N60210, N70094, N70099, N70101, N70103, N70106, N70106, N70108, N70113, N70120-70121	-	考古	千島の遺跡		
N70078	-	その他	二木城の駅通所		

海豹島						
	写真番号	年次	分類	事項	文献	備考
	N30928, N30931, N31163-31180, N52082, N61634-61637, N61690-61697, P02720, P02967, P02983, P02993, P03024, P04297, P05359, P30599, P30612, P30615, P30622, P30755, P30879, P31297-31299, P31303-31304, P31797, P31804	1942年	動物, その他	犬飼哲夫の調査	犬飼 1943b, 犬飼 1975	
	図版 030 : N31164 : 海豹島のオットセイハーレム 図版 038 : N31173 : 海豹島のウミガラスコロニー					
本州						
	写真番号	年次	分類	事項	文献	備考
	N02249-02281	1960年5月24日	その他	ICBP大会		国際文化会館にて
	図版 306 : N02253 : ICBP 大会会場 (国際文化会館)					
	N06254-06995	-	南極観測	第5次隊観測隊員壮行会		赤坂プリンスホテル
	P05009-05010	-	南極観測	東京タワー下樺太犬像		
神奈川県						
	写真番号	年次	分類	事項	文献	備考
	N00538-00561, P04996	-	博物館	神奈川県立歴史博物館		1968年頃
本州						
	写真番号	年次	分類	事項	文献	備考
	N05255-05256, P04118, P04132-04136	1969年4月	アイヌ	大阪万博参加時の記念写真		
大阪						
	写真番号	年次	分類	事項	文献	備考
	N03945-03968, N04054-04061, N04066-04095, P00656, P00678, P31025	1965年4月	その他	農業会議時の写真	犬飼 1965j	
	図版 322 : N04092 : ハワイでの日米農業会議の様子					
	P01759, P01764, P01766-01767, P01771, P01791, P01814-01815	-	博物館	ピシヨップミュージアム		
	図版 305 : P01815 : ピシヨップミュージアム					
外国						
	写真番号	年次	分類	事項	文献	備考
	N03945-03968, N04054-04061, N04066-04095, P00656, P00678, P31025	1965年4月	その他	農業会議時の写真	犬飼 1965j	
	図版 322 : N04092 : ハワイでの日米農業会議の様子					
	P01759, P01764, P01766-01767, P01771, P01791, P01814-01815	-	博物館	ピシヨップミュージアム		
	図版 305 : P01815 : ピシヨップミュージアム					

## 图 版

## 正誤表

報告書図版の写真番号および情報に誤りがありました。正しくは、以下の情報になります。

図版番号	写真番号	年次	地名	説明
図版 055	N50015	1934 年 1 月	旭川	旭川熊送り
図版 056	N04896	1935 年 1 月	旭川	旭川熊送り
図版 057	N07905	1935 年 1 月	旭川	旭川熊送り
図版 058	N07912	1935 年 1 月	旭川	旭川熊送り
図版 059	N07917	1935 年 1 月	旭川	旭川熊送り
図版 060	N50053	1935 年 1 月	旭川	旭川熊送り
図版 061	N07925	1936 年 1 月 12 日	千歳	千歳熊送り
図版 062	N07935	1936 年 1 月 12 日	千歳	千歳熊送り
図版 063	N31550	1937 年 4 月 27 日	札幌	白老アイヌの熊送り（植物園にて）
図版 064	N06286	1960 年 2 月 5 日	札幌	千歳アイヌの熊送り（植物園にて）
図版 065	N70478	-	札幌	帯広アイヌの熊送り（植物園にて）
図版 066	N61070	-	標茶	標茶のヌサ
図版 067	N08016	-	札幌	旭川アイヌの熊送り（植物園にて）
図版 068	N08022	-	札幌	旭川アイヌの熊送り（植物園にて）
図版 069	N30713	-	旭川	熊送り（旭川）
図版 070	P31992	-	-	弟子屈のヌサ（植物園か）
図版 071	N31605	-	札幌	塘路アイヌの熊送り（植物園にて）
図版 072	N31607	-	札幌	塘路アイヌのヌサ（植物園にて）
図版 073	N50055	-	-	ヌサ（場所不明）
図版 074	N50122	-	-	ヌサ（場所不明）
図版 075	N50001	1935 年 2 月 17 日	札幌	プーキルプを離すところ（千歳アイヌ）
図版 076	N50006	1935 年 2 月 17 日	札幌	千歳のニセウ



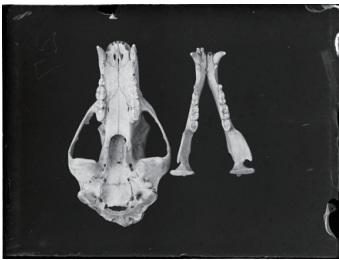
図版 001 N60387  
1912年5月23日 利尻  
天塩から利尻に泳ぎ渡ったヒグマ



図版 002 N31739  
1931年1月28日 恵庭  
クマの穴（島松）



図版 003 N70219  
1931年3月15日 札幌  
クマの穴（手稲）



図版 004 N60792  
1934年 -  
ヒグマ頭骨（HUNHM48846）



図版 005 N52022  
1937年 -  
ヒグマの爪痕



図版 006 N06193  
1956年 札幌  
札幌駅付近の剥製社前のヒグマ（支笏で捕獲）



図版 007 N01781  
1965年2月 登別  
登別クマ牧場の様子



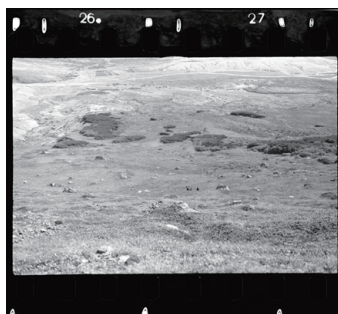
図版 008 N02462  
1966年7月 雄武  
クマの穴（ピアシリ山中腹）



図版 009 N50732  
1932年以前 -  
クマの穴



図版 010 N50738  
1954年以前 -  
捕獲したヒグマ



図版 011 N08098  
1963年以前 大雪山  
大雪山上のヒグマの親子



図版 012 N60386  
- -  
剥製ヒグマ（HUNHM13144カ）

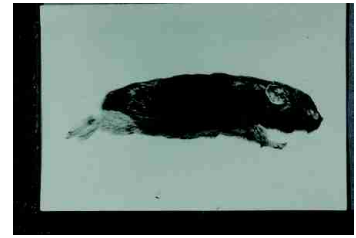




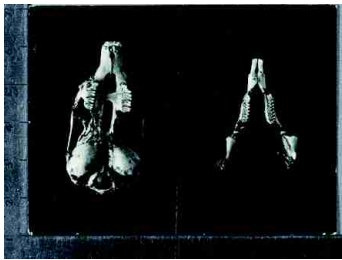
図版 013      N50231  
1931年8月31日      鹿追  
ナキウサギの糞塊 (然別沼)



図版 014      P05629  
1951年8月25日      大雪山  
ナキウサギ (トムラウシ山)



図版 015      P03528  
1930年以前      -  
ナキウサギ (野付牛採集, HUNHM06803)



図版 016      P03548  
1930年以前      -  
ナキウサギ



図版 017      N31754  
1931年以前      -  
ナキウサギ食料貯蔵庫



図版 018      N03684  
1966年8月      七飯  
大沼のシカ園



図版 019      N61388  
1920年以前      -  
剥製エゾシカ (HUNHM13132, 13020)



図版 020      N61821  
1920年以前      -  
「短冊を吊るしたる紅葉の玩具」



図版 021      N51175  
-      -  
鹿肉缶詰ラベル



図版 022      N31633  
-      七飯  
大沼のシカ園



図版 023      N61556  
-      -  
シカ類頭骨



図版 024      N50448  
1935年5月11日      札幌  
アイヌ犬展覧会 (丸井今井)



図版 025 P02582  
1962年10月21日 室蘭  
アイヌ犬展覧会（室蘭栄高校）



図版 026 N02333  
1968年6月5日 札幌  
アイヌ犬展覧会（豊平小学校付近）



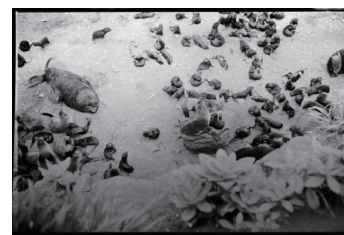
図版 027 N06637  
- 稚内  
樺太犬訓練所の犬



図版 028 N30969  
- 樺太  
樺太豊原市の犬



図版 029 N50295  
1935年頃 -  
エゾモモンガ



図版 030 N31164  
1942年 海豹島  
海豹島のオットセイハーレム



図版 031 N01097  
1952年5月 本州（岩手）  
イルカ猟（大槌）



図版 032 N01142  
1952年6月9日 室蘭  
オットセイ猟（室蘭）



図版 033 N61850  
1920年以前 樺太  
森林のトナカイの群れ（樺太）



図版 034 N50401  
1959年以前 -  
ソビエトのオットセイ標識



図版 035 N31127  
- えりも  
アザラシ（えりも）



図版 036 N60338  
1931年8月 札幌  
ツツドリ（植物園内捕獲）





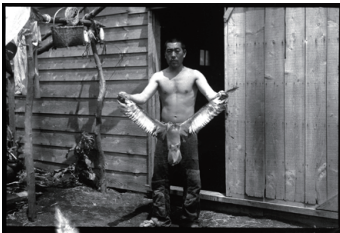
図版 037 N31722  
- 苦小牧  
時任牧場（苦小牧）の鳥



図版 038 N31173  
1942年 海豹島  
海豹島のウミガラスコロニー



図版 039 N50360  
1934年4月29日 江別  
エゾオオアカゲラ（野幌生態調査）



図版 040 N31064  
1959年以前 松前  
オオミズナギドリ（マスキングして文献  
利用）



図版 041 N61516  
1931年以前 札幌  
冠孔雀（植物園飼育）



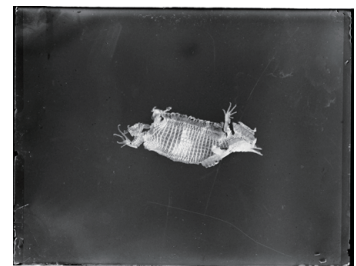
図版 042 N60344  
- 札幌  
孔雀雛 鳩？



図版 043 N61575  
1930年6月11日 札幌  
北大博物館における鶏の家鴨雛養育状態



図版 044 N51835  
1930年以前 -  
カナヘビ



図版 045 N51842  
1930年以前 -  
脱皮したカナヘビの皮



図版 046 N50355  
1934年4月29日 江別  
エゾサンショウウオの卵塊（野幌生態調  
査）



図版 047 N50896  
1934年以前 江別  
フクドジョウ（野幌生態調査）



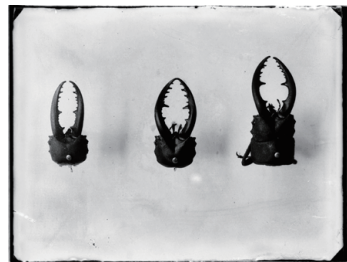
図版 048 N61772  
- 札幌  
コマイ



図版 049 N00911  
1966年5月15日 厚岸  
厚岸床潭沼ヒブナ調査



図版 050 N31151  
- 江別  
ヤツメ漁 (江別)



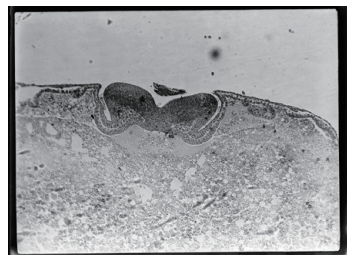
図版 051 N50920  
1924年以前 -  
ノコギリクワガタ (雄)



図版 052 N50914  
1924年以前 -  
ノコギリクワガタ (雌)



図版 053 N61765  
- 小樽  
タコブネ (忍路)



図版 054 N50620  
1927年以前 -  
顕微鏡写真 (発生)



図版 055 N50001  
1935年2月17日 札幌  
ブーキルプを離すところ (千歳アイヌ)



図版 056 N50006  
1935年2月17日 札幌  
千歳のニセウ



図版 057 N50015  
1934年1月 旭川  
旭川熊送り



図版 058 N04896  
1935年1月 旭川  
旭川熊送り



図版 059 N07905  
1935年1月 旭川  
旭川熊送り



図版 060 N07912  
1935年1月 旭川  
旭川熊送り





図版 061 N07917  
1935年1月 旭川  
旭川熊送り



図版 062 N50053  
1935年1月 旭川  
旭川熊送り



図版 063 N07925  
1936年1月12日 千歳  
千歳熊送り



図版 064 N07935  
1936年1月12日 千歳  
千歳熊送り



図版 065 N31550  
- 札幌  
白老アイヌの熊送り (植物園にて)



図版 066 N06286  
- 札幌  
千歳アイヌの熊送り (植物園にて)



図版 067 N70478  
-  
十勝アイヌの熊送り



図版 068 N61070  
- 標茶  
標茶のヌサ



図版 069 N08016  
- 札幌  
旭川アイヌの熊送り (植物園にて)



図版 070 N08022  
- 札幌  
旭川アイヌの熊送り (植物園にて)



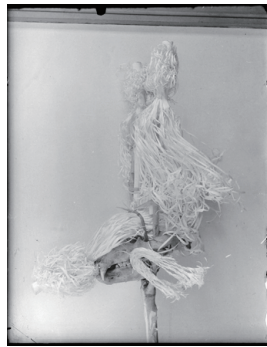
図版 071 N30713  
- 旭川  
熊送り (旭川)



図版 072 P31992  
-  
弟子屈のヌサ (植物園か)



図版 073      N31605  
-                  札幌  
塘路アイヌの熊送り（植物園にて）



図版 074      N31607  
-                  札幌  
塘路アイヌのヌサ（植物園にて）



図版 075      N50055  
-                  -  
ヌサ（場所不明）



図版 076      N50122  
-                  -  
ヌサ（場所不明）



図版 077      N08001  
-                  札幌  
アイヌによるクマの解剖（植物園にて）



図版 078      N70473  
1940年          鶴川  
シシャモ漁の時の仮小屋群



図版 079      P30001  
1940年          鶴川  
シシャモ漁の網



図版 080      P30465  
1940年          鶴川  
シシャモ漁の前のカムイノミ（ムリエトにて）



図版 081      P31326  
1940年          鶴川  
シシャモ漁の前のカムイノミ（遠景）



図版 082      P32067  
1940年カ      鶴川  
シシャモ漁



図版 083      P31784  
-                  鶴川  
仮小屋（布製）



図版 084      N50075  
1937年6月      雨竜  
丸木舟の製作





図版 085      N50078  
1937年6月      雨竜  
丸木舟の製作（荒削りの丸木舟）



図版 086      N05644  
1965年11月      静内  
丸木舟（静内川の舟おろし）



図版 087      N50097  
1939年以前      雨竜  
樹皮舟の製作



図版 088      N50088  
1939年以前      雨竜  
樹皮舟の製作（木皮をのぼす）



図版 089      N50090  
1939年以前      雨竜  
樹皮舟の製作（完成した樹皮舟）



図版 090      N31562  
1940年      標茶  
ペカンベ祭のヌサ



図版 091      N31561  
1940年      標茶  
ペカンベ祭（塘路の水神様の御神体）



図版 092      N31592  
1934年8月      阿寒  
山小屋の製作



図版 093      N50045  
1934年8月      阿寒  
山小屋の製作



図版 094      N31564  
1934年8月      阿寒  
山小屋の製作



図版 095      N31367  
1935年4月14日      千歳  
千歳アイヌの熊猟



図版 096      N31364  
1935年4月14日      千歳  
千歳アイヌの熊猟（アイヌ犬）





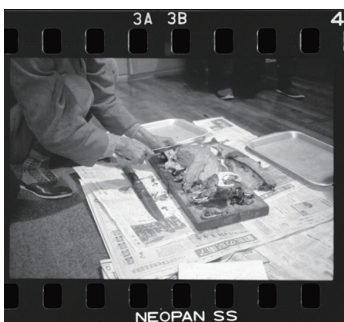
図版 097      N07219  
1964年12月      釧路  
サケ漁のイナウ



図版 098      N05561  
1965年11月      静内  
ヤス漁のカムイノミ (鶴居アイヌ, 静内にて)



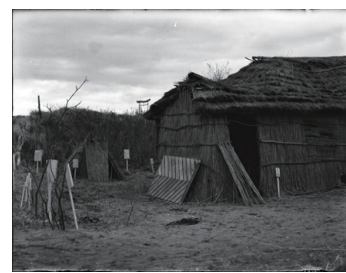
図版 099      P04266  
-  
テシ



図版 100      N05582  
1965年11月      静内  
サケの解体 (鶴居アイヌ, 静内にて)



図版 101      N50071  
1932年7月      阿寒  
クマ檻 (阿寒)



図版 102      N50282  
1933年11月26日      八雲  
アイヌ住宅 (エカシケンルカ)



図版 103      N50280  
1933年11月26日      八雲  
エゾオオカミ神頭骨



図版 104      N50025  
-      弟子屈  
クマ檻 (弟子屈)



図版 105      N02210  
1960年5月16日      上川  
丸木舟 (層雲峡)



図版 106      N06174  
1965年5月      白老  
白老コタン (ポロトコタン)



図版 107      P31489  
1935年3月      白老  
ポロトコタンのヌサ



図版 108      P31487  
1935年3月      白老  
ポロトコタン (現在の博物館入り口付近)



図版 109 N00157  
1967年10月29日 登別  
クマ檻 (ユーカラの里)



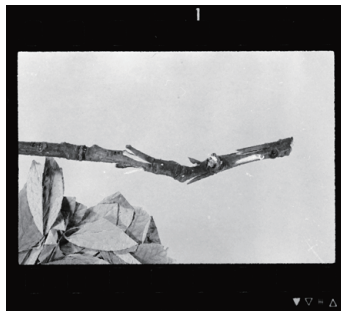
図版 110 N00205  
1968年5月15日 -  
墓標製作調査



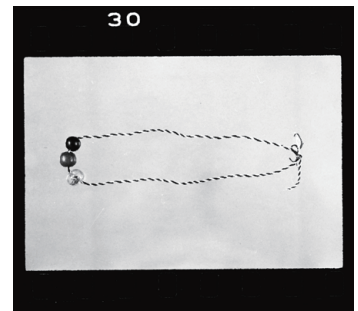
図版 111 N00219  
1968年5月15日 -  
墓標製作調査



図版 112 N30916  
-  
サチェップを作る



図版 113 N00447  
-  
チクベニの茎にキケをつけたもの



図版 114 N00458  
-  
首にかけるエカエカ



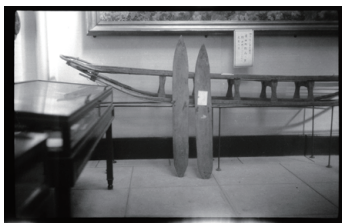
図版 115 N00948  
1966年3月か 厚岸  
アットウシ (厚岸文化財調査)



図版 116 N03417  
- 稚内  
漆器 (稚内文化財調査)



図版 117 N03432  
- 稚内  
アットウシ (稚内文化財調査)



図版 118 N30353  
- 樺太  
犬ぞり (樺太庁博物館)



図版 119 N61366  
-  
手宮の古代文字 (HUNHM33224)



図版 120 N31716  
1931年10月11日 江別  
江別発掘調査の様子





図版 121 N50136  
1931年10月11日 江別  
江別土器発掘の状態（犬飼撮影）



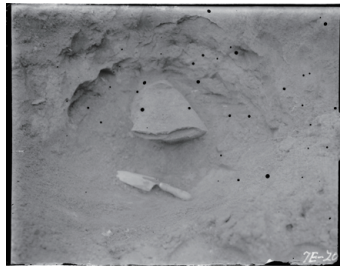
図版 122 N60200  
1933年以前 江別  
江別発掘調査の様子



図版 123 N60245  
1933年以前 江別  
江別発掘調査の様子



図版 124 N60213  
- 江別  
江別発掘調査の様子（H-II 墳墓）



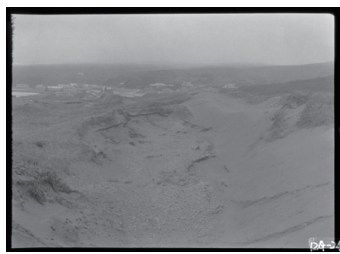
図版 125 N60170  
- 江別  
江別発掘調査の様子（H-IV 墳墓）



図版 126 N61093  
1933年8月 礼文  
利尻礼文発掘調査（礼文島船泊村の遠望）



図版 127 N70009  
1932年8月 利尻  
利尻礼文発掘調査（利尻島オトントマリ  
遺物散列地）



図版 128 N70024  
1932年8月 礼文  
利尻礼文発掘調査（礼文島船泊第二の沢）



図版 129 N60224  
1931年 千島  
千島発掘調査（武笠・ビールの調査時）



図版 130 N60221  
1933年 千島  
南千島発掘調査



図版 131 N70096  
1933年 千島  
南千島発掘調査（浜中から金毘羅チャシ  
の断崖を望む）



図版 132 N70107  
1933年 千島  
南千島発掘調査（留別付近）



図版 133      N70110  
1933 年      千島  
南千島発掘調査（古釜府のアイヌ地遺跡  
墓塚における墓石）



図版 134      N61073  
-      網走  
モヨロ貝塚調査



図版 135      N61074  
-      網走  
モヨロ貝塚調査



図版 136      N61077  
1936 年      網走  
モヨロ貝塚調査



図版 137      N61405  
1936 年      枝幸  
枝幸竪穴遺跡調査



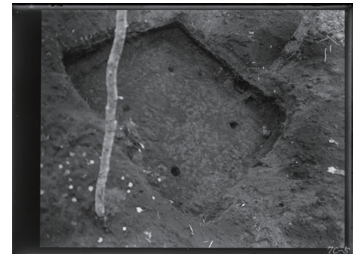
図版 138      N61406  
1936 年      枝幸  
枝幸竪穴遺跡調査



図版 139      N61398  
1941 年か      恵庭  
恵庭公園遺跡調査



図版 140      N61401  
1941 年か      恵庭  
恵庭公園遺跡調査



図版 141      N61402  
1941 年か      恵庭  
恵庭公園遺跡調査



図版 142      N51274  
1932 年 5 月 31 日      赤井川  
赤井川板小屋沢遺物散布（スナップ）



図版 143      N70134  
1933 年以前      泊  
泊堀株村の遺跡（スナップ）



図版 144      N60197  
1939 年以前      札幌  
植物園内の竪穴（スナップ）





図版 145 N70122  
1933 年か 釧路  
モシリヤチャシ (スナップ)



図版 146 N60227  
1934 年 7 月 5 日 豊頃  
旅来チャシ (スナップ)



図版 147 N60229  
1934 年 7 月 5 日 豊頃  
旅来チャシ (スナップ)



図版 148 N60204  
- ニセコ  
ニセコ狩太北築環状列石第 2 号 (スナップ)



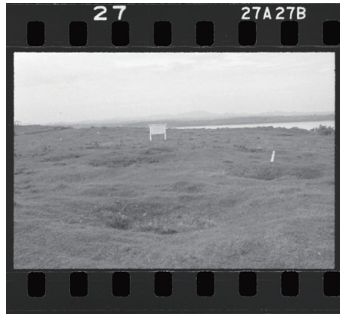
図版 149 N60219  
- ニセコ  
ニセコ狩太滝台環状列石 (スナップ)



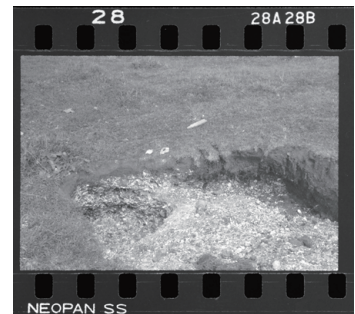
図版 150 N02946  
1963 年 斜里  
斜里朱円環状土籬 (スナップ)



図版 151 N02948  
1963 年 斜里  
斜里朱円環状土籬 (スナップ)



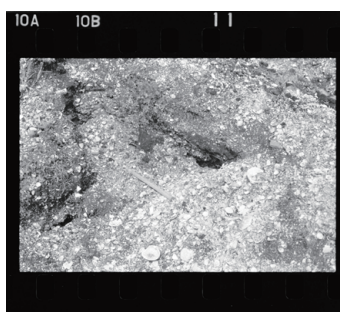
図版 152 N03749  
- 浜頓別  
浜頓別クッチャロ湖畔日の出貝塚 (スナップ)



図版 153 N03750  
- 浜頓別  
浜頓別クッチャロ湖畔日の出貝塚 (スナップ)



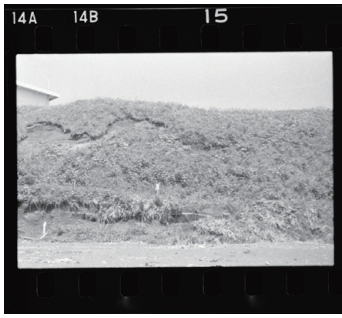
図版 154 N06010  
1965 年 7 月 羅臼  
羅臼飛仁帯洞窟の第 1 号人骨 (スナップ)



図版 155 N05988  
- 白老  
白老虎杖浜第 2 遺跡カ (スナップ)



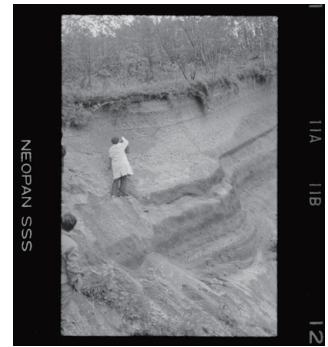
図版 156 N05991  
- 白老  
白老アヨロ遺跡 (スナップ)



図版 157 N05992  
- 白老  
白老アヨロ遺跡 (スナップ)



図版 158 N00476  
1966年5月 苫小牧  
苫小牧板綴舟出土時の様子 (スナップ)



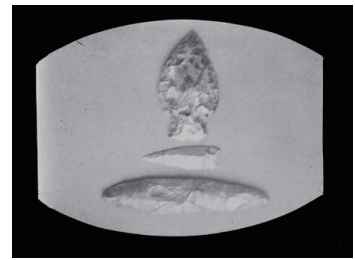
図版 159 N00478  
1966年5月 苫小牧  
苫小牧板綴舟出土時の様子 (スナップ)



図版 160 N00482  
1966年5月 苫小牧  
苫小牧板綴舟出土時の様子 (スナップ)



図版 161 N60129  
-  
遺物幻燈版 (バチエラー文献利用)



図版 162 N60127  
-  
遺物幻燈版 (バチエラー利用か)



図版 163 N61362  
1911年以前 札幌  
明治期の遺物資料 (高松宮献上写真帖掲載写真)



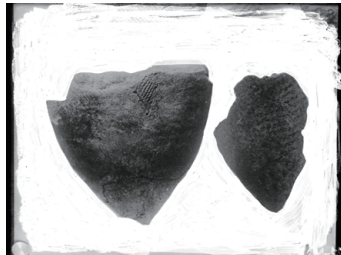
図版 164 N00029  
1968年頃 札幌  
戦後の遺物展示



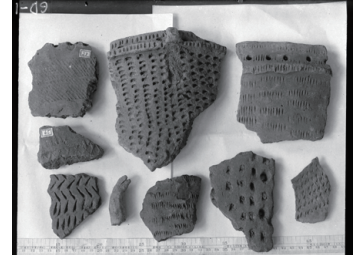
図版 165 N61504  
1938年以前  
旧石器時代の石器 (北見国滝ノ上村出土の黒曜石製巨石器)



図版 166 N61508  
1938年以前  
旧石器時代の石器 (北見国滝ノ上村出土の黒曜石製巨石器)



図版 167 N60183  
1939年以前  
縄文時代の土器: 道南早期 (左)・道南前期 (右) (北海道原始文化聚英複写)



図版 168 N60069  
-  
縄文時代の土器: 道東前期 (網走郷土館所蔵資料)





図版 169      N60052  
1939 年以前  
縄文時代の土器：道央中期（手宮出土、  
HUNHM39106）



図版 170      N60155  
1933 年以前  
縄文時代の土器など：道央中期（堀株村  
出土）



図版 171      N60132  
1933 年以前  
縄文時代の土器など：道北中期（右下）（利  
尻・礼文出土遺物）



図版 172      N60047  
1939 年以前  
縄文時代の土器：道央後期（手宮出土、  
HUNHM39114）



図版 173      N61480  
1939 年以前  
縄文時代の土器：道央後期



図版 174      N60080  
1933 年以前  
縄文時代の土器：道北後期（礼文島神崎  
出土）



図版 175      N60084  
1933 年以前  
縄文時代の土器：道北後期（礼文島神崎  
出土）



図版 176      N60167  
縄文時代の土器：道南晩期（渡島木古内  
出土、HUNHM38459）



図版 177      N60131  
1939 年以前  
縄文時代の土器：道央晩期（千歳祝梅出  
土、HUNHM ！！要チェック）



図版 178      N60049  
1939 年以前  
縄文時代の土器：道央晩期（手宮出土、  
HUNHM39116）



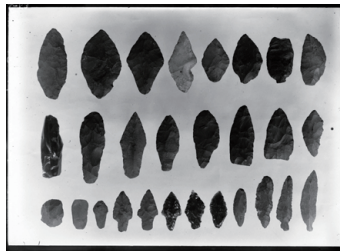
図版 179      N60054  
1939 年以前  
縄文時代の土器：道央晩期（手宮出土、  
HUNHM39110）



図版 180      N60078  
1933 年以前  
縄文時代の土器：道北晩期（礼文島オン  
ンナイ出土、HUNHM17835）



図版 181      N60124  
1932 年      -  
縄文時代の石器（室蘭出土，北海道先史  
時代遺物展覧会目録写真）



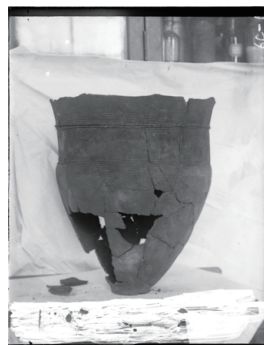
図版 182      N61494  
1933 年以前      -  
縄文時代の石器（利尻礼文出土）



図版 183      N61497  
-      -  
縄文時代の石器（札幌出土，  
HUNHM35229）



図版 184      N60177  
-      -  
土偶（余市大川出土）



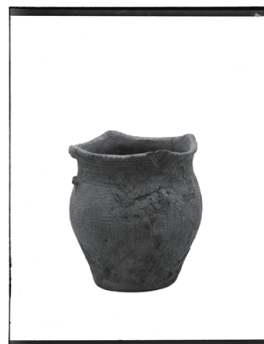
図版 185      N60060  
-      -  
続縄文時代の土器：道央前期



図版 186      N60088  
1939 年以前      -  
続縄文時代の土器：道央前期（江別出土，  
HUNHM39120）



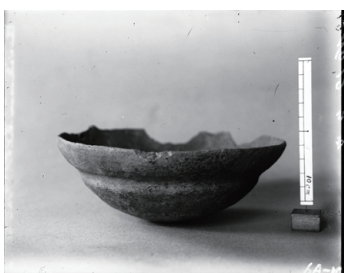
図版 187      N60065  
1939 年以前      -  
続縄文時代の土器：道東前期



図版 188      N60157  
-      -  
続縄文時代の土器：千島前期（古釜府出  
土）



図版 189      N61471  
1940 年以前      -  
続縄文時代の土器：千島前期



図版 190      N60046  
1939 年以前      -  
続縄文時代の土器：道央後期（手宮出土，  
HUNHM35222）



図版 191      N60090  
1933 年以前      -  
続縄文時代の土器：道央後期（江別出土，  
HUNHM38413）



図版 192      N60148  
1939 年以前      -  
続縄文時代の土器：道央後期（江別出土，  
HUNHM39128）



図版 193 N60193  
-  
続縄文時代の土器：千島後期（択捉出土）



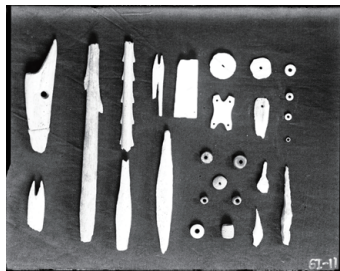
図版 194 N60086  
1933 年以前 -  
続縄文時代の石器・骨角器など（江別出土，副葬品としての化石）



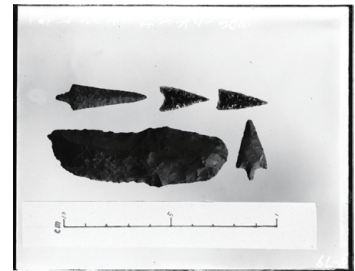
図版 195 N60087  
1933 年以前 -  
続縄文時代の石器・骨角器など（江別出土）



図版 196 N60101  
1932 年 -  
続縄文時代(?)の石器（択捉出土，HUNHM14531）



図版 197 N60107  
1933 年以前 -  
続縄文時代の石器・骨角器など（利尻礼文出土 玉・貝製品）



図版 198 N60116  
1932 年 -  
続縄文時代の石器・骨角器など（江別出土，北海道先史時代遺物展覧会目録写真）



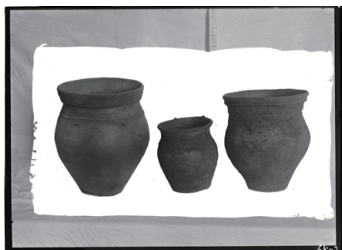
図版 199 N60089  
1933 年以前 -  
擦文・オホーツク時代の土器：道央（江別出土，HUNHM34434）



図版 200 N60134  
1939 年以前 -  
擦文・オホーツク時代の土器：道央（野幌出土）



図版 201 N50527  
1939 年以前 -  
擦文・オホーツク時代の土器：道東（モヨロ貝塚出土）



図版 202 N61472  
1939 年以前 -  
擦文・オホーツク時代の土器：道東



図版 203 N60171  
1933 年以前 -  
擦文・オホーツク時代の土器など：道北（利尻礼文出土）



図版 204 N60159  
-  
擦文・オホーツク時代の土器：千島（択捉出土，HUNHM39285）





図版 205 N60175

擦文・オホーツク時代の土器：千島（国後出土，HUNHM39283）



図版 206 N61486

擦文・オホーツク時代の土器：千島出土資料（植物園事務所前にて）



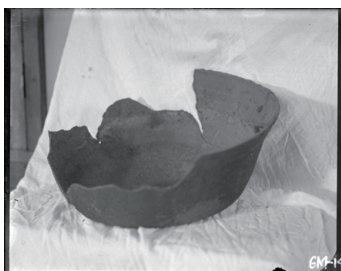
図版 207 N61356

擦文・オホーツク時代の金属器など（江別出土）



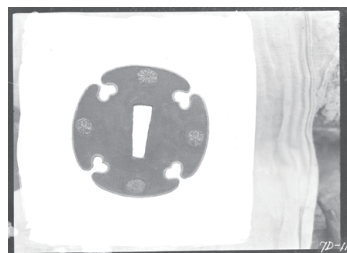
図版 208 N60098

1934 年以前  
擦文・オホーツク時代の金属器など（択捉島年萌出土）



図版 209 N60144

中世・アイヌ時代（沙流出土）



図版 210 N70170

1933 年以前  
中世・アイヌ時代（発足村出土）



図版 211 N50494

1942 年以前  
中世・アイヌ時代に並行する内耳土器文化遺物：樺太



図版 212 N60185

1939 年以前  
中世・アイヌ時代に並行する内耳土器文化遺物：千島（留別，HUNHM33519）



図版 213 N61354

近世アイヌ期：（札幌出土，HUNHM33188）



図版 214 N60235

1935 年以前  
参考資料：（泊出土，HUNHM39048）



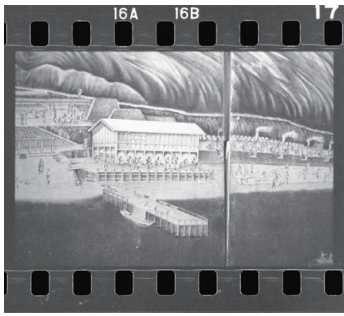
図版 215 N00587

1966 年 11 月 えりも  
国立公園関連：襟裳岬



図版 216 N06100

1968 年以前  
小樽ニシン御殿資料



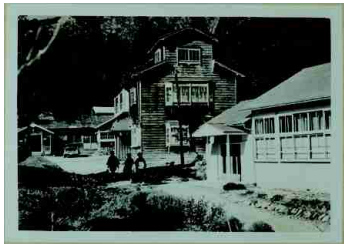
図版 217 N06107  
1968 年以前 小樽  
小樽ニシン御殿資料



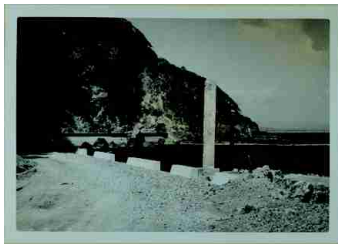
図版 218 N02039  
1966 年 松前  
松前法源寺山門 現在とは屋根が異なる



図版 219 N02041  
1966 年 松前  
松前歴代藩公墓所前のケヤキ



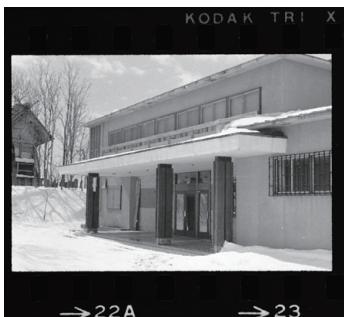
図版 220 P02274  
- 知内  
国立公園関連：和楽園



図版 221 P02279  
- 知内  
国立公園関連：海難者法塔



図版 222 N00969  
1966 年 3 月 釧路  
文化財調査：釧路厳島神社



図版 223 N00979  
1966 年 3 月 釧路  
文化財調査：釧路鳥取神社



図版 224 N01041  
1966 年 3 月 阿寒  
文化財調査：阿寒桜田の石碑



図版 225 N00939  
1966 年 3 月か 厚岸  
文化財調査：厚岸国泰寺山門脇の仏像



図版 226 N00944  
1966 年 3 月か 厚岸  
文化財調査：厚岸国泰寺扁額

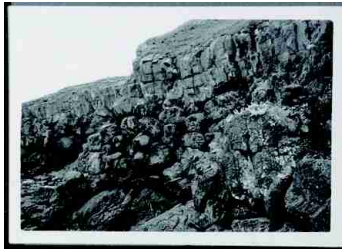


図版 227 N01003  
1966 年 3 月か 厚岸  
文化財調査：厚岸太田村の桑並木



図版 228 N01007  
1966 年 3 月か 厚岸  
文化財調査：厚岸太田村の上杉神社（現存しない）





図版 229 P01497  
- 根室  
文化財調査：根室花咲車石



図版 230 P01542  
- 根室  
文化財調査：根室公民館和田村分室



図版 231 P01530  
- 根室  
文化財調査：根室公民館和田村分室



図版 232 N00611  
1966年11月23日 新得  
文化財調査：十勝バツ塚



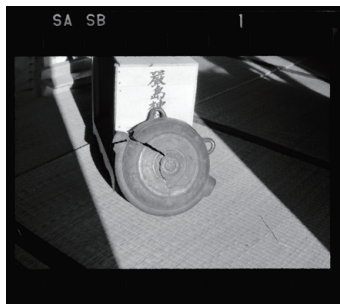
図版 233 P02178  
- 新得  
文化財調査：十勝バツ塚



図版 234 N03347  
1964年8月 稚内  
文化財調査：間宮林蔵渡樺の地



図版 235 N03414  
- 稚内  
文化財調査：回向帳



図版 236 N03447  
- 稚内  
文化財調査：厳島神社鯛口



図版 237 N03463  
- 稚内  
文化財調査：



図版 238 N05043  
- 稚内  
文化財調査：



図版 239 N06017  
- 小清水  
文化財調査：小清水原生花園



図版 240 N06019  
- 小清水  
文化財調査：小清水原生花園（駅の様子）



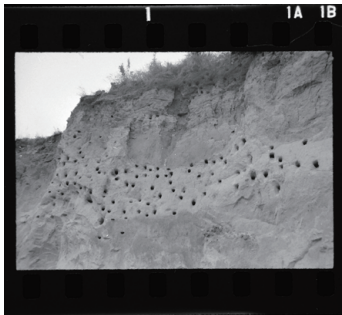
図版 241 N02488  
1966年7月 紋別  
古向原生花園



図版 242 N03673  
1966年 紋別  
天然記念物紋別流紋岩



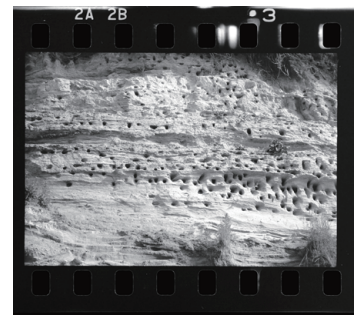
図版 243 N02468  
1966年7月 雄武  
雄武ゴメ島



図版 244 N00360  
1962年10月21日 網走  
網走ショウドウツバメの巢



図版 245 N04422  
1964年9月1日 厚岸  
厚岸大黒島コシジロウミツバメ調査



図版 246 N07183  
1965年8月9日 豊富  
サロベツショウドウツバメの巢



図版 247 N00984  
1966年3月 鶴居  
鶴居村タンチョウ調査



図版 248 N50268  
1932年7月 阿寒  
阿寒養魚場



図版 249 N50374  
1936年9月13日 札幌  
札幌付近のマス漁



図版 250 N05675  
1965年11月 静内  
静内川河口付近の捕獲場



図版 251 P02457  
1934年以前 厚岸  
サメの胃中に入ったタコ



図版 252 N30270  
1942年以前 弟子屈  
摩周湖中のニジマス捕獲





図版 253      N08860  
1951年5月      千歳  
千歳川のサケ放流



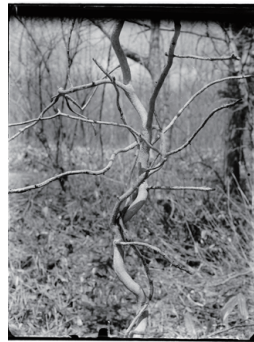
図版 254      N07464  
-                      千歳  
千歳ふ化場のふかじょうばし



図版 255      N30564  
-                      網走  
網走地域での川漁



図版 256      N30380  
1938年以前      -  
実験室内の孵化槽, 犬飼 1938c で利用



図版 257      N50362  
1934年4月29日      江別  
雪中にてヒメネズミの樹皮を食害した跡  
(野幌生態調査)



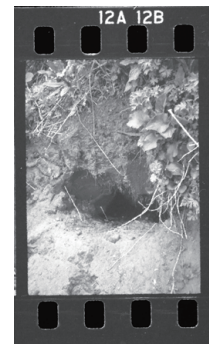
図版 258      N06935  
1955年5月      門別  
厚賀のネズミ被害



図版 259      P30447  
1960年以前      島牧  
島牧のネズミ被害 (アカネズミ捕獲)



図版 260      N00707  
1967年4月8日      札幌  
北大クラーク会館そばのネズミ被害調査



図版 261      N01738  
1965年5月16日      松前  
松前小島の鳥類調査



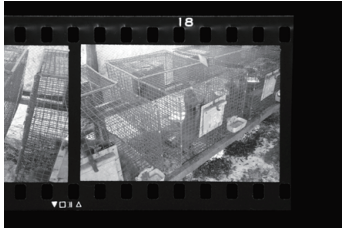
図版 262      N03882  
1966年6月1日      松前  
松前大島の植生調査 (イタヤの林)



図版 263      N50853  
1933年7月      松前  
松前小島のヒグマ被害写真



図版 264      N02631  
1963年以前      岩見沢  
岩見沢のクマ出没注意看板



図版 265 N03248  
1961年1月26日 札幌  
ミンク養殖場



図版 266 N06468  
1961年3月8日 網走  
ミンク養殖場



図版 267 N07855  
- 札幌  
ミンク養殖場



図版 268 N50215  
1933年12月28日 上富良野  
上富良野のイタチ毛皮買入所



図版 269 N06930  
1934年以前 -  
イタチのアルビノ毛皮 (後志, 夕張産)



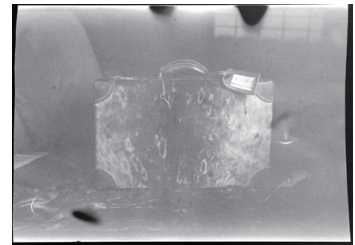
図版 270 N50258  
1934年6月 -  
樺太で密猟されたクロテン



図版 271 N50259  
1942年以前 -  
ゼニガタアザラシ (根室産)



図版 272 N50261  
1940年以前  
クラカケアザラシ (敷香産)



図版 273 N31139  
- えりも  
アザラシ皮製靴



図版 274 N01203  
1956年 稚内  
稚内樺太犬訓練所創設時



図版 275 N01208  
1956年 稚内  
稚内樺太犬訓練所創設時



図版 276 N01214  
1956年 稚内  
稚内樺太犬訓練所創設時 (犬飼)





図版 277 N06634  
- 稚内  
稚内権太犬訓練所



図版 278 N02720  
1963年 札幌  
タロ（植物園での余生）



図版 279 N01612  
1964年 札幌  
農学部水産学科講堂取り壊しの様子



図版 280 N60831  
- 札幌  
農学部植物学講堂（現在の宮部金吾記念館）付近の様子



図版 281 N60833  
- 札幌  
農学部植物学講堂（現在の宮部金吾記念館）付近の様子



図版 282 N61334  
- 札幌  
植物園（旧事務所・鳥舎）



図版 283 N61339  
- 札幌  
植物園（現在の南ローン付近）



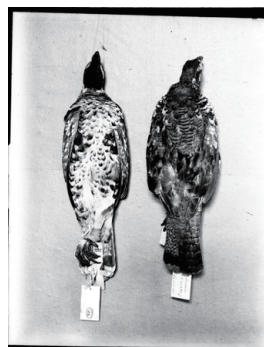
図版 284 N61336  
- 札幌  
植物園（湿生園付近）



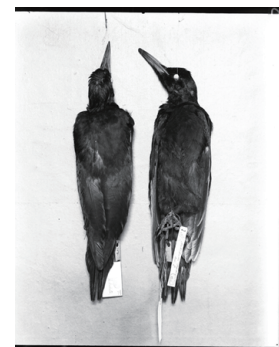
図版 285 N61319  
- 札幌  
博物館展示の様子



図版 286 N61749  
- 札幌  
博物館展示の様子



図版 287 N60379  
1932年以前  
-  
ブラキストン標本（エゾライチョウ）

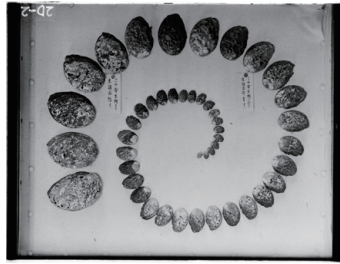


図版 288 N60380  
1932年以前  
-  
ブラキストン標本（クマガエラ）



図版 289 N60246

函館戦争時の官軍旗 (HUNHM12604)



図版 290 N60396

内村鑑三のアワビ標本 (HUNHM06804)



図版 291 N30975  
小樽

忍路臨海実験所の舟下し



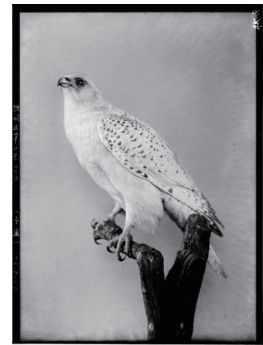
図版 292 N30068  
1937 年以前  
室蘭

室蘭海藻研究所



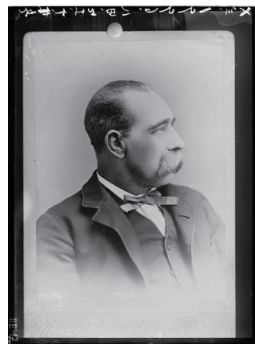
図版 293 N60920

ジャコウジカ (博物館標本)



図版 294 N61663

シロハヤブサ (千歳産)



図版 295 N61452

ブラキストン肖像



図版 296 P05586  
1949 年 10 月 5 日  
原田新部長歓迎会



図版 297 N03057  
1963 年 3 月 24 日  
遠軽  
破岳会



図版 298 N08283  
1930 年前後  
函館

函館博物館完成予定模型



図版 299 N08285  
1930 年前後  
函館

函館博物館基礎部分



図版 300 N07972  
1951 年以前  
室蘭

室蘭水族館建設予定地





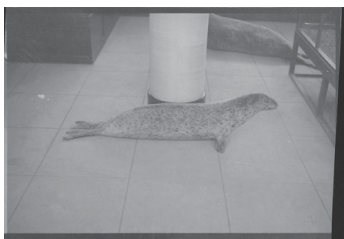
図版 301 N07980  
1951 年以前 室蘭  
室蘭水族館建設予定地



図版 302 N03090  
1960 年 5 月 15 日 上川  
層雲峡博物館（完成直後）



図版 303 N05993  
- 余市  
余市水産博物館



図版 304 N70257  
- 樺太  
樺太庁博物館の水産動物室



図版 305 P01815  
- ハワイ  
ビショップミュージアム



図版 306 N02253  
1960 年 5 月 24 日 東京  
ICBP 大会会場（国際文化会館）



図版 307 N01559  
1960 年 6 月 -  
ICBP 北海道視察



図版 308 N61843  
- 札幌  
小熊捍夫妻（自宅にて）



図版 309 N60299  
1922 年 札幌  
札幌独立教会



図版 310 N60922  
1932 年 千歳  
千歳美々シカ缶詰跡地



図版 311 N00068  
- 登別  
登別大湯沼の温室



図版 312 N04854  
- 札幌  
オロフレ峠



図版 313 N60811  
1932 年 小樽  
小樽街並み



図版 314 N70550  
- 小樽  
忍路神社



図版 315 P01928  
1970 年か 静内  
日高軽種馬農協静内種馬場



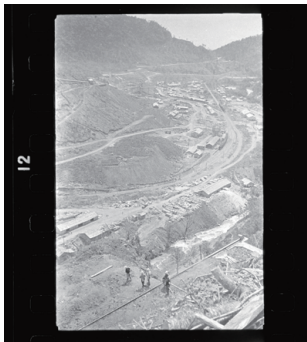
図版 316 N30768  
1933 年 7 月 松前  
小島村遠景



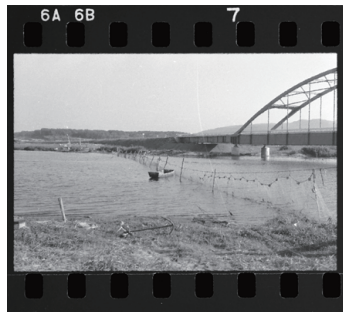
図版 317 N03805  
1966 年 6 月 1 日 松前  
大島を船上より撮影



図版 318 P31664  
1959 年 9 月 16 日 土幌  
土幌村農協前にて



図版 319 N08635  
1955 年 上土幌  
糠平ダム建設中の様子



図版 320 N03474  
- 枝幸  
幌別川河口付近の捕獲施設



図版 321 N03736  
- 中頓別  
中頓別の鍾乳洞



図版 322 N04092  
1965 年 4 月 ハワイ  
ハワイでの日米農業会議の様子









大学博物館所蔵古写真の現代的意義に関する研究

日本学術振興会科学研究費補助金（2009-2011 年度）

基盤研究（C） 研究成果報告書

研究課題番号：21601001

研究代表者：加藤 克

---

2012（平成 24）年 3 月 印刷・発行

編集 加藤 克  
発行 北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園  
〒 060-0003  
札幌市中央区北 3 条西 8 丁目  
印刷 株式会社 アイワード  
〒 060-0033  
札幌市中央区北 3 条東 5 丁目

